子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）
令和７年度年次評価書

１．はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）（以下「本調査」という。）は、国の予算により環境省が企画し、国立環境研究所に設置したコアセンターが実施主体となり、国立成育医療研究センターに設置したメディカルサポートセンター及び全国 15 地域の大学等に設置したユニットセンターと協働して実施する長期かつ大規模な疫学調査である。令和４（2022）年度に基本計画を改定し、参加者の追跡期間を 13 歳以降 18 歳まで延長した。令和６（2024）年度からは、さらに長期の追跡を見据え、基本計画の見直しを進めている。

本調査の評価は、「行政機関が行う政策の評価に関する法律」及び、「独立行政法人通則法」に基づき、重層的に実施されてきた。さらに、科学的かつ第三者的な観点からの評価が不可欠であることから、環境省に外部専門家による企画評価委員会（以下「本委員会」という。）を設置し、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、成果の社会還元等の観点から、第三者的評価を行う。

本調査は長期間にわたる事業であるため、進捗状況に関する年次評価や中間評価を実施し、事業終了後には最終評価を行うこととしている。

令和７年度年次評価では、学童期フォローアップの終盤を迎える状況を踏まえ、以下の観点から評価を行う。

- 調査実施のための組織体制の妥当性
- フォローアップの進捗状況及び長期的なフォローアップに向けた準備状況
- 学童期検査・詳細調査の実施状況
- 個人情報管理の状況
- データ利用及び成果発表のルールの遵守状況
- 研究（追加調査等）の体制及び実績
- 調査結果に関する広報活動の状況
- 環境政策・施策への反映等

なお、本調査の評価については、「行政機関が行う政策の評価に関する法律」（平成 13 年法律第 86 号）に基づく環境省の政策評価及び「独立行政法人通則法」（平成 11 年法律第 103 号）に基づく国立環境研究所における業務実績評価を併せ、重層的に実施される。

２．概評

２－１　実施体制

【現状】

①コアセンター

コアセンターは、国立研究開発法人国立環境研究所に設置され、エコチル調査の研究実施の中心機関として、調査の総括的な管理・運営を行っている。調査に係るデータ（遺伝情報を除く。）を集積・保管するデータ管理システムの運営、デ

一タ共有のための体制整備、生体試料や環境試料の保存・分析、調査実施に関するプロトコールと実施マニュアルの作成などを担い、その他、国内外における学術連携の推進やユニットセンターの管理・支援など、調査全体の事務局機能を担っている。

〈これまでの取組〉

- 令和元（2019）年度から、より一体的に本調査を実施するため、本調査の実施に関する予算を国立環境研究所に一元化し、子どもの成長過程における化学物質ばく露や健康状態を評価するための「学童期検査」が開始された。
- 令和６（2024）年度から、13 歳以降を対象とした質問票調査は Web 質問票に移行した。

②ユニットセンター

ユニットセンターは､公募により選定された全国 15 地域の大学等で構成され、一部はサブユニットセンターを設置している｡評価対象は計 19 センターとなる。

ユニットセンターでは、紙質問票入力、詳細調査での訪問調査、医学的検査、精神神経発達検査の実施、参加者広報などのコミュニケーション活動、地域運営協議会の運営及び調査結果を用いた研究活動を実施している。

〈これまでの取組〉

- 令和５（2023）年度から、13 歳以降の調査継続に向けて、説明書の送付や参加者ポータルサイト※を用いた同意取得の取組を進めた。

  ※参加者に対し Web 質問票の発信や分析結果の報告、謝礼の付与等を行うサイト。13 歳以降の質問票調査では、子ども等がスマートフォンや PC で参加者ポータルサイトにアクセスして回答。

③メディカルサポートセンター

メディカルサポートセンターは国立研究開発法人国立成育医療研究センターに設置され､エコチル調査に係る医学的な支援を行っている｡健康影響の指標（アウトカム）の測定に関して指導的役割を担うほか、ゲノム・遺伝子解析に関する研究を主導し、ゲノム・遺伝子解析に関するデータの分析、保管、管理を進めている。

〈これまでの取組〉

- 令和３（2021）年度に遺伝子解析室が設置され、DNA 解析等が進められている。
- 令和６（2024）年度には、さい帯血の SNP アレイ解析が終了した。
- 令和７（2025）年度には、父親、母親検体の SNP アレイ解析が終了予定である。

【課題】

- 着実に調査を推進する体制の維持。

【今後の取組】

- 環境省、コアセンター、ユニットセンター、メディカルサポートセンターの連携を一層強化し、参加者の高い継続率の維持に繋げること。
- コアセンターは、関係機関との連携をより密にして、エコチル調査を着実に

実施すること。
- ユニットセンターは、調査の目的である環境要因が子どもの健康に与える影響を解明できるように参加者の維持に努めるとともに、調査の状況、地域の実情を勘案した適切な調査の実施を継続すること。
- メディカルサポートセンターは、遺伝解析等を着実に推進すること。

２－２　子ども出生数に対する現参加者数（現参加者率）

エコチル調査の成果を信頼性の高いものとするため、参加者数を高水準で維持することは最重要課題の一つである。「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書」では、「追跡率※は、フォローアップ期間終了時に 80%以上となることを目指す」と記載されている。

※追跡率：時間を追って追跡情報を入手できる調査対象者数を調査開始時の調査対象者数で割ったもの。

【現状】

現参加者率（子どもの出生数に対する現参加登録者数）は、

平成 28（2016）年度：97.3%
令和７（2025）年９月時点：全国平均 91.6%

と高水準を維持しており、評価できる（表１）。

一方で、ユニットセンター間の各差は拡大している。

平成 28（2016）年度：差 3.4%
平成 29（2017）年度：差 3.7%
平成 30（2018）年度：差 4.7%
令和元（2019）年度：差 5.3%
令和２（2020）年度：差 8.1%
令和３（2021）年度：差 9.0%
令和４（2022）年度：差 9.5%
令和５（2023）年度：差 9.6%
令和６（2024）年度：差 10.7%
令和７（2025）年９月時点：差 11.4%（最大値 96.1%、最小値 84.6%）

成果の社会還元等を通してエコチル調査の意義を理解していただけるように努めることが必要。

なお、13 歳以降調査への継続の状況は、令和７（2025）年９月 29 日時点で以下のとおり。

小学６年生（平成 13 年度－平成 14 年度生まれ）の継続見込み：94.5%※
親権者による 13 歳以降調査への積極的継続意思表示：49.3%
子ども本人の参加者ポータルサイトログイン率は 37.8%

※参加者から継続取り止めの者を除いた割合。

【課題】
- 現参加者率は高水準を維持しているが、ユニットセンター間の格差が拡大。

- 13 歳以降の調査継続に向けた意思表示率・ポータルサイト利用率が低い。

【今後の取組】
- 参加者コミュニケーション活動の充実。
- 調査の意義について参加者（特に子ども）の理解促進。
- ポータルサイトへのアクセス誘導策の工夫。

により、現参加者率の高水準維持を図ることが望まれる。

２－３　質問票回収状況

エコチル調査の成果を信頼性の高いものにするため、質問票回収率を高水準で維持することは最重要課題である。

【現状】

全年齢平均回収率（紙質問票・12 歳まで）:

令和３（2021）年度：83.2%
令和４（2022）年度：82.2%
令和５（2023）年度：81.3%
令和６（2024）年度：80.0%
令和７（2025）年９月時点：全国平均で 78.9%

高水準を維持しており評価できる（表２）。

年齢別回収率（令和７（2025）年９月 29 日時点）:

生後６ヶ月：94.2%
１歳：91.4%
２歳：87.4%
３歳：84.3%
４歳：80.6%
５歳：76.9%
６歳：78.3%
７歳：78.9%
８歳：78.4%
９歳：77.0%
10 歳：72.9%（本人回答 71.7%）
11 歳：70.8%（本人回答 69.9%）
12 歳：64.5%（本人回答 63.8%）

生後６ヶ月から４歳までの質問票の回収率はいずれも 80%以上、４歳半から 11 歳までは概ね 70%台であり、12 歳時の質問票の回収率が大きく低下している。要因は、質問量増加や中学進学による多忙と推測される。

学年別回収率（令和７年９月 29 日時点）:

小学１年：80.3%
小学２年：77.6%
小学３年：76.6%
小学４年：74.4%

小学５年：71.0%
小学６年：64.9%

ユニットセンター間格差（全年齢平均）：質問票回収率の最大値と最小値の差：
令和３（2021）年度：12.9%
令和４（2022）年度：12.1%
令和５（2023）年度：12.2%
令和６（2024）年度：13.2%
令和７（2025）年９月：13.8%
格差は依然として大きい。

生後６か月時点と直近調査の回収率差（表２）：
令和３（2021）年度：17.2%
令和４（2022）年度：17.2%
令和５（2023）年度：20.0%
令和６（2024）年度：27.8%
令和７（2025）年度：29.3%

回帰分析※（６か月～12 歳）（表３）：
※６ヶ月からの年齢別回収率を回帰直線（Y=aX+b）で示し、その傾き（a）から令和６（2024）年度から令和７（2025）年度にかけての質問票回収率の変化
令和６（2024）年度傾き：-0.7472（SD：0.1667）
令和７（2025）年度傾き：-0.7699（SD：0.1552）
と前年度とほぼ同水準。

Web 質問票（中学１年）回収率（令和７（2025）年９月 29 日時点）：
子ども本人：52.4%
親権者：58.5%
紙媒体による質問票調査と比べ回収率は大幅に低下している。

【課題】
- 年齢が上がるほど質問票回収率が低下する傾向。
- 12 歳時の質問票回収率が大きく低下。
- Web 質問票移行後の回収率低下が顕著。
- ユニットセンター間の格差が縮小していない。

【今後の取組】
- 質問票回収率が大幅に低下している年齢層への PDCA※サイクルに基づく改善策を強化。
- 参加者ポータルサイトへのログイン状況分析と、回答勧奨を強化。
- ユニットセンターと連携し、Web 質問票の回収率向上策を検討。
- 費用対効果を考慮した効率的な取組を推進。

※PDCA：Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検）、Action（是正）を意味し、品質向上のためのシステム的考え方。

①（P：計画）これまでの取組の結果を的確に分析をして、その結果をよく勘案して計画を立案する
②（D：実施）（P）を受けて、具体的に取組を実施する
③（C：評価）（D）の結果を的確かつ客観的に分析を行い説得力のある根拠を示す
④（A：改善）（C）での考察を来期の計画に反映することを示す
⑤ 効率性を考慮した費用対効果を十分に検討する

２－４　詳細調査の実施状況

5,000 人を対象に医学的検査、精神神経発達検査等を行う詳細調査は、令和５（2023）年４月から 10 歳時の詳細調査（医学的検査、精神神経発達検査）が進められ、令和７（2025）年４月からは 12 歳時の詳細調査（医学的検査、精神神経発達検査）が開始されている。

【現状】

令和７（2025）年度は、12 歳時の詳細調査が進められている。

【課題】

- 今後の詳細調査の円滑な実施。

【今後の取組】

- 調査参加者の参加意識の向上に努め､12 歳時の詳細調査を着実に進めることが必要。

２－５　学童期検査

令和５（2023）年７月から、小学６年生の学童期検査を開始している。子どもの成長過程における化学物質ばく露や健康影響の評価を目的とした小学６年生（児が 12 歳となる年度）時点の採血の実施は、胎児期ばく露と現在のばく露の状況が大きく異なることから重要性は極めて高い。

【現状】

実施率（対象者数に対する実施数の割合）:

令和５（2023）年度　45.6%
令和６（2024）年度　44.4%

【課題】

- 学童期検査実施数の確保。

【今後の取組】

- 引き続き、参加者の安全及び倫理面への配慮を徹底。
- 詳細調査同様、調査参加者の参加意識の維持に努めることが必要。

２－６　参加者及び調査地域でのコミュニケーション活動

ユニットセンターでは、参加者のフォローアップや成果の還元に関する取組の一

環として、PDCA サイクルに則り、参加者コミュニケーションの取組を行っている。

【現状】

令和７（2025）年度において、ユニットセンターでは特に学童期や中学生の子どもを対象として参加継続への意識を高めることをねらいとしたコンテンツづくりが進められている。いくつかのユニットセンターでは、対面イベントの開催を通じて参加者の子ども本人と調査の問題点や改善について意見交換が行われており、これは「Patient and Public Involvement（PPI、患者・市民参画）」の考え方にもつながる重要な取組と言える。

【課題】

- 地域における調査参加者の参加意識維持
- 13 歳以降の継続参加
- 効果的・効率的な情報発信
- 正確な情報発信や適切な危機管理

【今後の取組】

- 引き続きユニットセンター間で相互に優れた取組を学び、活動を横展開。
- 対面調査の機会の活用。
- 各地域が共通で活用できるコンテンツづくり。
- 各種コミュニケーション活動をより一層実施。
- Web サイト、SNS、動画、イベント等の様々な媒体・手段の活用。
- リスクコミュニケーションについて十分に配慮。

２－７　地域運営協議会の実施状況

エコチル調査の各調査対象地域では、定期的に地域運営協議会が開催され、調査の進捗状況や成果について関連機関に報告がなされ、意見交換が行われている。

【現状】

令和７（2025）年度、全調査対象地域において年に 1 回以上地域運営協議会が開催されている。構成メンバーは自治体（医療・保健・衛生部局、環境部局等）、協力医療機関や地域の三師会、保健衛生関係者、教育関係者等からなる。

【課題】

- 各ユニットセンターが調査地域の関連組織と良好な関係を構築・維持。
- 参加者が 18 歳に達するまで調査が継続されることへの理解と協力を獲得。

【今後の取組】

- 地域の小中学校等の教育関係機関や地方公共団体の環境部局等に対し、地域運営協議会への参加を促進。
- 地域運営協議会等を通じて、より一層関連機関との連携を深めていくことに期待。

２－８　化学分析等の実施状況

エコチル調査の目的は「環境要因が子どもの健康に与える影響を明らかにする」

ことであり、特に化学物質のばく露や生活環境が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、適切なリスク管理体制の構築につなげることである。この目的を達成するために、ばく露評価の対象となる化学物質等の分析を着実に進めることが必要不可欠である。

【現状】

これまでの化学分析の実施状況は下表に示すとおりである。

実施年度	媒体	対象物質	検体数	状況
平成 26-29 (2014-17)	母体血（妊娠中）	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	95,811	完了 (データ固定済)
平成 30 (2018)	臍帯血	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se）	3,897	完了 (データ固定済)
平成 26-29 (2014-17)	母体尿（妊娠中）	喫煙マーカー（コチニン）、ストレスマーカー（8-OHdG）	96,490	完了 (データ固定済)
平成 29 (2017)	母体血（妊娠中）	有機フッ素系化合物（PFAS）	25,000	完了 (データ固定済)
平成 30 (2018)	臍帯血	メチル水銀（Me-Hg）, 無機水銀（I-Hg）	3,897	完了 (データ固定済)
平成 30 (2018)	母体尿（妊娠中）	フェノール類	10,000	完了 (データ固定済)
平成 30 (2018)	母体尿（妊娠中）	有機リン系農薬代謝物	5,727	完了 (データ固定済)
令和元 (2019)	母体尿（妊娠中）	フタル酸エステル代謝物	19,999	完了 (データ固定済)
令和元 (2019)	母体尿（妊娠中）	ネオニコチノイド系農薬	20,000	完了 (データ固定済)
令和 2 (2020)	母体尿（妊娠中）	形態別ヒ素化合物	5,039	配布準備中
令和 2 (2020)	母体血（妊娠中）	ダイオキシン類縁化合物（芳香族炭化水素受容体活性）	4,956	配布準備中
令和 2 (2020)	臍帯血	有機フッ素系化合物（PFAS 等）	5,001	配布準備中
令和 2 (2020)	母体血（妊娠中）	残留性有機汚染物質（PCBs、DDTs、PBDEs）	13,000	配布準備中
令和 3 (2021)	母体尿（妊娠中）	ピレスロイド系農薬代謝物	10,013	配布準備中
令和 3 (2021)	小児血血漿 （詳細調査 4 歳）	有機フッ素系化合物（PFAS 等）	5,010	配布準備中
令和 4 (2022)	母体尿（妊娠中）	農薬及び忌避剤	5,000	配布準備中
令和 4-5 (2022-23)	母体尿（妊娠中）	リン系難燃剤	10,000	精度管理作業中
令和 4-5 (2022-23)	父体血 （妊娠期間）	金属（Pb、Cd、Hg、Mn、Se）	2,500	精度管理作業中
令和 5 (2023)	小児尿 （詳細調査 8 歳）	たばこ煙ばく露マーカー（コチニン等）	10,000	精度管理作業中
令和 5 (2023)	母体血（妊娠中）	アクリルアミド	5,000	精度管理作業中
令和 6 (2024)	小児血血漿 （詳細調査 8 歳）	有機フッ素系化合物（PFAS 等）	5,075	精度管理作業中
令和 7 (2025)	母体血（妊娠中）	合成香料（ニトロムスク、環状ムスク等）	5,000	測定中

令和 7 (2025)	小児血血漿 （詳細調査２歳）	金属（Pb, Cd, Hg, Mn, Se, Cu, Zn, Mg, Ca 等）	8,000	測定中
令和 3-7 (2021-25)	小児脱落乳歯	鉛、マンガン、亜鉛、ストロンチウム、バリウム等	35,000	測定中

令和７（2025）年度は、母体血（妊娠中）の合成香料、小児血血漿（詳細調査２歳）の金属、小児脱落乳歯の金属・元素の測定が進められている。

【課題】
- 化学分析の加速化。
- 化学分析の精度担保。

【今後の取組】
- 適切に優先順位を検討し、計画的かつ効率的・効果的に化学分析を実施。
- 化学分析の内製化や外製化に向けた体制構築の検討。
- 自動化の推進の検討。

２－９　研究成果及び成果の社会への還元

（１）学術論文等の発表状況

エコチル調査の進展に伴い、データの分析や学術論文等による成果発表が増加している。エコチル調査の全国データを用いた成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるような体制を構築し、論文執筆に向けた取組を行っており、令和元（2019）年度の年次評価より学術論文等の発表状況について評価を実施しているところである。

【現状】

エコチル調査の全国データを用いた成果発表は、令和７（2025）年 12 月末までの累計で、

発表論文数：574 編
発表論文数のうち中心仮説に係る論文：83 編
発表論文数のうち追加調査に係る論文：101 編

となっており、大規模疫学調査の先行研究における同時期の論文数と比較しても多く、現段階としては評価できる。

※先行研究における発表論文数（調査開始 16 年目時点）:
デンマーク全国出生コホート（DNBC）203 編
ノルウェー母子コホート調査（MoBa）306 編

近年その影響に関する不安や対策の声が上がっている PFAS に関する論文成果を発表したことは高く評価できる。

【課題】
- 論文執筆の加速化。

【今後の取組】
- 化学物質と健康影響に係るものを中心とした論文執筆の加速化に一層力を

入れること。

（２）成果還元の状況

エコチル調査全体として、成果還元の状況（全国データを用いた論文、学会での発表、一般の方や参加者向けの成果発表（講演会、ホームページ掲載、ニュースレター等）、論文成果に係るプレスリリース等）を適切に評価していくことが必要となる。

また、学術論文等の研究成果が積み重ねられる時期であるため、適切な科学コミュニケーションの実施が望まれる。

【現状】

令和７（2025）年度には（令和７（2025）年１月から令和７（2025）年８月末時点）、

学会での発表：65 件
一般の方や参加者向けの成果発表：126 件
※講演会、ホームページ掲載、ニュースレター等
論文成果に係るプレスリリース：17 件

が行われた。

令和７（2025）年度における新たな取組として、11 月に「第１回エコチル調査全国フォーラム」を開催し、主に中高生を対象とした科学コミュニケーションの核となる場を創出したこと、ユニットセンターにおいて行政や教育委員会等と連携し、一般市民、中高生、保健医療従事者等といった地域の幅広い層に対して成果を還元していること、子ども向けに分かりやすく成果を紹介した Youtube 動画等により情報発信が積極的に進められていることは高く評価できる。

また、令和７（2025）年度には、エコチル調査として SNS（Facebook、X）により、成果等についての情報発信を開始しており、それらの効果的な活用が期待される。

【課題】

- 研究成果の社会への還元。
- 研究成果の活用。
- 環境管理政策への反映。

【今後の取組】

- 引き続き環境省、コアセンター、ユニットセンター等が連携・協力して社会還元を着実に進めること
- 研究の促進及び研究成果の活用に向けた取組（学会等を通じた研究者への周知、関係省庁などへの周知等）。
- SNS（Facebook、X）の活用。

２－１０　エコチル調査ルールの遵守及び管理状況

エコチル調査は、大規模な調査ゆえ多数の関係者に支えられている。このような調査においては、一定の「ルール」を策定し、それらが遵守されるよう管理するこ

とが求められる。特に調査の要となる重要事項において、「ルール」を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行することにつながる。以上を踏まえ、ユニットセンターの自己点検に加え、環境省及びコアセンターが現地調査を実施し、コアセンターから示された個人情報管理に関する基本ルールの遵守状況を確認した。

【現状】

令和７（2025）年度においては、個人情報管理に関するルール違反に該当する案件が２件あった（表６）。

今後は、これまで以上に情報セキュリティ等に対するスタッフの意識の向上を図るとともに、エコチル調査における個人情報管理の基本ルールならびに個人情報保護法の遵守を徹底すること、作業ミスの発生を防止する仕組み作りが必要である。

また、データの利用及び成果発表に関する基本ルールの遵守については、ユニットセンターから環境省へ行う成果発表の届出･報告が遅延した事例が若干あるものの、調査に重大な影響を与える違反事例はなかった（表７）。

なお、令和７（2025）年度には、各調査実施機関が個人情報を安全に管理し、エコチル調査に従事する者がインシデント等に適切に対応できるよう、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」並びに「リスク管理・危機管理マニュアル」の改定が進められた。

【課題】

- 情報セキュリティ等に対するスタッフの意識向上。
- エコチル調査における個人情報管理の基本ルールならびに個人情報保護法の遵守徹底。
- 個人情報の管理や情報発信等の体制を強化。

【今後の取組】

- 研修等の実施。
- 作業ミスの発生を防止する仕組み作り。
- インシデントの報告及び共有。

２－１１　人材育成

エコチル調査は、多くの人材が関わって進められており、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成への貢献が期待されている。また、エコチル調査を実施するためには参加者に寄り添った活動が必要であり、地域における様々な教育活動、広報活動、行政との連携等を推進することでコミュニケーション能力やマネジメント能力が醸成される等、エコチル調査が人材育成のプラットフォームになっている。

【現状】

令和７（2025）年９月末までの実績（累積）を見ると、

環境科学、小児保健分野等を担う人材：340 人※
※エコチル調査に携わった者のうち、他の大学・研究機関・医療機関等に転出して教員等に就任した者、及びエコチル調査実施機関において昇任した者の数。
ポスドクとして雇用された者の数：106 人
講師やファシリテーターを務めた者：768 人※
※エコチル調査の説明会や環境保健や育児・教育等をテーマにしたイベントにおいて講師やファシリテーターを務めた者の数。

となっており、また、エコチル調査のデータを使った学位論文数は次のとおりである。

修士論文：28 本
博士論文：105 本

以上のように、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に貢献していることは評価できる。

【課題】
- 専門家育成への貢献。

【今後の取組】
- 人材育成の着実な推進。

２－１２　その他

（１）遺伝子解析

令和２(2020)年９月に研究計画書が定められたゲノム･遺伝子解析については、令和４（2022）年３月、参加者に「ゲノム・遺伝子解析についての説明書」が送付され、令和４（2022）年９月より臍帯血試料から抽出した DNA 試料約 80,000 検体の網羅的 DNA 塩基多型解析、約 1,200 検体を対象にゲノムワイド関連解析が実施され、要約統計量のデータ固定まで進められた。また、令和５（2023）年度から令和６（2024 年度）年度にかけて母体血試料約 82,000 検体について網羅的 DNA 塩基多型解析が実施された。

【現状】

令和７（2025）年度は、
母体血試料約 6,800 検体
父親血試料約 49,000 検体
の解析が進められている。

これらにより令和７（2025）年３月に要約統計量データを公開し、また、ゲノムワイド関連解析の結果をまとめたフラッグシップ論文を投稿している。遺伝要因を調べることはエコチル調査の成果をより有意義なものとするために大変重要であり、エコチル調査の成果として高く評価できる。

【課題】
- 遺伝要因の解析。

【今後の取組】
- 厳重なデータ管理体制の維持。
- ゲノム・遺伝子解析の着実な推進。

（２）子どもの参加意識の向上

環境省が改定した基本計画に基づき、参加者が 13 歳から 18 歳に達するまで調査が継続されることとなり、令和６（2024）年４月、13 歳を対象とした Web による質問票調査が開始された。

【現状】

14 歳以降の調査について計画の立案、Web 質問票や検査の準備が着実に進められている。また、13 歳以降の調査においては子ども本人も主体となることから、子どもの参加意識を高める取組がコアセンターやユニットセンターにおいて進められている。

【課題】
- 参加者数を高い水準で維持。

【今後の取組】
- 保護者や調査地域の関係者の協力獲得。
- 子どもの参加意識を高めるための取組の着実な推進。

３．実施機関別評価

３－１ 環境省

〈実施体制、予算〉
- エコチル調査の目的とする成果を得るために長期間にわたる安定的な予算と体制の確保が不可欠である。当初予算及び補正予算で調査を実施してきたが、令和７（2025）年度についても、調査の継続に必要な予算を確保したことは評価できる。

- 引き続き、コアセンターを中心とした調査体制の整備や参加者の維持に係る安定した予算確保のための努力を行うことが望まれる。

〈企画・評価〉
- 調査の企画については、令和３（2021）年度に設置された「健康と環境に関する疫学調査検討会」において、これまでのエコチル調査の成果等について総括を行い、令和４（2022）年３月に 13 歳以降も 40 歳程度まで調査を展開する方針が取りまとめられた。これを受け、令和４（2022）年度、参加者が 18 歳に達するまでの調査について基本計画の改定を行い、令和６（2024）年度から参加者を更に長期（40 歳程度まで）にわたって追跡することを見据えて基本計画の見直しに取り組んでいる。

- 令和７年（2025）年３月には基本計画改定の骨子がまとめられており、エコチル調査の更なる推進に対する社会的期待（後述）に応え、その準備を着実に進めていることは評価できる。

〈国際協力〉

- 国際協力については、ノルウェー、デンマーク、ドイツ等の諸外国の出生コホート調査の専門家をメンバーとする「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、これら専門家との連携をより一層強化していくことが望まれる。

- 更には、化学物質と健康影響に関する研究の推進に向け、他国との政府レベルでの連携を進めるとともに、また、コアセンターと役割分担を図りつつ、学会、国際機関等との連携を通じて、世界に向けた情報発信に取組むことが期待される。

〈広報活動〉

- 広報活動については、従来は主に、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上の視点から実施してきたが、エコチル調査の進展に伴い成果が積み重ねられる時期であることから、従来の取組に加えて、成果の社会への還元を目的とした広報活動をより一層展開していくことが重要である。以上を背景として、令和４（2022）年度に、より効果的に成果の社会還元等を進めていくため広報戦略※の見直しを行い、戦略的に広報活動を進めていることは評価できる。

※「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の広報戦略指針」（令和５年３月、エコチル調査戦略広報委員会／参加者コミュニケーション専門委員会、以下「広報戦略指針」という。）
「広報戦略指針」では、エコチル調査の広報活動は、大きく分けて次の５つのシーンの実現を目指して実施していくものとしている。

シーン０：参加者に調査への継続的参加を呼び掛け、関係者の協力を得て、調査をともに進めていく
シーン１：論文等にまとめられた研究成果を、その内容に関係している人々や関心がある人に周知していく
シーン２：成果が政策決定やガイドライン・指針、製品開発等に活用される
シーン３：国民・メディア・省庁・医療機関・学会・企業等、幅広い層にエコチル調査の意義や成果が周知され、エコチル調査やその成果が社会的に認知される
シーン４：成果が国民の健康保護のために役立てられ、個人の行動変容に活用される

- 令和７（2025）年 11 月には、従来のシンポジウムを大きく発展させて、小学生、中学生、高校生及びその保護者等を対象とした「第１回エコチル調査全国フォーラム」を開催した※。イベント開催を通じてエコチル調査の意義を国民に伝えるとともに、子ども達の「環境保健を知るための場」、「自己表現の場」、「様々な未来の可能性を知る場」を創出し、参加者世代の関心を高め理解促進を図っていること、さらに企業や団体の協力を得て効果的・効率

的にイベントを実施するとともに、書道展や短歌展、百人一首かるた大会を開催したことで、これまでエコチル調査の無関心層に対してエコチル調査の認知を広げるアプローチができたこと、大幅な来訪者増につなげていることは高く評価できる。エコチル調査全国フォーラムについては、今後、参加者維持や成果還元のプラットフォームとなり、更には参加者参画・市民参画の中心ともなることが期待される。

※「広報戦略指針」が示す「シーン１、３」に向けた取組であり「シーン０」につなげる取組。

- 13 歳以降の調査の継続を念頭に、著名な研究者によるエコチル調査へのメッセージ動画を公開※したり、令和７（2025）年８月には、「環境省こども霞が関見学デー」において子ども達にデータ解析や分析体験の展示や、これまでのエコチル調査の研究内容の展示など、13 歳以降の調査を円滑に実施するための情報発信※を着実に進めていることは評価できる。

※「広報戦略指針」が示す「シーン１、３」に向けた取組であり「シーン０」につなげる取組。

- また、令和７（2025）年度には、社会還元の新たな取組としてエコチル調査独自の Facebook、X の公式アカウントを取得しエコチル調査の状況や成果等についての情報発信※を開始しており、それらの効果的な活用が期待される。

※広報戦略指針が示す「シーン１、３」に向けた取組であり「シーン０」につなげる取組。

- 今後、教育的観点から、さらに 13 歳以降の調査の円滑な推進という観点から、学校関係者の協力を得ることがますます重要となってくる。このため、文部科学省や学校関係者等との情報共有を引き続き進め、一層の連携を図ることが望まれる。

３－２ コアセンター

〈実施体制〉

- エコチル調査の実施主体として、メディカルサポートセンターや全国のユニットセンターと緊密な連携を図りながら全体をとりまとめており、今後もこのような取組が継続されることが期待される。

- 令和元（2019）年度から予算をより効果的に運用するため、ユニットセンターに対する委託事業を含めエコチル調査の実施に関する予算事業を国立環境研究所が一体的に運営することとなった。コアセンターは適切な運営ができるよう、環境省と共に体制整備を着実に行うとともに、メディカルサポートセンター及びユニットセンターと一層の連携を図り、エコチル調査を着実に実施することが期待される。

〈全体調査及びフォローアップ〉

- エコチル調査の成果をより価値あるものにするために、現参加者率や質問票回収率の維持が重要である。調査開始から 16 年目を迎えた現在、現参加者率や 12 歳までの質問票回収率がいずれも高い水準を維持できるように努めることが望まれる。

〈詳細調査及びフォローアップ〉

- 医学的検査及び精神神経発達検査の実施、詳細調査の結果返却、相談対応等については、引き続きメディカルサポートセンターと連携しつつ、各ユニットセンターのニーズに応じた支援が望まれる。

〈13 歳以降の調査〉

- Web による中学 1 年時質問票の回収率は、前述どおり、紙媒体による質問票調査と比べ大きく低下しているところであり、13 歳以降の質問票回収率の低下をできる限り抑えていくことが最重要課題である。参加者や質問票回収率の維持・向上のため、参加者コミュニケーション専門委員会が主体となり、ユニットセンターの取組の支援を行っている。引き続きユニットセンター実務担当者 Web 会議及びスタッフ研修の開催などを通して、ユニットセンター間の情報共有の場を設け、関係者が一丸となって質問票の回収率向上に取組むことが望まれる。

- 特筆すべき事項として、環境省が改定した基本計画に基づき、研究計画の改定を行うとともに、13 歳以降の調査においては子どもも主体となることを見据え、子ども向けに分かりやすくエコチル調査を説明する資料を作成したり※、Web を使った参加者ポータルの整備を進める※など、子どものインフォームド・アセントに向けた取組を進めていること、ニュースレターや SNS による参加者への情報発信、感謝状やボランティア活動証明書の発行※など子どもや保護者の参加意識を高めるための取組を着実に進め、更には子どもの意見を聴取して調査の改善につなげる PPI の取組※も開始していることは高く評価できる。

  ※「広報戦略指針」が示す「シーンＯ」に向けた取組。

- 13 歳以降は、Web 上に設けられた参加者ポータルサイトを通じた調査となっており、子ども本人にサイトにアクセスしてもらうことで情報収集が可能となる。これまで参加者に寄り添って着実に調査を進めてきたユニットセンターの協力を得ながら子どもの参加意識を高めるとともに、より一層使いやすく、参加者がアクセスしたくなるようポータルサイトの機能やコンテンツを見直していくことが重要である。

〈研究〉

- エコチル調査の全国データを用いた論文については、エコチル調査で得られた成果が諸外国にも通用するよう、成果のまとめ方及び論文の質の担保ができるような体制を整えている。

- 論文の質を高めるため、「中心仮説ワークショップ」、「疫学統計専門委員会」、

「学術専門委員会」が定期的に開催され、また、エコチル調査の全国データを用いた論文を投稿前に審査する内部査読の仕組みが定着していることは評価できる。

- エコチル調査開始から 16 年目を迎え、エコチル調査の全国データを用いた論文が 574 編（令和７（2025）年 12 月末までの累計）と着実に増えてきていることは、調査の実施主体として評価できる。

- そのうち中心仮説に係る論文は 82 編であり、中心仮説に係る論文執筆の更なる加速化が望まれる。

- 論文の質の担保を図りながら審査プロセスを簡略化するなどにより、研究者のモチベーションを高めることが必要である。

- エコチル調査で収集したデータを幅広く国内外の研究に有効活用されるよう、令和３（2021）年 9 月に「データ共有実施計画」を策定、安全にデータの共有を担うシステムを構築した上でデータ共有を進めている。今後は、成果還元の一環として、データ共有のより一層の推進や集計データの公開が期待される。

- その前提として、エコチル調査のデータ利用を検討する研究者の裾野を広げるため、関連学会などへの能動的な働きかけも強化することが望まれる。

- その他のアウトリーチ活動として、国立環境研究所の一般公開イベントにおける成果の紹介、中高生を対象とした学会形式イベントへのブース出展、中心仮説課題を取り上げた研究成果集の公開といった取組を進めていることは評価できる。

〈化学分析〉

- 血中金属類、尿中コチニン、血中有機フッ素化合物（PFAS）、フェノール類、農薬類（有機リン系農薬代謝物、ネオニコチノイド系農薬、ピレスロイド系農薬代謝物）、フタル酸エステル代謝物、形態別ヒ素化合物、ダイオキシン類縁化合物、血中残留性有機汚染物質（POPs）等のデータ固定が終了するなど、近年その影響に関する不安や対策の声が上がっている物質を含め、着実に化学分析データが解析できる体制を整えていることは評価できる。

- 一方で、計画された約 60 種類の化学物質群のうち、データ固定まで完了したのは一部にとどまっている。調査の根幹である化学物質ばく露と健康影響の関連を解明する上で、化学分析の進捗は極めて大きな課題であり、今後はより一層化学分析を加速化していくことが必要である。

- そのため、化学分析等を計画的かつ効率的に実施する体制を構築することが求められる。

〈国際連携〉

- 国際連携については、「環境と子どもの健康に関する国際作業グループ」に引き続き参画し、各国との協力を図っているほか、国際学会等への専門家及び若手研究者の派遣等の学術的な取組を行っており、今後も環境省と役割分担を図りつつ、学会、国際機関等との連携を推進することが期待される。

- 特に、エコチル調査に先行して AYA 世代・デジタルネイティブ世代を追跡している ALSPAC（英国）や MoBa（ノルウェー）といった海外のコホート調査との情報収集や意見交換に努めること、また、今後コホート調査を検討している国々との意見交換、情報提供などを行っていくことなど積極的に連携していくことが望まれる。

〈個人情報管理、情報セキュリティ〉

- ユニットセンターにおける参加者の個人情報の管理については、その管理状況が適切であるかどうか、定期的に確認する体制を維持することが重要である。引き続きコアセンターが中心となり、適切な個人情報の管理がなされるような体制を維持していくことが望まれる。

- 令和７（2025）年度には、各調査実施機関が個人情報を安全に管理し、エコチル調査に従事する者がインシデント等に適切に対応できるよう、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」並びに「リスク管理・危機管理マニュアル」の改定が進められている。

- 一方、令和７（2025）年（１月～12 月）、ユニットセンターにおいて個人情報管理に関する基本ルール違反が２件あった。エコチル調査を適切に実施するための各種ルール（個人情報管理や成果発表などを含む）を遵守することは大規模かつ長期的な調査を安定的に遂行する上で重要であり、引き続きルールの周知徹底に努める必要がある。

３－３ メディカルサポートセンター

〈全体調査及びフォローアップ〉

- 医学的検査及び精神神経発達検査について、主要専門分野のプロジェクトを設け、コアセンター経由で寄せられるユニットセンターからの問い合わせに適宜回答し、得られるデータの質を維持していることは評価できる。

- 令和７（2025）年度も、質問票等の検討に当たり、Web アンケート等を活用したメール審議などを取り入れ、効率的かつ調査スケジュールに沿って着実に検討を進めていることは評価できる。今後は、調査成果の質を担保するためのデータ管理やクリーニングの検討、遺伝子解析の実施に向けた検討を進めるとともに、13 歳以降のフォローアップ項目の検討を引き続き進めることが期待される。

- 令和４（2022）年度から、エコチル調査で収集した生体試料のゲノム・遺伝

子解析を実施しており、網羅的 DNA 塩基多型解析やゲノムワイド関連解析を着実に進め、要約統計量データを公開し、ゲノムワイド関連解析の結果をまとめたフラッグシップ論文を投稿していることは高く評価できる。遺伝子解析から得られた情報に求められる高い機密性を踏まえ、関連指針やガイドラインを遵守した厳重なデータ管理体制を構築しながら、着実に解析を進めていく必要がある。

〈研究〉

- 成果の社会への還元の一環として、全国データを用いた論文に関してメディカルサポートセンターからは 574 編のうち 41 編（令和７（2025）年 12 月末までの累計）を発表していることは評価できる。

- 令和７（2025）年は、「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2024」においてエコチル調査の成果が活用されたことは高く評価できる。

- 引き続き、中心仮説に係る論文に関しても順次執筆を加速化していくことが望まれる。

- エコチル調査の全体調査に関する成果発表については、論文の質が担保できるような体制構築を、コアセンターと協働して検討することが望まれる。

３－４ ユニットセンター

〈全体調査及びフォローアップ〉

- 10 万組の親子を対象に実施しているエコチル調査において、より多くの参加者の調査継続と年に数回送付する質問票の回答率を高めることが、調査の質の向上及び国民に対して有益な研究成果を還元するために必要不可欠かつ重要な事項である。調査開始から 16 年目を迎えた現在、現参加者率は高い水準で維持されているにもかかわらず、質問票回収率は参加者の年齢とともに低下傾向にある（表１、表２）。

- 併せて、ユニットセンター間における現参加者率の差は 11.4%と大きくないものの、質問票の回収率には依然として格差（13.8%）が見られる。各ユニットセンターの業務全般において、PDCA サイクルの中で調査地域の特性や効率性を勘案し、質問票の回収率の向上につながるような取組を行うことを求めたい。

- 12 歳までの紙による質問票調査が終了しつつある中、特に、全国平均より質問票回収率が著しく低いユニットセンターについては、原因を分析し、改善に導く一層の工夫が必要である。

〈13 歳以降の調査〉

- 環境省が改定した基本計画に基づき参加者が 18 歳に達するまで調査が継続され、参加者が 13 歳以降の調査においては子ども本人も調査の主体となっ

ている。しかし、先述のとおり、参加者ポータルサイトによる中学１年時質問票の回収率は、紙媒体による質問票調査と比べ大きく低下している。ユニットセンターはエコチル調査の開始時から参加している子どもや保護者に寄り添って調査を進めており、今後は、より一層子どもに寄り添いながらエコチル調査に対する理解を促し、参加意識を高めることが求められる。

- 特に令和７（2025）年度以降、参加者である子どもは学童期から思春期に移行する時期にある。こうした参加者のライフスタイルの大きな変化をとらえつつ、各ユニットセンターで子どもが参加しやすいよう学童期検査や詳細調査を進めていること※、また子ども向けに分かりやすく成果を伝えるなどコミュニケーションを工夫して参加意識の向上に取組んでいること※は高く評価できる。また、一部のユニットセンターでは、子どもの意見を聴取して調査の改善につなげる PPI の取組も開始しており※、その成果をエコチル調査全体に横展開し、課題の解決につなげていくことが期待される。

  ※「広報戦略指針」が示す「シーンＯ」に向けた取組。

〈エコチル調査の成果の社会への還元〉

- エコチル調査の開始から 16 年目を迎え、調査の成果が積み重ねられる時期に差し掛かり、今後その成果を社会に適切に還元していくことが重要である。成果還元としては、全国データを用いた論文 574 編（うち中心仮説に係る論文 83 編、令和７（2025）年 12 月末までの累計）のうちユニットセンターからは 488 編（中心仮説 66 編）が学術雑誌に掲載された。

- 令和７（2025）年度には、学会での発表 123 件（うちユニットセンター113 件）、一般の方や参加者向けの成果発表（講演会、ホームページ掲載、ニュースレター等）265 件（うちユニットセンター256 件）、論文成果に係るプレスリリース 34 件（うちユニットセンター28 件、いずれも令和７（2025）年１月から令和７（2025）年 12 月末時点）が実施された。以上のようなユニットセンターの研究発表や活動の中のいくつかは、学会等の表彰・褒章も受けている。

〈個人情報管理等〉

- エコチル調査を適切に実施するための各種ルールの遵守状況を見ると、個人情報管理に関するルール違反が２件あった。参加者宛のハガキ一枚に複数の住所・氏名を印刷して送付したことや、参加者氏名が記載された生体試料収集用の資材を別の参加者に発送したことにより個人情報の漏えいが発生し、いずれもコアセンターへの報告前に対応したことや、環境省への報告が遅延した件もあった。

- 成果発表について環境省への届出・報告が遅延した事例が複数見られた。

- 国民や参加者の信頼を損ねるような重大な違反はなかったが、今後はより一層、個人情報管理に対する意識の向上を図るとともに、各ユニットセンターにおいてルールを周知徹底していくことが重要である。

- また、先述のとおり、組織のレジリエンスを高めるため、インシデントの報告及び共有を積極的に進めることが求められる。

〈ユニットセンターごとの総評について〉

- 本年度の評価においては、①参加者の参加継続と質問票の回収につながるフォローアップ状況、②エコチル調査の業務全般における PDCA の取組、③エコチル調査の成果、④主要なルールの遵守状況及び管理状況を勘案した評価方法を設定した。①については、これまでの評価方法を踏襲し、ユニットセンターが質問票の回収を担う 12 歳までを対象として評価を行った。13 歳以降のフォローアップに対する取組への評価は次の②に含まれる。②については、参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上、コミュニケーション活動、アウトリーチ活動、その他の成果の社会還元といった多角的視点からユニットセンターの優れた取組を評価した。③については、令和４（2022）年度から、エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章を評価項目として取り入れた。
- ユニットセンターごとの総評はp.25 以降に示す。

４．総括

- 令和５（2023）年度に行った第四次中間評価後、引き続き、
  現参加者率が高い水準で維持されていること
  着実に学童期検査や化学分析が進んでいること
  論文として成果が増えていること
  今後の調査を見据え、広報・コミュニケーション活動に取組んでいること
  成果の社会還元を進めていること
  など、エコチル調査を着実に進めていることは評価できる。

- また、これまでに、環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に貢献してきたことも評価できる。
-
- 一方、質問票の回収状況については、
  年齢が上がるほど質問票回収率が低下する傾向
  12 歳時の質問票回収率が大きく低下
  Web 質問票移行後の回収率低下が顕著
  ユニットセンター間の格差が縮小していない。
  といった課題が挙げられ、PDCA サイクルに基づく改善を継続することなどが求められる。

- 特に、子ども本人が調査の主体となる 13 歳以降の質問票調査では回収率が大きく低下している。今後は、環境省及びエコチル調査の各実施機関が、SNS や動画配信、エコチル調査全国フォーラムなど、あらゆる媒体・機会を活用して、より一層子どものエコチル調査に対する理解を促し、コミュニケーション活動を工夫することにより、調査参加者の参加意識を高めていくことが

重要である。

- また、エコチル調査の成果を国民に最大限還元できるように、各種検査の着実な実施や化学分析等の計画的な実施、中心仮説に係る論文をはじめとする論文執筆の加速化、さらには地域に対する成果の還元等を進めることが求められる。

- 加えて、13 歳以降の調査を視野に入れ、エコチル調査の新たなフェーズに合わせた評価の在り方について検討する必要がある。特に、第五次中間評価の実施が予定されている令和 10（2028）年度は、すべての参加者が 13 歳に達し、基本計画が当初示していたフォローアップ期間が終了する年度である。基本計画と照らし合わせて、調査のねらい等の達成状況を評価することが考えられる。

- なお、エコチル調査の成果に対する社会的期待を踏まえて、令和７（2025）年３月、参加者を更に長期（40 歳程度まで）にわたって追跡することを見据え、基本計画改定の骨子がまとめられた。

- 今後とも、エコチル調査関係者が一丸となって 13 歳以降の調査を着実に推進していくとともに、さらに成人期まで縦断的に調査していくことに向け、効率的・効果的な調査実施体制を構築していくことが求められる。

ユニットセンターにおける総合評価指標

（１）フォローアップ状況

○　現参加者率【表１】

対象である子どもの出生者数に対し、現参加登録者数の比率を算出した。現参加登録者数とは、出生した子どものうち、打ち切り数（本人死亡、代諾者消失など）、他ユニットセンターへの転出、転入を反映した人数である。

［評価］各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する（評価は行わない）。

○　質問票回収状況（出生後６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率）【表２】

令和７（2025）年９月 29 日時点で質問票送付後６ヶ月経過した出生後６ヶ月から小６までの発送数に対する回収数を用いて算出。総合的な質問票の回収状況を確認する指標として位置付ける。

［評価］ 回収率が 78.9%（平均）以上を○とする。また、令和６（2024）年度及び令和７（2025）年度に継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上の場合は○を加点する。

○　質問票回収率の維持状況（出生後６ヶ月回収率と小６回収率の差）【表２】

出生後６ヶ月の質問票回収率と小６時の質問票回収率の差を算出。直近の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

［評価］差異 29.3%未満を〇とする。

〇　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表３－１】

６ヶ月からの質問票回収率の推移を示すグラフにおける令和６（2024）年９月 24 日時点と令和７(2025)年９月 29 日時点での年齢別回収率の回帰直線(Y=aX+b)の傾き（a）の差異をみる。直近１年間の質問票回収状況を確認する指標として位置付ける。

［評価］傾き差異がプラスの場合を〇とする。

（２）エコチル調査に係る業務全般に関する取組

〇　「参加者（子どもを含む）の調査参加へのモチベーション維持」に関する取組の PDCA 評価【表４－１】

参加者（子どもを含む）の調査参加へのモチベーションの維持について、PDCA サイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

［評価］PDCA の観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を〇とする。

〇　「質問票回収率の維持・向上」に関する取組の PDCA 評価【表４－２】

質問票回収率の維持・向上について、PDCA サイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

［評価］PDCA の観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を〇とする。

〇　成果の社会還元に関する PDCA 評価【表４－３】

コミュニケーション活動、アウトリーチ活動、その他の成果の社会還元に関する取組について､PDCA サイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付ける。

［評価］PDCA の観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合を〇とする。

（３）エコチル調査の成果

〇　エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章【表５－２】

エコチル調査の研究成果や活動への第三者評価を確認する指標として位置づける。

［評価］エコチル調査の研究成果による研究発表やユニットセンターの活動に対し学会や国・自治体等から表彰・褒章があった場合※を〇とする。

※学会賞、若手研究者賞、奨励賞、環境教育・環境保全に関する賞、知事褒章など。研究者　個人が受けた賞であっても、エコチル調査の研究成果や活動が主たる授賞理由となっている場合はそれを含む。教職員や学生を対象として大学が行う学内表彰の実績は除く。

〇　学術論文等の発表【表５－３】

エコチル調査成果の社会還元の一環として、学術論文等の発表が実施されているかを確認する指標として位置づける。

［評価］ 令和６年 11 月から令和７年 10 月 31 日までの全国データを用いた論文について、論文数だけでなく、その質も含めた総合的な観点から、特に優れた論文発表を行っている場合を〇とする。

（４）エコチル調査ルールの遵守及び管理状況【表６、表７】

エコチル調査で定める各種ルールの遵守状況やその管理状況を確認するための指標として位置付ける。

[評価]個人情報の管理状況のルール違反や、成果発表ルールの違反（軽微な違反を除く）※のいずれかで注意喚起後も同じルール違反を繰り返した場合、評価が下がる。

※エコチル調査の成果を発表する上で重大な問題となることが想定される場合を対象とする。届出･報告の遅延などは軽微な違反と見なし、注意喚起を実施することとし、総合評価における減点の対象とはしない。なお、注意喚起への対応が不十分である場合などはこの限りではない。

総合評価の考え方

卓越して優秀：〇が７個～９個ある
優秀　　：〇が４個～６個ある
良好　　：〇が０個～３個ある
不十分　　：良好の評価だが、ルール違反がある

ユニットセンターの評価一覧（令和７年度）

総合評価	センター数	ユニットセンター名
卓越して優秀	1	富山ユニットセンター
優秀	11	北海道ユニットセンター／福島ユニットセンター／千葉ユニットセンター／甲信ユニットセンター（山梨大学）／愛知ユニットセンター／京都ユニットセンター／大阪ユニットセンター／鳥取ユニットセンター／高知ユニットセンター／産業医科大学サブユニットセンター／宮崎大学サブユニットセンター
良好	7	宮城ユニットセンター／神奈川ユニットセンター／甲信サブユニットセンター（信州大学）／兵庫ユニットセンター／九州大学サブユニットセンター／熊本大学サブユニットセンター／琉球大学サブユニットセンター
不十分	0	該当なし

各ユニットセンターの総評

※〇加点対象となる項目

北海道ユニットセンター

総評：優秀

- **〇 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- **〇 エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  参加者ポータルサイトのガイドブックを独自に作成して参加者がスムーズに利用できるようにしたり、カーリング体験イベントを実施するなどの取組により参加意識を高めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇 エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  参加者の状況を分析し、過度に返送依頼をせずに調査を継続していただく考え方などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇 エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
  大学、中学・高校、行政、地域施設と連携し、地域全体の幅広い層に成果を還元していること、論文の内容を動画で配信し視聴数を増やしていることなど

は他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○ **エコチル調査の成果**

社会的に高く注目されている PFAS をテーマにした中心仮説に関する論文を発表し、かつインパクトファクターが高いことは高く評価できる。

宮城ユニットセンター

総評：良好

○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**

質問票の提出に対し独自にポイントを付与するカードを作成し、質問票の回収につなげていることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

SNS、ラジオ、オープンキャンパス、地域イベント、独自の成果集など様々な媒体で幅広い層に成果を還元していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

福島ユニットセンター

総評：優秀

○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**

環境セミナーの実施や、ニュースレターのコンテンツの内容を参加者の年齢に合わせて興味を持つように工夫していることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**

参加者が自分好みにカスタマイズできるノベルティ（ボールペン）を用意し、質問票の返送時に希望を聞くことは、質問票の提出意欲を高める工夫として他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

保健医療従事者や高校生を対象とした講演の実施、行政との連携による出前授業の実施などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

○ **エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）**

発表論文に対する学会からの表彰が１件ある。

○ **エコチル調査の成果**

複数の中心仮説に関わる論文を含め、論文数が多く、積極的に成果発表に取り組んでいることは高く評価できる。

千葉ユニットセンター

総評：優秀

- **○　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **○　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **○　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- **○　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  子どもが楽しめるノベルティ（DNA 折り紙）の配布や動画配信、双方向イベントなどの取組により参加意識を高めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **○　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
  子ども向けに分かりやすく論文を紹介する動画や冊子の作成、一般市民向けの環境イベントにおける成果の紹介などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **○　エコチル調査の成果**
  中心仮説に関する論文を発表し、かつインパクトファクターが高いことは高く評価できる。

神奈川ユニットセンター

総評：良好

- **○　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **○　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。

甲信ユニットセンター（山梨大学）

総評：優秀

- **○　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **○　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  参加者の年齢に合わせてテレビ番組の観覧ツアーを実施するなどの取組により参加者のモチベーション維持につなげていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **○　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  休眠状態になっている参加者に焦点を当て、はがきの送付やイベント開催を工夫していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **○　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**

マスコミを対象とした「研究論文説明会」を開催し、メディアに取り上げられていること、子ども向けに分かりやすく研究成果のアニメーション動画を作成し、かつ中学生の意見を聴取していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

甲信サブユニットセンター（信州大学）

総評：良好

- ○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- ○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**
  令和６（2024）年度、令和７（2025）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。
- ○ **質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。

富山ユニットセンター

総評：卓越して優秀

- ○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- ○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**
  令和６（2024）年度、令和７（2025）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。
- ○ **質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- ○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  路線バスのラッピング、街頭モニターなどを活用して広告活動に力を入れていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- ○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  県の教育委員会が各家庭に配布しているアプリから身長・体重等の測定データを転記してもらう工夫などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- ○ **エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）**
  発表論文に対する学会からの表彰が２件ある。
- ○ **エコチル調査の成果**
  幅広い分野にわたる多数の論文を発表し、かつインパクトファクターが高いことは高く評価できる。

愛知ユニットセンター

総評：優秀

- **○ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **○ 質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **○ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- **○ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  子どもを対象とした対面イベント「みらい推進委員会」を開催して子ども本人の声を聴取していることや、国立環境研究所の見学ツアーの実施、マンガ・アニメーションの活用など、参加意識を高める様々な取組を進めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **○ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  質問票の入った封筒の開封を促す工夫や、検査会場で質問票の記入を勧奨し回収していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **○ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
  教育委員会と連携し小・中学校で使われている連絡アプリで動画を配信することで幅広く保護者や子どもの視聴につなげていること、市ホームページを活用していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

京都ユニットセンター

総評：優秀

- **○ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **○ 質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**
  令和６（2024）年度、令和７（2025）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。
- **○ 質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **○ エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  クイズを配信するなど参加者ポータルサイトへのログインを促す工夫、リマインド効果の高い参加者の分析、参加者の心理的負担を減らすような返送依頼の工夫など様々な取組を行っていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

大阪ユニットセンター

総評：優秀

- **〇　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **〇　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  参加者の目を引くようにキャラクターをあしらった勧奨はがきの工夫などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
  子ども向けに成果発信サイトを開設していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

兵庫ユニットセンター

総評：良好

- **〇　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **〇　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

鳥取ユニットセンター

総評：優秀

- **〇　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **〇　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**
  令和６（2024）年度、令和７（2025）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。
- **〇　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **〇　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  対面調査の機会を有効に活用して参加継続手続きを促したり、アプリへのログインを支援していることなどの取組により参加意識を高めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

高知ユニットセンター

総評：優秀

- **〇　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
  回収率の低減を抑制できている。
- **〇　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  調査への理解を促すイベントを開催したり、電話による案内デスクを設けるなどにより参加意識を高めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  WEB 質問票の回答状況やポイント交換状況を伝えるリマインドのメール配信や、小学校高学年や中学生に応じたノベルティを工夫するなどの取組は他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
  インスタグラムの積極的な配信、大型商業施設への広告掲示などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

産業医科大学サブユニットセンター

総評：優秀

- **〇　質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
  高い回収率を維持できている。
- **〇　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
  昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
  参加者ポータルサイトを活用したアプリや応援動画の配信、子どもたちの意見を取り入れた LINE スタンプなどの取組により参加者のモチベーション維持につなげていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇　エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
  参加者の返送状況に合わせて質問票返送依頼回数を変えたり、シールを活用して視覚的に返送状況を示していることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
- **〇　エコチル調査の成果（研究成果や活動に対する表彰・褒章）**
  発表論文に対する学会からの表彰が１件ある。

九州大学サブユニットセンター

総評：良好

○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
　高い回収率を維持できている。
○ **質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
　回収率の低減を抑制できている。
○ **質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）**
　昨年度に比べ、今年度の回収率に改善がみられる。

熊本大学サブユニットセンター

総評：良好
○ **質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
　回収率の低減を抑制できている。
○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
　参加者に負担感を与えない長期未提出者へのアプローチやショートメールの内容の工夫などは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
　地方紙の広告、朝の情報番組内の CM 等、多様なメディアを活用した広報活動を展開していることなどは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

宮崎大学サブユニットセンター

総評：優秀
○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が平均以上）**
　高い回収率を維持できている。
○ **質問票回収状況（６ヶ月～小６までの合計の質問票回収率が継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上）**
　令和６（2024）年度、令和７（2025）年度の回収率が、継続して全ユニットセンターの平均プラス 0.5SD 以上である。
○ **質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）**
　回収率の低減を抑制できている。
○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（参加者のモチベーション維持）**
　「成長記録カード」や保護者向けのイベントなどの取組により参加者のモチベーション維持につなげていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（質問票回収率の維持向上）**
　スタンプラリーや早期提出キャンペーンにより参加者のモチベーションを高めていることは他のユニットセンターの参考ともなり高く評価できる。
○ **エコチル調査業務全般に関する取組の PDCA 評価（成果の社会還元）**
　子ども向けにマンガ形式で分かりやすくエコチル調査を紹介するチラシを作成し地域の全小中学校に配布していること、テレビ CM の活用などは他のユ

ニットセンターの参考ともなり高く評価できる。

琉球大学サブユニットセンター

総評：良好

○　質問票回収率の維持状況（６ヶ月回収率と小６回収率の差）

回収率の低減を抑制できている。

ユニットセンターの総合評価一覧

評価項目	フォローアップ状況											エコチル調査に係る業務全般に関する取組						エコチル調査の成果				エコチル調査ルールの遵守及び管理状況【表6、表7】		総合評価						
	現参加者率【暫定】	質問票の回収率（累計）										参加者の調査参加へのモチベーション維持		質問票回収率の維持向上		成果の社会還元		研究成果や活動に対する表彰・褒章		学術論文等の発表									
	現参加者数÷登録者数【表1】	質問票回収状況（出生後6ヶ月～小6までの合計の質問票回収率）【表2】				質問票回収率の維持状況（出生後6ヶ月回収率と小6回収率の差）【表2】			質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）【表3－1、表3－2】（※2024年9月24日時点から2025年9月29日時点までの期間）			特に優れた取組【表4－1】		特に優れた取組【表4－2】		特に優れた取組【表4－3】		学会等からの表彰・褒章【表5－1】		特に優れた学術論文や成果発表【表5－2】				フォローアップ状況	エコチル調査に係る業務全般に関する取組	エコチル調査の成果	計	エコチル調査ルールの遵守及び管理状況	総合評価	ユニット／サブユニットセンター名
評価基準	－	－	○：令和7年度の回収率が78.9%（平均）以上	○：令和6年度～令和7年度の回収率が0.5SD以上を継続		○：回収率の差異が29.3%（平均）未満			○：傾きの差異がプラス			○：PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合（互選数4以上に○）		○：PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合（互選数4以上に○）		○：PDCAの観点を踏まえ、特に優れた取組を行っている場合（互選数4以上に○）		○：エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等から表彰・褒章があった場合		○：特に優れた学術論文や成果発表があった場合（互選数6以上に○）		ルール違反の繰り返しの有無※軽微なものは含まない						
ユニット／サブユニットセンター名	現参加者率（参考）	回収率+D9:D13	ランキング（参考）	評価		回収率の差異	ランキング（参考）	評価	傾きの差	ランキング（参考）	評価	互選数	評価	互選数	評価	互選数	評価	表彰等件数	評価	互選数	評価	☑	該当ルールと事案の種類	○個数	○個数	○個数2)	○個数	違反件数		
北海道ユニットセンター	92.1	77.4	13			31.8	17		0.0193	4	○	13	○	4	○	13	○	－	－	16	○	－	－	1	3	1	5	0	優秀	北海道
宮城ユニットセンター	90.6	73.1	19			37.6	19		-0.0302	13		3		6	○	11	○	－	－	4		－	－	0	2	0	2	0	良好	宮城
福島ユニットセンター	91.5	77.0	14			36.6	18		-0.0848	18		4	○	8	○	10	○	1	○	16	○	－	－	0	3	2	5	0	優秀	福島
千葉ユニットセンター	84.6	79.0	12	○		26.7	7	○	0.0036	6	○	6	○	0		6	○	－	－	7	○	－	－	3	2	1	6	0	優秀	千葉
神奈川ユニットセンター	89.4	80.8	6	○		28.0	9	○	-0.0238	11		0		0		1		－	－	0		－	－	2	0	0	2	0	良好	神奈川
甲信ユニットセンター（山梨大学）	87.0	76.2	15			28.6	13	○	-0.0208	10		14	○	7	○	11	○	－	－	1		－	－	1	3	0	4	0	優秀	山梨大学
甲信サブユニットセンター（信州大学）	92.1	86.9	1	○	○	24.3	3	○	-0.0384	14		0		1		1		－	－	0		－	－	3	0	0	3	0	良好	信州大学
富山ユニットセンター	92.0	85.2	3	○	○	22.6	2	○	-0.0190	9		4	○	11	○	2		2	○	8	○	－	－	3	2	2	7	0	卓越	富山
愛知ユニットセンター	93.5	79.1	11	○		26.6	6	○	0.0468	1	○	15	○	10	○	7	○	－	－	1		－	－	3	3	0	6	0	優秀	愛知
京都ユニットセンター	93.5	85.3	2	○	○	19.3	1	○	-0.0294	12		2		11	○	1		－	－	0		－	－	3	1	0	4	0	優秀	京都
大阪ユニットセンター	94.6	80.5	8	○		26.0	5	○	-0.0823	17		3		7	○	5	○	－	－	3		－	－	2	2	0	4	0	優秀	大阪
兵庫ユニットセンター	93.7	79.5	10	○		30.1	16		0.0251	3	○	1		2		1		－	－	1		－	－	2	0	0	2	0	良好	兵庫
鳥取ユニットセンター	94.3	81.9	5	○	○	28.0	9	○	0.0037	5	○	6	○	1		0		－	－	0		－	－	4	1	0	5	0	優秀	鳥取
高知ユニットセンター	91.5	76.1	16			27.5	8	○	0.0034	7	○	7	○	11	○	8	○	－	－	0		－	－	2	3	0	5	0	優秀	高知
産業医科大学サブユニットセンター	96.1	80.8	6	○		30.0	15		0.0253	2	○	14	○	4	○	3		1	○	0		－	－	2	2	1	5	0	優秀	産業医科大
九州大学サブユニットセンター	91.7	80.3	9	○		28.2	11	○	0.0023	8	○	1		0		0		－	－	0		－	－	3	0	0	3	0	良好	九州大学
熊本大学サブユニットセンター	94.1	75.2	17			28.5	12	○	-0.0792	16		1		4	○	9	○	－	－	0		－	－	1	2	0	3	0	良好	熊本大学
宮崎大学サブユニットセンター	91.4	83.7	4	○	○	24.3	3	○	-0.0969	19		6	○	5	○	6	○	－	－	0		－	－	3	3	0	6	0	優秀	宮崎大学
琉球大学サブユニットセンター	90.0	74.3	18			29.1	14	○	-0.0559	15		0		2		0		－	－	0		－	－	1	0	0	1	0	良好	琉球大学

総合評価

卓越して優秀：	○が7個～9個ある
優秀：	○が4個～6個ある
良好：	○が0個～3個ある
不十分：	良好の評価だが、ルール違反がある 個人情報の管理状況のルール違反や、成果発表ルールの違反（軽微な違反を除く）※のいずれかで注意喚起後も同じルール違反を繰り返した場合、評価が下がる。

※ルール違反はエコチル調査の成果を発表する上で重大な問題となることが想定される場合を対象とする。届出・報告の遅延などは軽微な違反と見なし、注意喚起を実施することとし、 総合評価における減点の対象とはしない。なお、注意喚起への対応が不十分である場合などはこの限りではない。

表１　子どもの現参加者数【令和７年９月末時点】　※現参加者率の高い順に表示

ユニットセンター／ サブユニットセンター	出生数	他 UC への 転出者数	他 UC からの 転入者数	本人 死亡	代諾者 消失	その他 （打ち切り）	子氏名等の情報提供拒否	協力 中止	同意 撤回	完全同意撤回	住所 不明	不明・ その他	集計日	現参加者数 （計算数）	現参加者率 (%)
産業医科大学サブユニットセンター	2,952	20	35	7	11	2	1	79	22	0	9	0	9/29	2,836	96.1
大阪ユニットセンター	7,851	49	68	19	22	86	1	208	18	3	88	0	9/29	7,425	94.6
鳥取ユニットセンター	3,036	20	10	7	19	0	1	126	1	1	9	0	9/29	2,862	94.3
熊本大学サブユニットセンター	3,012	29	30	11	18	0	0	127	13	0	11	0	9/29	2,833	94.1
兵庫ユニットセンター	5,069	73	56	8	18	57	0	176	22	4	18	0	9/29	4,749	93.7
京都ユニットセンター	3,898	70	77	11	10	49	0	144	30	1	15	0	9/29	3,645	93.5
愛知ユニットセンター	5,554	39	86	11	6	11	0	285	12	5	79	0	9/29	5,192	93.5
甲信サブユニットセンター（信州大学）	2,679	20	23	5	6	1	0	157	13	0	33	0	9/29	2,467	92.1
北海道ユニットセンター	7,934	58	69	25	17	10	0	558	20	4	6	0	9/29	7,305	92.1
富山ユニットセンター	5,389	69	29	10	9	1	0	243	105	5	17	0	9/29	4,959	92.0
九州大学サブユニットセンター	4,564	25	64	10	9	4	2	218	90	1	81	1	9/29	4,187	91.7
高知ユニットセンター	6,920	81	18	22	16	22	0	378	33	6	45	0	9/29	6,335	91.5
福島ユニットセンター	12,866	254	155	26	187	13	0	443	225	7	76	12	9/29	11,778	91.5
宮崎大学サブユニットセンター	1,834	34	20	4	13	4	0	90	25	0	7	0	9/29	1,677	91.4
宮城ユニットセンター	8,999	143	198	24	64	4	6	383	302	2	118	0	9/29	8,151	90.6
琉球大学サブユニットセンター	863	13	13	1	6	0	0	54	0	0	23	2	9/29	777	90.0
神奈川ユニットセンター	6,404	47	89	10	24	7	13	537	7	0	123	0	9/29	5,725	89.4
甲信ユニットセンター（山梨大学）	4,491	43	18	12	5	1	0	413	18	0	110	0	9/29	3,907	87.0
千葉ユニットセンター	6,010	90	119	9	14	176	26	601	62	3	62	0	9/29	5,086	84.6
合計	100,325	1,177	1,177	232	474	448	50	5,220	1,018	42	930	15	9/29	91,896	91.6

※子どもの出生数は確定値。その他の値は、令和７年９月末現在の暫定値である。
※「その他の理由により調査継続不能」は、出生時に児の名前を把握できなかったため調査を打ち切りとしたなど。

表１別紙　現参加者率の推移

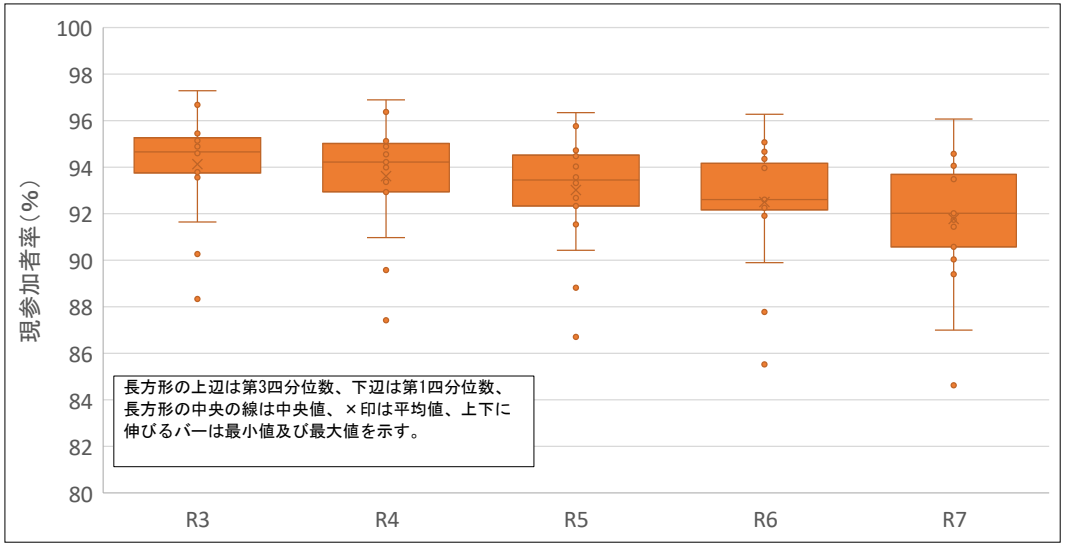


図1　現参加者率のばらつきの推移

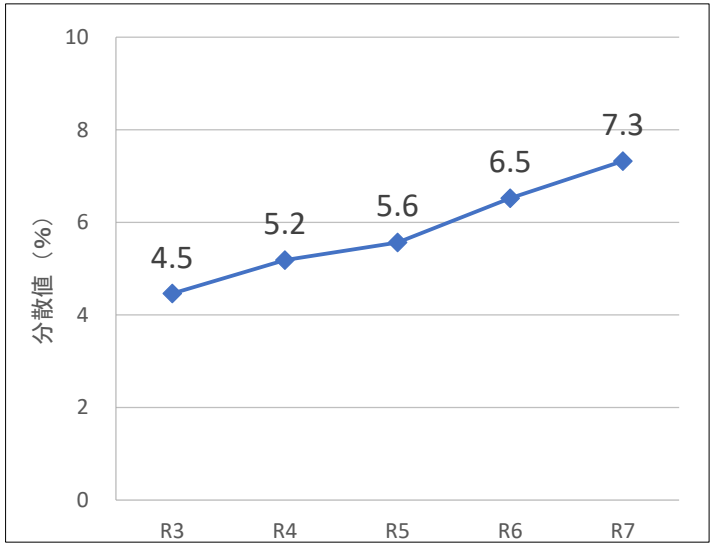


図2　現参加者率　分散値の推移

（%）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
平均	94.1	93.6	93.0	92.3	91.6
分散値	4.5	5.2	5.6	6.5	7.3
最大値	97.3	96.9	96.3	96.3	96.1
最小値	88.3	87.4	86.7	85.5	84.6
第１四分位数	93.8	93.0	92.4	92.1	91.0
第3四分位数	95.2	95.0	94.5	94.1	93.6
範囲	9.0	9.5	9.6	10.7	11.4

※令和３年度は2021年９月末時点での集計値
※令和４年度は2022年９月末時点での集計値
※令和５年度は2023年９月末時点での集計値
※令和６年度は2024年９月末時点での集計値
※令和７年度は2025年９月末時点での集計値

表２　質問票回収率の維持状況（出生後６ヶ月～12 歳までの合計の質問票回収率）【2025 年９月 29 日時点の累積、６ヶ月後】

※回収率の総数（R７）の高い順に表示

ユニットセンター／サブユニットセンター	C-6m		C-1y		C-1.5y		C-2y		C-2.5y		C-3y		C-3.5y		C-4y		C-4.5y		C-5y		C-5.5y		C-6y		C-7y		C-8y		C-9y	
	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,661	97.5	2,647	96.3	2,640	95.3	2,631	93.7	2,623	92.5	2,607	92.4	2,590	90.5	2,576	89.8	2,562	88.1	2,550	86.9	2,536	87.3	2,525	87.4	2,514	86.2	2,505	85.2	2,480	85.0
京都ユニットセンター	3,866	95.8	3,843	93.7	3,830	92.0	3,836	91.1	3,832	90.2	3,816	89.3	3,801	87.3	3,785	86.7	3,771	86.0	3,755	83.9	3,743	84.6	3,738	85.0	3,716	84.7	3,706	85.6	3,685	84.4
富山ユニットセンター	5,343	96.7	5,337	93.9	5,326	92.0	5,312	90.9	5,300	89.6	5,284	88.4	5,256	87.4	5,229	85.9	5,209	84.7	5,189	82.7	5,171	84.1	5,152	84.4	5,133	84.8	5,086	84.7	5,064	85.2
宮崎大学サブユニットセンター	1,827	95.9	1,823	94.3	1,814	93.8	1,808	89.2	1,805	87.1	1,798	90.5	1,794	91.4	1,788	85.3	1,786	83.2	1,788	82.3	1,778	83.6	1,777	83.5	1,768	83.5	1,745	83.3	1,735	81.9
鳥取ユニットセンター	3,023	95.3	3,021	93.4	3,016	91.5	3,013	89.2	3,004	88.3	2,988	87.3	2,975	85.0	2,970	83.8	2,955	82.5	2,943	80.2	2,936	83.1	2,925	83.4	2,905	81.3	2,882	81.5	2,870	79.6
神奈川ユニットセンター	6,361	95.3	6,342	92.9	6,318	90.1	6,301	88.2	6,246	86.4	6,190	85.7	6,161	83.6	6,101	82.2	6,068	80.8	6,030	78.5	5,987	79.4	5,964	79.6	5,904	80.4	5,874	80.1	5,828	79.1
産業医科大学サブユニットセンター	2,930	94.3	2,917	90.3	2,912	88.3	2,921	86.8	2,923	85.8	2,917	85.3	2,912	82.2	2,903	82.5	2,893	81.8	2,885	79.7	2,867	81.3	2,859	81.7	2,846	83.8	2,831	82.3	2,821	80.6
大阪ユニットセンター	7,807	93.1	7,794	90.7	7,781	88.9	7,770	86.7	7,757	85.2	7,734	84.3	7,712	81.7	7,682	81.0	7,665	79.5	7,637	77.6	7,618	80.2	7,592	80.2	7,546	81.4	7,514	81.0	7,467	79.4
九州大学サブユニットセンター	4,543	93.9	4,529	91.2	4,513	89.5	4,500	87.7	4,488	86.5	4,469	85.8	4,451	83.7	4,426	83.1	4,414	81.3	4,393	79.1	4,371	80.4	4,358	80.4	4,348	80.2	4,337	80.3	4,310	79.5
兵庫ユニットセンター	4,954	95.5	4,946	93.0	4,948	91.2	4,938	89.3	4,932	87.2	4,923	85.7	4,905	83.6	4,893	82.2	4,876	80.8	4,863	77.5	4,851	79.2	4,835	78.9	4,817	79.3	4,816	77.9	4,794	77.5
愛知ユニットセンター	5,518	92.9	5,508	91.0	5,499	89.0	5,478	88.1	5,457	87.0	5,441	86.2	5,412	83.8	5,394	82.6	5,361	80.6	5,347	79.7	5,340	80.3	5,325	79.7	5,307	78.4	5,285	76.2	5,245	74.7
千葉ユニットセンター	5,894	91.9	5,881	90.0	5,865	88.6	5,849	86.5	5,812	84.8	5,765	82.9	5,725	80.6	5,675	79.2	5,646	77.3	5,608	74.7	5,568	76.2	5,533	76.4	5,440	78.4	5,333	79.3	5,255	79.4
北海道ユニットセンター	7,713	94.2	7,671	92.0	7,656	90.3	7,646	88.6	7,645	87.0	7,640	84.4	7,609	81.9	7,573	80.9	7,542	78.7	7,521	76.8	7,498	76.6	7,475	76.7	7,440	77.4	7,388	76.4	7,346	73.4
福島ユニットセンター	12,760	97.5	12,737	94.1	12,692	91.1	12,655	87.8	12,631	85.2	12,607	82.8	12,569	79.6	12,536	78.1	12,494	76.0	12,423	73.1	12,334	74.7	12,262	75.1	12,160	76.6	12,048	75.3	11,957	72.9
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,454	93.3	4,423	87.9	4,405	84.9	4,387	82.7	4,376	81.3	4,364	80.8	4,323	78.5	4,283	78.5	4,250	77.1	4,209	74.9	4,169	75.9	4,142	76.7	4,107	77.2	4,044	75.4	4,013	73.6
高知ユニットセンター	6,887	91.7	6,875	89.2	6,865	86.7	6,837	85.4	6,824	84.7	6,804	80.3	6,765	75.9	6,746	74.9	6,713	71.9	6,689	71.3	6,651	71.6	6,626	73.1	6,569	75.8	6,523	77.2	6,468	75.5
熊本大学サブユニットセンター	3,005	91.5	2,998	88.5	2,994	83.2	2,988	83.0	2,980	76.8	2,971	76.7	2,958	73.2	2,944	72.4	2,923	72.5	2,903	72.1	2,893	73.8	2,878	74.8	2,866	75.9	2,863	76.8	2,850	74.9
琉球大学サブユニットセンター	856	96.3	854	93.3	853	89.0	851	82.7	849	78.7	844	76.7	837	74.6	832	73.7	828	73.7	821	73.1	819	71.9	818	72.5	816	73.8	813	73.2	804	71.1
宮城ユニットセンター	8,955	90.4	8,940	86.7	8,923	85.0	8,883	84.1	8,846	83.0	8,797	82.1	8,755	79.9	8,686	77.9	8,623	76.4	8,581	74.1	8,561	75.0	8,531	73.7	8,500	73.2	8,446	72.6	8,384	71.1
コアセンター	51	0.0	116	0.0	131	0.0	77	0.0	20	0.0																				
合計	99,408	94.2	99,202	91.4	98,981	89.3	98,681	87.4	98,350	85.7	97,959	84.3	97,510	81.8	97,022	80.6	96,579	78.9	96,135	76.9	95,691	78.1	95,315	78.3	94,702	78.9	94,039	78.4	93,376	77.0
標準偏差(SD)																														

ユニットセンター／サブユニットセンター	C-10y		C-10y 子ども		C-11y		C-11y 子ども		C-12y		C-12y 子ども		S-1		S-2		S-3		S-4		S-5		S-6		総数(R7)			総数(R6)			令和6年度～令和7年度の回収率が0.5SD以上を継続	低減率	
	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	発送数	回収率(%)	回収率0.5SD以上	発送数	回収率(%)	回収率0.5SD以上		6m⇒S-6(回収率%)	ランキング(参考)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,458	81.0	2,459	79.5	2,005	80.6	2,005	79.6	1,145	74.0	1,145	73.5	2,513	87.0	2,491	85.5	2,481	84.5	2,467	82.4	1,945	81.6	1,096	73.3	62,857	86.9	○	56,911	87.9	○	◎	24.3	3
京都ユニットセンター	3,675	81.3	3,675	79.2	2,977	79.1	2,975	77.5	1,618	74.9	1,618	73.9	3,724	86.4	3,708	84.8	3,691	84.6	3,678	82.7	2,879	79.7	1,527	76.6	92,468	85.3	○	82,695	86.2	○	◎	19.3	1
富山ユニットセンター	5,036	82.4	5,036	81.7	4,204	80.9	4,204	80.4	2,541	75.0	2,541	74.7	5,132	84.8	5,079	82.7	5,064	84.3	5,035	82.8	4,101	80.0	2,446	74.0	128,810	85.2	○	116,883	85.8	○	◎	22.6	2
宮崎大学サブユニットセンター	1,723	78.2	1,723	77.8	1,453	75.9	1,453	75.7	884	71.7	884	71.6	1,767	84.6	1,741	82.0	1,726	80.9	1,725	79.5	1,415	76.5	856	71.6	44,184	83.7	○	40,208	84.7	○	◎	24.3	4
鳥取ユニットセンター	2,860	76.2	2,860	75.1	2,445	74.0	2,445	72.9	1,479	65.9	1,479	65.0	2,907	84.2	2,883	80.5	2,872	80.2	2,861	78.2	2,385	75.4	1,410	67.3	73,312	81.9	○	66,458	82.8	○	◎	28.0	9
神奈川ユニットセンター	5,787	75.7	5,787	74.2	4,785	75.0	4,785	73.9	2,744	67.8	2,744	66.9	5,900	82.0	5,874	79.1	5,833	78.7	5,794	76.0	4,653	73.2	2,586	67.3	148,947	80.8		134,162	81.9			28.0	10
産業医科大学サブユニットセンター	2,811	77.1	2,811	75.8	2,357	72.6	2,357	70.7	1,417	66.8	1,417	64.8	2,846	84.4	2,830	80.1	2,823	79.2	2,813	77.2	2,293	72.4	1,362	64.3	71,474	80.8		64,677	81.7			30.0	15
大阪ユニットセンター	7,426	74.7	7,426	73.4	6,247	72.3	6,247	71.2	3,768	65.6	3,768	64.5	7,556	85.6	7,515	82.9	7,483	81.1	7,433	79.3	6,066	75.8	3,620	67.1	189,631	80.5		172,357	81.6			26.0	5
九州大学サブユニットセンター	4,285	75.2	4,285	74.2	3,645	72.2	3,645	71.2	2,257	65.0	2,257	64.0	4,345	80.8	4,333	79.3	4,308	78.7	4,291	76.6	3,547	72.5	2,186	65.7	109,834	80.3		99,766	81.4			28.2	11
兵庫ユニットセンター	4,772	74.3	4,772	70.5	4,200	72.9	4,200	70.5	2,620	65.8	2,620	64.2	4,817	79.9	4,812	76.3	4,797	75.9	4,777	74.5	4,085	71.7	2,512	65.4	122,275	79.5		110,734	80.4			30.1	16
愛知ユニットセンター	5,212	72.4	5,210	70.5	4,443	72.1	4,443	71.0	2,550	66.0	2,550	65.2	5,297	80.4	5,282	75.0	5,249	75.3	5,227	72.4	4,332	70.2	2,428	66.3	133,140	79.1		120,102	79.9			26.6	6
千葉ユニットセンター	5,203	75.2	5,203	74.4	4,363	73.3	4,363	72.6	2,689	66.6	2,689	66.2	5,455	78.9	5,320	79.2	5,264	78.8	5,217	76.8	4,271	72.7	2,578	65.2	137,464	79.0		124,702	79.9			26.7	7
北海道ユニットセンター	7,314	68.3	7,314	67.1	5,962	67.2	5,961	66.2	3,289	61.7	3,289	61.2	7,440	77.6	7,386	73.6	7,345	73.0	7,321	71.2	5,812	68.7	3,127	62.4	184,923	77.4		166,513	78.5			31.8	17
福島ユニットセンター	11,891	68.6	11,891	67.8	9,214	65.6	9,214	64.9	3,224	60.4	3,224	60.1	12,155	78.4	12,026	74.1	11,961	71.9	11,903	69.8	8,817	65.8	2,875	60.8	295,260	77.0		262,763	78.4			36.6	18
甲信ユニットセンター(山梨大学)	3,977	70.3	3,977	69.6	3,333	68.0	3,333	67.5	2,047	62.4	2,047	62.2	4,111	76.6	4,046	73.9	4,016	73.9	3,982	71.2	3,252	68.5	1,968	64.7	104,038	76.2		94,749	77.1			28.6	13
高知ユニットセンター	6,442	72.0	6,442	71.1	5,278	69.8	5,278	69.1	3,054	63.4	3,054	62.8	6,567	77.6	6,511	75.5	6,472	74.3	6,447	72.1	5,127	68.9	2,897	64.2	164,411	76.1		148,683	76.9			27.5	8
熊本大学サブユニットセンター	2,832	71.1	2,832	69.8	2,411	69.3	2,411	68.4	1,451	63.6	1,451	63.1	2,863	77.6	2,860	76.8	2,848	75.8	2,843	73.2	2,356	69.3	1,397	63.1	72,569	75.2		65,780	76.2			28.5	12
琉球大学サブユニットセンター	797	67.4	797	66.5	682	65.2	682	64.4	392	65.8	392	64.5	815	74.4	814	73.3	807	70.4	798	67.3	666	64.6	365	67.1	20,502	74.3		18,623	75.4			29.1	14
宮城ユニットセンター	8,323	64.6	8,323	63.5	7,587	61.3	7,587	60.4	4,838	51.7	4,838	51.0	8,495	75.0	8,440	73.0	8,387	70.1	8,335	66.6	7,439	61.7	4,667	52.8	217,670	73.1		198,370	74.7			37.6	19
コアセンター																									395	91.4		395	91.4				
合計	92,824	72.9	92,823	71.7	77,591	70.8	77,588	69.9	44,007	64.5	44,007	63.8	94,705	80.3	93,951	77.6	93,427	76.6	92,947	74.4	75,441	71.0	41,903	64.9	2,374,164	78.9		2,145,531	80.0			29.3	
標準偏差(SD)																										4.5			4.3				

※質問票の回収率：
全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。
送付後 6 か月経過した 2025 年9月 29 日時点での出生後6ヶ月～12 歳こども、小1～小6までの回収数を用いて算出した。

表２別紙　質問票回収率の推移

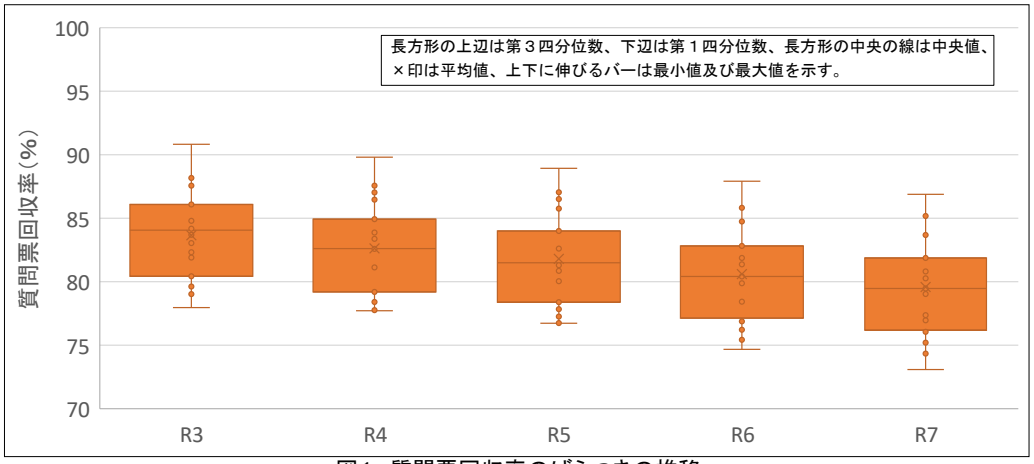


図1　質問票回収率のばらつきの推移

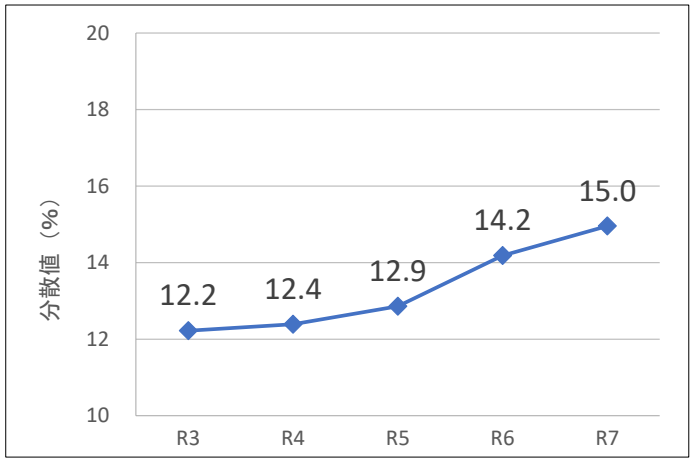


図2　質問票回収率　分散値の推移

（%）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
平均	83.2	82.2	81.3	80.0	78.9
分散値	12.2	12.4	12.9	14.2	15.0
最大値	90.8	89.8	88.9	87.9	86.9
最小値	78.0	77.7	76.7	74.7	73.1
第１四分位数	81.2	80.2	79.2	77.8	76.6
第3四分位数	85.4	84.4	83.5	82.3	81.4
範囲	12.9	12.1	12.2	13.2	13.8

※令和3年度は2021年9月30日時点での集計値
※令和4年度は2022年9月25日時点での集計値
※令和5年度は2023年9月25日時点での集計値
※令和6年度は2024年9月24日時点での集計値
※令和7年度は2025年9月29日時点での集計値

表３－１ 質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）
【令和７年９月 29 日時点の累積、６ヶ月後】

※差が正に大きい順に表示

ユニットセンター／サブユニットセンター	R6、R7 の一次直線の傾き[注 1)]		
	R6[注 2)]	R7[注 3)]	差 (R7-R6)
愛知ユニットセンター	−0.9114	−0.8647	0.0468
産業医科大学サブユニットセンター	−0.7513	−0.7260	0.0253
兵庫ユニットセンター	−0.9098	−0.8846	0.0251
北海道ユニットセンター	−1.0220	−1.0028	0.0193
鳥取ユニットセンター	−0.7808	−0.7771	0.0037
千葉ユニットセンター	−0.6486	−0.6450	0.0036
高知ユニットセンター	−0.7112	−0.7078	0.0034
九州大学サブユニットセンター	−0.7857	−0.7835	0.0023
富山ユニットセンター	−0.5391	−0.5581	−0.0190
甲信ユニットセンター（山梨大学）	−0.7514	−0.7723	−0.0208
神奈川ユニットセンター	−0.7221	−0.7458	−0.0238
京都ユニットセンター	−0.5239	−0.5533	−0.0294
宮城ユニットセンター	−1.0836	−1.1138	−0.0302
甲信サブユニットセンター（信州大学）	−0.6645	−0.7029	−0.0384
琉球大学サブユニットセンター	−0.7845	−0.8404	−0.0559
熊本大学サブユニットセンター	−0.5008	−0.5800	−0.0792
大阪ユニットセンター	−0.5275	−0.6098	−0.0823
福島ユニットセンター	−0.9586	−1.0433	−0.0848
宮崎大学サブユニットセンター	−0.6201	−0.7170	−0.0969
コアセンター	−	−	−
総計（値は平均値）	−0.7472	−0.7699	−0.0227
標準偏差（SD）	0.1667	0.1552	0.0407

注：

1) 質問票の累積回収率（発送後6か月経過後）を用いて、生後6か月～12 歳こども、小1～小6の質問票回収率の低下を、回帰直線の傾きとして評価

2) R6： 2024 年9月 24 日時点における、生後6か月～12 歳こども、小1～小6を、それぞれXとして 1～27 を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。

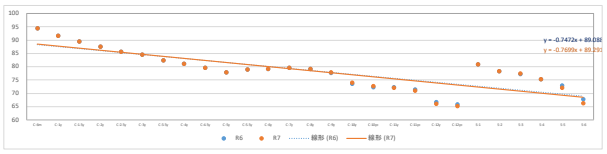
3) R7： 2025 年9月 29 日時点における、生後6か月～12 歳こども、小1～小6を、それぞれXとして1～27 を与え、回収率をYとして求めた回帰直線の傾き。（表3－2参照）

表３－２　質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較：グラフ）

【令和７年９月 29 日時点の累積、６ヶ月後】

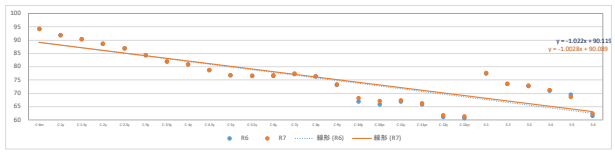
合計

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	94.4	91.7	89.3	87.5	85.8	84.6	82.3	81.1	79.8	77.8	78.9	79.1	79.0	77.7	73.8	72.3	72.1	71.0	66.4	65.8	80.8	78.2	77.3	75.3	72.9	67.8
R7	94.4	91.7	89.3	87.5	85.7	84.6	82.3	81.1	79.8	77.8	78.9	79.1	79.0	77.3	74.0	72.7	72.0	71.0	66.0	65.2	80.9	78.1	77.4	75.3	72.1	66.1



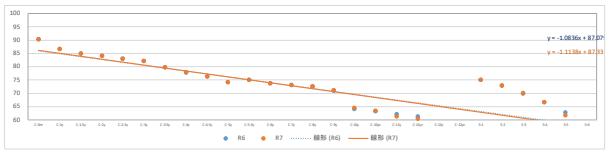
北海道ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	94.2	92.0	90.3	88.6	87.0	84.4	81.9	80.9	79.3	76.7	76.8	76.5	76.7	77.2	76.4	73.0	66.3	65.9	66.8	65.9	81.0	77.5	73.5	72.6	70.9	69.4	61.3
R7	94.2	92.0	90.3	88.6	87.0	84.4	81.9	80.9	78.7	76.8	76.5	76.7	77.1	76.4	73.4	68.3	67.1	67.2	68.3	61.7	81.3	77.4	73.0	73.0	71.2	68.7	62.4



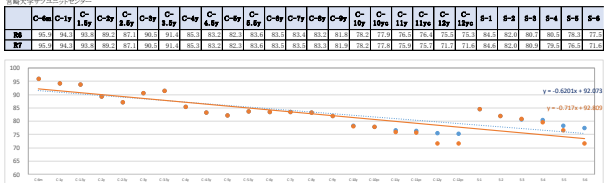
宮城ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	90.4	86.1	85.0	84.1	83.0	82.1	79.9	77.9	76.4	74.1	75.0	73.7	73.2	72.6	71.0	68.2	63.2	62.2	61.4	55.0	51.4	75.9	73.0	70.9	66.6	62.9	54.8
R7	90.4	86.7	85.0	84.1	83.0	82.1	79.9	77.9	76.4	74.1	75.0	73.7	73.2	72.6	71.1	68.6	63.5	61.3	60.4	61.7	51.0	75.9	73.0	70.1	66.6	61.7	52.8



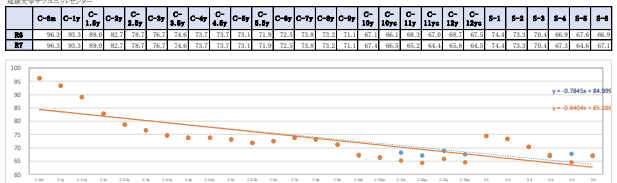
福島ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	97.5	94.1	91.1	87.8	85.2	82.8	79.6	78.1	75.9	73.1	74.7	75.1	76.0	75.3	72.9	67.9	67.2	66.4	65.7	64.2	64.0	78.4	74.1	71.8	69.6	67.9	65.4
R7	97.5	94.1	91.1	87.8	85.2	82.8	79.6	78.1	76.0	73.1	74.7	75.1	76.0	75.3	72.9	68.6	67.9	65.6	64.9	60.4	60.1	78.4	74.1	71.9	69.8	65.8	60.8



千葉ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	91.9	90.0	88.6	86.3	84.8	82.9	80.6	79.1	77.3	74.7	76.2	76.4	76.4	79.2	79.2	75.4	74.5	73.6	72.9	64.8	64.6	78.9	78.1	78.6	76.9	73.6	65.5
R7	91.9	90.0	88.6	86.5	84.8	82.9	80.8	79.2	77.3	74.7	76.2	76.4	76.4	79.3	79.6	75.2	74.6	73.3	72.6	66.6	66.5	78.9	79.2	78.8	78.9	72.7	65.7



神奈川ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	95.3	92.9	90.1	88.2	86.4	85.7	83.8	82.2	80.8	78.5	79.4	79.6	80.4	80.1	79.1	75.0	74.3	74.1	73.3	69.0	68.6	82.0	79.1	78.6	76.3	73.8	67.9
R7	95.3	92.9	90.1	88.2	86.4	85.7	83.8	82.2	80.8	78.5	79.4	79.6	80.4	80.1	79.1	75.7	74.2	74.0	73.9	67.8	66.9	82.0	79.1	78.7	76.0	73.5	67.3

甲信ユニットセンター(山梨大学)

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	90.3	87.9	84.9	82.7	81.3	80.8	78.5	78.5	77.1	74.9	75.9	76.7	77.2	75.4	73.5	70.1	69.2	68.0	67.5	63.2	63.1	76.8	73.9	73.8	71.0	69.1	66.2
R7	90.3	87.9	84.9	82.7	81.3	80.8	78.5	78.5	77.1	74.9	75.9	76.7	77.2	75.4	73.8	70.3	69.6	68.0	67.5	62.4	62.2	76.8	73.9	73.9	72.2	68.3	64.2

甲信サブユニットセンター(信州大学)

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	97.3	96.1	95.0	93.1	92.5	92.4	90.5	89.8	88.1	86.9	87.2	87.4	86.2	85.2	84.6	81.6	79.5	81.3	80.2	74.0	74.0	87.6	85.4	84.3	83.1	82.7	75.1
R7	97.3	96.1	95.1	93.1	92.5	92.4	90.5	89.8	88.1	86.9	87.2	87.4	86.2	85.2	85.0	81.9	79.5	80.4	79.9	74.0	73.5	87.6	85.5	84.3	82.4	81.6	73.3

富山ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	96.1	93.9	92.0	90.9	89.8	88.4	87.4	85.9	84.2	82.7	84.1	84.4	84.8	84.7	85.2	81.8	81.0	81.0	80.7	74.9	74.9	84.0	82.7	84.1	82.9	80.0	76.8
R7	96.1	93.9	92.0	90.9	89.8	88.4	87.4	85.9	84.2	82.7	84.1	84.4	84.8	84.7	85.2	82.4	81.7	80.9	80.4	75.0	74.7	84.0	82.7	84.1	82.8	80.0	74.0

愛知ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	92.4	91.0	89.4	88.1	87.0	86.2	83.8	82.6	80.8	79.7	80.3	79.7	80.3	79.7	78.3	76.1	74.3	71.2	69.8	66.0	65.5	80.4	74.9	74.9	72.3	70.8	65.0
R7	92.4	91.0	89.4	88.1	87.0	86.2	83.8	82.6	80.8	79.7	80.3	79.7	78.4	76.2	74.7	72.4	70.5	72.1	71.0	66.0	65.5	80.4	75.0	75.3	72.4	70.2	66.1

京都ユニットセンター

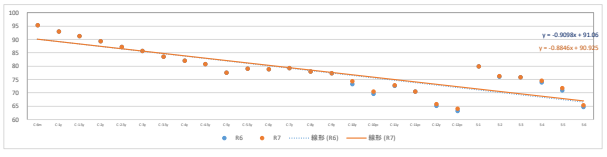
	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	95.8	93.7	92.0	91.1	90.2	89.3	87.3	86.7	86.0	83.9	84.6	85.0	84.7	85.5	84.3	80.6	78.4	78.3	77.6	75.4	74.9	86.4	84.8	84.5	82.3	80.2	79.7
R7	95.8	93.7	92.0	91.1	90.2	89.3	87.3	86.7	86.0	83.9	84.6	85.0	84.7	85.6	84.4	81.3	79.5	79.1	77.5	74.9	73.9	86.4	84.8	84.6	82.7	79.7	76.4

大阪ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	93.1	90.7	88.9	86.7	85.2	84.3	81.7	81.0	79.5	77.4	80.2	80.2	81.4	81.0	79.4	75.2	73.8	72.5	71.2	65.0	64.5	85.0	82.9	81.9	80.1	78.1	71.1
R7	93.1	90.7	88.9	86.7	85.2	84.3	81.7	81.0	79.5	77.4	80.2	80.2	81.4	81.0	79.4	74.7	73.4	72.3	71.2	65.0	64.5	85.0	82.9	81.1	80.3	78.0	67.1

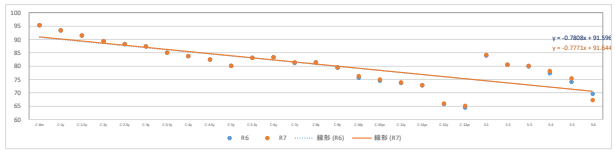
兵庫ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	95.3	93.0	91.2	89.3	87.2	85.7	83.6	82.2	80.8	77.5	79.2	78.9	79.2	77.9	77.3	73.3	69.7	72.7	70.3	69.8	75.8	76.2	74.9	74.0	71.8	64.9
R7	95.2	93.0	91.2	89.3	87.2	85.7	83.6	82.2	80.8	77.5	79.5	78.9	77.9	77.5	74.3	70.5	72.9	70.5	65.8	64.5	79.9	76.5	75.9	74.5	71.7	65.4



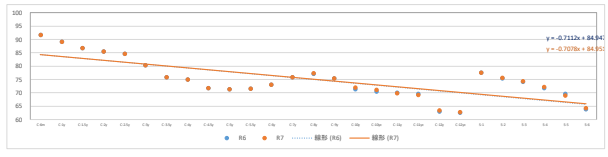
鳥取ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	95.3	93.4	91.5	89.2	88.3	87.3	85.9	83.8	82.5	80.2	83.1	83.3	81.3	81.4	79.9	75.6	74.3	73.7	72.9	65.9	66.0	84.1	80.5	79.9	77.4	74.5	69.6
R7	95.3	93.4	91.5	89.2	88.3	87.3	85.9	83.8	82.5	80.2	83.1	83.4	81.3	81.5	79.9	76.2	75.1	74.0	72.9	65.9	65.0	84.2	80.5	80.2	78.2	75.4	67.1



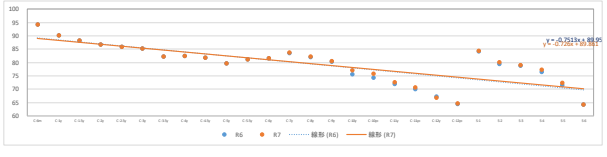
島根ユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	91.7	89.1	86.7	85.4	84.1	80.3	75.9	74.8	71.9	71.3	71.6	73.1	75.8	77.2	75.4	71.4	70.6	70.2	69.6	65.1	62.6	77.9	75.5	74.2	71.7	69.0	63.9
R7	91.7	89.2	86.7	85.4	84.7	80.3	75.9	74.9	71.9	71.3	71.6	73.1	75.8	77.2	75.9	72.0	71.1	69.8	69.1	65.4	62.8	77.9	75.5	74.3	72.1	68.9	64.2



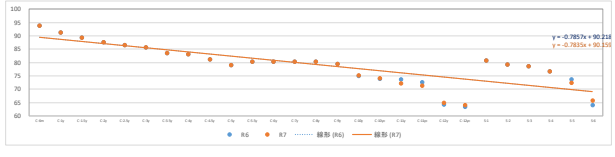
産業医科大学サブユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	94.3	90.3	88.3	86.8	85.8	85.3	82.2	82.5	81.8	79.7	81.3	81.7	83.2	82.1	80.4	75.8	74.4	72.0	70.1	67.3	64.4	84.3	79.5	78.7	76.2	71.5	64.4
R7	94.3	90.3	88.3	86.8	85.8	85.3	82.2	82.5	81.8	79.7	81.3	81.7	83.8	82.1	80.6	77.1	75.8	72.6	70.5	66.8	64.8	84.4	80.1	79.3	77.2	72.4	64.8



九州大学サブユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	93.9	91.2	89.3	87.7	86.3	85.8	83.7	83.1	81.3	79.1	80.4	80.4	80.2	80.3	79.6	75.0	74.0	73.8	72.7	64.2	63.5	80.8	79.3	78.8	76.6	73.7	64.0
R7	93.9	91.2	89.3	87.7	86.3	85.8	83.7	83.1	81.3	79.1	80.4	80.4	80.2	80.3	79.5	75.2	74.3	72.2	71.3	65.0	64.0	80.8	79.3	78.7	76.5	72.3	65.7



鹿児島大学サブユニットセンター

	C-6m	C-1y	C-1.6y	C-2y	C-2.6y	C-3y	C-3.6y	C-4y	C-4.6y	C-5y	C-5.6y	C-6y	C-7y	C-8y	C-9y	C-10y	C-10y6y	C-11y	C-11y6y	C-12y	C-12y6y	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6
R6	96.3	93.3	91.3	89.2	87.1	90.5	91.4	85.3	83.2	82.3	83.6	83.5	83.3	81.9	78.2	77.9	75.9	75.7	71.7	71.0	84.6	82.0	80.9	79.3	76.8	71.6
R7	96.3	93.3	91.3	89.2	87.1	90.5	91.4	85.3	83.2	82.3	83.6	83.5	83.5	83.3	81.9	78.2	77.9	75.9	75.7	71.7	71.0	84.6	82.0	80.9	79.3	76.8	71.9

表４－１　ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組
（参加者の調査参加へのモチベーション維持）

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○身近な健康問題についての動画を Youtube にアップする取り組みはとても良い。 ○学童期キャラバンで参加しやすい環境を整えたり、カーリング体験イベントで多くの参加者と交流でき、成果が見られている。 ○全参加者へ向けた取り組みを行っているのが良い。 ○ポータル手続きガイドブックはアプリの苦手な人にわかりやすいだけでなく、知らなかった技が多数紹介されていてスタッフも勉強になった。 ○アカウント情報を控えるカードの活用がいい。 ○参加者をいくつかのグループに層別し、それぞれに合わせた勧奨やイベントを行っている。
宮城ユニットセンター	○ラジオ局との連携などにより参加者がエコチルを誇らしく思えるような取り組みを実施している。 ○複数回のオンラインセミナーで、コンスタントな集客に成功している。 ○知名度やモチベーションの向上へつながる工夫がされている
福島ユニットセンター	○ニュースレターの見直し（中学生が興味を持つコンテンツ）により、興味が湧く内容になっていて良い。 ○幅広い取り組みを行っている。 ○参加者対象の環境セミナー
千葉ユニットセンター	○子どもが楽しめるノベルティ（DNA 折り紙）の配布や動画配信、双方向イベントなどの取組により参加意識を高めている。 ○モチベーションの維持・向上を，調査への理解の促進，親近感の創出，直接具体的なアクションの 3 つのポイントに分解して、多様な方法で取り組んでいる。 ○YouTube でお子さんが気軽に楽しめるような動画が複数配信されており、動画を通して成果の還元につながっている。 ○調査の成果を冊子にして配布していて協力している実感が沸く。 ○子ども向けのログインのためのマンガがわかりやすい。
神奈川ユニットセンター	－
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○参加者の年齢に合わせてテレビ番組の観覧ツアーを実施するなどの取組により参加者のモチベーション維持につなげている。 ○保護者のアプリに子どものログインを促すお知らせを配信し、アプリのお知らせ配信機能をうまく活用している。 ○こどものログイン率が伸び悩む状況に焦点をあてたこまめな評価と細やかな対応はぜひ見習いたい。 ○メディアとの連動企画をモチベーション維持につなげている。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
甲信サブユニットセンター （信州大学）	－
富山ユニットセンター	○路線バスへのラッピング広告、街頭液晶モニターへの動画広告放映、車外貼付マグネット広告等公共広告にも力を入れている。 ○13 歳以降調査 Web 質問票について、対象者別に対応していることに加え、誕生日を迎えた方を 1 週間ごとに抽出し、誕生日祝いのメッセージと文具をプレゼントして意識に配慮している。
愛知ユニットセンター	○オリジナルのアニメーションやマンガの提示やビンゴの導入によるイベント性の創出など，調査会場での体験をより楽しいものにする工夫をしている。 ○子どもを対象とした対面イベント「みらい推進委員会」を開催して子ども本人の声を聴取している。 ○国立環境研究所の見学ツアーの実施、マンガ・アニメーションの活用など、参加意識を高める様々な取組を進めている。 ○中学生に独自のボランティア証明書を発行している。 ○リマインドや架電戦略、対面支援会場での工夫、理解促進コンテンツ、インセンティブ、子ども自身の参画といった多角的な工夫を組み合わせ、参加者の継続意欲を高め、Web 質問票回答率を全国トップクラスで維持している。
京都ユニットセンター	○代わりの歯の工夫 ○対面イベント「研究体験してみよう」は、調査参加を子ども自身に意識させるよい取組である。
大阪ユニットセンター	○子ども向け WEB ページの充実、学童期検査会場でのミニ講座、病院見学・研究者との交流イベントの計画など、WEB と対面の両方を活用し、子どもが興味を持ちそうな多方面の取り組みを実施している。
兵庫ユニットセンター	○ホームページにて脳トレ、クイズコーナーを定期更新している点。 ○参加型のブログリレーが良かった。対面式の化学実験教室も魅力的に感じた。
鳥取ユニットセンター	○対面調査の機会を有効に活用して参加継続手続きを促したり、アプリへのログインを支援していることなどの取組により参加意識を高めている。 ○2012 年度生まれを対象にしたプレ質問票未交換への勧奨を行うことで全体の 75%が交換を完了することができている。これにより WEB 質問票回答へのモチベーションアップにつなげている。 ○圧着ハガキがわかりやすい。ID○PW の保管カードなども良い。 ○参加者だけではなく、スタッフ用にもポイント交換マニュアルを作成し、どのスタッフもわかりやすい工夫がなされている。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
高知ユニットセンター	○調査への理解を促すイベントを開催したり、電話による案内デスクを設けるなどにより参加意識を高めている。 ○ホリデー層掘り起こしのためのイベント開催予定など、長期的な視野で取り組んでいる点が良かった。 ○イベントで調査への理解を促す取組や、労力を惜しまない成長曲線の取組、月 1 回のコンシェルジュデスクなど、参加者に寄り添い継続意欲を向上させる取り組みを実施しているため。
産業医科大学サブユニットセンター	○参加者ポータルサイトを活用したアプリや応援動画の配信、子どもたちの意見を取り入れた LINE スタンプなどの取組により参加者のモチベーション維持につなげている。 ○こども達が自ら参加することが出来る方法を積極的に取り入れている。 ○取組のタイトルがどれも親しみがあり惹きつけられるタイトルでよく練られており、取り組み内容が興味深い。 ○子ども達のライフイベントに寄り添った 応援や発信 ○コミュニケーション窓口設置（医師による子どもの窓口相談） ○エコチル調査特派員による記事の掲載、ラジオ CM、ラジオ局見学体験型イベントの実施など、参加児が出演することで全体層のモチベーションアップにつながる。
九州大学サブユニットセンター	○参加児体験型イベントを成功させている。
熊本大学 サブユニットセンター	○子ども特派員、参加児の声での CM、インタビューの紹介など、特に子どもを中心とした参加者の声を積極的に発信する取り組みを実施している。
宮崎大学サブユニットセンター	○「成長記録カード」の配布は、これまでの調査の参加への御礼としてもとても良く、これからの調査への参加モチベーションも上がる取り組みである。 ○保護者向けのコーヒースクールは、エコチルママ同士で雑談できるような機会はあまりないかと思うので、他の方の参加状況が分かると安心して継続できるかなと思う。
琉球大学サブユニットセンター	–

表４－２　ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組（「質問票回収率の維持・向上）

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○参加者のタイプに合わせて「ゆるエコ北海道」や対面時のログイン確認などメリハリをつけて工夫されている。 ○ポータルサイトの操作ガイドブックとエゾチルカードがわかりやすい。
宮城ユニットセンター	○質問票の提出に対し独自にポイントを付与するカードを作成し、質問票の回収につなげている。 ○イベントカレンダーは，参加者もスケジュール感を把握でき参加しやすくなると感じた。 ○謝礼やリマインド方法を工夫していて成果が出ている。
福島ユニットセンター	○参加者が自分好みにカスタマイズできるノベルティ（ボールペン）を用意し、質問票の返送時に希望を聞くことは、質問票の提出意欲を高める工夫として参考になる。 ○回答状況を頻回に状況確認しながら様々な取組を行っておられ回答率の向上に結びついている。 ○参加者ポータルシステム「お知らせ」機能の活用
千葉ユニットセンター	－
神奈川ユニットセンター	－
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○休眠状態の参加者に焦点を当て、はがきの送付やイベント開催を工夫している。 ○アプリへのログインを促す配信を、参加者ステータスを毎日確認し実施している。 ○研究成果をお子さんにも分かりやすくすることで、お子さん自身がどんな事に役立っているかがわかる点 ○参加者の集客に効果がありそうな対面でのファミリーイベントと、そこに 13 歳以降調査相談を設けることで登録・継続率上げる事が期待できる。
甲信サブユニットセンター （信州大学）	○ハガキでの勧奨というシンプルな内容でありながら、情報の取捨選択や要点を伝えるデザインが素晴らしい。
富山ユニットセンター	○県の教育委員会が各家庭に配布しているアプリから身長・体重等の測定データを転記してもらう工夫 ○なかなか気づきにくい視点からもアプローチされており，回答率の向上に真摯に取り組まれていることが伝わる。 ○行政のアプリを活用することは、参加者様だけでなく行政側にも良いアプローチになったと感じた。
愛知ユニットセンター	○質問票の入った封筒の開封を促す工夫や、検査会場で質問票の記入を勧奨し回収している。 ○架電スキルが高いリサーチコーディネーターが保護者の就業状況や質問票の提出状況などをふまえ、適切な時間に電話し学童期検査参加者数を向上させ、さらにポータルのログインへとつながっているのが素晴らしい。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
愛知ユニットセンター（続き）	○アプリ相談会。電話で行くだけでなく対面だとわかりやすく質問もしやすい。
京都ユニットセンター	○クイズを配信するなど参加者ポータルサイトへのログインを促す工夫、参加者の心理的負担を減らすような返送依頼の工夫など様々な取組を行っている。 ○学時検査会場でアプリへのアクセスのサポートを行ったり、リマインドの効果が高い参加者を割り出し、夏休み前など参加児に時間ができそうな時に電話やハガキでリマインドを行うなどの働き掛けにより、児のログイン率が伸びている。
大阪ユニットセンター	○参加者の目を引くようにキャラクターをあしらった勧奨はがきの工夫など ○質問回答状況「未開始」の方にお送りしている勧奨ハガキがキャラクターのアップで目を引くデザインとなっていて、文章もたこチルからのおたよりで短い言葉で伝わりやすく、とてもおもしろい。 ○学童期検査日が2日に分かれている事をうまく活用している。 ○説明少なめ勧奨はがき→シンプルで伝えたいことが分かりやすい点が良かった。
兵庫ユニットセンター	○総合的な取り組みによる回収率の維持 ○こどもアンケートの返送率を上げるための謝礼品の活用が良いと思った。
鳥取ユニットセンター	○いち早く、ポイント未交換者への対応ができている点が素晴らしいと思った。
高知ユニットセンター	○WEB 質問票の回答状況やポイント交換状況を伝えるリマインドのメール配信や、小学校高学年や中学生に応じたノベルティを工夫するなどの取組 ○オリジナルでありながら「エコチル」を押し出しすぎないノベルティは，小学校高学年や中学生のこどもたちには ″刺さる″ プレゼントかもしれない。 ○回収率向上に向け、人気の文具を同封し、まずは開封を促すことに注力した点が良い。 ○細かいアプローチを重ね、回収率を改善している。
産業医科大学 サブユニットセンター	○アプローチが多様で丁寧○電話、ショートメール、ハガキだけでなく、シールラリーを活用して視覚的に個別の質問票返送状況を示すことにより、参加者の記載意欲を向上させている。 ○過去の返送状況にあわせて質問票返送依頼回数を変える取組は費用対効果を考慮した勧奨であり、結果として実際に回収率の向上につながっており画期的だと思う。
九州大学サブユニットセンター	–
熊本大学サブユニットセンター	○スタンプラリーカードを同封する取組 ○リマインドの徹底と学童期検査会場で質問票未記入の方に声掛けや早期提出キャンペーンなど提出意欲を高める取組
宮崎大学サブユニットセンター	○長期未提出者へ送るハガキの文言について、参加者の傾向を的確に把握し、要請電話などで直接話せていない方にも伝わるような形で返送を後押ししている点が優れている。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
宮崎大学サブユニットセンター （続き）	○Web 調査について，子どもログインを高めるための独自の取り組みを積極的に行われている。
琉球大学サブユニットセンター	○質問票の返送期限の目安を添付して送付を促す取り組み

表４－３　ユニットセンターでの特に優れた PDCA に沿った取組（成果の社会還元）

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 2 参照

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○中心仮説に関わる課題が雑誌に受理され、発表本数増加と質の高い論文の目標を十分に達成しているという結果を得ている。 ○低予算で多くの計画を実施している。 ○「みんなエコチルサポーター」の取組が素晴らしい。 ○動画配信や博物館展示、学校連携など多様なアウトリーチを通じて成果を広く社会へ還元しており、参加者のみならず一般市民にも調査の意義を伝えている点が優れている。 ○大学院生や若手研究者の育成と論文発表体制強化を両立させ、次世代への波及効果も高い。 ○教員と事務員の成果発表チームで支援研究成果紹介動画公開、高校への出張講義、職業体験など、多方面且つ中高生の興味に即した取り組みを実施しているため。
宮城ユニットセンター	○成果報告をセミナー動画で配信し、広く一般の方に社会還元している。 ○SNS、ラジオ、大学オープンキャンパス、地域イベント出店、中学生向けの季刊誌など様々な媒体で精力的に一般の方へ成果やエコチル調査の意義を伝える活動を続けている。その結果、エコチル調査の CM ソングができたり、多数のリスナーの反響があるなど、成果が上がっている。 ○今後のエコチル調査の展開を見据えて、中・高校生へとアプローチしているのが素晴らしい。研究成果集の送付は、とても良い取り組みだと感じる。
福島ユニットセンター	○成果還元のパンフレットがわかりやすい。 ○参加児含む県民の調査認知度を高めるイベントの開催から、関心や認知度の向上につながった点 ○県内学校保健・教育分野との連携により、教育関係者へのエコチル調査への関心を向ける工夫を行っている。 ○参加者だけでなく、市民の皆様に積極的に研究成果還元を行っているため。 ○学術分野の成果還元（大学 HP と新聞へも掲載） ○成果を活用したプレコンセプションケア講演を高校生や医療従事者へ広く行い、教育庁と連携して出前授業へ展開できる体制を整えている点は非常に優れている。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
福島ユニットセンター（続き）	○地域運営協議会において論文成果を分かりやすく報告し、地域へ成果を還元していることも高く評価できる。
千葉ユニットセンター	○保護者や一般市民の大人を対象とするだけでなく，子ども向けの論文紹介を行うなど，参加者当人にも調査の意義や研究についての理解を深める大切な取り組みであると思う。 ○ユニットセンター独自の YouTube チャンネルを作っていて手軽に成果が知れる。
神奈川ユニットセンター	○新聞広告では、同じ内容を大人向け、中高生向け、小学生向けのパターンに分けて作成されていて、同年代が見る新聞に広告を掲載するという対応がされている。
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○プレスリリースについて，いかに興味を惹くかを細かく検討されている点が参考になった。 ○プレスリリースが続くとマスコミに取り上げられにくいという課題を認識し、記者説明会を新たに開催することでテレビや新聞で大きく報道され、成果を広く社会に還元している。 ○子ども向け成果発信動画について、中学生からの具体的な指摘を反映して改善を行い、参加者や地域の子どもたちが理解しやすい形で成果を届けている。
甲信サブユニットセンター （信州大学）	○マスコミを対象として研究論文説明会を行うことで、ニュースや新聞記事となり広く成果を伝えることができている。 ○論文を子どもにもわかるかたちで紹介している。また、中学生から動画について改善案をもらうことで、より子どもにわかりやすい動画を作成する工夫をとっている。
富山ユニットセンター	○子育て世代が集まる地域イベントでのブース出展やフリーペーパー広告掲載、さらに論文発表時の積極的なプレスリリースなど、成果の社会還元を活発に行っている。 ○小冊子『エコチル調査でわかったこと』は分かりやすく読みやすい。参加者から好意的な反応も得られており、調査の意義を広く伝える工夫がされている。
愛知ユニットセンター	○小中学校の学校経由アプリ配信、市の HP など、行政連携ができているところが良いと思いました。 ○動画を作成してもなかなか視聴につながらないなか、学校連絡アプリという公的な媒体での配信は調査地域での認知度向上につながる画期的な手法だと思う。 ○小中学校に掲載依頼したポスターの内容がわかりやすく、周囲への理解に役立っている。 ○動画のテーマ選定に配慮し、長さを短尺化することで見てもらいやすい工夫がなされている。
京都ユニットセンター	○疫学研究を子どもに体験してもらう取り組みが面白いと思った。
大阪ユニットセンター	○プレスリリースの推進 ○月 1 回の頻度で新規研究課題の発表会の実施、論文執筆の進捗管理、論文の品質管理体制をセンター長・センター長補佐による指導と確認、UC 内での段階的な査読プロセスで精査している。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	PDCA に沿った取組の「特に良い取組」の選定理由（抜粋）
大阪ユニットセンター（続き）	○人材育成として他大学研究者との積極的な共同研究体制を強化している。 ○講演会によるエコチル参加者および地域住民の方に対する成果還元の取り組みを行っている。 ○子ども向け成果発信サイト開設は，子どものモチベーション向上にとって良い取り組みだと感じた。
兵庫ユニットセンター	エコチル調査の重要性を次世代の若者に発信できている。
鳥取ユニットセンター	–
高知ユニットセンター	○多方面に向けた取り組みを行っているインスタ利用の公報がおもしろい。 ○病院での動画配信や、Instagram の積極的配信、大型商業施設と Instagram を連携させた企画など、子ども達や多くの方の興味を引く魅力的な取り組みを実施している。 ○時期とターゲットを絞って広報を行っている。
産業医科大学サブユニットセンター	○地道に着実に取り組んでいるスポーツ大会の公報掲載が良い。 ○地域のスポーツ大会への広告掲載など参加者の年齢にあった広報を企画されている点が優れている。
九州大学サブユニットセンター	–
熊本大学サブユニットセンター	○参加者の方にも誇りに思ってもらえるためにも地元のメディアを利用することは大切だと感じた。 ○メディアをうまく利用して効果的に広報を展開している。 ○朝の情報番組「ZIP」の地域枠エコチル CM 放送の成果還元は効果大ではないか。1 月からの放映が待ち遠しい。
宮崎大学サブユニットセンター	○漫画形式のチラシ、CM、小・中学校校長会でのエコチル調査の説明と協力は効果的だったと感じた。 ○メディアをうまく利用して効果的に広報を展開している。
琉球大学サブユニットセンター	–

表５－１　論文発表状況　　※具体的な論文は別添１参照

【令和７年１月～令和７年 12 月末】

ユニットセンター／ サブユニットセンター	全国データを 用いた論文	
	論文数	うち、中心仮説に関する論文数
北海道ユニットセンター	9	3
宮城ユニットセンター	8	0
福島ユニットセンター	10	3
千葉ユニットセンター	4※	2※
神奈川ユニットセンター	2	0
甲信ユニットセンター（山梨大学）	3	0
甲信サブユニットセンター（信州大学）	1	1
富山ユニットセンター	5	0
愛知ユニットセンター	3	2
京都ユニットセンター	0	0
大阪ユニットセンター	6	1
兵庫ユニットセンター	2※	1※
鳥取ユニットセンター	0	0
高知ユニットセンター	4	0
産業医科大学サブユニットセンター	0	0
九州大学サブユニットセンター	1	1
熊本大学サブユニットセンター	0	0
宮崎大学サブユニットセンター	0	0
琉球大学サブユニットセンター	0	0

※MSC、千葉 UC、兵庫 UC の共同で発表した論文が内数で 1 本あり。

表５－２　エコチル調査の研究成果や活動に対する学会等からの表彰・褒章

【令和６年 10 月～令和７年９月末】

ユニットセンター／サブユニットセンター	表彰年月	賞等の名称	表彰機関等の名称	対象となった研究成果や活動
産業医科大学サブユニットセンター	令和6年度	日本産科婦人科学会優秀論文賞「周産期医学」部門	日本産科婦人科学会	受賞課題:Association of placental weight at birth with maternal whole blood concentration of heavy metals (cadmium, lead, mercury, selenium, and manganese): The Japan Environment and Children's Study (JECS) Environment International
富山ユニットセンター	2024/10/19-21（学会期間）	Best Poster Award	The 14th Mind-Body Interface International Symposium	受賞課題:「Maternal dietary intake of fish and child neurodevelopment at 3 years: a nationwide birth cohort-The Japan Environment and Children's Study3 years」
富山ユニットセンター	2024/11/22-24（学会期間）	PAI Best of APAPARI 2024	Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy, Respirology & Immunology	受賞課題:「Association of soap use when bathing 18-month-old infants with the prevalence of allergic diseases at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study」
福島ユニットセンター	2025/8/9	優秀演題賞	第 49 回日本女性栄養・代謝学会学術集会	受賞課題:妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連

表５－３　論文発表について特に優れたユニットセンター及び選定理由

※各ユニットセンターの具体的取組は別添 1 参照

ユニットセンター／サブユニットセンター	論文発表の「特に優れた取組」の選定理由（抜粋）
北海道ユニットセンター	○金属濃度や PFAS などの環境因子から、保護者の職業などの社会的因子、子どもの心身の発達に影響を及ぼす多様なファクターについて研究を行った。中心仮説論文を複数含んでいると同時に、パートナーを対象とした研究成果を発表されている点について評価できると考えた。PFAS は人体への影響解明が強く求められている物質であり、国民的関心も高く、社会的ニーズの大きい研究課題である。 ○大学院生や若手研究者が執筆に中心的役割を担い、次世代育成と研究力強化を両立している点が優れている。 ○化学物質曝露と子どもの発達との関連など、公衆衛生上重要で社会的意義の高いテーマを扱っており、実臨床や政策にも還元可能な点が評価できる。

ユニットセンター／ サブユニットセンター	論文発表の「特に優れた取組」の選定理由（抜粋）
宮城ユニットセンター 宮城ユニットセンター（続き）	○歯科に関する論文を含め、多彩なテーマで多数の論文実績がある。 ○メディアでも取り上げられた集団保育の論文がありインパクトは大きいと感じる。 ○歯ぎしりというユニークな着目点から、ASD 児の睡眠時間を検討する研究は非常に興味深い。
福島ユニットセンター	○母親と子ども両方に目を向けて、母子健康に関わるインパクトのある、多数の研究成果を創り出した。 ○環境曝露と子どもの健康影響に直結する重要テーマを高インパクト誌に掲載している。多様なテーマを扱い、量・質ともに成果発表が充実している。 ○特にデジタルメディアに関する報告は現在のトピックであると思う。
千葉ユニットセンター	○話題になっている PFAS と子どもの身体の成長について検討している。 ○PFAS を含む中心仮説に関する論文を発表し、かつインパクトファイクターが高い。
神奈川ユニットセンター	–
甲信ユニットセンター （山梨大学）	○水銀曝露と成長についての論文は意義が大きい。
甲信サブユニットセンター （信州大学）	–
富山ユニットセンター	○父親を対象とした研究や身近な食事に関わる研究など，ユニークな視点から多くの論文を発表している。 ○近年、妊娠・出産に対する父親のサポートの重要性が示されているため、時代に合ったテーマを取り上げていることは社会に貢献していると考えた。
愛知ユニットセンター	○大規模かつ信頼性の高いデータを用い、妊婦の食事行動という修正可能な因子に着目して、NSCLP の予防に資する実践的示唆を提示した、公衆衛生学的・臨床的意義の高い研究を行っていることから、社会に貢献していると考えた。
京都ユニットセンター	–
大阪ユニットセンター	○中心仮説を含め、多数の論文を発表している。 ○テレビ等の暴露時間と 3 歳時の慢性便秘に関係があるのか興味深かった。
兵庫ユニットセンター	○対面調査での問診で熱性けいれんを起こしたことがあるという参加児が多いため関心を持った。
鳥取ユニットセンター	–
高知ユニットセンター	–
産業医科大学サブユニットセンター	–
九州大学サブユニットセンター	–
熊本大学サブユニットセンター	–
宮崎大学サブユニットセンター	–
琉球大学サブユニットセンター	–

表６　個人情報の管理状況【令和７年１月～令和７年 12 月末】

○：適切な対応を実施している、△：一部改善を要する、×：改善を要する

ユニットセンター／サブユニットセンター	確認項目									特記事項
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
	安全管理手続きに係る文書の作成	個人情報の所在等の特定	管理簿の作成、更新	定期的な利用状況の把握	情報の外部流出を最小限とするための措置	自己点検リストの作成	個人情報に関する基本ルールの周知	パソコンにおけるウイルス対策	違反に関する指摘事例件数	
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 全体で情報リテラシーに関する研修会を実施し、また週 1 回 UC 事務局会議で情報管理状況を報告している。
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	1	個人情報 2 件が漏えいしたインシデントが1回あり、ルール上、コアセンターへ報告し、共同で対応に当たる事案であるところ、UC で対応後にコアセンター及び環境省へ報告をした。 （インシデントの内容）住所を印刷したハガキの裏面に、再度違う宛名の印刷を行って送付した。 （その後の対応）改めて教員、RC、事務局全員で基本ルールの再確認と手順の見直しを行い周知徹底した。
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	1	個人情報1件が漏えいしたインシデントが1回あった。ルール上、コアセンターと共に対応するインシデントであったが、UC が単独で対応した後にコアセンターに報告した。また、環境省への報告が遅れた。 （インシデントの内容）参加者氏名が記載された尿保管用チューブ袋を、別の参加者に発送した。 （その後の対応）作業環境・手順等の見直しを行い、研修と周知を行った。
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	センター独自の施錠やデータ室へ入退室の管理カメラの導入を行い、業務時間外でのデータ室への多層的な施錠や入退室のログの取得、入室人物の記録などが行えるようになっている。
神奈川ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	共有のデータについては、文書管理システムファイルアクセス履歴を責任者が定期的に確認し、ファイル使用状況をチェックしている。
甲信ユニットセンター（山梨大学）	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 独自のルール表を作成し、執務室内に掲示している。 業務専用の携帯電話と iPad について独自に利用管理規定を作成し、使用するスタッフに周知徹底を図っている。
甲信サブユニットセンター（信州大学）	○	○	○	○	○	○	○	○	0	マニュアルに沿った日常管理と点検リストによる定期的な啓蒙により個人情報取り扱いに関する意識の維持向上を図っている。
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	大学の総合情報基盤センターの指示のもと、PC の施錠、ウイルスソフトの設定、OS のアップデートなどが適切に行われているかを個人情報点検手順に組み入れて定期点検を行っている。
愛知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	定期的に事務局会議を実施し、最新のルールに関する共有及び研修を行っている。事務局長が個別に事務局スタッフに質疑応答を行いルールの徹底を図っている。
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	個人情報1件が漏えいしたインシデントが1回あった。 （インシデントの内容）謝礼に添付する礼状に別の参加者の氏名を記載し、発送した。 （その後の対応）全職員にインシデントを周知し、発送の際はダブルチェックをするよう作業手順を改めた。
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	質問票を受領してから廃棄までに最低 5 回個人情報を確認する、質問票の数を管理する一覧表を作成する、担当者が終業時に点検して記録するなど工夫している。
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	月に1回のスタッフ会議で必要に応じて繰り返しルールの確認を行っている。個人情報の管理を徹底するため、日頃からお互いに確認を行うことを心がけている。
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	UC 独自の機密度ランク表をセンター内の複数個所に掲示し、常時確認できるよう工夫している。
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	個人情報の漏えいにつながる可能性のあったインシデントが 2 回あった（いずれもエコチル調査の関係者に参加者の個人情報を共有したもの）。 （インシデントの内容）①UC のスタッフのみ閲覧可能な動画共有サイトの動画に、業務端末の画像が一瞬映り込み、個人情報が表示された。 ②コアセンターにメールで報告した書類に参加者の個人情報が含まれていた。 （その後の対応）個人情報の取扱いについて、職員全員に再度周知徹底した。
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	情報セキュリティに関して、福岡県警による「サイバー攻撃情勢と対策」を受講し、最新の知識をアップデートしている。
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	エコチル文書管理システム内で「進捗状況・個人ファイル管理簿」を作成し調査や検査のイベント毎に個人情報の所在を確認し、実施漏れの有無を確認している。
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	新規職員は基本ルールを十分に理解するまでは、単独で個人情報に関する業務を担当しないこととし、入職後１か月を目途に情報管理責任者が面接を行い、ルールに対する理解度を確認している。
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	「個人情報保護チェックシート」および「自己点検リスト」を月末に記入することでルールを再確認している。
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	0	執務室外への持ち出し禁止や、保管庫の施錠について複数の段階を踏んで行うことを徹底している。

※令和７年度自己点検シート（個人情報管理状況等）への回答、及びそれに基づく現地ヒアリング（Web ヒアリング）による。

表７　成果発表ルール等の遵守状況【令和７年１月～令和７年 12 月末】

	成果発表ルール等※1の遵守状況	成果発表届出・報告システム（ActionPassport）による成果発表届出・報告																		追加調査に関する承認件数※2
		様式 10-1						様式 12			様式 15				様式 16	様式 17	様式 18	様式 19	様式 13	合計	
		誌上発表（原著）						学会発表			一般広報／発表媒体の種類				一般広報(制約のない地域の協力機関への情報提供の場合)	報道機関への情報発信（自ら依頼する場合）	論文掲載時の報道発表	報道機関への情報発信(発信された時)	追加調査に係る外部研究費報告書・公開報告会		
	違反件数	初回論文投稿時	投稿前審査時から変更	アクセプト時	掲載時	その他	原著を引用した総説等	1_口頭	2_ポスター	3_集会	1_広報誌等（紙面）	2_HP	3_イベント・講演等（対面）	4_その他							
コアセンター		4		6	7		2	2	1	1	2			9			2			36	2
メディカルサポートセンター		7※3		7※3	6※3			3	2	1							4			30	
北海道ユニットセンター		11		9	9			5	4		4	4	10	3	3		5	1	1	69	2
宮城ユニットセンター	1	9		10	11		1	5	2		3		18			4	2	1	2	68	
福島ユニットセンター	1	9		10	10		2	11	1		8	6	12	1	18		3	5	2	98	
千葉ユニットセンター		3※3	1	4※3	5※3			5	4		8	2	2	3	1		2			40	7
神奈川ユニットセンター				2	2			1	1		3		1	1		2				13	
甲信ユニットセンター（山梨大学）		6		10	11			5	4	1	2	7	9		1		3	6	1	66	7
甲信サブユニットセンター（信州大学）		1		1	1						2	1	2	1			1	1		11	
富山ユニットセンター		11		6	5		1	14	9		11	23	14	7	1		7	17		126	1
愛知ユニットセンター		8		4	4			5	8		5	2	13	2	6		1	2	7	67	3
京都ユニットセンター				1	1		1	1		2	2	1								9	2
大阪ユニットセンター		4		5	6			4	1		3	11	9	2	3	2	1		2	53	2
兵庫ユニットセンター		5※3		2※3	2※3		1	1	2		1	1	6	4			2		1	28	
鳥取ユニットセンター		2		1					2		2	1	2							10	
高知ユニットセンター		7		5	6			6	6		5	9	10	11	3				5	73	
産業医科大学サブユニットセンター		5		1	1				2		2	7	1	10				1		30	
九州大学サブユニットセンター		1		1	1			1			1	3					1			9	
熊本大学サブユニットセンター											1		1			2				4	
宮崎大学サブユニットセンター		1									1	1			1	1				5	
琉球大学サブユニットセンター																					
計	2	94	1	85	88		8	69	49	5	66	79	110	54	37	11	34	34	21	845	26

注　※1　成果発表ルール等とは以下を指す。
運営委員会決定　令和７年３月３日改正「エコチル調査で収集されたデータの利用と成果発表に関する基本ルール」
運営委員会決定　令和５年 12 月５日改正「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」
運営委員会決定　令和６年２月 28 日改正「リスク管理・危機管理マニュアル」
※2　追加調査に関する承認件数は、研究計画変更にかかる承認を含む。
※3　MSC、千葉 UC、兵庫 UC の共同で発表した論文が内数で 1 本あり。

表８　人材育成実績

エコチル調査に関わった大学院生、特任研究員、教員等の主な就職先（転職先）及び現在の役職【令和７年９月末までの実績】

ユニットセンター／サブユニットセンター	主な就職先(転職先)及び現在の役職　※就任先の現在の役職で集計																		
	大学(特任含む)							コアセンター(CC)		メディカルサポートセンター(MSC)		国の研究機関(CC/MSCのぞく)	医療機関			民間		その他(自治体他)	計
	教授	准教授	講師	助教・助手	研究員	大学教員(役職不明)	その他(留学等)	研究員等(役職不明またはなし)	昇進につき役職あり	研究員等(役職不明またはなし)	昇進につき役職あり		医師等(役職なし又は不明)	医長・部長等	院長等組織長	研究機関	その他		
計	37	41	52	96	17	7	8	2	9	4	4	5	16	17	5	3	9	10	342
北海道ユニットセンター	1	6	8	8	3	1	1	0	0	0	0	1	1	2	0	1	2	0	35
宮城ユニットセンター	8	5	7	7	2	1	0	1	1	0	0	0	1	3	1	0	1	1	39
福島ユニットセンター	1	4	4	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	20
千葉ユニットセンター	4	4	4	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	22
神奈川ユニットセンター	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
甲信ユニットセンター(山梨大学)	2	1	3	6	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	18
甲信サブユニットセンター(信州大学)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
富山ユニットセンター	4	0	6	6	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20
愛知ユニットセンター	2	3	2	5	0	3	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	20
京都ユニットセンター	0	2	2	4	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	14
大阪ユニットセンター	2	4	1	10	3	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	1	2	28
兵庫ユニットセンター	3	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	14
鳥取ユニットセンター	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
高知ユニットセンター	1	3	2	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	15
産業医科大学サブユニットセンター	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	8
九州大学サブユニットセンター	1	2	1	6	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	15
熊本大学サブユニットセンター	0	1	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
宮崎大学サブユニットセンター	3	0	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
琉球大学サブユニットセンター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
メディカルサポートセンター	2	1	2	3	0	0	0	0	0	4	4	0	3	1	1	0	0	0	21
コアセンター	0	2	3	6	1	1	2	0	8	0	0	1	0	0	0	1	0	0	25

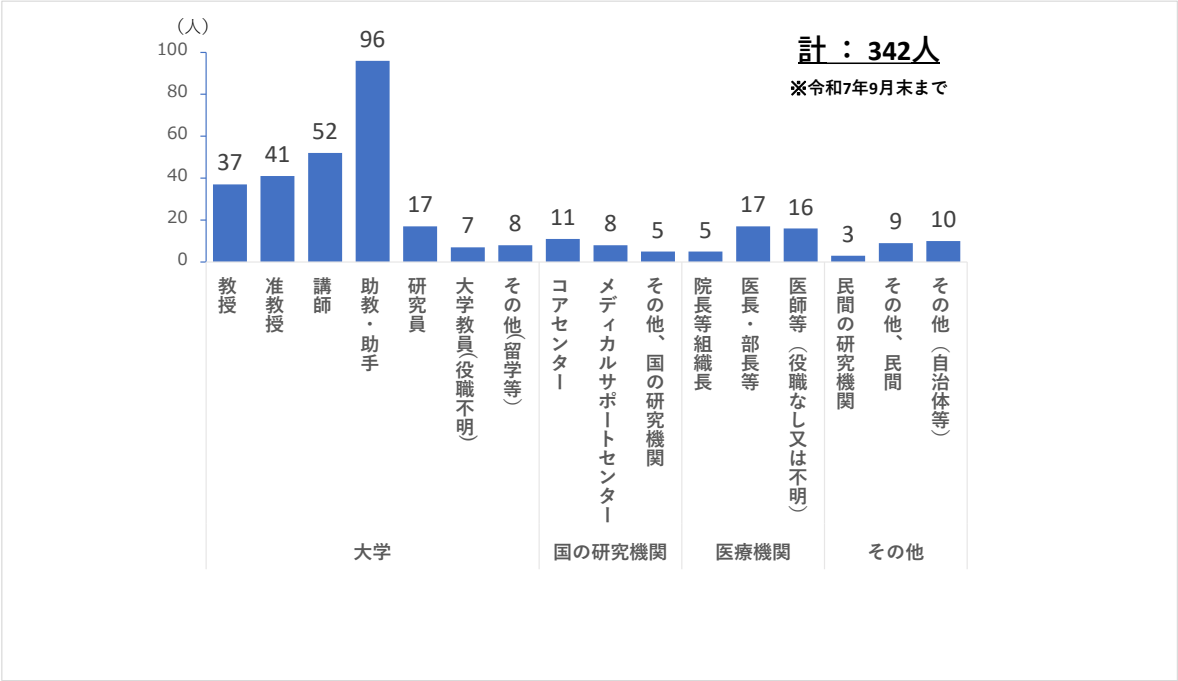


図３　　人材育成の実績（累積人数、令和７年９月末現在）

表９　大学院生等の育成実績

（１）累積人数【令和７年９月まで】

ユニットセンター／サブユニットセンター	修士課程の学生		博士課程の学生		特任研究員、その他		計	
	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生
計	52	(3)	261	(12)	153	(5)	466	(20)
北海道ユニットセンター	1	(0)	9	(0)	14	(0)	24	(0)
宮城ユニットセンター	16	(0)	30	(0)	41	(0)	87	(0)
福島ユニットセンター	1	(0)	27	(0)	18	(0)	46	(0)
千葉ユニットセンター	2	(0)	21	(2)	7	(0)	30	(2)
神奈川ユニットセンター	2	(0)	11	(0)	1	(0)	14	(0)
甲信ユニットセンター（山梨大学）	1	(0)	11	(2)	3	(0)	15	(2)
甲信サブユニットセンター（信州大学）	1	(0)	7	(0)	1	(1)	9	(1)
富山ユニットセンター	2	(0)	7	(0)	19	(0)	28	(0)
愛知ユニットセンター	7	(2)	3	(1)	8	(0)	18	(3)
京都ユニットセンター	5	(0)	6	(0)	4	(0)	15	(0)
大阪ユニットセンター	0	(0)	19	(2)	25	(4)	44	(6)
兵庫ユニットセンター	0	(0)	9	(0)	5	(0)	14	(0)
鳥取ユニットセンター	0	(0)	5	(0)	0	(0)	5	(0)
高知ユニットセンター	7	(1)	19	(3)	2	(0)	28	(4)
産業医科大学サブユニットセンター	2	(0)	6	(0)	0	(0)	8	(0)
九州大学サブユニットセンター	1	(0)	54	(0)	0	(0)	55	(0)
熊本大学サブユニットセンター	3	(0)	2	(0)	0	(0)	5	(0)
宮崎大学サブユニットセンター	0	(0)	4	(2)	4	(0)	8	(2)
琉球大学サブユニットセンター	0	(0)	3	(0)	1	(0)	4	(0)
メディカルサポートセンター	1	(0)	0	(0)	0	(0)	1	(0)
コアセンター	0	(0)	8	(0)	0	(0)	8	(0)

*その他：学部生 45 名、助手・特任助手 12 名、講座関係者 7 名、MD-PhD コース学生 3 名、研究員・客員研究員 2 名、他 17 名
*留学生の国名：中国 5 名、インドネシア 5 名、バングラディシュ 3 名、ミャンマー2 名、コンゴ 1 名、エジプト 1 名、ペルー1 名、アメリカ 1 名、ベトナム 1 名

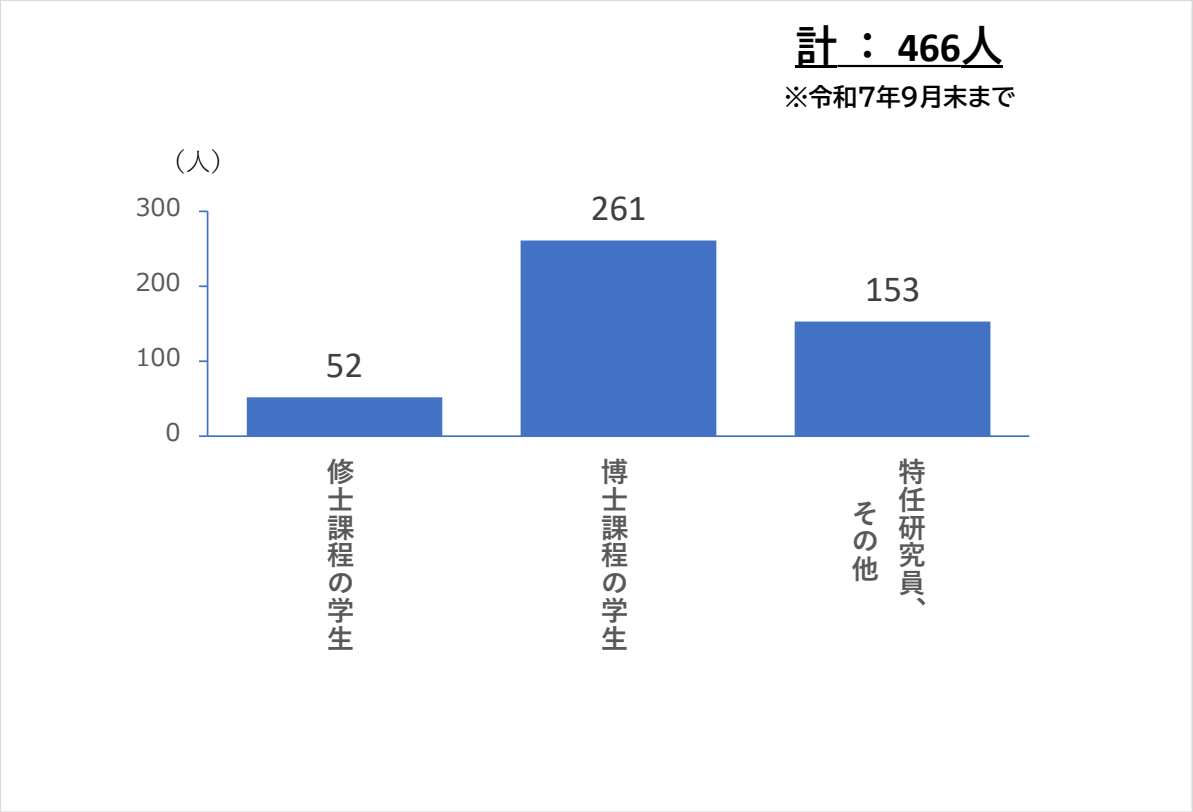


図４　　大学院生等の育成実績（累積人数、令和７年９月末現在）

（２）本年度における在籍人数【令和７年９月末】

ユニットセンター／サブユニットセンター	修士課程の学生		博士課程の学生		特任研究員、その他		計	
	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生	人数	うち留学生
計	4	(1)	99	(2)	48	(0)	151	(3)
北海道ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	0	(0)	2	(0)
宮城ユニットセンター	0	(0)	17	(0)	1	(0)	18	(0)
福島ユニットセンター	0	(0)	9	(0)	16	(0)	25	(0)
千葉ユニットセンター	0	(0)	13	(1)	2	(0)	15	(1)
神奈川ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	0	(0)	2	(0)
甲信ユニットセンター(山梨大学)	0	(0)	7	(1)	2	(0)	9	(1)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	1	(0)	2	(0)	0	(0)	3	(0)
富山ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	6	(0)	8	(0)
愛知ユニットセンター	2	(1)	0	(0)	0	(0)	2	(1)
京都ユニットセンター	0	(0)	5	(0)	0	(0)	5	(0)
大阪ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	19	(0)	21	(0)
兵庫ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	0	(0)	2	(0)
鳥取ユニットセンター	0	(0)	3	(0)	0	(0)	3	(0)
高知ユニットセンター	1	(0)	5	(0)	2	(0)	8	(0)
産業医科大学サブユニットセンター	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
九州大学サブユニットセンター	0	(0)	18	(0)	0	(0)	18	(0)
熊本大学サブユニットセンター	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
宮崎大学サブユニットセンター	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
琉球大学サブユニットセンター	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)
メディカルサポートセンター	0	(0)	1	(0)	0	(0)	1	(0)
コアセンター	0	(0)	6	(0)	0	(0)	6	(0)

*その他の内容：助手９名、講座関係者７名、学部生３名、その他９名
*留学生の国名：中国２名、ペルー1名

参考①－１　実施体制【全体、令和７年度】

ユニットセンター／サブユニットセンター	総数	委託費での雇用によるエコチル業務従事者																		委託費での雇用ではないエコチル業務従事者			
		教員		研究員		リサーチコーディネーター										事務職員		その他		教員・医師		事務職員等	
						看護師・保健師・助産師		公認心理士・臨床心理士		その他有資格者（国家資格）		無資格者		合計									
		従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数	従事時間合計	人数
北海道ユニットセンター	76	245	7	35	1	3	1	0	0	0	0	209	8	212	9	500	48	0	0	89	10	5	1
宮城ユニットセンター	30	80	3	8	1	34	2	0	0	0	0	606	21	640	23	99	3	0	0	0	0	0	0
福島ユニットセンター	53	163	6	0	0	271	7	0	0	0	0	612	16	884	23	736	19	0	0	3	5	0	0
千葉ユニットセンター	31	50	2	62	2	0	0	0	0	0	0	316	14	316	14	273	7	0	0	57	6	0	0
神奈川ユニットセンター	18	35	1	0	0	21	3	0	0	0	0	63	8	84	11	83	4	0	0	1	2	0	0
甲信ユニットセンター（山梨大学）	20	172	7	0	0	119	6	0	0	0	0	0	0	119	6	174	5	0	0	0	0	4	2
甲信サブユニットセンター（信州大学）	25	64	2	0	0	92	3	0	0	0	0	0	0	92	3	219	9	0	0	72	11	0	0
富山ユニットセンター	28	14	1	166	5	178	11	0	0	0	0	30	1	208	12	258	8	0	0	35	2	0	0
愛知ユニットセンター	33	75	2	10	1	41	5	0	0	0	0	60	8	101	13	175	10	0	0	27	6	7	1
京都ユニットセンター	32	95	3	0	0	485	24	0	0	0	0	0	0	485	24	0	0	0	0	5	5	0	0
大阪ユニットセンター	39	200	6	5	11	0	0	0	0	0	0	18	1	18	1	208	8	136	10	25	3	0	0
兵庫ユニットセンター	44	123	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	553	32	0	0	20	9	0	0
鳥取ユニットセンター	19	39	1	0	0	78	2	0	0	0	0	39	1	116	3	326	10	0	0	20	2	0	3
高知ユニットセンター	30	77	4	76	4	55	3	0	0	120	4	292	10	466	17	99	3	0	0	78	2	116	0
産業医科大学サブユニットセンター	37	80	2	0	0	68	8	0	0	66	3	89	4	223	15	70	2	0	0	34	18	0	0
九州大学サブユニットセンター	21	66	2	0	0	90	3	30	1	0	0	183	7	303	11	180	7	0	0	3	1	0	0
熊本大学サブユニットセンター	18	39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	39	1	39	1	154	8	0	0	8	3	100	5
宮崎大学サブユニットセンター	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58	2	58	2	255	8	0	0	8	1	0	0
琉球大学サブユニットセンター	12	35	1	0	0	20	1	0	0	0	0	39	1	59	2	146	4	0	0	25	5	0	0

※裁量労働制の対象者やその者の時間を計上している場合がある。
※従事時間合計は週当たり。

参考①－２　実施体制【学童期検査、令和７年度】

※「○」該当あり、「－」なし

ユニットセンター／サブユニットセンター	学童期検査に係る人員				UC 外の人員(医師、看護婦等)	会場数	追加調査※	外部委託※
	医師・教員	リサーチコーディネーター	事務員	その他				
北海道ユニットセンター	13	6	36	41	0	6	○	－
宮城ユニットセンター	3	24	0	1	14	14	－	－
福島ユニットセンター	13	20	18	9	152	61	－	○
千葉ユニットセンター	7	15	0	0	12	10	○	○
神奈川ユニットセンター	1	11	0	0	0	6	○	－
甲信ユニットセンター(山梨大学)	7	6	5	1	5	1	○	○
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2	2	2	5	0	1	－	○
富山ユニットセンター	3	12	8	2	22	6	○	－
愛知ユニットセンター	6	14	3	2	0	2	○	○
京都ユニットセンター	3	19	0	0	1	4	○	－
大阪ユニットセンター	23	1	6	6	12	7	○	○
兵庫ユニットセンター	6	0	8	12	0	7	○	○
鳥取ユニットセンター	1	3	3	8	0	1	－	－
高知ユニットセンター	2	9	0	2	3	3	○	○
産業医科大学サブユニットセンター	3	10	3	0	6	1	－	○
九州大学サブユニットセンター	1	11	0	0	4	1	－	－
熊本大学サブユニットセンター	3	1	3	3	0	4	○	○
宮崎大学サブユニットセンター	1	0	8	1	0	1	－	○
琉球大学サブユニットセンター	2	2	3	2	0	2	－	○

参考①－３　実施体制【詳細調査、令和７年度】

ユニットセンター／サブユニットセンター	詳細調査に係る人員(精神発達検査者除く)				
	医師・教員	リサーチコーディネーター	事務員	その他	医師・看護師の外部委託※
北海道ユニットセンター	11	6	23	18	○
宮城ユニットセンター	3	23	0	1	○
福島ユニットセンター	10	23	19	9	○
千葉ユニットセンター	7	18	0	0	○
神奈川ユニットセンター	1	9	0	0	－
甲信ユニットセンター(山梨大学)	7	6	7	1	○
甲信サブユニットセンター(信州大学)	1	2	2	0	－
富山ユニットセンター	3	12	9	16	○
愛知ユニットセンター	6	14	3	2	○
京都ユニットセンター	3	12	0	0	○
大阪ユニットセンター	2	1	1	11	○
兵庫ユニットセンター	5	0	4	6	－
鳥取ユニットセンター	1	2	0	0	－
高知ユニットセンター	2	4	0	1	○
産業医科大学サブユニットセンター	3	9	3	0	○
九州大学サブユニットセンター	1	5	0	0	－
熊本大学サブユニットセンター	1	1	1	3	○
宮崎大学サブユニットセンター	1	0	8	1	－
琉球大学サブユニットセンター	2	2	3	5	○

※「○」該当あり、「－」なし

参考②　詳細調査の参加者数【令和７年９月 29 日時点】

ユニットセンター／サブユニットセンター	詳細調査の同意者	詳細調査協力取り止め等			詳細調査現参加者数	【参考】全体調査の協力取り止め等	C-1.5y					C-2y			C-3y				C-4y			C-6y	C-8y			C-10y			C-12y	
		協力取りやめ等					全体	環境測定記録	住環境調査	生活行動記録	長期的ハウスダスト	全体	医学的検査	精神神経発達検査	全体	環境測定記録	住環境調査	生活行動記録	全体	医学的検査	精神神経発達検査	医学的検査	実施予定	医学的検査	精神神経発達検査	実施予定	医学的検査	精神神経発達検査	医学的検査	精神神経発達検査
			内、試料廃棄	(%)																										
北海道ユニットセンター	405	14	0	3.5%	391	1,046	403	403	403	403	403	395	394	395	381	381	381	381	369	350	357	270	390	314	315	389	297	288	62	62
宮城ユニットセンター	451	42	0	9.3%	409	883	446	446	445	446	447	433	429	432	410	410	410	410	388	377	383	313	429	275	329	416	287	291	133	136
福島ユニットセンター	633	45	0	7.1%	588	1,173	638	638	638	638	635	620	615	618	579	579	579	579	571	541	561	401	601	425	455	594	421	438	83	93
千葉ユニットセンター	303	34	1	11.2%	269	1,010	301	301	301	301	297	298	295	297	285	285	285	285	276	266	272	221	280	225	225	276	225	212	93	93
神奈川ユニットセンター	325	46	0	14.2%	278	780	328	328	328	328	325	312	308	311	300	300	300	300	290	281	284	275	296	211	230	289	207	211	49	49
甲信ユニットセンター（山梨大学）	226	20	0	8.8%	206	700	227	227	227	227	227	222	220	222	212	212	212	212	205	205	204	171	212	183	184	210	168	162	48	48
甲信サブユニットセンター（信州大学）	131	19	0	14.5%	112	197	131	131	131	131	131	129	128	129	121	121	121	121	117	116	116	108	115	108	107	115	108	105	1	1
富山ユニットセンター	269	27	0	10.0%	242	522	271	271	271	271	272	269	264	267	252	252	252	252	251	250	241	215	257	214	214	249	201	196	109	109
愛知ユニットセンター	280	9	0	3.2%	272	475	281	281	281	281	278	280	279	279	273	273	273	273	273	272	270	249	270	230	228	271	232	184	153	152
京都ユニットセンター	195	12	0	6.2%	182	351	195	195	195	195	192	190	188	190	190	190	190	190	178	172	169	160	186	170	172	184	166	140	68	68
大阪ユニットセンター	391	33	2	8.4%	358	379	389	389	389	389	389	382	382	382	370	370	370	370	361	361	345	263	366	196	197	362	241	227	62	63
兵庫ユニットセンター	250	5	0	2.0%	245	437	250	250	250	250	250	248	248	248	243	243	243	243	227	227	226	205	246	213	213	244	200	38	94	93
鳥取ユニットセンター	149	11	1	7.4%	138	166	147	147	147	147	147	141	141	141	137	137	137	137	127	127	127	117	141	108	108	141	100	95	56	55
高知ユニットセンター	338	18	0	5.3%	320	537	339	339	339	339	341	332	332	332	328	328	328	328	302	301	292	270	322	269	269	320	262	238	105	105
産業医科大学サブユニットセンター	149	6	0	4.0%	143	167	147	147	147	147	146	147	147	147	139	139	139	139	133	132	131	116	143	127	127	143	127	126	55	54
九州大学サブユニットセンター	239	30	0	12.6%	209	425	238	238	238	238	241	231	228	229	215	215	215	215	198	197	188	157	216	166	166	213	151	152	58	61
熊本大学サブユニットセンター	148	8	0	5.4%	140	199	148	148	148	148	149	147	147	146	145	145	145	145	140	138	136	127	142	128	130	142	122	93	33	32
宮崎大学サブユニットセンター	92	6	0	6.5%	87	147	91	91	91	91	89	90	90	89	89	89	89	89	88	88	87	55	88	48	58	88	67	73	27	27
琉球大学サブユニットセンター	44	2	0	4.5%	42	92	43	43	43	43	44	43	43	43	42	42	42	42	41	41	41	26	43	18	17	42	32	29	16	16
総計	5,018	387	4	7.7%	4,631	9,686	5,013	5,013	5,012	5,013	5,003	4,909	4,878	4,897	4,711	4,711	4,711	4,711	4,535	4,442	4,430	3,719	4,743	3,628	3,744	4,688	3,614	3,298	1,305	1,317

※詳細調査の同意者：現所属組織の児の数（リクルート組織、母親の数ではない（多胎で詳細調査に参加している時は多胎の数））

参考③　フォローアップ活動（質問票の回収状況、コミュニケーション活動）

※「○」実施または実施予定、「△」企画していたが中止、「－」なし

ユニットセンター／サブユニットセンター	コミュニケーション活動													備考		
	ニュースレター・広報物の配布		Web				粗品配布	対面イベント			オンラインイベント			その他			
		調査の成果に関する情報提供	HPによる各種情報提供	HPによる調査の成果に関する情報提供	SNS・ブログ	調査参加者の参加型コンテンツ		参加者限定主催イベント	一般向け主催イベント	地域イベントへの参加	参加者限定主催イベント	一般向け主催イベント	地域イベントへの参加		調査の成果に関わるリスクコミュニケーションへの取組	科学コミュニケーションへの取組	参加児の理解促進・参加児向けコンテンツの作成
北海道ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○
宮城ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	－	○	－	○	○	○	○
福島ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	○	○	○	○
千葉ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○	○	○	－	○	○	○	○
神奈川ユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○
甲信ユニットセンター（山梨大学）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	○	○	○	○
甲信サブユニットセンター（信州大学）	○	○	○	○	○	－	－	－	－	○	－	－	－	○	○	－	○
富山ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	○	○	○	○
愛知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	○	－	○	○
京都ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	○	○	○	○
大阪ユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	○	○	－	－	－	－	○	○	○	○
兵庫ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	○	○	○	○
鳥取ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	○	○	○	○
高知ユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	－	○	－	－	－	○	○	○	○
産業医科大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	○	○	○	○
九州大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	－	○	○	－	○	－	－	－	○	○	－	○
熊本大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○
宮崎大学サブユニットセンター	○	○	○	○	－	○	○	○	－	－	－	－	－	○	－	－	○
琉球大学サブユニットセンター	○	○	○	○	○	○	－	－	－	－	－	－	－	○	○	－	○

参考④　令和７年度地域運営協議会への参加機関呼びかけ数

ユニットセンター／ サブユニットセンター	①健康・ 福祉系	②環境系	③教育系	④その他	合計
北海道ユニットセンター	50	2	16	5	73
宮城ユニットセンター	69	0	16	5	90
福島ユニットセンター	181	1	27	3	212
千葉ユニットセンター	40	7	4	0	51
神奈川ユニットセンター	18	3	2	2	25
甲信ユニットセンター（山梨大学）	18	1	4	6	29
甲信サブユニットセンター（信州大学）	10	1	5	0	16
富山ユニットセンター	18	1	10	0	29
愛知ユニットセンター	26	3	3	5	37
京都ユニットセンター	44	4	8	0	56
大阪ユニットセンター	26	1	9	0	36
兵庫ユニットセンター	25	1	1	0	27
鳥取ユニットセンター	5	1	2	0	8
高知ユニットセンター	23	2	2	0	27
産業医科大学サブユニットセンター	38	1	5	3	47
九州大学サブユニットセンター	11	0	1	3	15
熊本大学サブユニットセンター	34	2	30	8	74
宮崎大学サブユニットセンター	15	1	3	0	19
琉球大学サブユニットセンター	8	2	1	1	12

参考⑤　学位論文数（累積本数）

【令和７年９月末現在】

ユニットセンター／ サブユニットセンター	修士論文		博士論文		計	
	論文数	うち 追加調査	論文数	うち 追加調査	論文数	うち 追加調査
計	28	(11)	105	(29)	133	(40)
北海道ユニットセンター	2	(0)	13	(5)	15	(5)
宮城ユニットセンター	6	(6)	19	(7)	25	(13)
福島ユニットセンター	0	(0)	5	(3)	5	(3)
千葉ユニットセンター	1	(0)	8	(2)	9	(2)
神奈川ユニットセンター	4	(0)	5	(0)	9	(0)
甲信ユニットセンター（山梨大学）	0	(0)	3	(3)	3	(3)
甲信サブユニットセンター（信州大学）	0	(0)	3	(0)	3	(0)
富山ユニットセンター	1	(0)	8	(0)	9	(0)
愛知ユニットセンター	3	(2)	4	(3)	7	(5)
京都ユニットセンター	3	(3)	2	(0)	5	(3)
大阪ユニットセンター	0	(0)	6	(0)	6	(0)
兵庫ユニットセンター	0	(0)	6	(2)	6	(2)
鳥取ユニットセンター	0	(0)	2	(0)	2	(0)
高知ユニットセンター	4	(0)	12	(3)	16	(3)
産業医科大学サブユニットセンター	1	(0)	1	(0)	2	(0)
九州大学サブユニットセンター	0	(0)	5	(0)	5	(0)
熊本大学サブユニットセンター	2	(0)	2	(1)	4	(1)
宮崎大学サブユニットセンター	0	(0)	0	(0)	0	(0)
琉球大学サブユニットセンター	0	(0)	0	(0)	0	(0)
メディカルサポートセンター	0	(0)	0	(0)	0	(0)
コアセンター	1	(0)	1	(0)	2	(0)

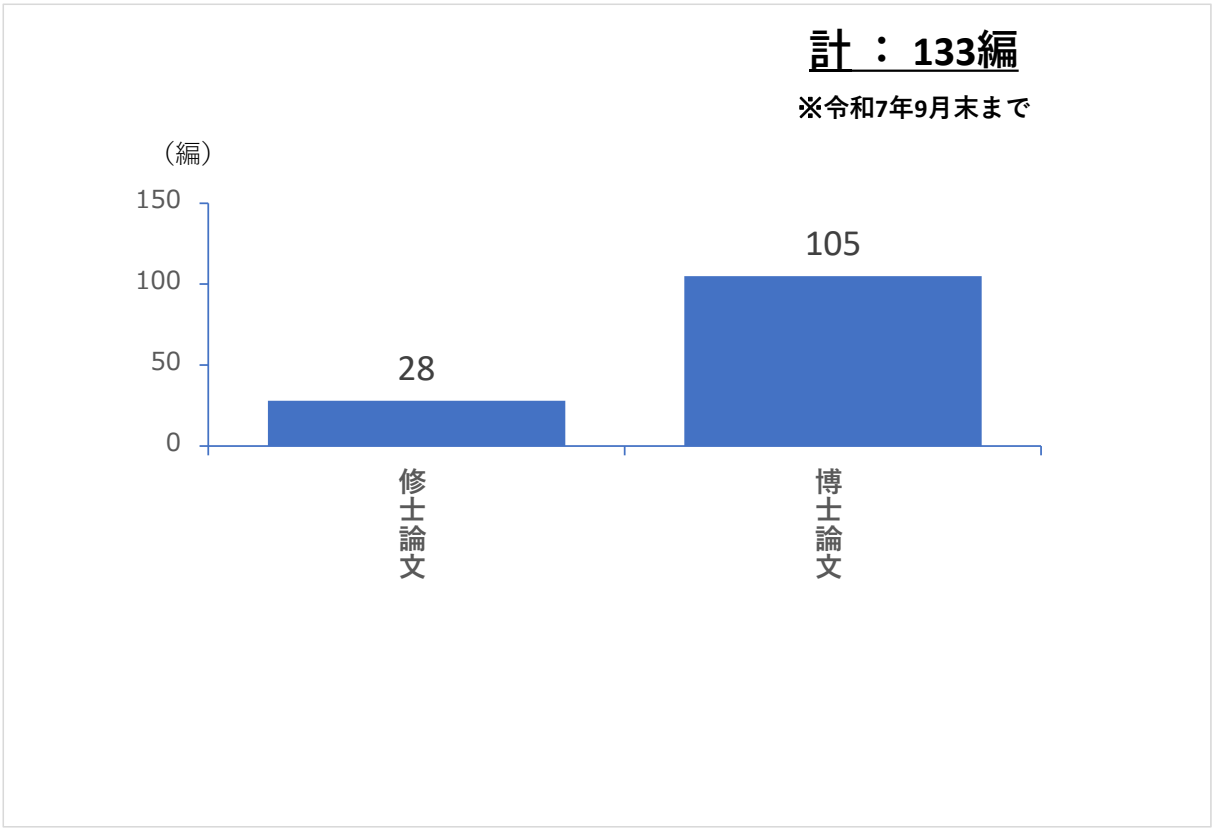


図５　　学位論文数（累積本数、令和７年９月末現在）

令和７年度　エコチル調査企画評価委員会委員名簿

（敬称略、五十音順）

氏　　名	所属・職名
石井　礼花	国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所　客員研究員
伊藤　隆一	公益社団法人　日本小児科医会　会長
岩澤　美帆	国立社会保障・人口問題研究所　人口動向研究部　部長
岩田　和之	学校法人松山大学　経済学部　経済学科　教授
鈴木　俊治	公益社団法人　日本産婦人科医会　常務理事
関沢　明彦	公益社団法人　日本産科婦人科学会　周産期委員会委員長
千先　園子	公益社団法人　日本小児保健協会
田嶋　敦	国立大学法人　金沢大学　医薬保健研究域医学系　教授
玉腰　暁子	国立大学法人　北海道大学大学院　医学研究院 社会医学分野　公衆衛生学教室　教授
中村　晶子	仙石山法律事務所　弁護士
濵口　欣也	公益社団法人　日本医師会　常任理事
村田　勝敬	国立大学法人　秋田大学　名誉教授
森　　潤	公益社団法人　日本小児科学会
森　　剛志	一般社団法人　日本化学工業協会　化学品管理部　部長

令和７年度エコチル調査企画評価ワーキンググループ委員名簿

（敬称略、五十音順）

氏名	所属・職名
岩澤　美帆	国立社会保障・人口問題研究所　人口動向研究部　部長
岩田　和之	学校法人　松山大学　経済学部　経済学科　教授
畝山　智香子	国立医薬品食品衛生研究所　客員研究員
櫻井　鉄也	国立大学法人　筑波大学 人工知能科学センター　研究統括　教授
武林　亨	慶應義塾大学　医学部　衛生学公衆衛生学教室　教授
田嶋　敦	国立大学法人　金沢大学　医薬保健研究域医学系　教授
玉腰　暁子	国立大学法人　北海道大学大学院　医学研究院 社会医学分野　公衆衛生学教室　教授
奈良　由美子	放送大学　教養学部　教授
長谷川　聖治	株式会社よみうりランド取締役　ボールパーク事業担当 東京ジャイアンツタウン・マネジメント・カンパニー　社長
東　　尚弘	国立大学法人　東京大学　医学系研究科　公衆衛生学　教授
堀口　逸子	慶應義塾大学　医学部　非常勤講師
丸　　祐一	国立大学法人　鳥取大学　地域学部地域学科　教授
森田　由子	国立研究開発法人　科学技術振興機構　社会技術研究開発センター 企画運営室　社会連携グループ 専門役

＜オブザーバー＞

村田　勝敬	国立大学法人　秋田大学　名誉教授

実地調査日程

No	日時		実施方法	実施機関
1	7月30日(水)	14:00-16:00	Web	メディカルサポートセンター
2	8月18日(月)	14:00-16:00	現地訪問+Web	千葉ユニットセンター
3	9月4日(木)	14:00-16:00	Web	神奈川ユニットセンター
4	9月9日(火)	10:00-12:00	現地訪問+Web	福岡ユニットセンター（産医大）
5	9月12日(金)	15:00-17:00	Web	福岡ユニットセンター（九州大）
6	9月16日(火)	10:00-13:00	現地訪問+Web	北見サブユニットセンター （北海道ユニットセンター）
7	9月26日(金)	14:00-16:00	Web	愛知ユニットセンター
8	9月30日(火)	14:00-16:00	Web	高知ユニットセンター
9	10月7日(火)	10:00-13:00	現地訪問+Web	熊本大学サブユニットセンター （南九州・沖縄ユニットセンター）
10	10月16日(木)	14:00-16:00	現地訪問+Web	コアセンター
11	10月20日(月)	14:00-16:00	現地訪問+Web	兵庫ユニットセンター
12	10月21日(火)	14:00-16:00	Web	鳥取ユニットセンター
13	10月22日(水)	15:00-17:00	Web	甲信ユニットセンター（山梨大）
14	10月27日(月)	13:00-15:00	現地訪問+Web	富山ユニットセンター
15	11月6日(木)	15:00-17:00	Web	大阪ユニットセンター
16	11月7日(金)	10:00-12:00	Web	甲信サブユニットセンター（信州大）
17	11月10日(月)	10:00-12:00	Web	宮城ユニットセンター
18	11月12日(水)	14:00-16:00	Web	福島ユニットセンター
19	11月14日(金)	14:00-16:00	現地訪問+Web	京都ユニットセンター

別添１　エコチル調査に係る成果発表の状況

１－１　エコチル調査の全国データを用いた論文など　69 編
（うち中心仮説に係る論文 18 編：太字）

（令和７年１月から 12 月末）

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
579		Pre-pregnancy body mass index range and prevalence of hypertensive disorders of pregnancy: the Japan environment and children’s study	妊娠前ボディマス指数(BMI)と妊娠高血圧症候群の関連	Murata T, et al.	BMC Pregnancy and Childbirth
578		Relationships among feeding method, maternal behavior during feeding, and mother-infant bonding at 1 year postpartum: the Japan Environment and Children’s Study	授乳方法および授乳時の行動と対児愛着（ボンディング）の関連：エコチル調査	Atsuko Mori, et al.	Attachment & Human Development 2026, VOL. 28, NO. 1, 61-75
575	●	**A benchmark dose analysis of the blood cadmium concentration in pregnant women using the Japan Environment and Children’s Study data**	**エコチル調査のデータを用いた妊婦の血中カドミウム濃度のベンチマーク用量分析**	**Neeranuch Suwannarin, et al.**	**Environment International**
571		The impact of pediatric constipation on appendicitis: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children’s Study	小児期の便秘と虫垂炎との関連：エコチル調査を用いた出生コホート研究	Hiroyoshi Iwata, et al.	BMC Pediatrics 2025 Nov 26;25(1):962
570		Association of Mediterranean Diet Scores with Psychological Distress in Pregnancy: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠中の地中海食スコアと心理的ストレスとの関連：エコチル調査	Yuri Takahashi, et al.	Nutrients 2025 Nov 25;17(23):3697
569		Association between total fruit consumption and risk of gestational diabetes mellitus: the Japan Environment and Children’s Study	果物摂取量と妊娠糖尿病リスクとの関連：エコチル調査	Akane Kojima, et al.	Annals of nutrition and metabolism 2025 Nov 10:1-15
568		Association of cesarean section with asthma and atopic dermatitis in infants from the Japan Environment and Children’s Study	エコチル調査における帝王切開と乳児のぜん息、アトピー性皮膚炎との関連	Hajime Maeda, et al.	Scientific Reports 2025 Nov 12;15(1)
567	●	**Toxic metals and trace elements in maternal blood and urinary tract infection during the first 2 years of life: The Japan Environment and Children’s Study**	**妊婦の血中金属濃度と子どもの２歳までの尿路感染症の関連：エコチル調査**	**Keitaro Makino, et al.**	**Science of the Total Environment 2025 Dec 1:1006:180895**
566	●	**Effect of maternal bisphenol exposure on adverse pregnancy and neonatal outcomes: The Japan Environment and Children’s study**	**母親のビスフェノールばく露が妊娠および新生児へ及ぼす有害な影響：エコチル調査**	**Mayumi Sugiura-Ogasawara, et al.**	**Environ Int 2025 Aug:202:109663**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
565	●	Association Between Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Childhood eurodevelopment up to Age 4: The Japan Environment and Children’s Study	妊娠中の母親の PFAS ばく露と 4 歳までの子どもの神経発達との関連：エコチル調査	Hidetoshi Mezawa, et al.	Environment International 2025 Oct:204:109824
564	●	Associations of PFAS exposure with obstetric and birth outcomes in the Japan Environment and Children’s Study (JECS): Is maternal endometriosis an effect modifier?	エコチル調査における妊婦の PFAS ばく露と妊娠・出産経過の事象との関連および子宮内膜症の有無の影響※	Joselyn Dionisio, et al.	Environmental Pollution 2026 Jan 1:388:127353
563		Impact of maternal body mass index and gestational comorbidities on the birth prevalence of orofacial clefts in the Japan Environment and Children’s Study	母親の体格指数（BMI）および妊娠中の合併症が出生時の口唇口蓋裂の有病率に与える影響：エコチル調査	Shinobu Tsuchiya, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2025:30:86
562		Maternal Psychological Distress Before and After Childbirth and Neurodevelopmental Delay in Toddlers	出産前後における母親の心理的苦痛と子どもの精神神経発達遅延	Kenta Matsumura, et al.	JAMA Network Open 2025 Oct 1;8(10):e2540907
561		Association between TV/DVD screen exposure time at age 1 and risk of chronic constipation at age 3: The Japan Environment and Children’s Study	1 歳時のテレビ/DVD ばく露時間と 3 歳時の慢性便秘症との関連：エコチル調査	Masashi Hotta, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2025:30:80
560	●	Association between Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Childhood Growth Trajectories up to 4 Years of Age: The Japan Environment and Children’s Study	母親の PFAS ばく露と 4 歳までの子どもの身体の成長との関連について：エコチル調査	Midori Yamamoto, et al.	Environmental Science & Technology 2025 Nov 4;59(43):23173-23186
559		Peri-conception maternal nutrition and its association with offspring sex: a prospective cohort study using the Japan Environment and Children’s Study data	妊娠前後の母親の栄養と子どもの性別との関連：エコチル調査を用いた前向きコホート研究	Rie Matsushita, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2025 Oct 24:16:e38
558		Not All Rhinitis Follows the Atopic March: Early-Life Risk Factors and Implication of Infectious Disease Across Three Phenotypes in JECS Cohort	全てのアレルギー性鼻炎がアレルギーマーチを経ているわけではない：エコチル調査における 3 つの集団の早期リスク因子と感染症の影響	Daisuke Harama, et al.	Allergy 2025 Oct 21
557		Pregnant women with ulcerative colitis have a higher risk of delivering small-for-gestational-age infants: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)	潰瘍性大腸炎の妊婦は妊娠週数に対して体が小さい子どもを出産するリスクが上昇する：エコチル調査	Tamami Tsuzuki, et al.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research 2025 Oct;51(10)

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
556		Association of postpartum weight retentions at 4 weeks with large-for-gestational-age infants in the second pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	第1子出産後4週時点の母親の体重保持と第2子の巨大児妊娠リスクとの関連：エコチル調査	Satoshi Shinohara, et al.	Journal of Diabetes & Metabolic Disorders 2025 Oct 9;24(2):215
555		Effects of Food Preferences and Supplement Intake during Pregnancy on the Cleft Lip and Palate Incidence: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の食品し好およびサプリメント摂取が口唇口蓋裂発生に及ぼす影響：エコチル調査	Kumiko Fujiwara, et al.	Nutrients 2025 Oct 8;17(19):3175
554	●	Association between exposure to perfluoroalkyl compounds during early pregnancy and risk of late miscarriage: The Japan Environment and Children's Study	妊娠初期のPFASばく露と後期流産との関連について：エコチル調査	Nozomi Tatsuta, et al.	International Journal of Hygiene and Environmental Health,2025 Sep 24:270:114673
553	●	Associations between blood heavy metal concentrations and hypertensive disorders of pregnancy in the Japan Environment and Children's Study	妊婦の血中重金属濃度と妊娠高血圧症候群との関連について：エコチル調査	Nobuhisa Morimoto, et al.	Journal of the American Heart Association (JAHA) 2025 Oct 7;14(19):e042183
552	●	Maternal blood metal levels during pregnancy and body mass index z-score, overweight, and obesity among children: Findings of the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の血中金属濃度と子どものBMIzスコア、過体重、肥満：エコチル調査	Limin Yang, et al.	Environmental Research 2025 Sep 5;286(Pt 1):122755
551		Effects of maternal occupation on low birth weight and preterm birth: A prospective birth cohort study in the first trimester—The Japan Environment and Children's Study	妊娠初期における妊婦の職業と低出生体重・早産との関連：エコチル調査	Sumitaka Kobayashi, et al.	International Journal of Gynecology & Obstetrics
550	●	Association between maternal urinary metabolites of organophosphate pesticides during pregnancy and wheezing up to 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の尿中有機リン系殺虫剤代謝物濃度と3歳までのぜん鳴との関連：エコチル調査	Hajime Maeda, et al.	Clinical & Experimental Allergy
549		A cross-sectional study investigating the association between parental daily brushing, extended breastfeeding, or parental smoking habit and early childhood dental caries in 4-year-old children: the Japan Environment and Children's Study	両親の仕上げ磨き、母乳の継続、両親の喫煙状況と4歳児の早期う歯との関連：エコチル調査	Yuichiro Miura, et al.	BMC Pediatrics
548	●	Association Between Particulate Matter Exposure and Thyroid Hormone Levels in Early Childhood: Results from JECS	幼児期における粒子状物質（PM）ばく露と甲状腺ホルモン値との関連：エコチル調査	Limin Yang, et al.	The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
547	●	**Associations between antenatal organophosphate pesticide exposure and adverse pregnancy outcomes: The Japan Environment and Children's Study (JECS)**	**妊娠期の有機リン系殺虫剤へのばく露と妊娠結果との関連：エコチル調査**	**Sachiko Baba, et al.**	**Science of the Total Environment**
546		Stability and Variability of Edinburgh Postnatal Depression Scale Networks among Postpartum Women: Insights from the Japan Environment and Children's Study	産後女性におけるエジンバラ産後うつ病質問票に基づく症状ネットワークの構造的安定性と変動性：エコチル調査データの解析	Yasuhiko Ebina, et al.	Journal of Affective Disorders
545		Associations between parents' broader autism phenotype and children's developmental difficulty scores at 6 and 12 months: A prospective study	母親および父親の自閉症傾向特性と生後 6 ヶ月および 12 ヶ月の子どもの ASQ-3 得点との関連性	Kumi Hirokawa, et al.	International Journal of Behavioral Development
544		Association between maternal folate levels and febrile seizures in early childhood from the Japan Environment and Children's Study	母体の血清葉酸濃度と乳幼児期の熱性けいれん発症の関連：エコチル調査	Sachi Tokunaga, et al.	Scientific Reports 15(1):21628
543		Japanese growth charts stratified by birth weight in 500-gram increments: Findings from the Japan environment and children's study	日本における出生体重 500g ごとの成長曲線：エコチル調査	Takeshi Yamaguchi, et al.	Clinical Pediatric Endocrinology
542		Genome-wide association study on longitudinal and cross-sectional traits of child health and development in a Japanese population	日本人集団における小児の健康と発達に関するゲノムワイド関連解析	Natsuhiko Kumasaka, et al.	medRxiv
541	●	**Heavy metal and childhood wheezing: The Japan Environment and Children's Study**	**重金属と子どものぜん鳴：エコチル調査**	**Hajime Maeda, et al.**	**Pediatric Allergy and Immunology 36(7):e70144**
540		Associations of Heart Rates and Respiratory Rates with Lifestyle and Environmental Factors in Toddlers: A Nationwide Cohort Study	乳幼児における心拍数・呼吸数と生活要因および環境要因との関連	Keita Kanamori, et al.	BMC pediatrics 25(1):510
539		Association of long working hours with psychological distress in men with pregnant partners: An observational study from the Japan Environment and Children's Study	妊娠中のパートナーを持つ男性における長時間労働と精神的苦痛との関連：エコチル調査	Hidekuni Inadera, et al.	PLOS ONE 2025 Jun 25;20(6):e0326864
538		Household Income, Maternal Allostatic Load During Pregnancy, and Offspring With Autism Spectrum Disorders	妊娠中の世帯年収と子どもの自閉スペクトラム症の関連、およびアロスタティック負荷の媒介効果	Shuhei Terada, et al.	Autism Research 18(4), 881-890
537		Dietary intake of omega-3 PUFAs and fish in relation to mother-to-infant bonding in the Japan Environment and Children's Study	オメガ 3 脂肪酸および魚の摂取量とボンディング（対児愛着）との関係：エコチル調査	Ikuyo Sanzen, et al.	Sci Rep 2025 Jun 4;15(1):19548

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
536		Trajectories of IgE, IgA and IgG Levels in Preschool-Aged Children: Insights from the Subcohort Study of the Japan Environment and Children's Study	幼児期の IgE、IgA、および IgG の濃度変化の経時的な推移：エコチル調査のサブコホート研究からの知見	Yumiko Miyaji, et al.	Clinical & Experimental Allergy
535		Sick building syndrome, multiple chemical sensitivity and related factors: a cross-sectional analysis from the Japan Environment and Children's Study	シックハウス症候群、化学物質過敏症および関連要因：エコチル調査	Yasuaki Saijo, et al.	PLOS ONE 20(6):e0324562.
534		Labor epidural analgesia and autism spectrum disorder in 3-year-old offspring based on data from the Japan Environment and Children's Study: a prospective cohort study	硬膜外無痛分娩と 3 歳時点での自閉症スペクトラム障害の関連について：エコチル調査	Toma Fukuda, et al.	The Journal of Maternal Fetal & Neonatal Medicine 2025 Dec;38(1):2509147
533		Direct and indirect effects of smoking during pregnancy on child development: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の喫煙が子どもの発達に及ぼす直接的・間接的な影響：エコチル調査	Nozomi Tatsuta, et al.	Scientific Reports 2025 May 24;15(1):18053
532		Investigating the association between parental educational status and offspring obesity risk using the Japan Environment and Children's Study	親の教育水準と子供の肥満リスクとの関連：エコチル調査	Masahiro Noda, et al.	Pediatric Obesity 2025 May 6:e70019
531		Urinary Cotinine Levels Versus Self-Reported Smoking Status for Assessing Placental Abruption Risk: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の自己申告による喫煙状況と尿中コチニン濃度によって分類した喫煙状況の常位胎盤早期剥離の発症リスクの比較：エコチル調査	Toma Fukuda, et al.	The Journal of Maternal Fetal & Neonatal Medicine 2025 Dec;38(1):2497059
530	●	**Prenatal mercury exposure and body mass index at 2 and 4 years: The Japan Environment and Children's Study**	**胎児期の水銀ばく露と子どもの２歳または４歳の BMI について：エコチル調査**	**Daisuke Kurogochi, et al.**	**International Journal of Hygiene and Environmental Health 2025 Jun:267:114566**
529		Mediation of prenatal cotinine and 8-hydroxy-2'-deoxyguanosine levels on infant birth size in the Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中のコチニンと 8-ヒドロキシ-2'-デオキシグアノシン（8-OHdG）濃度が子どもの出生時体格に及ぼす影響：エコチル調査	Sumitaka Kobayashi, et al.	Reproductive Toxicology 2025 Aug:135:108905
528	●	**Impact of prenatal exposure to per- and polyfluoroalkyl substances on developmental delays in 4-year-old children: The Japan Environment and Children's Study**	**妊娠中の PFAS 濃度と 4 歳時点の発達との関連：エコチル調査**	**Mariko Itoh, et al.**	**Environment International 2025 Apr:198:109434**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
527		Association between maternal distress during pregnancy and lower 5-min-Apgar score of the offspring: the Japan Environment and Children's Study	妊娠中の母親の心理的ストレスと新生児の低アプガースコアとの関連：エコチル調査	Gita Nirmala Sari, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine 2025:30:25
526		Determinants of plasma poly- and perfluoroalkyl substances during pregnancy: The Japan Environment and Children's Study	エコチル調査における妊婦の血中 PFAS 濃度とその諸要因	Yonghang Lai, Shoji F Nakayama, et al.	Ecotoxicology and Environmental Safety 2025 Apr 1:294:118107
525		Risk score for non-vaccination of voluntary vaccines: The Japan Environment and Children's Study	任意接種ワクチンの非接種リスクスコア：エコチル調査	Masashi Hotta, et al.	Pediatrics International 2025 Jan-Dec;67(1):e15888
524		Association between timing of exanthema subitum and febrile seizures: The Japan Environment and Children's Study	突発性発疹症の発症時期と熱性けいれんとの関連：エコチル調査	Hisao Okabe, et al.	PLOS ONE 2025 Mar 28;20(3):e0321061
523		Association between the duration of mothers' digital media use while with their children and two-year-old children's development from the Japan Environment and Children's Study	母親が子どもと一緒に過ごす時のデジタルメディア使用時間と 2 歳児の神経発達との関連：エコチル調査	Yuka Ogata, et al.	Scientific Reports 2025 Mar 24;15(1)):10137
522		Association of pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain with continued breastfeeding until 6 months postpartum in Japanese women: the Japan Environment and Children's Study	妊娠前 BMI および妊娠中体重増加と生後 6 ヶ月までの母乳育児継続との関連：エコチル調査	Hidekuni Inadera, et al.	BMC Pregnancy Childbirth 2025 Mar 25;25(1):340
521		Association between paternal physique and obesity in children at the age of 3 years: the Japan Environment and Children's Study	父親の体格と 3 歳児の体格との関連：エコチル調査	Yui Inoue, et al.	Journal of Developmental Origins of Health and Disease 2025 Mar 21:16:e17
520		Prospective association of daily toothbrushing frequency and the prevalence of childhood functional constipation: the Japan Environment and Children's Study	歯磨き頻度と子どもの便秘との関連：エコチル調査	Masahiro Tsuchiya, et al.	Scientific Reports 2025 Mar 5;15(1)
519	●	**Impact of cord blood cadmium concentration on neonatal secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study**	**さい帯血中カドミウム濃度と子どもの性比との関連：エコチル調査**	**Takahiro Omoto, et al.**	**Science of The Total Environment 2025 Mar 20:970:179011**

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
518		Impact of maternal smoking and second-hand smoke exposure during singleton pregnancy on placental abruption: analysis of a prospective cohort study (the Japan Environment and Children's Study)	単胎妊娠中の母親の能動喫煙および受動喫煙が常位胎盤早期剥離リスクに与える影響：前向きコホート研究（エコチル調査）	Hikaru Karumai-Mori, et al.	BMJ Open 2025 Mar 4;15(3)
517		Association between paternal involvement in childcare and child injury: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	父親の育児行動と子どもの受傷との関連：エコチル調査	Kanako Shimada, et al.	BMC Pediatrics 2025 Mar 3;25(1):161
516		Association between Maternal Dietary Isoflavone Intake During Pregnancy and Childhood Allergic Rhinoconjunctivitis: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中のイソフラボン摂取量と子どものアレルギー性鼻結膜炎との関連：エコチル調査	Gui Yang, et al.	Nutrients 2025 Feb 21;17(5):769
515	●	**Association between prenatal exposure to maternal metal and trace elements and Streptococcus infection: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children's Study**	**母体血中金属濃度と咽頭炎（溶連菌）との関連：エコチル調査**	**Hiroyoshi Iwata, et al.**	**PLOS ONE 2025 Feb 27;20(2):e0319356**
514		Association between maternal urinary cotinine concentrations during pregnancy and neonatal blood thyroid-stimulating hormone levels: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	妊娠中の母親の尿中コチニン濃度と新生児の甲状腺刺激ホルモンレベルとの関連：エコチル調査	Keiko Yamasaki, et al.	International Journal of Hygiene and Environmental Health 2025 Apr:265:114544
513		Association Between Maternal History of Mental Illness and Neurodevelopment of Children During the First Three Years: the Japan Environment and Children's Study	精神疾患の既往のある母親と子どもの３歳までの精神神経発達との関連について：エコチル調査	Nobuki Ohara, et al.	Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports 2025 Feb 19;4(1):e70073
512		Low glucose challenge test result as a potential risk factor for delays in early child development: The Japan Environment and Children's Study	幼児の発達遅延のリスク因子としての低グルコースチャレンジテストの結果：エコチル調査	Satoshi Shinohara, et al.	Journal of Diabetes & Metabolic Disorders 2025 Feb 1;24(1):61
511		Relationship between preconception protein intake and gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study	妊娠前のたんぱく質摂取と妊娠糖尿病との関連	Omoto T, et al.	Diabetes & Metabolic Syndrome: Clinical Research & Reviews 2025;19(2):103200

NO	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
510		Association between the existence of neonatal congenital anomalies and maternal postpartum depression up to 6 months after delivery: The Japan Environment and Children's Study	新生児の先天異常と産後６ヶ月までの母親の産後うつとの関連	Minamikawa Y, et al.	Journal of Affective Disorders 2025;374:598-605 Epub ahead of print
509	●	**Parental occupational exposure to anticancer drugs and radiation: Risk of fetal loss and physical abnormalities in The Japan Environment and Children's Study**	**放射線・抗がん剤に対する両親の職業性ばく露と死産・流産と形態異常のリスクとの関連：エコチル調査**	**Yamamoto S, et al.**	**Early Human Development 2025;201:106195 Epub ahead of print**
508		The association of environmental house dust mite allergens and crustacean allergy: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	環境中のダニアレルゲンと甲殻類アレルギーとの関連：エコチル調査	Kojima R, et al.	Asia Pacific Allergy 2025
507		Advanced maternal age is a risk factor for both early and late gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study	母体の年齢と妊娠前半期および妊娠後半期の妊娠糖尿病（GDM）との関連：エコチル調査	Tagami K, et al.	Journal of Diabetes Investigation 2025 Epub ahead of print
506		Association between antibiotic exposure during pregnancy and postpartum depressive symptoms: The Japan Environment and Children's Study	妊娠中の抗菌薬服用と産後うつ症状との相関について：エコチル調査	Kisaka Y, et al.	Research in Nursing & Health 2025;48(2):211-221 Epub ahead of print

１－２　エコチル調査の追加調査に係る論文　17 編

（令和７年１月から 12 月末）

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
101		Relationship of Flatfoot to physical performance and postural stability in Children: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	子どもの扁平足と身体能力および姿勢安定性の関係：エコチル調査山梨追加調査	Masanori Wako, et al.	Gait & Posture. 2026 Feb:124:109992
100		Prediction of one-day creatinine excretion in Japanese schoolchildren based on anthropometric measurements	日本人児童の体格に基づく１日クレアチニン排泄量の推定	Sayaka Kato, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine. 2025:30:97
099	●	**Association between maternal blood lead levels and prevalence of dental caries in the primary dentition of children**	**妊娠中の母親の血中鉛濃度と乳歯う蝕有病率との関連**	**Yoshie Nagai-Yoshioka, et al.**	**Environmental Health and Preventive Medicine 2025:30:92**
098		Gut Microbiome Alterations by Allergen Sensitisation and Symptom Severity in Paediatric Allergic Rhinitis	小児アレルギー性鼻炎におけるアレルゲン感作および症状重症度による腸内細菌そうの変化	Kunio Miyake, et al.	Allergy 2025 Nov 17
097		『子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）』－進捗報告および今後の展望－	『子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）』－進捗報告および今後の展望－	上村智子	高知県小児科医会報(36):2025.8
096		Trajectories of paternal depression symptoms from 1 to 6months postpartum and associated factors: An Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	産後１ヵ月から６ヵ月にかけて発症した父親の産後うつのリスク要因：エコチル調査の追加調査	Taeko Suzuki, et al.	Infant Mental Health Journal 2025 Sep 29
095		Limb muscle mass and phase angle asymmetry in 8-year-old children	8 歳児の四肢筋肉量と位相角の非対称性	Masanori Wako, et al.	Scientific reports 2025 Sep 29;15(1):33577
094		Association Between Working Memory at Age 4 Years and Night Sleep Duration and Yogurt Intake Frequency at Age 1 Year	1 歳時点の夜間睡眠時間およびヨーグルト摂取頻度と 4 歳時点のワーキングメモリとの関連性	Yuki Otsuka, et al.	Nutrients 2025, 17(19), 3081
093		Factors involved in daytime urinary incontinence and enuresis in children: A cross-sectional cohort study from The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	小児の昼間尿失禁と夜尿症に関与する因子：エコチル調査山梨追加調査による横断的コホート研究	Hiroshi Shimura, et al.	日本排尿機能学会誌
092		Factors associated with optic disc parameters and circumpapillary retinal nerve fiber layer thickness in 8-year-old children. The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	8 歳児の視神経乳頭と網膜神経線維層厚の関連因子：エコチル調査の山梨追加調査	Ryo Harada, et al.	PLoS One 2025 Aug 20;20(8):e0330335

No	中心仮説	Article Title	論文（和文タイトル）	著者	学術雑誌
091		Anterior Chamber Configuration and Its Related Factors Among 8-Year-Old Children in the Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children’s Study	エコチル調査における８歳児の眼の隅角の形状と関連する因子の検討	包　明雪（Mingxue Bao）	Journal of Clinical Medicine
090		Strontium and Barium in Deciduous Teeth and Infant Feeding Methods: A Birth Cohort Adjunct Study to the Japan Environment and Children’s Study	乳歯中のストロンチウム・バリウムと乳児期の授乳方法：エコチル調査の追加調査	Aya Hisada, et al.	The Journal of Nutritional Biochemistry
089		Differences in routine childhood immunization uptake between single and multiple healthcare facility use: The Kochi Adjunct study of Japan Environment and Children’s Study	単独医療機関利用と複数医療機関利用における定期予防接種率の違い：エコチル調査追加調査	Marina Minami, et al.	Environmental Health and Preventive Medicine
088		Retinal Structure and Related Factors in 8-year-old Japanese Children: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children’s Study	日本人８歳児の網膜の構造と関連因子：エコチル調査山梨追加調査	Ryo Harada, et al.	PLOS ONE 2025 May 12;20(5):e0323641
087		Association of birth outcomes with maternal and infant FADS1 rs174547 genotypes in Japanese participants	日本人の母と子どもにおけるFADS1rs174547遺伝子型と出産アウトカムとの関連	Reiko Nita, et al.	Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 2025 Apr 14:206:102683
086		Elucidation of Factors Affecting Anterior Occlusion in Primary Dentition Based on the Japan Environment and Children’s Study	乳前歯に影響を与える可能性のある因子の解明：横断調査のエコチル調査から	Risa Ishiko, et al.	Children 2025 Feb 19;12(2):254
085		Effects of outdoor play on body composition and physical performance in children: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children’s Study	外遊びが子どもの身体組成と身体能力に及ぼす影響	Masanori Wako, et al.	PLOS ONE 2025 Feb 10;20(2):e0317925

１－３　その他の学術雑誌等における発表　８件

（令和７年１月から 12 月末）

No	論文	著者名	雑誌名
139	科学 父親の育児参加と子どもの発達との関連	加藤 承彦	青淵　921 号・20-22
138	エコチル調査からみえる妊婦の栄養に関する最新知見は？	西郡　秀和	産科と婦人科 第 92 巻・10 号・1104 - 1109 頁
137	母体出生体重と前半期および後半期妊娠糖尿病との関連	田上 和磨、岩間 憲之、杉山 隆 、 齋藤 昌利	糖尿病と妊娠 25 巻・2 号・S124 - S126
136	幼少期に施行された全身麻酔と４歳までの神経発達との関連ーエコチル調査よりー	永井　孝尚、島　正之	臨床麻酔 第 49 巻 7 号、729-737 頁
135	妊娠中の食物繊維摂取量と早産の関連ーエコチル調査	小元　敬大	臨床栄養 147 巻 1 号 14-16 頁
134	乳児血管腫	三澤　恵	美容皮膚医学 BEAUTY 第 61 号（Vol.8 No.3, 2025）p45-54
133	妊娠前からの母親の食事の質と子どものぜん息症状（ぜん鳴）	大久保 公美	臨床栄養 146 巻 3 号 338-343 頁
132	化学物質の安全性評価と適正使用	小林　弥生	衛生薬学　基礎・予防・臨床 改訂第 5 版

１－４　学会での発表　123 件

（令和７年１月から令和７年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
1	コアセンター	2025/2/1	集会	健康食育研究会	エコチル調査からわかってきたことー妊娠期の魚介類摂取のあり方についてー	
2	コアセンター	2025/8/20	ポスター	ISES-ISEE 2025	Association between prenatal lead exposure and secondary sex ratio: Japan Environment and Children's Study	
3	コアセンター	2025/12/15	口頭	Pacifichem2025	A simultaneous, high-throughput and sensitive method for analysing 13 neonicotinoids and metabolites in urine using a liquid chromatography-tandem mass spectrometry	
4	コアセンター	2025/12/18	口頭	第 70 回日本人類遺伝学会	How can information from large-scale cohort studies be applied to pediatric practice?	
5	メディカルサポートセンター	2025/5/24	口頭	ヨーロッパ人類遺伝学会	Genome-wide association study on longitudinal and cross-sectional traits of child health and development in a Japanese population	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
6	メディカルサポートセンター	2025/6/14	集会	第 41 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会	シンポジウム 3 アレルギー疾患の発症に関与する因子～発症予防ができるといえるか～ ビタミン D を含めた食事栄養とアレルギー疾患の発症	○
7	メディカルサポートセンター	2025/7/26	口頭	特別支援教育士資格認定協会年次大会	環境からの知能への影響と エコチル調査について WISC-Ⅳを使った大規模調査の舞台裏	
8	メディカルサポートセンター	2025/10/17	ポスター	アメリカ人類遺伝学会	Genome-wide association study on longitudinal and cross-sectional traits of child health and development in a Japanese population	
9	メディカルサポートセンター	2025/11/21	ポスター	Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy, Respirology, and Immunology Annual Congress 2025	Trajectories of IgE, IgA and IgG Levels in Preschool-Aged Children: Insights from the Subcohort Study of the Japan Environment and Children's Study	
10	メディカルサポートセンター	2025/12/18	口頭	日本人類遺伝学会	Genome-wide association study on longitudinal and cross-sectional traits of child health and development in a Japanese population	
11	北海道ユニットセンター	2025/3/19	口頭	Society of Toxicology 64th Annual Meeting & ToxExpo	Prenatal exposure to PFAS and health outcomes among Japanese children	
12	北海道ユニットセンター	2025/3/20	ポスター	第 95 回日本衛生学会学術総会	妊婦における社会経済要因・喫煙と妊娠前の低体重・肥満との関連（エコチル調査）	
13	北海道ユニットセンター	2025/8/18	ポスター	ISES-ISEE 2025	Prenatal heavy metals and trace elements and prevalence of congenital limb abnormalities among newborns: the Japan Environment and Children's Study	
14	北海道ユニットセンター	2025/9/30	ポスター	第 84 回日本矯正歯科学会学術大会	乳臼歯エナメル質の硬度と関連する因子の検討	○
15	北海道ユニットセンター	2025/10/11	口頭	第 90 回日本健康学会総会	出生体重別成長曲線の開発 標準から個別化へ	
16	北海道ユニットセンター	2025/10/12	口頭	第 90 回日本健康学会	日本の２大出生大規模コホートの縦断的拡がりとともに歩む大学院教育の現状と展望	
17	北海道ユニットセンター	2025/10/29	ポスター	第 84 回日本公衆衛生学会総会	妊婦のパートナーの職業と低出生体重及び早産との関連：エコチル調査	
18	北海道ユニットセンター	2025/11/29	口頭	第 35 回日本成長学会学術集会	出生体重 500g ごとの成長曲線～エコチル調査より～	
19	北海道ユニットセンター	2025/11/29	口頭	第 15 回オホーツク医学大会	エコチル調査：北見地区の調査状況	
20	宮城ユニットセンター	2025/5/24	口頭	第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会	子宮内環境が妊娠合併症に与える影響、および、妊娠合併症の既往と分娩回数が将来の生活習慣病に与える影響～ビッグデータを用いた疫学的アプローチ～	
21	宮城ユニットセンター	2025/8/9	口頭	日本女性栄養内分泌学会	父親の体格と 3 歳時の肥満との関連について	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
22	宮城ユニットセンター	2025/10/21	ポスター	CLEFT2025	Risk of self-harm ideation in mothers of children with cleft lip and palate: the Japan environment and children's study	
23	宮城ユニットセンター	2025/10/23	ポスター	第 49 回日本口蓋裂学会学術大会	ヨーグルトの習慣的摂取が子どもの中耳炎に与える影響：子どもの健康と環境に関する全国調査	
24	宮城ユニットセンター	2025/10/24	口頭	第 41 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	妊娠前半期における妊娠糖尿病および HbA1c 値と周産期予後	
25	宮城ユニットセンター	2025/10/25	口頭	第 41 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	母体年齢と前半期および後半期妊娠糖尿病との関連	
26	宮城ユニットセンター	2025/12/12	口頭	第 27 回日本内分泌撹乱物質学会研究発表会	受動喫煙は母体と子どもの健康を害する　ーエコチル調査結果からの考察ー	
27	福島ユニットセンター	2025/4/20	口頭	第 128 回 日本小児科学会学術集会	シンポジウム「RS ウイルス感染症予防の新時代」、RS ウイルス感染症の臨床～最新の知見	○
28	福島ユニットセンター	2025/5/10	口頭	第 99 回 日本感染症学会総会	シンポジウム 28「小児と成人で連携すべきワクチンの話題」、RS ウイルスワクチン（小児）	○
29	福島ユニットセンター	2025/5/24	口頭	第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会	（特別講演 7）県立大野病院事件と放射線災害がもたらしたもの-福島のレジリエンス-	
30	福島ユニットセンター	2025/5/25	口頭	第 122 回日本小児科学会山形地方会	特別講演『新生児分野での臨床・疫学・基礎研究で見えてきたこと』	
31	福島ユニットセンター	2025/7/14	ポスター	第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会	アトピー性皮膚炎合併妊娠と早産の関連～子どもの健康と環境に関する全国調査より～	
32	福島ユニットセンター	2025/7/14	口頭	第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会	分娩時の羊水混濁と児の喘鳴との関連―エコチル調査より―	
33	福島ユニットセンター	2025/8/8	口頭	第 49 回日本女性栄養・代謝学会学術集会	妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連：エコチル調査	
34	福島ユニットセンター	2025/8/29	口頭	令和 7 年度福島県保健衛生学会	エコチル調査 13 歳以降調査継続への働きかけ 福島県における取組と課題	
35	福島ユニットセンター	2025/8/29	口頭	令和 7 年度福島県保健衛生学会	子どもと過ごす間の母親のデジタルメディア使用と 2 歳児の精神神経発達との関連	
36	福島ユニットセンター	2025/10/18	口頭	第 24 回東北臨床感染症研究会	新たな時代へ踏み出した RSV 感染症診療	○
37	福島ユニットセンター	2025/11/9	口頭	第 57 回小児感染症学会	ＲＳウィルスワクチン	○
38	福島ユニットセンター	2025/11/13	口頭	第 69 回日本新生児生育医学会・学術集会	RS ウイルス感染症の現状の課題とワクチン、抗体製剤開発の歴史	○
39	千葉ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第 35 回日本疫学会学術総会	両親の教育歴と子どもの感染症罹患との関連およびその媒介因子	
40	千葉ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第 35 回日本疫学会学術総会	妊娠中のたばこ煙曝露と児の乳歯切片中の鉛分布との関連	○
41	千葉ユニットセンター	2025/2/14	口頭	第 35 回日本疫学会学術総会	妊娠中の母親の抗生物質使用と小児アレルギーとの関連	
42	千葉ユニットセンター	2025/3/18	口頭	SOT 64th Annual Meeting	The Japan Environment and Children's Study (JECS) - Background, Updates, and Future Perspectives	
43	千葉ユニットセンター	2025/3/18	ポスター	SOT 64th Annual Meeting	The Japan Environment and Children's Study (JECS) - Background, Current data, and Future Perspectives	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
44	千葉ユニットセンター	2025/3/20	口頭	第 95 回日本衛生学会学術総会	妊娠中のヨウ素摂取と子どもの発達	
45	千葉ユニットセンター	2025/8/2	口頭	第 13 回 DOHaD 学会	妊娠中のイソフラボン摂取量と小児アレルギー性鼻結膜炎との関連	
46	千葉ユニットセンター	2025/9/15	ポスター	EUROTOX 2025	Relationship between serum PFAS levels in fathers and possible causes in food: findings from the Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study	○
47	千葉ユニットセンター	2025/12/12	口頭	日本内分泌撹乱物質学会第 27 回研究発表会	千葉ユニットセンターの研究より父親血清 PFAS 濃度と関連する要因エコチル調査追加調査	○
48	神奈川ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第 35 回日本疫学会	エコチル調査神奈川ユニットセンターにおける初年度同意者の継続状況の総括	
49	神奈川ユニットセンター	2025/4/18	口頭	第 128 回日本小児科学会学術集会	妊娠中の母親の葉酸血中濃度と乳児期の川崎病発症との関連についての検討-エコチル調査より-	
50	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/3/21	口頭	第 95 回日本衛生学会学術総会	エコチル調査 13 歳以降継続調査：ELSI/PPI 研究の実践	○
51	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/5/16	ポスター	日本口腔科学会学術集会	8 歳における咬合力と運動機能との関係	○
52	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/5/17	ポスター	第 79 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会	デンタルプレスケールとデンタルプレスケール II の機能に関する検討	○
53	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/7/26	口頭	第 34 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	小児夜尿症と示指環指比との関連について：横断的コホート研究(エコチル調査山梨追加調査より)	○
54	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/8/29	ポスター	キャリアパスを考えるための越境交流会	小児の屈折異常、眼軸と運動能力との関連	○
55	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/10/4	集会	第 9 回 日本国際小児保健学会学術大会	エコチル調査のこれまでの取り組みと課題	
56	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/10/31	口頭	第 84 回日本公衆衛生学会	出生コホート研究参加者の中学生へのグループインタビューの試み	○
57	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/10/31	ポスター	第 84 回日本公衆衛生学会総会	環境中のダニアレルゲンと甲殻類アレルギーとの関連：エコチル調査より	
58	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/10/31	口頭	第 84 回日本公衆衛生学会	出生コホート研究に参加する母親の経験：13 年間の参加経験から	○
59	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/12/14	口頭	第 43 回山梨小児保健協会学術集会	子どもの研究参加に対する母親の認識：エコチル調査参加者へのインタビュー調査から	○
60	富山ユニットセンター	2025/2/8	口頭	第 36 回富山県母性衛生学会	3 歳における子どもの発達遅延と 8 歳における母親の対児愛着との関連（エコチル追加調査）	○
61	富山ユニットセンター	2025/2/8	口頭	第 36 回富山県母性衛生学会	教育歴は子どもが 8 歳時点での母親の抑うつ症状に関連するか(エコチル追加調査)	○
62	富山ユニットセンター	2025/2/14	ポスター	第 35 回日本疫学会学術総会	男性のオメガ 3 系脂肪酸摂取量と配偶者に対する暴力の関連について：エコチル調査	
63	富山ユニットセンター	2025/3/2	口頭	第 117 回日本皮膚科学会茨城地方会教育講演	光線過敏症アップデート	○

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
64	富山ユニットセンター	2025/3/4	ポスター	日本発達心理学会第 36 回大会	妊娠中後期における魚の摂取量と児の 3 歳時点の神経発達 ―子どもの健康と環境に関する全国調査―	
65	富山ユニットセンター	2025/3/21	ポスター	第 95 回日本衛生学会学術総会	持続性産後うつの決定木学習：エコチル調査	
66	富山ユニットセンター	2025/3/21	ポスター	第 95 回日本衛生学会学術総会	妊娠前後の座位行動の実態と妊娠中の座位行動と関連する要因 エコチル調査	
67	富山ユニットセンター	2025/3/21	ポスター	第 95 回日本衛生学会学術総会	1 歳時点における発酵食品の摂取と 3 歳時点における睡眠時間の関係 ― エコチル調査より ―	
68	富山ユニットセンター	2025/5/11	口頭	日本小児科学会 埼玉地方会 第 199 回学術集会	特別講演 小児喘息診療の包括的アプローチ：より良いコントロールを目指して	○
69	富山ユニットセンター	2025/5/29	口頭	第 124 回日本皮膚科学会総会	教育講演 7 乳児血管腫の最新の話題	
70	富山ユニットセンター	2025/5/29	口頭	第 124 回日本皮膚科学会総会	児童における紫外線対策行動についての検討-エコチル 8 歳学童期検査の追加調査より-	○
71	富山ユニットセンター	2025/6/8	口頭	第 344 回日本小児科学会北陸地方会	最新の小児喘息診療：発作ゼロを目指す包括的アプローチ	○
72	富山ユニットセンター	2025/9/20	口頭	日本脂質栄養学会第 34 回大会 シンポジウム 3「周産期脂質栄養のトピックス」	妊婦の脂肪酸摂取と児に及ぼす影響	
73	富山ユニットセンター	2025/9/20	口頭	日本脂質栄養学会第 34 回大会 市民公開講座「なんで魚の油は健康にいいの？～素朴な疑問に答える！～」	話題 2　魚で変わる！心と体を守る最前線	
74	富山ユニットセンター	2025/10/24	口頭	第 74 回日本アレルギー学会学術大会	母体喫煙と児の喘鳴フェノタイプとの関連:エコチル調査より	
75	富山ユニットセンター	2025/10/25	口頭	第 76 回日本皮膚科学会中部支部学術大会	レーザー治療アップデート	
76	富山ユニットセンター	2025/10/26	口頭	第 68 回日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会	父親の労働時間と育児行動との関連 -子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）からの知見-	
77	富山ユニットセンター	2025/10/29	口頭	CBI 学会 2025 年大会 フォーカストセッション「医療データ AI 解析実践フォーラム」	現場への応用を見据えた、機械学習による社会医学、臨床医学、デジタルヘルスデータの解析	
78	富山ユニットセンター	2025/10/31	ポスター	第 84 回日本公衆衛生学会総会	妊娠中の空気清浄器使用と出産転帰との関連：エコチル調査	
79	富山ユニットセンター	2025/10/31	ポスター	第 84 回日本公衆衛生学会総会	日本人女性の妊娠前後の座位行動の実態とその関連要因 ：エコチル調査	
80	富山ユニットセンター	2025/11/28	ポスター	第 35 回日本産業衛生学会全国協議会	妊娠女性パートナー男性における長時間労働と精神的苦痛との関連：エコチル調査からの知見	
81	富山ユニットセンター	2025/12/6	口頭	日本研究皮膚科学会　第 50 回年次学術大会・総会	Photosensitivity in Japanese children: Toyama Adjunct Study of Japan Environment and Children’s Study (JECS)	○
82	富山ユニットセンター	2025/12/7	ポスター	第 45 回日本看護科学学会学術集会	父親の育児への取り組みと乳幼児期の子どものけがとの関連（エコチル調査の結果より）	
83	愛知ユニットセンター	2025/2/14	ポスター	第 35 回日本疫学会学術総会	母の更年期障害が与える子どもへの影響	○
84	愛知ユニットセンター	2025/3/20	ポスター	第 95 回日本衛生学会	閉経移行期の女性における血管運動神経症状と 女性ホルモンの関連	○

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
85	愛知ユニットセンター	2025/3/20	口頭	第 95 回日本衛生学会学術総会	エコチル調査参加児における FibroScan を用いた脂肪性肝疾患指標の予測因子	○
86	愛知ユニットセンター	2025/4/18	ポスター	第 128 回日本小児科学会学術集会	子どもを対象とした疫学調査における血液検査におけるエコー導入の効果検証	
87	愛知ユニットセンター	2025/7/5	ポスター	第 71 回東海公衆衛生学会学術大会	エコチル調査愛知ユニットセンター登録児の小学 2 年時と 6 年時における血液生化学指標（ALT、HDL-C、TC、TG）の年齢変化と性差について	○
88	愛知ユニットセンター	2025/7/5	口頭	第 71 回東海公衆衛生学会学術大会	エコチル調査参加児童における FibroScan を用いた肝脂肪量と肝硬度の測定	○
89	愛知ユニットセンター	2025/8/18	ポスター	ISES-ISEE 2025	Association of Urinary Nitrophenol Concentrations during Pregnancy with Preterm Birth, Low Birth Weight, and Small-for-Gestational-Age: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	
90	愛知ユニットセンター	2025/8/20	ポスター	ISES-ISEE 2025	Urinary Levels of Phthalate Metabolites at 1.5- and 3-years with Early Adiposity Rebound and Overweight/Obesity in Japanese Children: Aichi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's Study.	○
91	愛知ユニットセンター	2025/8/20	ポスター	ISES-ISEE 2025	Progress Status of Japan Environment and Children's Study	
92	愛知ユニットセンター	2025/10/24	ポスター	第 84 回日本公衆衛生学会総会	幼児期の肥満に関連する尿中代謝物の探索	○
93	愛知ユニットセンター	2025/11/1	口頭	日本情動学会第 14 回大会	取っ組み合い（Rough and Tumble Play）を情動という視点から	○
94	愛知ユニットセンター	2025/11/28	口頭	リサーチクラークシップ発表会	The relationship between Cardio-ankle Vascular Index (CAVI) and anthropometric and lifestyle factors in schoolchildren	○
95	愛知ユニットセンター	2025/11/28	口頭	リサーチクラークシップ発表会	Participant Characteristics Associated with Continued Survey Cooperation in a Birth Cohort Study	○
96	京都ユニットセンター	2025/3/6	口頭	日本発達心理学会	育児休業の光と影	
97	京都ユニットセンター	2025/3/27	集会	大気環境学会近畿支部生体影響部会　講演会	黄砂や PM2.5 の子どもの目鼻胸の症状に与える影響	○
98	京都ユニットセンター	2025/11/9	集会	第 57 回日本小児感染症学会	教育講演 8：iPS 細胞を活用したヒト胸腺発生モデルと機能再生	○
99	大阪ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第 35 回日本疫学会総会	子育て期女性の家事・育児担当割合と主観的健康感との関連	○
100	大阪ユニットセンター	2025/7/15	口頭	第 61 回日本周産期・新生児医学会学術集会	Moderate preterm, late preterm, early term で出生した児の３歳時の発達状況　―子どもの健康と環境に関する全国調査―	
101	大阪ユニットセンター	2025/10/30	口頭	第 84 回日本公衆衛生学会総会	子育て期女性の家事・育児担当割合と短時間睡眠との関連	○
102	大阪ユニットセンター	2025/10/30	口頭	第 84 回日本公衆衛生学会総会	子育て期の女性における仕事と家庭の葛藤が主観的健康感に及ぼす影響に関する研究	○

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
103	大阪ユニットセンター	2025/10/30	口頭	第84回日本公衆衛生学会総会	女性に求められる家庭内での役割と健康の関連	○
104	兵庫ユニットセンター	2025/8/20	ポスター	Joint Annual Meeting of the International Society of Exposure Science and the International Society for Environmental Epidemiology 2025 (国際環境科学会・国際環境疫学会合同会議2025)	Association of exposure to fine particulate matter components during pregnancy and early childhood with asthma and allergies in school children	○
105	兵庫ユニットセンター	2025/8/20	ポスター	Joint Annual Meeting of the International Society of Exposure Science and the International Society for Environmental Epidemiology 2025 (国際環境科学会・国際環境疫学会合同会議2025)	General anesthesia in early childhood and neurodevelopment up to 4 years of age: The Japan Environment and Children's Study	
106	兵庫ユニットセンター	2025/11/23	口頭	第129回日本産科麻酔学会学術集会	特別講演「無痛分娩・小児期の麻酔と子どもの発達：エコチル調査の知見から」	
107	鳥取ユニットセンター	2025/10/31	ポスター	第84回日本公衆衛生学会総会	父親の自閉症特性と子育て行動との関連：エコチル調査	
108	鳥取ユニットセンター	2025/12/11	ポスター	日本内分泌撹乱物質学会第27回研究発表会	妊娠中のカドミウム曝露が子どもの発達に与える影響：エコチル調査より	
109	高知ユニットセンター	2025/2/9	口頭	第107回日本小児科学会高知地方会	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）ー進捗報告および今後の展望ー	○
110	高知ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第35回日本疫学会学術総会	出生時までの喫煙状況と8歳時の脂質代謝との関連性（エコチル追加調査より）	○
111	高知ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第35回日本疫学会学術総会	Association between Maternal Smoking during Pregnancy and Lipids at Age 8	○
112	高知ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第35回日本疫学会学術総会	妊娠高血圧症と8歳児の脂質の関係について	○
113	高知ユニットセンター	2025/2/13	ポスター	第35回日本疫学会学術総会	胎盤重量/出生体重比と8歳時の脂質代謝との関連性	○
114	高知ユニットセンター	2025/2/17	ポスター	第24回KMS Research Meeting	妊娠高血圧症と8歳児の脂質の関係について	○
115	高知ユニットセンター	2025/3/21	口頭	第95回日本衛生学会学術総会	Weight gain during childhood and alanine aminotransferase (ALT) levels at age 8	○
116	高知ユニットセンター	2025/6/21	ポスター	第68回日本腎臓学会学術総会	エコチル調査における8歳時の血清クレアチニンおよびシスタチンCによる推定糸球体濾過量の季節的変動	○
117	高知ユニットセンター	2025/9/28	口頭	第8回日本眼科アレルギー学会	小児の涙液中総IgE抗体と涙液中Th2サイトカイン濃度の関連	○
118	高知ユニットセンター	2025/9/28	口頭	第8回日本眼科アレルギー学会	6歳児の涙液中総IgE陽性率とその関連因子について	○
119	高知ユニットセンター	2025/10/26	口頭	第74回日本アレルギー学会学術大会	6歳、8歳、10歳の涙液中総IgE陽性率とアレルギー疾患との関連（エコチル調査追加調査より）	○

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表形態	学会名	発表タイトル	追加調査
120	高知ユニットセンター	2025/12/12	口頭	日本内分泌撹乱物質学会第 27 回研究発表会	こうちエコチル調査の取組（高知 UC からの研究成果のひとつとして"Vitamin D and neurodevelopment at 2 years of age - Results from the Japan Environment and Children's Study (JECS))"を含む)	
121	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/5/23	ポスター	第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会	Association of placental weight at birth with maternal whole blood concentration of heavy metals (cadmium, lead, mercury, selenium, and manganese) The Japan Environment and Children's Study (JECS))	
122	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/5/29	ポスター	第 63 回日本小児歯科学会大会	学童期の再発性アフタ性口内炎の関連因子	○
123	福岡ユニットセンター（九州大学）	2025/6/28	口頭	日本睡眠学会	妊婦の睡眠と産後の児の発達との関連	

１－５　一般広報　265 件

（令和７年１月から令和７年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
1	コアセンター	2025/2/26	国内の鉛ばく露の実態と小児の神経発達への影響に関する研究	その他（食品健康影響評価技術研究成果発表会に興味のある方）	その他（講演　WEB 方式）	食品健康影響評価技術研究成果発表会			100	
2	コアセンター	2025/3/20	エコチル調査のデータ共有について/成果の活用と情報発信	その他（第 95 回日本衛生学会学術総会参加者）	その他（ポスター掲示）					
3	コアセンター	2025/6/27	エコチル調査について/研究成果と成果の活用	その他（第 72 回日本小児保健協会学術集会）	その他（ポスター展示）					
4	コアセンター	2025/7/2	エコチル調査について/遺伝子解析調査および研究成果の紹介	その他（第 52 回日本毒性学会学術年会参加者）	その他（ポスター展示）					
5	コアセンター	2025/7/26	エコチル調査について	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	その他（ポスター展示　冊子配布　モニターに動画放映）					
6	コアセンター	2025/10/29	エコチル調査について/データ共有についておよび研究成果の紹介	その他（第 84 回日本公衆衛生学会総会参加者）	広報誌等（紙面）/その他（発行物の紹介、配布）					
7	コアセンター	2025/11/1	乳歯調査　乳歯の分析について	参加者/その他（第 1 回エコチル調査フォーラムの参加者）	その他（ポスター展示）					
8	コアセンター	2025/11/20	エコチル調査からみえてきたこと	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	その他	「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」第 17 回神奈川ユニットセンター運営協議会		10		
9	コアセンター	2025/12/11	エコチル調査について/データ共有についておよび研究成果の紹介	その他（第 27 回日本内分泌攪乱物質学会参加者）	広報誌等（紙面）/その他（発行物の紹介、配布）					
10	北海道ユニットセンター	2025/1/18	エコチル調査の現在と学術成果について	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等_対面	令和 7 年札幌市小児科医会研究会			25	
11	北海道ユニットセンター	2025/3/14	Spotlight on Research: Environment during pregnancy and the risk of childhood eczema	地域の一般住民/大学等の学生	HP	北海道大学英文 HP Research News				和訳後、北大和文 HP のリサーチタイムズへも掲載予定。
12	北海道ユニットセンター	2025/4/10	オンライン市民講座 9「妊娠中の自宅の床材が小児喘息に及ぼす影響」	参加者	HP	エコチル調査北海道ユニットセンター内エゾチルランド				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
13	北海道ユニットセンター	2025/5/31	「子どもたちのワクワクな未来を拓く：エコチル調査，大規模出生コーホートの挑戦と展望」環境省エコチル調査北海道ユニットセンターの取り組み	その他（医療従事者等の専門家）	その他（オンラインジャーナル）	小児保健研究 84 巻 3 号	2,916			
14	北海道ユニットセンター	2025/6/26	プラネタリーヘルス Cafe & Bar	その他（医療従事者等の専門家）	その他（オンライン・イベント）	小児保健研究 84 巻 3 号	2,916			
15	北海道ユニットセンター	2025/7/1	エコチル調査・北海道ユニットセンターの紹介	地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等_対面	北海道大学総合博物館常設展示「北大の探求心」		1045000	1045000	※2018 年度の入館者数：年間 22 万人超を参考に算出。無人展示室のためイベント限定の参加状況は来館者数と同数とした。
16	北海道ユニットセンター	2025/8/4	北海道ユニットセンター　2025 夏のカーリングイベントミニクイズ	参加者	イベント講演等_対面	北海道ユニットセンター 2025 夏のカーリングイベント		40	40	
17	北海道ユニットセンター	2025/8/6	Mental health and its risk factors for pregnant women. Examples from the Japan Environment and Children’s Study (JECS)(Session 4 Neurodevelopment, Mental health, and Adverse events in Japanese Cohorts)	その他（共同研究ワークショップに参加した研究者）	イベント講演等_対面	Hokkaido University – University of Melbourne Joint Research Workshop 2025			25	
18	北海道ユニットセンター	2025/8/16	北海道ユニットセンター　2025 夏のカーリングイベントミニ講義・クイズ	参加者	イベント講演等_対面	北海道ユニットセンター 2025 夏のカーリングイベント		153	153	8/16、8/19 の二日間開催 8/16 参加：92 名 8/19 参加：61 名
19	北海道ユニットセンター	2025/10/24	疫学と医学のデータサイエンス	その他（北海道立札幌南高等学校 1 年生）	イベント講演等_対面	国民との科学・技術対話　アカデミックファンタジスタ			64	
20	北海道ユニットセンター	2025/11/5	社会と健康Ⅰパブリックヘルス総論－研究と活動の最前線－：出生コーホート研究の実際	大学等の学生	イベント講演等_対面	社会と健康Ⅰパブリックヘルス総論－研究と活動の最前線－：出生コーホート研究の実際			5	
21	北海道ユニットセンター	2025/12/12	疫学と医学のデータサイエンス	その他（北海道立札幌南高等学校 1 年生）	イベント講演等_対面	国民との科学・技術対話　アカデミックファンタジスタ			25	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
22	北海道ユニットセンター	2025/12/17	エゾチル通信第 24 号「いっしょにまなぼう！エコチルちょうさ」「調査からわかったこと」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エゾチル通信第 24 号/エコチル調査北海道ユニットセンター（いっしょにまなぼう！エコチルちょうさ）				12/17 現在配布数 参加者配布数 6,816 部 協力医療機関 約 250 部 HP への公開は 1 月頃を予定
23	北海道ユニットセンター	2025/12/17	エコチル調査北海道ユニットセンター 研究成果集 2025	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査北海道ユニットセンター 研究成果集 2025/エコチル調査北海道ユニットセンター（研究成果集）				12/17 現在配布数 参加者配布数 6,816 部 協力医療機関 約 250 部 HP への公開は 1 月頃を予定
24	北海道ユニットセンター	2025/12/20-21	健康と環境のサイエンス	地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等_対面	サイエンスフェスタ 2025		305	28,321	当該の会場は公共の通路のため、イベント全体参加人数は札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）通行量のうち 50%が展示を観覧したとみなした場合とした。エコチルイベント参加人数は、展示ブース内の測定体験者数
25	北海道ユニットセンター	2025/1/19	世界キッズマネークイズ王決定戦	参加者	その他（オンライン・イベント）	世界キッズマネークイズ王決定戦		13		
26	北海道ユニットセンター	2025/2/14	北見サブユニット通信すまいる第 13 号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	北見サブユニット通信すまいる第 13 号	1,090			
27	北海道ユニットセンター	2025/10/19	旭川サブユニットセンター　エコチルサイエンス	参加者	イベント講演等_対面	エコチルサイエンス in 旭川医大		77	77	
28	北海道ユニットセンター	2025/11/13	旭川サブユニット通信ぽっけ第 8 号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	旭川サブユニット通信ぽっけ第 8 号	1,640			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
29	宮城ユニットセンター	2025/1/11	「みんなで子育てフェスタ＆健康フォーラム」エコチル調査宮城ユニットセンター	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	みんなで子育てフェスタ＆健康フォーラム		150	1,300	
30	宮城ユニットセンター	2025/1/18	受動喫煙によっておこる健康影響とその管理	その他（宮城県医師会会員）	イベント講演等_対面	令和6年度宮城県医師会環境保健研修会			71	
31	宮城ユニットセンター	2025/2/10	子どもの健康に影響する環境とは？　全国10万人の母子の調査結果からわかったこと	その他（保育関係者）	イベント講演等_対面	第14回「真冬に保育を考える研修会」			80	
32	宮城ユニットセンター	2025/2/15	第6回エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	第6回エコチルセミナー			20	
33	宮城ユニットセンター	2025/3/9	環境変化と子どもの健康との関連～10万人研究で分かったこと	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	世界緑内障週間2025　健康ワンダーランド～疾患の早期発見につなげる検査・体験～		30	540	
34	宮城ユニットセンター	2025/3/27	しょうさいだより第15号	参加者	広報誌等（紙面）	しょうさいだより第15号	414			
35	宮城ユニットセンター	2025/3/29	東北大学　エコチル調査宮城ユニットセンター	地域の一般住民	イベント講演等_対面	リトルママフェスタ仙台2025Mar		800	1,200	
36	宮城ユニットセンター	2025/4/12	2025エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	2025年（第1回）エコチルセミナー			18	
37	宮城ユニットセンター	2025/6/17	こどもの未来を考える	その他（保育関係者）	イベント講演等_対面	令和7年度　富山県子育て支援センター連絡協議会総会・研修会			100	
38	宮城ユニットセンター	2025/6/21	第2回エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	第2回エコチルセミナー			8	
39	宮城ユニットセンター	2025/7/26	エコファミワークショップ	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	エコファミワークショップ		110	611	
40	宮城ユニットセンター	2025/7/26	エコチル調査宮城ユニットセンター　研究成果集vol.1	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル調査宮城ユニットセンター　研究成果集vol.1	10,000			
41	宮城ユニットセンター	2025/7/30	東北大学オープンキャンパス2025	その他（オープンキャンパス参加者、主に高校生とその父兄、高校関係者）	イベント講演等_対面	東北大学オープンキャンパス2025		734	4,150	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
42	宮城ユニットセンター	2025/8/23	2025 年度（第 3 回）エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	2025 年度　第 3 回エコチルセミナー			12	
43	宮城ユニットセンター	2025/10/13	「みんなで子育てフェスタ＆健康フォーラム」エコチル調査宮城ユニットセンター	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	みんなで子育てフェスタ＆健康フォーラム		228	2,242	
44	宮城ユニットセンター	2025/10/18	2025 年度（第 4 回）エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	2025 年度　第 4 回エコチルセミナー			16	
45	宮城ユニットセンター	2025/10/19	第 18 回大崎市健康と福祉のつどい	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	第 18 回大崎市健康と福祉のつどい		71	437	
46	宮城ユニットセンター	2025/11/8	2025 年度（第 5 回）エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	2025 年度　第 5 回エコチルセミナー			13	
47	宮城ユニットセンター	2025/12/8	令和７年度　地域エコチル調査運営協議会　同　実務担当者会議合同会議	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）/イベント講演等_対面	令和７年度　地域エコチル調査運営協議会　同　実務担当者会議合同会議	150		70	
48	宮城ユニットセンター	2025/12/13	2025 年度（第 6 回）エコチルセミナー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	2025 年度　第 6 回エコチルセミナー			8	
49	福島ユニットセンター	2025/2/15	令和 6 年度環境セミナー	参加者	イベント講演等_対面	環境省エコチル調査パンフレット コアセンターエコチル調査パンフレット 2 種/令和 6 年度環境セミナー	21	21	21	
50	福島ユニットセンター	2025/2/21	エコチル調査から分かった生まれてくる子どものための妊娠前から妊娠中の食生活の大切さ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（高校生、教員、町議会議員）	イベント講演等_対面	環境省エコチル調査パンフレット/福島県立川俣高等学校（保健体育授業）	21		21	
51	福島ユニットセンター	2025/3/12	両親の周産期メンタルヘルス	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	その他（講演（web））	令和６年度　奈良県母子健康コーディネータスキルアップ研修会			69	
52	福島ユニットセンター	2025/4/25	エコチル調査からわかった知見	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等_対面	環境省エコチル調査パンフレット コアセンターエコチル調査パンフレット 2 種/令和７年度第 1 回郡山市母子保健従事者研修	22		22	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
53	福島ユニットセンター	2025/5/5	令和７年度郡山市こどもまつり	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	環境省エコチル調査パンフレット コアセンターエコチル調査パンフレット２種/令和７年度郡山市こどもまつり	704	704	40,000	※エコチル調査イベント限定の参加人数のうち、エコチル調査参加者が18組
54	福島ユニットセンター	2025/6/24	令和６年度　子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）活動報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）/HP	令和６年度　子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）活動報告書/エコチル★ふくしま（公式HP）	500			
55	福島ユニットセンター	2025/6/24	エコチル調査でわかってきたこと Vol.3	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査でわかってきたこと Vol.3/エコチル★ふくしま（公式HP）	12,000			
56	福島ユニットセンター	2025/7/13	令和７年度環境セミナー	参加者	イベント講演等_対面	環境省エコチル調査パンフレット コアセンターエコチル調査パンフレット２種/令和７年度環境セミナー	57	57	57	
57	福島ユニットセンター	2025/8/28	令和７年度第５回福島市保健業務研修会 ：「エコチル調査から見えてきたこと」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等_対面	令和７年度第５回福島市保健業務研修会			21	
58	福島ユニットセンター	2025/3/17	エコチル調査からわかってきたこと　エコチル★ふくしま版　第４号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査からわかってきたこと　/エコチル★ふくしま版　第４号エコチル☆ふくしま	12,500			
59	福島ユニットセンター	2025/10/6	子どもの健やかな発達に向けた母親と父親の周産期メンタルヘルスの大切さ -エコチル調査の知見から-	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/大学等の学生/その他（学内教職員）	イベント講演等_対面	福島県立医科大学ふくしま子ども・ 女性医療支援センター開設10周年記念講演			93	
60	福島ユニットセンター	2025/11/2	令和７年度いきいき健康づくりフォーラム inいわき 2025	地域の一般住民	イベント講演等_対面	令和７年度いきいき健康づくりフォーラム inいわき	104	104	1,715	※イベント参加者中、エコチル調査参加者２組
61	福島ユニットセンター	2025/11/7	令和７年度 北海道大学 大学院共通講義「地域創生学総論」	大学等の学生/その他（学内教職員）	イベント講演等_対面	令和７年度 北海道大学 大学院共通講義「地域創生学総論」			10	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
62	福島ユニットセンター	2025/10/5	令和７年度全県イベント	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	全県イベント	91	91	91	参加者内訳：28 組 91 名（大人 36 名、小中学生 48 名、未就学児 7 名）
63	福島ユニットセンター	2025/11/26	福島県で実施されている 出生コホート研究から得られた DOHaD・プレコンセプションケアの最新知見	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等_対面	第５回　浜通り地区　ふくしま子ども・女性医療支援センター講演会			30	
64	福島ユニットセンター	2025/12/15	「DOHaD 学説の現在地　ー基礎から最新情報までー」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（保健師、助産師、看護師、医師、心理職、保育士など）	イベント講演等_対面	2025 年度日本 DOHaD 学会・日本家族計画協会 共催セミナー			100	
65	福島ユニットセンター	2025/3/13	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2025 年春号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2025 年春号	13,500			
66	福島ユニットセンター	2025/6/24	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2025 年夏号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2025 年夏号	12,000			
67	福島ユニットセンター	2025/11/26	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2025 年秋冬号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチル★ふくしま「こぼちる通信」2025 年秋冬号	12,000			
68	福島ユニットセンター	2025/9/1	広報誌掲載 「エコチル調査って知ってる」	その他（小学生、保護者）	広報誌等（紙面）	てとて	82,000			
69	福島ユニットセンター	2025/11/1	広報誌掲載 「子どもの健康と環境に関する全国調査」	その他（中学生、保護者）	広報誌等（紙面）	てとて+PLUS	41,000			
70	千葉ユニットセンター	2025/1/15	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）概要と分かったことについて	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	その他（講演（WEB））	化学物質セミナー			260	現地参加：37 人 配信視聴回数：223 回
71	千葉ユニットセンター	2025/3/2	エコチル調査	地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）/その他（ポスター）	ぴよきちパパのエコチル講座 第 1 回～第 5 回 ちばエコチル調査つうしん 25 号第 14 回エコチル調査シンポジウム	48	48		参加人数（資料配付数） 子ども向け論文紹介：23 部 ニュースレター：25 部
72	千葉ユニットセンター	2025/4/19	こどもの発達と成長	その他（高等学校の学生）	イベント講演等_対面	子供の発達と成長			35	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
73	千葉ユニットセンター	2025/5/1	環境汚染による影響を調べるための長期コホート調査	大学等の学生	イベント講演等_対面					
74	千葉ユニットセンター	2025/9/10	メディア視聴と小児の心身の発達との関係について	地域の一般住民/その他（山田養蜂場市民講座（YouTube限定公開）の視聴者）	その他（YouTube）					
75	千葉ユニットセンター	2025/9/18	お母さんの体格と赤ちゃんの体重	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第7回	4,989			
76	千葉ユニットセンター	2024/9/18	知っておきたい化学物質"パラベン類"	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	ちばエコチルつうしん Vol.27 環境省エコチル調査千葉ユニットセンター	4,654			
77	千葉ユニットセンター	2025/3/13	食事のバランスと血中の有害な金属	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第6回	5,032			
78	千葉ユニットセンター	2025/3/13	知っておきたい化学物質"ビスフェノール"	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	ちばエコチルつうしん Vol.26 環境省エコチル調査千葉ユニットセンター	4,697			
79	千葉ユニットセンター	2025/10/19	ぴよきちパパのエコチル講座第5-6回 第5回　子どもがメディアを見る時間と発達 第6回　食事のバランスと血中の有害な金属	地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第5-6回エコメッセちば2025	360	681	23,647	現地来場者：7500 オンライン：16147
80	千葉ユニットセンター	2025/11/1	ぴよきちパパのエコチル講座第1-7回 第1回　アレルギー性の鼻炎と結膜炎 第2回　たばことコチニンという化学物質について 第3回　ビタミンD 不足と子どもの成長 第4回　石けんとアトピー性皮ふ炎 第5回　子どもがメディアを見る時間と発達 第6回　食事のバランスと血中の有害な金属 第7回　お母さんの体格と赤ちゃんの体重	地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第1-7回エコチル調査全国フォーラム	34	35		

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
81	千葉ユニットセンター	2025/12/11	ぴよきちパパのエコチル講座第1-7回 第1回　アレルギー性の鼻炎と結膜炎 第2回　たばことコチニンという化学物質について 第3回　ビタミンD 不足と子どもの成長 第4回　石けんとアトピー性皮ふ炎 第5回　子どもがメディアを見る時間と発達 第6回　食事のバランスと血中の有害な金属 第7回　お母さんの体格と赤ちゃんの体重 ニュースレターVol.27　知っておきたい化学物質"パラベン類"	その他（学会参加者）	広報誌等（紙面）	ぴよきちパパのエコチル講座第1-7回 ニュースレターVol.27　知っておきたい化学物質"パラベン類"第27回日本内分泌攪乱物質学会研究発表会（千葉ユニットセンターとしてのブース展示）	34	25		
82	神奈川ユニットセンター	2025/11/1	全国フォーラム展示	地域の一般住民/その他（全国フォーラム参加者）	イベント講演等_対面	第1回エコチル調査全国フォーラム			1,200	
83	神奈川ユニットセンター	2025/11/11	エコチル調査特別号（タウンニュース）	参加者	広報誌等（紙面）					
84	神奈川ユニットセンター	2025/7/11	エコチル調査について	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）		12,700			
85	神奈川ユニットセンター	2025/7/9	エコチル調査について	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）/その他（メール配信）		816			
86	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/5	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果 42～45	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				
87	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/12	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果 46～47	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
88	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/21	エコチル調査の「データ」が「研究成果」になるまで	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（対象地域の全幼稚園、保育園、小学校）	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし（掲載予定）	3,800			
89	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/5/15	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果 48～49	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/対象地域の全幼稚園、保育園、小学校）	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				
90	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/7/1	「エコチル調査やまなしの成果とこれから」	その他（山梨県内の小児科医）	イベント講演等_対面	第 25 回山梨県小児医療セミナー			46	
91	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/7/26	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）甲信ユニットセンター活動報告書（2022 年度～2024 年度）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（全国の UC や山梨大学内の研究者など）	広報誌等（紙面）	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）甲信ユニットセンター活動報告書（ 2022 年度～2024 年度）	69			
92	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/12/3	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果 50～54	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				
93	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/12/3	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果 55～56	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				
94	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/12/17	調査でわかったこと エコチルやまなし研究成果 57	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査甲信ユニットセンター　エコチルやまなし				
95	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/6/30	カードゲーム「moritomirai」体験授業（勝沼小学校）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（小学生）	イベント講演等_対面	カードゲーム「moritomirai」体験授業		23	23	
96	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/8/4～ 2025/8/8	テレビ山梨「スゴろく」夏休み親子観覧ツアー	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	テレビ山梨「スゴろく」夏休み親子観覧ツアー		56	56	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
97	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/9/9	カードゲーム「moritomirai」体験授業（豊富小学校）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（小学生）	イベント講演等_対面	カードゲーム「moritomirai」体験授業		22	22	
98	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/10/31	カードゲーム「moritomirai」体験授業（吉田小学校）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（小学生）	イベント講演等_対面	カードゲーム「moritomirai」体験授業		97	97	
99	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/11/12	カードゲーム「moritomirai」体験授業（甲州市立3校合同開催）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（小学生）	イベント講演等_対面	カードゲーム「moritomirai」体験授業		31	31	
100	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/11/19	カードゲーム「moritomirai」体験授業（羽黒小学校）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（小学生）	イベント講演等_対面	カードゲーム「moritomirai」体験授業		49	49	
101	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/12/18	カードゲーム「moritomirai」体験授業（山梨小学校）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（小学生）	イベント講演等_対面	カードゲーム「moritomirai」体験授業		35	35	
102	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/11/15	エコチルやまなし Presents 「丸山桂里奈トークライブ」	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	エコチルやまなし Presents 「丸山桂里奈トークライブ」		350	350	
103	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2025/3/2	甲信サブユニットセンター(信州大学)	地域の一般住民	イベント講演等_対面	第14回エコチル調査シンポジウム		250	250	
104	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2025/5/18	小児科医としてのエコチル調査への関わり	参加者/その他（長野県小児科医会会員）	イベント講演等_対面/その他（長野県小児科医会報）	長野県小児科医会報/2025年5月18日　長野県小児科医会学術セミナー　特別講演	50		50	
105	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2025/5/18	エコチル調査でわかってきたこと 甲信ユニットセンターからの報告	参加者	広報誌等（紙面）	長野県小児科医会会報/第79回 長野県小児科医会学術セミナー	144		50	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
106	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2025/6/13	エコぴよニュース	参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコぴよニュースエコチル信州	1,200			
107	富山ユニットセンター	2025/1/15	産後うつを簡易予測！手書きで利用可能な診断モデルを日本で開発：エコチル調査	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
108	富山ユニットセンター	2025/1/27	「富山新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「産後うつを簡易予測！手書きで利用可能な診断モデルを日本で開発：エコチル調査」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
109	富山ユニットセンター	2025/1/28	エコチル調査からみた富山の環境	大学等の学生	イベント講演等_対面	富山大学講義（富山医療学）			120	
110	富山ユニットセンター	2025/3/7	エコチル調査でわかったこと Vol. 3	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（県内全小学校）	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査でわかったこと Vol. 3/エコチル富山ユニットセンター「みんなのひろば 小冊子「エコチル調査でわかったこと」」	10,000			
111	富山ユニットセンター	2025/3/1	エコチル調査富山ユニットセンター	その他（文科省、県・市・医師会、富山県内公的機関、学内役職者など）	広報誌等（紙面）/HP	富山大学医学部創立50周年記念誌/富山大学医学部	500			
112	富山ユニットセンター	2025/4/3	父親が積極的に育児に取り組むと乳幼児期の子どものけがが減る可能性がある（エコチル調査より）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
113	富山ユニットセンター	2025/3/29	メンタルヘルスにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他（2024年度ストレス科学シンポジウム参加者）	HP/その他（オンライン講演）	2024年度ストレス科学シンポジウム「うつにならない第14弾」				参加人数は100名程度
114	富山ユニットセンター	2025/4/16	「富山新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「父親が積極的に育児に取り組むと乳幼児期の子どものけがが減る可能性がある（エコチル調査より）」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
115	富山ユニットセンター	2025/6/2	母子と家族の心理・社会学 ～子どもと社会～	大学等の学生	イベント講演等_対面	富山県立大学講義（助産学専攻課程　母子と家族の心理・社会学）			11	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
116	富山ユニットセンター	2025/6/6	妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量は出産後 6 か月間の母乳栄養の継続と関連する（エコチル調査より）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
117	富山ユニットセンター	2025/6/18	「北日本新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量は出産後 6 か月間の母乳栄養の継続と関連する（エコチル調査より）」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
118	富山ユニットセンター	2025/6/23	「富山新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量は出産後 6 か月間の母乳栄養の継続と関連する（エコチル調査より）」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
119	富山ユニットセンター	2025/6/13	研究機関としての大学　疫学研究とエビデンスの活用/公衆衛生学講座の研究紹介	大学等の学生	イベント講演等_対面	早期基礎臨床体験実習			4	
120	富山ユニットセンター	2025/6/20	研究機関としての大学　疫学研究とエビデンスの活用/公衆衛生学講座の研究紹介	大学等の学生	イベント講演等_対面	早期基礎臨床体験実習			3	
121	富山ユニットセンター	2025/6/17	ヒトの子育てをエコチル調査から考える	その他（富山県子育て支援センター連絡協議会会員など（備考欄参照））	イベント講演等_対面/その他（オンライン講演）	エコチル調査でわかったこと vol.2、3/令和 7 年度 富山県子育て支援センター連絡協議会総会・研修会	各 100		87	広報の対象：他に、市町村子育て支援担当者、親子サークル等子育て支援に関わる実践者などを含む
122	富山ユニットセンター	2025/6/25	ねむりの仕組みを知ろう	その他（富山市立鵜坂小学校の児童、教職員、保護者など）	イベント講演等_対面	令和 7 年度学校保健委員会			506	
123	富山ユニットセンター	2025/7/7	子どもの健康と環境について考えてみよう	大学等の学生/その他（富山県立富山高等学校の生徒）	イベント講演等_対面	エコチル調査でわかったこと vol.3/令和 7 年度 富山高校訪問 富山大学医学部医学科 模擬授業	40		13	
124	富山ユニットセンター	2025/7/25	これからの光線過敏症診療	その他（皮膚科医師）	その他（オンライン講演（ネイリンインターネットライブセミナー））	Medical.eisai.jp				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
125	富山ユニットセンター	2025/7/28	妊娠女性のパートナー男性における長時間労働は精神的苦痛と関連する（エコチル調査より）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
126	富山ユニットセンター	2025/7/28	生命科学入門　人間社会を知るための“生物”としてのヒトの特徴	大学等の学生	イベント講演等_対面	富山大学講義（教養教育　生命科学入門）			71	
127	富山ユニットセンター	2025/8/5	「北日本新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠女性のパートナー男性における長時間労働は精神的苦痛と関連する（エコチル調査より）」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
128	富山ユニットセンター	2025/8/21	栄養と”こころ”の科学：「お魚」の持つ健康パワー	地域の一般住民/大学等の学生/その他（青森県立保健大学教職員）	イベント講演等_対面	青森県立保健大学大学院 健康科学研究科 2025 大学院公開ゼミ			22	
129	富山ユニットセンター	2025/8/28	「富山新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠女性のパートナー男性における長時間労働は精神的苦痛と関連する（エコチル調査より）」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
130	富山ユニットセンター	2025/9/5	業務データを活かす力：調査設計から AI 活用まで	その他（青森県立保健大学教職員）	イベント講演等_対面	令和 7 年度 FD・SD 研修会			42	参加人数内訳：教員 27 名、事務職員 15 名
131	富山ユニットセンター	2025/9/24	パパが育児に積極的だと乳幼児期の子どものケガが減るかも！	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（県内全小学校）	広報誌等（紙面）/HP	エコチルとやま新聞 32 号/エコチル富山ホームページ「エコチルとやま新聞」	5,400			
132	富山ユニットセンター	2025/9/29	妊娠中のオメガ 3 脂肪酸摂取が愛着形成（ボンディング）の促進と関連する（エコチル調査）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「エコチル調査でわかったこと」				
133	富山ユニットセンター	2025/10/2	産後うつには、オメガ 3 脂肪酸以外にもオメガ 6 脂肪酸が関係している！	その他（日本脂質栄養学会 HP 閲覧者）	HP	日本脂質栄養学会>オメガ 3-食と健康に関する委員会>オメガ博士による最新論文紹介				
134	富山ユニットセンター	2025/10/6	みなさまのご協力からたくさんの研究成果が発表されています	参加者	広報誌等（紙面）	質問票提出への謝礼台紙	2,000			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
135	富山ユニットセンター	2025/10/6	「北日本新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「妊娠中のオメガ3脂肪酸摂取が愛着形成（ボンディング）の促進と関連する（エコチル調査）」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP「メディアに紹介されました」				
136	富山ユニットセンター	2025/10/1	“エコチル調査”はあなたの子育てを応援しています♪	地域の一般住民/その他（富山県内保育所(園)・こども園・幼稚園、小学校、富山県内施設、スポンサー企業等）	広報誌等（紙面）	KidsDo とやま 10・11 月号	31,500			
137	富山ユニットセンター	2025/10/14	妊婦さんのオメガ3脂肪酸摂取とボンディング（愛着形成）	その他（日本脂質栄養学会 HP 閲覧者）	HP	日本脂質栄養学会>オメガ 3-食と健康に関する委員会>オメガ博士による最新論文紹介				
138	富山ユニットセンター	2025/10/16	さまざまなライフステージにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の役割	その他（2025 年度全国栄養士大会の管理栄養士・栄養士・養成校学生等）	HP	2025 年度全国栄養士大会・オンライン				
139	富山ユニットセンター	2025/10/10	目が悪くなる＆ゲームがやめられないしくみを学ぼう！	その他（富山市立奥田小学校の児童、教職員、保護者など）	イベント講演等_対面	令和 7 年度学校保健委員会			520	参加人数内訳：児童 440 名、教員 30 名、保護者 50 名
140	富山ユニットセンター	2025/11/4	出産前後における母親の心理的苦痛と、子どもの精神神経発達遅延との関係	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP＞エコチル調査でわかったこと				
141	富山ユニットセンター	2025/11/10	「北日本新聞」に、エコチル調査をもとに発表した「出産前後における母親の心理的苦痛と、子どもの精神神経発達遅延との関係」の記事が掲載されました。	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査富山ユニットセンターHP＞メディアに紹介されました				
142	富山ユニットセンター	2025/11/25	“エコチル調査”はあなたの子育てを応援しています♪	その他（富山市内の保育所(園)・こども園・幼稚園に通うこども、小学校 1～6 年生児童全員、富山市行政機関各所など）	広報誌等（紙面）	KidsDo とやま vol.39 付録 とやまし ぼうさい すごろく	33,000			
143	富山ユニットセンター	2025/3/3	衛生学・公衆衛生学からの学び －社会に聴診器をあてて－	大学等の学生/その他（富山大学教職員）	イベント講演等_対面	第 103 回 富山大学医学会学術集会 教授退任記念講演会			80	
144	富山ユニットセンター	2025/3/7	エコチルとやま新聞 31 号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者/その他（県内全小学校）	広報誌等（紙面）/HP	エコチルとやま新聞 31 号/エコチル富山ホームページ「エコチルとやま新聞」	5,400			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
145	富山ユニットセンター	2025/3/28	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（県内全小学校）	その他（ポスター配布）	富山 UC 作成 A3 サイズポスター	500			
146	富山ユニットセンター	2025/7/9	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の一般住民	その他（車貼付用マグネット広告）					学外での対面検査、関係機関への訪問等に使用するレンタカーに貼付
147	富山ユニットセンター	2025/7/10	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の一般住民/その他（魚津市内の保育所(園)・こども園・幼稚園、魚津市行政機関、魚津市子育て支援センター、魚津市保健センター等）	広報誌等（紙面）	魚津市子育て支援ガイドブック 2025	2,500			
148	富山ユニットセンター	対面イベント：2025/7/19 ちらし発行：2025/7/3	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の一般住民/その他（魚津市立小学校）	広報誌等（紙面）/イベント講演等_対面/）	うおづこどもせんきょ/うおづこどもせんきょ	4,000	483	483	
149	富山ユニットセンター	2025/9/1	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の一般住民	その他（街頭モニターに 15 秒広告動画を 10 分毎に放映）					2026/2 末まで放映。試行放映は 2025/8 中から実施された。
150	富山ユニットセンター	2025/9/23	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の一般住民	広報誌等（紙面）/HP/イベント講演等_対面	エコチル調査でわかったこと vol.1〜3 エコチル調査ってなぁに？/リトル・ママフェスタ富山 2025Sep/リトル・ママフェスタ in 富山	各 330	799	799	
151	富山ユニットセンター	2025/9/29	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	地域の一般住民	その他（公共バス（富山地方鉄道バス）に広告ラッピングし、10 月〜2 月運行）					2026/2/28 まで運行
152	富山ユニットセンター	2025/11/25	未来の子どもたちのために一今できることーエコチル調査	その他（富山市内の保育所(園)・こども園・幼稚園に通うこども、小学校 1〜6 年生児童全員、富山市行政機関各所など）	広報誌等（紙面）	KidsDo とやま 12 月号	33,000			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
153	愛知ユニットセンター	2025/2/14	母子相互作用の神経基盤と心理的健康のメカニズム	大学等の学生	イベント講演等_対面	母子相互作用の神経基盤と心理的健康のメカニズム			20	
154	愛知ユニットセンター	2025/3/1	”ドラエもん”をスルー出来ない脳	大学等の学生	イベント講演等_対面	最終講義				
155	愛知ユニットセンター	2025/2/28	エコ愛知通信(Volume9/Mar.2025)	参加者	広報誌等（紙面）	エコ愛知通信(Volume9/Mar.2025)	5,157			
156	愛知ユニットセンター	2025/3/11	名古屋市北区学校掲示ポスター	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）	エコチル調査ポスター	26			
157	愛知ユニットセンター	2025/3/21	一宮市保護者向けアプリを通した情報発信	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	その他（一宮市 小中学校向け保護者連絡アプリを通じた発信）		29,000			配信対象者数：29000 人
158	愛知ユニットセンター	2025/3/21	一宮市公式ホームページへの動画掲載	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	一宮市公式ウェブサイト				
159	愛知ユニットセンター	2025/3/29	子ども達の未来のために ～犬山市における思春期からのプレコンセプションケア拠点づくりを考える～	地域の一般住民	イベント講演等_対面	犬山市協働プラザ「いぬやまみらいテーブル」			12	
160	愛知ユニットセンター	2025/4/23	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）について	大学等の学生	イベント講演等_対面	母子の健康科学特論			8	
161	愛知ユニットセンター	2025/5/2	小児環境保健疫学調査、エコチル調査って何？	大学等の学生	イベント講演等_対面			127	127	
162	愛知ユニットセンター	2025/6/2	名市大医学研究科広報誌『瑞医』VOL.56	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/大学等の学生	広報誌等（紙面）/HP	『瑞医』VOL.56/名古屋市立大学医学研究科 HP	6,200			
163	愛知ユニットセンター	2025/5/27	胎児の発育	大学等の学生					16	
164	愛知ユニットセンター	2025/6/1	エコチル調査の歩みとこれから	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	広報誌等（紙面）					

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
165	愛知ユニットセンター	2025/6/3	「未来の子どもの健康と子育て環境の向上をめざして」および「子どもの健康生活指標となる尿バイオマーカー開発と親子への情報提供方法の検討」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民	イベント講演等_対面	共創まちづくりシンポジウム2025			250	
166	愛知ユニットセンター	2025/6/5	出生コホート研究による喘息に関する最近の話題	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等_対面	第26回名古屋呼吸器研究会			200	
167	愛知ユニットセンター	2025/7/11	社会と医学-感染症と予防接種	大学等の学生	イベント講演等_対面	社会と医学　感染症と予防接種			89	
168	愛知ユニットセンター	2025/7/18	育児と社会：多層的な養育行動がもたらす健康への影響	大学等の学生	イベント講演等_対面	社会と医学			139	
169	愛知ユニットセンター	2025/7/31	環境化学物質と健康ーからだに取り込まれた化学物質の量を知る	その他（名古屋市立の高校の高校生）	イベント講演等_対面	2025年度大学丸ごと研究室体験		4	4	
170	愛知ユニットセンター	2025/10/3	ECO AICHI 通信 Volume10	参加者	広報誌等（紙面）	ECO AICHI 通信 Volume10	5,200			
171	愛知ユニットセンター	2025/10/19	北区区民まつり きた・きたフェスタでの上映	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	北区区民まつり きた・きたフェスタ		104		
172	愛知ユニットセンター	2025/11/27	エコチル調査の実際ー将来データを扱うかもしれない皆に知っておいてほしいことー	大学等の学生	イベント講演等_対面		0		60	
173	愛知ユニットセンター	2025/12/18	環境化学物質や子どもの健康と環境の関係について学ぶ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民	イベント講演等_対面	化学物質セミナー			80	
174	愛知ユニットセンター	2025/7/24	七夕まつりでのポスター掲示	地域の一般住民	その他（ポスター掲示）	一宮七夕まつり			1039000	
175	京都ユニットセンター	2025/2/14	Association between low MCV in early pregnancy and perinatal mental health in the Japan Environment and Children's Study and the possible effect of iron deficiency	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	エコチルどすえかわら版27号（2025年2月14日発行）	3,800			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
176	京都ユニットセンター	2025/7/11	かわら版 28 号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチルどすえ かわら版 28 号エコチルどすえ@京都	3,100			
177	大阪ユニットセンター	2025/1/27	大阪 UC ホームページにおける発表済み論文の掲載	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
178	大阪ユニットセンター	2025/2/19	大阪 UC ニューズレター「たこチルだより Vol.19」及び大阪 UC ホームページ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	たこチルだより Vol.19 大阪 UC ホームページ	7,600			
179	大阪ユニットセンター	2025/3/2	第 14 回エコチル調査シンポジウム UC 紹介ポスター展示およびブース出展	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	第 14 回エコチル調査シンポジウム		30		
180	大阪ユニットセンター	2025/3/31	大阪 UC ホームページにおける発表済み論文の掲載	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
181	大阪ユニットセンター	2025/4/30	大阪 UC ホームページにおける発表済み論文の掲載	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
182	大阪ユニットセンター	2025/5/2	母子保健　Maternal and Child Health	大学等の学生	イベント講演等_対面	大阪大学医学部 3 年次講義「公衆衛生学」	100		100	
183	大阪ユニットセンター	2025/5/27	全体セミナー	大学等の学生/その他（所属研究室内の研究員）	イベント講演等_対面	全体セミナー			11	
184	大阪ユニットセンター	2025/7/2	健康教育学	大学等の学生	イベント講演等_対面	琉球大学医学部保健学科「健康教育学」	20		100	
185	大阪ユニットセンター	2025/7/24	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	その他（学童期検査）	配布プリント学童期検査スタッフ研修	9		9	
186	大阪ユニットセンター	2025/7/30	出生コホート・ライフコース疫学	大学等の学生	イベント講演等_対面	大阪大学大学院医科学専攻修士課程「疫学各論」			6	
187	大阪ユニットセンター	2025/9/19	エコチル調査について	その他（一般派遣スタッフ）	その他（学童期検査）	配布プリント学童期検査スタッフ研修	9		9	

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
188	大阪ユニットセンター	2025/9/30	大阪母子医療センター年報でのエコチル調査活動報告	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（母子医療センターHP の閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	大阪母子医療センター　年報 2024 年度　第 43 号/母子医療センターHP	430			
189	大阪ユニットセンター	2025/7/17	たこチルの論文探検隊！「1 歳半での夜間睡眠時間と、3 歳での身長の関係」	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
190	大阪ユニットセンター	2025/9/25	たこチルの論文探検隊！「妊娠中にお母さんがうけたソーシャルサポートと、3 歳の子どもの発達の関係」	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
191	大阪ユニットセンター	2025/10/29	エコチル調査大阪ユニットセンターの活動について	その他（第 84 回日本公衆衛生学会総会参加関係者）	イベント講演等_対面	第 84 回日本公衆衛生学会総会		80	5,500	
192	大阪ユニットセンター	2025/11/1	第 1 回エコチル調査全国フォーラム　UC 紹介ポスター展示およびブース出展	参加者	イベント講演等_対面	第 14 回エコチル調査シンポジウム		50		
193	大阪ユニットセンター	2025/10/19	エコチル調査でわかってきたこと	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	エコチル調査おおさかユニットセンター講演会 2025	80		80	
194	大阪ユニットセンター	2025/11/17	大阪 UC ホームページにおける発表済み論文の掲載	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
195	大阪ユニットセンター	2025/11/17	たこチルの論文探検隊！「１歳時の便秘と、3 歳までのアトピー性皮膚炎の関係」	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
196	大阪ユニットセンター	2025/10/29	たこチルの論文探検隊！「新生児搬送された子どもの 3 歳の時の発達のようす」	その他（大阪 UC のホームページ閲覧者）	HP	大阪 UC ホームページ				
197	大阪ユニットセンター	2025/12/5	社会医学・公衆衛生学分野： 微量金属元素や化学物質と健康	大学等の学生	イベント講演等_対面	大阪大学医学部保健学科 4 年次講義「社会医学」	100		38	
198	大阪ユニットセンター	2025/12/25	2024 年度母子保健情報センター報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民//その他（母子医療センターHP の閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	2024 年度母子保健情報センター報告書/母子医療センターHP	200			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
199	兵庫ユニットセンター	2025/1/21	Health effects of exposure to air pollution during pregnancy and early childhood in a birth cohort study	大学等の学生/その他（北京大学及び附属病院の研究者）	イベント講演等_対面	Air Pollution and Health: The latest research progress on air pollution and health in China and Japan			20	
200	兵庫ユニットセンター	2025/2/1	小学６年生学童期検査・10歳詳細調査	参加者	その他（調査会場に掲示）	小学６年生学童期検査・10歳詳細調査			150	
201	兵庫ユニットセンター	2025/3/11	エコチルひょうごたより第10号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	エコチルひょうごたより第10号/エコチルひょうご	4,735			
202	兵庫ユニットセンター	2025/6/5	保健統計学	大学等の学生	イベント講演等_対面	兵庫医科大学看護学部２年生対象の講義「保健統計学」			110	
203	兵庫ユニットセンター	2025/6/4	PM2.5をはじめとする大気汚染の健康影響（阪神シニアカレッジ健康学科講義）	その他（兵庫県が設置するシニアのための学びの場（４年制）の聴講生）	イベント講演等_対面	阪神シニアカレッジ健康学科講義１年生「PM2.5をはじめとする大気汚染の健康影響」			50	
204	兵庫ユニットセンター	2025/6/17	環境中に存在する化学物質の健康影響（阪神シニアカレッジ健康学科講義）	その他（兵庫県設置のシニアのための学びの場の聴講生（4年制の２年次））	イベント講演等_対面	阪神シニアカレッジ健康学科講義２年生「環境中に存在する化学物質の健康影響」			50	
205	兵庫ユニットセンター	2025/6/14	小学６年生学童期検査・12歳詳細調査	参加者	その他（学童期検査・詳細調査会場に掲示）				706	
206	兵庫ユニットセンター	2025/9/13	PM2.5をはじめとする大気汚染による健康影響（大阪大学大学院講義）	大学等の学生	その他（オンライン講義）	大阪大学大学院修士課程（医科学専攻）公衆衛生学コース選択必須科目「環境健康リスク論」			6	
207	兵庫ユニットセンター	2025/11/29	アレルギーと環境	地域の一般住民	イベント講演等_対面	兵庫医科大学　公開講座			46	
208	兵庫ユニットセンター	2025/12/20	エコチル調査でわかってきたこと	地域の一般住民/参加者/大学等の学生	イベント講演等_対面/その他（第７回ひょうごユースecoフォーラムにおけるポスター展示）	第７回ひょうごユースecoフォーラム			120	
209	鳥取ユニットセンター	2025/2/28	がいなだより Vol.31	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	広報誌等（紙面）/HP	がいなだより Vol.31/エコチル調査鳥取ユニットセンター	2,637			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
210	鳥取ユニットセンター	2025/9/29	鳥取ユニットセンターでの主な成果と情報伝達について	地域の一般住民	広報誌等（紙面）	化学物質と環境				
211	鳥取ユニットセンター	2025/11/29	エコチルなんでも相談会	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	エコチル調査なんでも相談会		156	156	
212	鳥取ユニットセンター	2025/10/18		参加者	イベント講演等_対面	出前おもしろ実験室		76	76	
213	高知ユニットセンター	2025/2/5	こうちエコチル調査 SNS 更新　※花粉症について（3～7 歳児）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS 閲覧者）	その他（SNS(Instagram、Facebook、Twitter)					
214	高知ユニットセンター	2025/2/6	こうちエコチル調査　子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2～エコチル調査報告書「高知版特別号」2～ 及びこうちエコチル調査ホームページ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（関係各所、ホームページ閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	こうちエコチル調査　子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 エコチル調査報告書「高知版特別号」2/こうちエコチル調査（分かってきたこと/エコチル調査報告書）	8,212			※今後配布予定あり
215	高知ユニットセンター	2025/2/6	こうちエコチル調査　子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/大学等の学生	広報誌等（紙面）	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ	57,233			※今後配布予定あり
216	高知ユニットセンター	2025/2/17	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるん News」vol.25 及びこうちエコチル調査ホームページ	参加者/その他（ホームページ閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるん News」vol.25/こうちエコチル調査	6,560			
217	高知ユニットセンター	2025/3/2	第 14 回エコチル調査シンポジウム展示用ポスター	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（来場者、ホームページ閲覧者）	HP/イベント講演等_対面	第 14 回エコチル調査シンポジウム				※ブース設置のみで無人対応
218	高知ユニットセンター	2025/4/18	こうちエコチル調査 SNS 更新　※歯ぎしり（5 歳 6 ヵ月）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS 閲覧者）	その他（SNS(Instagram、Facebook、Twitter)					

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
219	高知ユニットセンター	2025/5/1	こうちエコチル調査 SNS 更新　※外遊び（5 歳 6 ヵ月）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS 閲覧者）	その他（SNS(Instagram、Facebook、X)）					
220	高知ユニットセンター	2025/5/13	こうちエコチル調査ホームページ更新	地域の一般住民/参加者/その他（ホームページ閲覧者）	HP	こうちエコチル調査（分かってきたこと/学術論文）				
221	高知ユニットセンター	2025/5/21	こうちエコチル調査 SNS 更新　※予防接種（7 歳）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS 閲覧者）	その他（SNS(Instagram、Facebook、X)）					
222	高知ユニットセンター	2025/5/29	子どもの健康とエコチル調査（子どもの健康と環境に関する全国調査）	大学等の学生	イベント講演等_対面	小児看護学概論：子どもの健康とエコチル調査			56	
223	高知ユニットセンター	2025/6/9	こうちエコチル調査 SNS 更新　※入浴（5 歳 6 ヵ月）	地域の一般住民/参加者/その他（SNS 閲覧者）	その他（SNS(Instagram、Facebook、X)）					
224	高知ユニットセンター	2025/6/15	けんみん健康まつりブース出展	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ/けんみん健康まつり 2025	100	150	308	※イベント参加人数は資料配布数
225	高知ユニットセンター	2025/7/4	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるん News」vol.26 及びこうちエコチル調査ホームページ	参加者/その他（ホームページ閲覧者）	広報誌等（紙面）/HP	エコチル調査高知ユニットセンター会報誌「ちょるるん News」vol.26/こうちエコチル調査	6,313			
226	高知ユニットセンター	2025/7/4	令和 6 年度高知ユニットセンター活動報告書	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	その他（PDF にてメール配信）					
227	高知ユニットセンター	2025/7/23	こうちエコチル調査ホームページ更新	地域の一般住民/参加者/その他（ホームページ閲覧者）	HP	こうちエコチル調査（分かってきたこと/学術論文）				
228	高知ユニットセンター	2025/8/9	こうちエコチル調査広報イベント「研究者に会いに行こう！」開催	参加者	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ/こうちエコチル調査「研究者に会いに行こう！」	17	34	34	
229	高知ユニットセンター	2025/11/10	こうちエコチル調査ホームページ更新	地域の一般住民/参加者/その他（ホームページ閲覧者）	HP	こうちエコチル調査（分かってきたこと/学術論文）				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
230	高知ユニットセンター	2025/11/20	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）　未来の子どもたちの健康を守るために　こうちエコチル調査の取り組みと今後の展望	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査　子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ ※会報誌 vol.25/高知県教育委員会主催「令和７年度 学校保健・健康教育推進研修会」	370		370	
231	高知ユニットセンター	2025/11/30	第 25 回「青少年のための科学の祭典」高知大会ブース出展	地域の一般住民/参加者	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ/第 25 回「青少年のための科学の祭典」高知大会	126	149	493	
232	高知ユニットセンター	2025/12/1	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）　未来の子どもたちの健康を守るために こうちエコチル調査の取り組みと今後の展望	その他（高知県教育委員会教育委員）	その他（訪問面談）	こうちエコチル調査　子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ ※会報誌 vol.25.26	1		3	
233	高知ユニットセンター	2025/12/4	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）　未来の子どもたちの健康を守るために こうちエコチル調査の取り組みと今後の展望	その他（地域の小学生）	イベント講演等_対面	出前授業			134	
234	高知ユニットセンター	2025/12/6	こうちエコチル調査広報イベント「コーヒーセミナー」開催	参加者	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ/コンシェルジュデスク・スペシャルデー　エコチル調査×スターバックス『コーヒーセミナー』	36	36	36	
235	高知ユニットセンター	2025/12/11～12	子どもの健康と環境に関する全国調査　エコチル調査　高知ユニットセンター	その他（日本内分泌撹乱物質学会第 27 回研究発表会参加者）	その他（日本内分泌撹乱物質学会第 27 回研究発表会付設展示）	日本内分泌撹乱物質学会第 27 回研究発表会				
236	高知ユニットセンター	2025/7/1～2025/9/30	イオンモール高知広告掲出及び Instagram 🎁 企画「ちょるるんを探せ！」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者//その他（イオンモール高知来場者）	HP/その他（塩ビシール(イオンモール高知フードコート机 300 席・エレベーター3 基)/SNS）	こうちエコチル調査				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
237	高知ユニットセンター	2025/4/13	「第 91 回赤ちゃん会」高知会場における広報資材配布	地域の一般住民	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ/第 91 回赤ちゃん会（高知会場）	1,030		1,030	
238	高知ユニットセンター	2025/4/27	「第 91 回赤ちゃん会」幡多会場における広報資材配布	地域の一般住民	イベント講演等_対面	こうちエコチル調査子育てコラム集「ずっと、ぎゅっと！」vol.2 周知チラシ/第 91 回赤ちゃん会（幡多会場）	114		114	
239	高知ユニットセンター	2025/6/19～	協力医療機関にて動画配信	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（デジタルサイネージ閲覧者）	その他（幡多けんみん病院 A・B 外来デジタルサイネージ装置）					動画をコアセンターに許可申請後貸出中（2027 年 3 月 31 日まで）
240	高知ユニットセンター	2025/8/1	高知県幡多けんみん病院広報誌「はた家」vol.10 記事掲載	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/その他（幡多けんみん病院来院者）	広報誌等（紙面）/HP					
241	高知ユニットセンター	2025/12/23～2026/3/31	イオンモール高知広告掲出	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/その他（イオンモール高知来場者）	その他（塩ビシール(イオンモール高知フードコート机 300 席)）					
242	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/10/17	ホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	HP	産業医科大学サブユニットセンターホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」				
243	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/10/22	ホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」（10/22 アップロード分）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	HP	産業医科大学サブユニットセンターホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」				
244	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/11/17	ホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」（11/17 アップロード分）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	HP	産業医科大学サブユニットセンターホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」				
245	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/11/19	ホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」（11/19 アップロード分）	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	HP	産業医科大学サブユニットセンターホームページ　研究成果「エコチル調査でわかったこと」				

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
246	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/1/1	産業医科大学サブユニットセンターホームページ・スタッフブログ	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生/その他（HP 閲覧者）	HP	エコチル調査ふくおか産業医科大学サブユニットセンター スタッフブログ「ふくちゃんの日々」				
247	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/1/1	産業医科大学サブユニットセンターSNS	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生/その他（SNS 閲覧者）	その他（SNS（Instagram））	エコチル産業医大（fukuchan2032）				
248	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/1/1	産業医科大学サブユニットセンターYoutube 動画配信	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生/その他（Youtube 閲覧者）	HP/その他（Youtube（参加者ポータルお知らせ配信含む））	エコチル調査ふくおか ふく Channel				
249	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/1/30	産業医科大学サブユニットセンターYoutube 動画配信「届けエール!! 2025 年のキミへ」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生/その他（Youtube 閲覧者）	HP/その他（Youtube（参加者ポータルお知らせ配信含む））	エコチル調査ふくおか ふく Channel エコチルティーンズプロジェクト　第 3 弾				
250	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/2/1～	参加者ポータル　参加者限定コンテンツ『産業医大ドクター独占インタビュー』動画配信	参加者	その他（参加者ポータルお知らせ配信（動画は Youtube 限定公開））	エコチルティーンズプロジェクト　第 1 弾				以下の本数を配信済 2025 年 2 月：3 本 2025 年 3 月：2 本
251	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/3/20～	参加者ポータル　参加者限定 LINE スタンプ配布	参加者	その他（参加者ポータルお知らせ配信・ニュースレター等 QR コード掲載）	LINE スタンプ作ってみらん？/エコチルティーンズプロジェクト　第 2 弾				配布開始日 シリーズ 1：2025 年 3 月 20 日 シリーズ 2：2025 年 5 月 23 日 シリーズ 3：2025 年 8 月 5 日
252	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/6/13～	参加者ポータル　参加者限定企画「Tell me your dream～夢を話そう～」	参加者	その他（参加者ポータルお知らせ配信・ニュースレター等 QR コード掲載）	エコチルティーンズプロジェクト　第 4 弾				
253	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/7/24～	第 5 回エコチルキッズコンテスト「キミ色スターコンテスト」	参加者	その他（コンテスト）	キミ色スターコンテスト/エコチルティーンズプロジェクト第 5 弾	2,839			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
254	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/1/1	子どもアンケート（11歳・12歳）同封カード・折本	参加者	広報誌等（紙面）	指令書・御礼の書	4,903			
255	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/2/21	タイムカプセルカレンダー	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	その他（カレンダー）					
256	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/7/24	ニュースレター「はっぴ～エコチル vol.19」	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）	はっぴ～エコチル vol.19				
257	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/3/19～26	小学6年生向け　修了証書	参加者	その他（修了証書）					
258	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/11/24	参加者向けフォローアップイベント（九工大）	参加者	イベント講演等_対面	九州工業大学の先生が行う科学教室　超伝導体による浮上実験 ～超伝導体と磁石はどう違うか？～		89		
259	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/12/8	参加児向けクリスマスカード配布	参加者	その他（ハガキ）	クリスマス	2,842			
260	福岡ユニットセンター（九州大学）	2025/3/28	子どもの睡眠障害の早期回復は発達障害のリスク低減に関係する？	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	HP	エコチル調査九州大学福岡ユニットセンター　HOME?調査で分かったこと				
261	福岡ユニットセンター（九州大学）	2025/3/28	妊娠中のお母さんの職業上の抗がん剤・放射性物質の取り扱いは、こどもの死産・流産や形態異常に影響する？	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者/大学等の学生	HP	調査で分かったこと　エコチル調査九州大学　福岡サブユニットセンター				
262	福岡ユニットセンター（九州大学）	2025/12/5	ふぁんふぁん福岡 2025.12.5 号	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/地域の一般住民/参加者	広報誌等（紙面）/HP	ふぁんふぁん福岡 2025.12.5 号	320,000			

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	対象	発表媒体	広報雑誌・HP・イベント・講演等名	広報誌等の配布数	イベント講演等の参加人数	イベント全体の参加人数	備考
263	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2025/2/20	人吉球磨月刊情報誌『どぅぎゃん』2025年3月号	地域の一般住民	広報誌等（紙面）	人吉球磨月刊情報誌『どぅぎゃん』	5,000			
264	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2025/3/2	南九州・沖縄ユニットセンター第14回エコチル調査シンポジウムポスター	参加者/その他（シンポジウムに参加された方）	イベント講演等_対面					
265	南九州沖縄ユニットセンター（宮崎）	2025/11/19	・これまで答えた質問票はどんなことに役立つの？ ・エコチル調査の研究結果	地域の調査協力機関（医療機関、自治体、保健所、学校等の関係者）/参加者	広報誌等（紙面）/HP	のべチルぷらす+　Vol.4　エコチル調査宮崎大学サブユニットセンター	1,521			

１－６　地域の協力機関への情報提供　37 件

（令和７年１月から令和７年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	広報(情報提供)の対象	媒体等	参加人数・配布数
1	北海道ユニットセンター	2025/1/23	第 15 回北海道ユニット北見地区運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会	対面	49
2	北海道ユニットセンター	2025/2/19	エコチル調査北海道ユニットセンター旭川サブユニット 令和 6 年度旭川地区運営協議会	医療機関/自治体/学校/教育委員会	対面	26
3	北海道ユニットセンター	2025/2/21	エコチル調査北海道ユニットセンター 令和 6 年度 札幌地区運営協議会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	23
4	福島ユニットセンター	2025/1/31	福島県におけるエコチル調査学童期検査実施状況	医療機関	対面	14
5	福島ユニットセンター	2025/2/5	エコチル調査学童期検査(小学６年生)実施状況	医療機関	対面	80
6	福島ユニットセンター	2025/2/21	エコチル★詳細調査★だより 105 号	医療機関/その他（協力施設、WISC 検査者）	紙面	49
7	福島ユニットセンター	2025/2/26	10 歳詳細調査の実施状況について	医療機関	対面/紙面	34
8	福島ユニットセンター	2025/3/1	WISC 検査者情報交換会　10 歳詳細調査実施報告	その他（WISC 検査者）	対面	6
9	福島ユニットセンター	2025/3/9	WISC 検査者情報交換会　10 歳詳細調査実施報告	その他（WISC 検査者）	対面	5
10	福島ユニットセンター	2025/3/3	令和 6 年度子どもの健康と環境に関する全国調査「エコチル調査」成果・進捗報告会～DOHaD の夜明け研究会共催～	医療機関/その他（福島県立医科大学関係者、学生、大学院生）	対面/WEB	19
11	福島ユニットセンター	2025/6/5	エコチル★詳細調査★だより 106 号	医療機関/その他（協力施設）	紙面	38
12	福島ユニットセンター	2025/6/16	R7 福島県地域運営協議会委員訪問	学校/教育委員会	対面	10
13	福島ユニットセンター	2025/7/6	福島県におけるエコチル調査の実施状況と今後の課題	医療機関	対面	20
14	福島ユニットセンター	2025/8/1	エコチル★詳細調査★だより 107 号	医療機関/その他（協力施設）	紙面	39
15	福島ユニットセンター	2025/7/28	福島 UC 令和 7 年度福島県地域運営協議会(県域)	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（医師会、看護協会、助産師会等）	対面	28
16	福島ユニットセンター	2025/8/8	福島ユニットセンターにおけるエコチル調査 詳細調査の進捗状況	医療機関	対面	2
17	福島ユニットセンター	2025/10/1	エコチル調査福島ユニットセンター令和 7 年度会津地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員（会津地域））	対面	34
18	福島ユニットセンター	2025/10/20	エコチル調査福島ユニットセンター令和 7 年度県北・相双地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/報道機関/その他（地域運営協議会委員（県北・相双地域））	対面	46
19	福島ユニットセンター	2025/11/6	エコチル調査福島ユニットセンター令和 7 年度いわき地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/その他（医師会）	対面	14
20	福島ユニットセンター	2025/11/27	エコチル調査福島ユニットセンター令和 7 年度県中・県南地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会/その他（医師会）	対面	51

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	広報(情報提供)の対象	媒体等	参加人数・配布数
21	福島ユニットセンター	2025/12/26	エコチル★詳細調査★だより 108 号	医療機関/その他（協力施設）	紙面	38
22	千葉ユニットセンター	2025/12/2	2025 年度（令和 7 年度）エコチル調査 千葉ユニットセンター地域運営協議会 エコチル調査の研究の進捗と成果	医療機関/自治体/その他（地域運営協議会委員）	対面	33
23	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/7/26	1.出生コホート研究参加者の中学生へのグループインタビューの試み 2.山梨県の子どものアレルギー性鼻炎に関する質問票調査及び腸内細菌データを活用した研究について	医療機関/保健所/自治体/教育委員会/その他（運営協議会の委員として参加している医師会や看護協会など諸団体）	対面	35
24	富山ユニットセンター	2025/2/5	令和 6 年度第 1 回エコチル調査富山ユニットセンター運営協議会	医療機関/保健所/自治体/学校/教育委員会	WEB	25
25	愛知ユニットセンター	2025/1/29	第 15 回北区エコチル調査推進員会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	20
26	愛知ユニットセンター	2025/1/31	第 15 回愛知ユニットセンター運営協議会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会/報道機関	対面/WEB	29
27	愛知ユニットセンター	2025/3/28	2023 年度年次活動報告書	医療機関/報道機関/その他（MSC および各 UC・SUC）	紙面	78
28	愛知ユニットセンター	2025/11/13	第 16 回北区エコチル調査推進委員会 会議資料	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	11
29	愛知ユニットセンター	2025/11/13	2024 年度年次活動報告書	医療機関/報道機関/その他（MSC および各 UC・SUC）	紙面	78
30	愛知ユニットセンター	2025/12/25	第 16 回一宮市エコチル調査推進委員会会議資料	医療機関/保健所/教育委員会/その他（参加者代表）	対面	13
31	大阪ユニットセンター	2025/3/13	2024 年度第 2 回エコチル調査大阪ユニットセンター地域運営協議会 2024 年度エコチル調査大阪ユニットセンター産科・小児科合同専門委員会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面	31
32	大阪ユニットセンター	2025/6/25	JECS Osaka Regional (Unit) Center - Overview -	その他（高知ユニットセンター）	対面	20
33	大阪ユニットセンター	2025/10/24	2025 年度第 1 回エコチル調査大阪ユニットセンター地域運営協議会	医療機関/保健所/自治体/教育委員会	対面/WEB	35
34	高知ユニットセンター	2025/6/25	高知 UC 概要・追加調査について	その他（大阪ユニットセンター）	対面	14
35	高知ユニットセンター	2025/6/30	令和 7 年度　第 35 回　地域エコチル調査運営協議会	その他（地域運営協議会委員）	対面/紙面	35
36	高知ユニットセンター	2025/11/17	令和 7 年度　第 36 回　地域エコチル調査運営協議会	その他（地域運営協議会委員）	対面/WEB	37
37	南九州沖縄ユニットセンター（宮崎）	2025/10/29	令和 7 年度エコチル調査宮崎大学サブユニットセンター 地域エコチル調査運営協議会	その他（運営協議会委員）	対面	23

１－７　報道機関への情報提供（自ら依頼する場合)　11 件

（令和７年１月から令和７年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	発表タイトル	掲載媒体名
1	宮城ユニットセンター	2025/3/1～2025/3/31	LINK！"エコチル”キャンペーン	エフエム仙台
2	宮城ユニットセンター	2025/10/3	エコチルレポート（第１回）	エフエム仙台
3	宮城ユニットセンター	2025/11/7	エコチルレポート（第２回）	エフエム仙台
4	宮城ユニットセンター	2025/12/5	エコチルレポート（第３回）	エフエム仙台
5	神奈川ユニットセンター	2025/8/26～2025/8/31	新聞広告	神奈川新聞、朝日新聞神奈川版、朝日中高校生新聞、朝日小学生新聞
6	神奈川ユニットセンター	2025/9/5～2025/9/14	16 年目のエコチル調査	産経新聞（神奈川版）・読売中高校生新聞・読売 KODOMO 新聞
7	大阪ユニットセンター	2025/9/18～	子どもの心と目を守る	泉北コミュニティ
8	大阪ユニットセンター	2025/9/18～	10 月 19 日、子どもの心と目を守る健康と環境調査の講演会　母子医療センター	泉北金剛さやまコミュニティホームページ
9	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2025/3/28～	エコチル調査　未来の子どもたちへ	熊本日日新聞社
10	南九州沖縄ユニットセンター（熊本）	2025/12/22～2026/3/31	「To the fufture of Childlen」子どもたちの未来につながるエコチル調査	TBS　NEWS　DIC
11	南九州沖縄ユニットセンター（宮崎）	2025/7/20～2025/9/19	エコチル調査テレビ CM	UMK テレビ宮崎　テレビ CM

１－８　論文掲載時の報道発表　34 件

（令和７年１月から令和７年 12 月末）

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・詳細調査	追加調査
1	コアセンター	2025/10/31	妊婦の血中重金属元素（鉛、カドミウム、水銀）濃度と妊娠高血圧症候群の関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Associations Between Blood Heavy Metal Concentrations and Hypertensive Disorders of Pregnancy in the Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
2	コアセンター	2025/9/19	妊娠女性の PFAS ばく露と後期流産との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between exposure to perfluoroalkyl compounds during early pregnancy and risk of late miscarriage: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
3	メディカルサポートセンター	2025/9/19	3 歳時の子どもの粒子状物質（PM）ばく露と甲状腺ホルモン値との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査　（エコチル調査）	Association Between Particulate Matter Exposure and Thyroid Hormone Levels in Early Childhood: Results from JECS	中心仮説	
4	メディカルサポートセンター	2025/10/29	妊娠中の母親の血中金属濃度と子どもの BMIz スコア、過体重、肥満：エコチル調査	Maternal blood metal levels during pregnancy and body mass index z-score, overweight, and obesity among children: Findings of the Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
5	メディカルサポートセンター	2025/12/8	"アレルギーマーチ"に沿ったアレルギー性鼻炎は、遺伝的要因が関係 ～エコチル調査を使った全国大規模調査による報告～	Not All Rhinitis Follows the Atopic March: Early-Life Risk Factors and Implication of Infectious Disease Across Three Phenotypes in JECS Cohort	中心仮説外	
6	メディカルサポートセンター	2025/12/12	母親の妊娠中の PFAS ばく露と 4 歳までの小児の神経発達との関連性：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association Between Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Childhood Neurodevelopment up to Age 4: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
7	北海道ユニットセンター	2025/3/7	母体血中金属濃度と咽頭炎(溶連菌)との関連性の検証について 子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between prenatal exposure to maternal metal and trace elements and Streptococcus infection: A prospective birth cohort in the Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
8	北海道ユニットセンター	2025/6/6	妊娠中の PFAS 濃度と 4 歳時点の発達との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Impact of prenatal exposure to per- and polyfluoroalkyl substances on developmental delays in 4-year-old children: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・ 詳細調査	追加 調査
9	北海道ユニットセンター	2025/7/30	出生体重別の成長曲線を作成 ～小さく生まれた子ども・大きく生まれた子どもの成長支援への貢献に期待～	Japanese growth charts stratified by birth weight in 500-gram increments: Findings from the Japan environment and children's study	中心仮説外	
10	北海道ユニットセンター	2025/8/8	産後うつ病対策に新たな光 ～産後女性の心理ネットワーク構造が明らかに～	Stability and Variability of Edinburgh Postnatal Depression Scale Networks among Postpartum Women: Insights from the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
11	北海道ユニットセンター	2025/12/16	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） 「妊娠中の母体血中金属濃度と子の尿路感染症との関連」について	Toxic metals and trace elements in maternal blood and urinary tract infection during the first 2 years of life: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
12	宮城ユニットセンター	2025/3/5	妊娠中の喫煙・受動喫煙は胎盤に重大なリスクを及ぼす　全国８万人の調査から浮き彫りに	Impact of maternal smoking and second-hand smoke exposure during singleton pregnancy on placental abruption: analysis of a prospective cohort study (the Japan Environment and Children's Study)	中心仮説外	
13	宮城ユニットセンター	2025/3/7	ハミガキをする子はおなかの調子もいい～子どもの歯磨き習慣と便秘の関係～	Prospective association of daily toothbrushing frequency and the prevalence of childhood functional constipation: the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
14	福島ユニットセンター	2025/4/22	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） ＜さい帯血中カドミウム濃度と子どもの性比との関連＞について	Impact of cord blood cadmium concentration on neonatal secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
15	福島ユニットセンター	2025/9/30	重金属と子どものぜん鳴：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Heavy metal and childhood wheezing: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
16	福島ユニットセンター	2025/12/16	妊娠中の母親の尿中の有機リン系殺虫剤代謝物濃度と3歳までのぜん鳴との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between maternal urinary metabolites of organophosphate pesticides during pregnancy and wheezing up to 3 years of age: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
17	千葉ユニットセンター	2025/12/9	母親の PFAS ばく露と 4 歳までの子どもの身体の成長との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association between Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Childhood Growth Trajectories up to 4 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・ 詳細調査	追加 調査
18	千葉ユニット センター	2025/12/12	母親の妊娠中の PFAS ばく露と 4 歳までの小児の神経発達との関連性：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Associations Between Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Childhood Neurodevelopment up to Age 4: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
19	甲信ユニット センター（山梨大学）	2025/2/7	山梨県の子どものアレルギー性鼻炎の現状と日常生活への影響について	Association between allergen-specific immunoglobulin E sensitization, allergic rhinitis symptoms, and quality of life in school-aged children.	中心仮説外	○
20	甲信ユニット センター（山梨大学）	2025/2/7	子どものスギ花粉感作とヤケヒョウヒダニ感作および母親のスギ花粉感作との関連	Association of Japanese cedar pollen sensitization in children with Dermatophagoides pteronyssinus sensitization and maternal sensitization: Insights from the Yamanashi Adjunct Study within the Japan Environment and Children's Study (JECS)	中心仮説外	○
21	甲信ユニット センター（山梨大学）	2025/12/9	子どものアレルギー性鼻炎と腸内細菌の関連について	Gut Microbiome Alterations by Allergen Sensitisation and Symptom Severity in Paediatric Allergic Rhinitis	中心仮説外	○
22	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2025/1/17	母親の PFAS ばく露と母体血・さい帯血中の脂質との関連について：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Associations between maternal per- and polyfluoroalkyl substances exposure and lipid levels in maternal and cord blood: The Japan environment and Children's study	中心仮説	
23	富山ユニット センター	2025/1/15	産後うつを簡易予測！手書きで利用可能な診断モデルを日本で開発：エコチル調査	Decision tree learning for predicting chronic postpartum depression in the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
24	富山ユニット センター	2025/4/3	父親が積極的に育児に取り組むと乳幼児期の子どものけがが減る可能性がある（エコチル調査より）	Association between paternal involvement in childcare and child injury: the Japan Environment and Children's Study (JECS)	中心仮説外	
25	富山ユニット センター	2025/6/6	妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量は出産後 6 か月間の母乳栄養の継続と関連する（エコチル調査より）	Association of pre-pregnancy body mass index and gestational weight gain with continued breastfeeding until 6 months postpartum in Japanese women: the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	

No	ユニット センター等名	報道発表日	発表タイトル	論文タイトル	全国調査・詳細調査	追加調査
26	富山ユニットセンター	2025/7/28	妊娠女性のパートナー男性における長時間労働は精神的苦痛と関連する（エコチル調査より）	Association of long working hours with psychological distress in men with pregnant partners: An observational study from the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
27	富山ユニットセンター	2025/9/29	妊娠中のオメガ3脂肪酸摂取が愛着形成（ボンディング）の促進と関連する（エコチル調査）	Dietary intake of omega-3 PUFAs and fish in relation to mother-to-infant bonding in the Japan Environment and Children's Study	中心仮説外	
28	富山ユニットセンター	2025/11/4	出産前後における母親の心理的苦痛と、子どもの精神神経発達遅延との関係	Maternal Psychological Distress Before and After Childbirth and Neurodevelopmental Delay in Toddlers	中心仮説外	
29	富山ユニットセンター	2025/12/8	How Maternal Distress Affects Neurological Development in Children: New Study Sheds Light	Maternal Psychological Distress Before and After Childbirth and Neurodevelopmental Delay in Toddlers	中心仮説外	
30	愛知ユニットセンター	2025/1/14	妊娠中期の尿中ニトロフェノール類濃度と早産、在胎不当過小、低出生体重および子どもの4歳時精神神経発達との関連：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Associations of maternal urinary nitrophenol concentrations with adverse birth outcomes and neurodevelopment delay at 4 years of age: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
31	大阪ユニットセンター	2025/9/30	妊娠期の有機リン系殺虫剤へのばく露と妊娠結果との関連：エコチル調査	Associations between antenatal organophosphate pesticide exposure and adverse pregnancy outcomes: The Japan Environment and Children's Study (JECS)	中心仮説	
32	兵庫ユニットセンター	2025/1/21	母親の仕事での有機溶剤使用と子どものウエスト症候群発症との関連	Association between maternal usage of volatile organic compounds and West syndrome, the Japan Environment and Children's study	中心仮説	
33	兵庫ユニットセンター	2025/12/12	母親の妊娠中のPFASばく露と4歳までの小児の神経発達との関連性：子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）	Association Between Maternal Exposure to Per- and Polyfluoroalkyl Substances and Children Neurodevelopment up to Age 4: The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	
34	福岡ユニットセンター（九州大学）	2025/1/31	放射線・抗がん剤に対する両親の職業性ばく露と死産・流産と形態異常のリスクとの関連	Parental occupational exposure to anticancer drugs and radiation: Risk of fetal loss and physical abnormalities in The Japan Environment and Children's Study	中心仮説	

１－９　報道機関への情報発信（発信された場合）　34 件

（令和７年１月から令和７年 12 月末）

No	ユニットセンター等名	発表年月日	内容※	媒体の種類	媒体名等
1	北海道ユニットセンター	2025/5/20	母体血中金属濃度と咽頭炎(溶連菌) との関連性の検証	HP	ScienceDaily　(海外)
2	宮城ユニットセンター	2025/4/7	歯みがきしっかり→お通じすっきり　子ども８万人超調査　東北大など	新聞	朝日新聞（全国紙）　朝刊
3	福島ユニットセンター	2025/5/23	カドミウムと胎児性別　関連解析　福島医大の論文　国際誌に	新聞	福島民友新聞（地方紙）
4	福島ユニットセンター	2025/5/29	「県立大野病院事件と放射線災害がもたらしたもの」藤森・福島医大教授 産科婦人科学会で特別講演、「2つの未曾有の危機」経験共有・後世に伝える	HP	m3.com
5	福島ユニットセンター	2025/9/30	臍帯血、ぜんそく関連研究　エコチル調査、重金属濃度が影響か	新聞	福島民友（地方紙）
6	福島ユニットセンター	2025/9/30	臍帯血 鉛 ぜんそく	新聞	福島民報（地方紙）
7	福島ユニットセンター	2025/12/16	妊婦の殺虫剤代謝物、３歳までのぜん鳴と関連認められず	新聞	福島民友（地方紙・福島県）
8	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/12/17	子どものアレルギー性鼻炎と腸内細菌の関連について	新聞	教育新聞ウェブサイト教育と社会 2025.12.17 付
9	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/7	“８歳の子ども６割以上にスギ花粉などの抗体”　山梨大が発表	テレビ	NHK 甲府放送局　18：10～OA　ニュースかいドキ
10	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/7	県内子どもの６割が花粉症か 山梨大が調査結果公表	テレビ	YBS 山梨放送　YBS ワイドニュース
11	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/7	スギ花粉の「アレルギー抗体」県内の小学２年生の３人に２人以上に　山梨大学が調査発表	テレビ	UTY テレビ山梨　18：15～OA　スゴろくニュース
12	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/8	小学２年生　花粉症の割合について	新聞	山梨日日新聞朝刊　24 ページ　社会面に掲載
13	甲信ユニットセンター（山梨大学）	2025/2/13	スギ花粉アレルギー抗体　８歳児の陽性率について	新聞	毎日新聞地方版朝刊　15 面　地域面
14	甲信サブユニットセンター（信州大学）	2025/1/29	妊娠期のＰＦＡＳ影響　信州大らエコチル調査活用　脂質の値に変動	HP	環境新聞
15	富山ユニットセンター	2025/1/16	産後うつ予測の機械学習について	新聞	地方紙　富山新聞（富山県）19 ページ
16	富山ユニットセンター	2025/4/4	父の育児参加と子どものけがについて	新聞	地方紙　富山新聞（富山県）14 ページ
17	富山ユニットセンター	2025/6/7	妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量と母乳栄養継続について	新聞	地方紙　北日本新聞（富山県）28 ページ
18	富山ユニットセンター	2025/6/7	妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量と母乳栄養継続について	新聞	地方紙　富山新聞（富山県）19 ページ
19	富山ユニットセンター	2025/7/29	父の長時間労働と精神的苦痛について	新聞	地方紙　北日本新聞（富山県）22 ページ
20	富山ユニットセンター	2025/8/7	父の長時間労働と精神的苦痛について	新聞	地方紙　富山新聞（富山県）19 ページ
21	富山ユニットセンター	2025/9/30	妊娠中のオメガ３脂肪酸摂取と赤ちゃんへの愛情について	新聞	地方紙　北日本新聞（富山県）9 月 30 日付　30 ページ
22	富山ユニットセンター	2025/11/5	出産前後の母親の心理的苦痛と子どもの精神神経発達について	新聞	地方紙　北日本新聞（富山県）11 月 5 日付　28 ページ

No	ユニットセンター等名	発表年月日	内容※	媒体の種類	媒体名等
23	富山ユニットセンター	2025/12/8	出産前後の母親の心理的苦痛と子どもの精神神経発達について	新聞	地方紙　東奥日報（青森県）12月8日　18面
24	富山ユニットセンター	2025/11/1	Maternal Psychological Distress Before and After Childbirth and Neurodevelopmental Delay in Toddlers	HP	Life Science Network
25	富山ユニットセンター	2025/12/8	母親の苦痛、産前より産後が子どもの発達に影響	HP	47NEWS
26	富山ユニットセンター	2025/12/8	How maternal distress affects neurological development in children	HP	MSN News
27	富山ユニットセンター	2025/12/8	How maternal distress affects neurological development in children	HP	Medical Xpress
28	富山ユニットセンター	2025/12/9	How maternal distress affects neurologic development in children	HP	MedLink Neurology
29	富山ユニットセンター	2025/12/9	La détresse maternelle affecte le développement neurologique des enfants	HP	Pourquoi Docteur
30	富山ユニットセンター	2025/12/10	Maternal stress after birth has a strong effect on early development	HP	earth.com
31	富山ユニットセンター	2025/12/30	O sofrimento mental das mães tem impacto na saúde dos filhos	HP	Veja
32	愛知ユニットセンター	2025/5/3	エコチル調査	新聞	中日新聞（全国紙）朝刊教育面
33	愛知ユニットセンター	2025/5/31	キャンパス発研究室めぐり	新聞	全国紙読売新聞
34	福岡ユニットセンター（産業医大）	2025/8/7	新規開発・歯科用咬合力計が小児の「噛む力」を測定 「エコチル調査福岡ユニットセンター産業医科大学サブユニットセンター追加調査」で採用 ～省庁推進の調査で初活用、口を大きく開けづらい方にも対応可能～	HP	住友理工株式会社ホームページ最新ニュース

※注：著作権の関係から WEB 等で一般公表されている場合のみタイトルを記載。一般公開されていない(購読等が必要)場合は内容のキーワード（「○○について」など）を記載。

別添２

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　北海道ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10 月　31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画 （D）実施	**【R7 年度全体目標：13 歳以降調査の継続同意率 65%を目指す！】** 北海道ユニットセンターでは、R6 年度までの 13 歳以降調査継続同意率が **59%**で全国を 10%上回っている。R7 年度も引き続き高い同意率を維持するため、勧奨の主対象である 2013 年生まれに加え、2011, 2012 年度生まれの参加者からも同意を取得するべく、2 グループに分けて取組を行った。 **Plan(P)1:グループ A～2013 年度生まれ** **「学童期検査参加者の同意率を 95%、未参加者の同意率を 40%」** **A-1） ポータルサイトログイン・同意に係る手続きのガイドブック作成** 学童期検査参加者の約 20%はアプリダウンロードのみ完了したステータスで来所する（後述 A-2)。過去 2 年間の分析から、「アプリダウンロードはできたが、先に進めない」と調査継続意欲はあるが、アプリ操作の手続き中に「壁」があることがわかった。そのため、R7 年度はそれぞれの「壁」に対して以下の対策を計画・実施した。 **1位:操作方法がわからない** 親子のアカウントが別だと知らなかった、等の「壁」を考慮しながら、ポータルサイトの使用方法だけではなく、**iPhone や Android スマートフォンの使用方法も含めたガイドブック(図 1)を作成。**検査当日の手続きサポート、および継続同意リマインド郵送時に用いた。 **2 位:ログイン ID とパスワードがわからない** アカウント情報を**「エゾチルカード（図 2)」**に控えてもらい、なくさないよう財布等にいれることを推奨した。 **A-2)学童期検査当日にすべての手続きを完了するためのサポート** 学童期検査に来る参加者は、調査継続に好意的な集団と考えられることから、参加者が当日中に **13 歳以降調査継続同意に関する一連の手続き（子のログイン・プレ質問票まで）を終える**ことを目指した。検査当日は参加者をログインステータスによって 3 グループに分け、「自分でできない」参加者へ必要なサポートをするため、R6 年度同様、以下の対応を行った。 **【検査 2 週間前】** 尿キット発送時に、**同意手続きの手順を書いたパン**

フレット（図 3）を同封して検査当日までの手続き完了を促す。

【当日】 ログインステータスごとの対応を行う

- **代諾者未ログイン・未同意者（20%）**：検査開始スタッフがマンツーマンで手続きサポートを行う
- **代諾者同意完了、子ども未ログイン（40%）**：検査終了後に時間を確保して子どもの 13 歳以降調査勧奨をエコチル調査の意義説明とともに行い、子どもの手続き完了までをサポート
- **全ての手続き完了者（40%）**：調査の意義を改めて説明し、継続意欲を引き続き持ってもらう

A-3）対面調査の参加率 up：学童期キャラバンと土日電話

13 歳以降調査継続の同意取得には**対面で会うことが最重要**であることから対面調査の参加率を上げるため、学童期検査、詳細調査それぞれで以下の計画を実施した。

【学童期検査】 札幌サブユニットセンター小 6 学童期検査参加率を住所別で見たところ、札幌市内特定地域の参加率が有意に低かった。交通の便が良く、自家用車での来所も可能な北海道大学（北大）で過去全ての対面調査を実施してきたが、市内では近年バス路線の減少・廃止が進み公共交通が不便になり北大へ来にくい地域ができたことが理由として考えられた。そのため、学童期参加率 1.5%up（20 人）を目指して、**参加率の低い地域にある 2 病院（J 病院、H 大学病院）を検査会場とした「学童期キャラバン」**を計画・実施した。

【詳細調査】 2 年毎の検査に必ず参加する熱心な参加者がいる一方で、数年間連絡が取れていない参加者が全体の 12%いた。12 歳詳細調査が 13 歳以降調査の同意に直結するため、スタッフが土日に出勤して電話をかけ、一人でも多くのコンタクトを試みた。

P2：グループ B～2011、2012 年度生まれの同意率を 2%上昇

B-1）カーリング体験イベント

カーリングは北海道で盛んであるが、未体験の子どもは多い。すでに中学生になった参加者へも対面する機会として、北見と札幌で**「夏休みカーリングイベント」**を合計 3 回開催した。カーリング会場がない旭川の参加者も参加できるよう、旭川～札幌間の往復バスを手配した。子どもが講師つきのカーリング体験をする間、観覧中の保護者に 13 歳以降調査継続に関する勧奨・手続きサポートを行った。同時に「エコチル調査に関するクイズ」や研究者による「Dr. I のミニ講座～エコチル論文を読んでみよう」も行い、調査への理解を深め、参加意義を改めて認識してもらえるよう働きかけた。企画の目玉として、**オリジナルパッケージの北海道米 2 合プレゼント（図 4）**を用意した。

B-2）弟妹の対面調査参加に合わせた再勧奨

兄弟姉妹での参加者を対象として、R7 年度の対面調査参加者（2013 年度生まれ）の兄姉（2012 年度生まれ以前）について 13 歳以降調査のログイン・同意状況を事前に調べ、手続き未完了の場合は対面調査

	時に兄姉分の勧奨を行った。 **B-3)エコチル調査参加者限定～進路受験相談会** 13 歳以降の調査継続に関する勧奨やサポート実施のために参加者と対面することを目的として、札幌にて現役の北大生から**進路選択・受験に関わる経験談を聞くイベント**を計画した。高校・大学受験を意識し始める中学生参加者親子がユニットセンターに来所し、気楽に情報収集ができる会をイメージした。
（C）評価	**P1:グループ A～2013 年度生まれ　⇒ 一部達成** **学童期検査参加者の同意率を 95%、未参加者の同意率を 40%** **A-1） ポータルサイトログイン・同意に係る手続きのガイドブック作成** **A-2） 学童期検査当日にすべての手続きを完了するためのサポート** **事前案内パンフレット、エゾチルカード、ガイドブック**の 3 段構えを用いたことで、サポートが必要な参加者をあぶり出し、検査当日の「子どもプレ質問票完了」までスムーズに進んだ。昨年までは当日勧奨を諦めていた「時間がない」参加者へもガイドブックを渡すことで家での同意手続きを促すことが容易となった。R7 年 10 月時点での学童期検査参加者の同意率は 97%である。参加者からの声を取り入れ、ガイドブックの改変を随時行った。一方、学童期検査未参加者の同意率は R7 年 9 月末現在で 29%と、目標の 40%を達成できていない。 **A-3)対面調査の参加率 up:学童期キャラバンと土日電話** 学童期キャラバンを実施した 2 日間の参加者数は予定枠を超える合計 23 名だった。特に H 病院会場では 13 名全員が徒歩圏内に在住しており、「行きにくい」ことが検査参加の障壁となっていることがわかった。これまで質問票提出 0 回の参加者が 3 名、3 歳以降質問票未提出の参加者も 5 名参加し、それらの参加者が全て 13 歳以降の継続同意へ繋がった。J 病院、H 大学病院とは学童期検査だけではなく、今後の調査全体での連携協力が得られた。H 病院は数年後日本ハムファイターズ本拠地横へ移転するため、北海道ユニットセンターと日ハムとの連携も期待できる。詳細調査では 10 歳詳細調査時から連絡が取れない参加者のうち 10 名が 12 歳詳細調査に参加した結果、10 歳詳細調査の参加率を 6%上回り、13 歳以降調査にも全員が同意した。 **P2:グループ B～2011、2012 年度生まれの同意率を 2%上昇 ⇒ 未達成** R7 年 9 月末現在 0.9%（23 人）の 13 歳以降継続調査同意がみられた。 **B-1)カーリング体験イベント** 3 回で計 90 名が参加し、うち 2011 年度生まれの 2 名が 13 歳以降調査継続に同意した。普段は一緒にイベントへ出席することのない旭川と札幌の参加者が交流したり、論文を一緒に読むミニ講座では、参加者の子どもから「この結果を今後どう生かしたらよいのか」など鋭い質問が相次いだりと、調査継続意欲の向上に寄与した。オリジナルパッケージのお米 2 合は参加者に加え、当日急遽欠席となった参加者に

	も後日送付したところ大変喜ばれ、13 歳調査継続同意に繋がった。 **B-2）弟妹の対面調査参加に合わせた再勧奨** 兄姉の 13 歳以降調査の継続について「手続きするのを忘れていた」事例が多く、勧奨後のログイン・同意手続き完了に繋がった。 **B-3）エコチル調査参加者限定～進路受験相談会** 最年長の参加者が中 2 であり、まだ受験が先のため、夏休みの開催は見送った。
（A）改善	**P1：グループ A～2013 年度生まれ** **手続きガイドブック**は参加者にわかりやすいと好評であることから、今後の未ログイン・未同意参加者へのリマインドに同封する。対面でのサポートを行わなくてもログイン・同意をする参加者数の増加による「未参加者の同意率 40%」を期待できる。 参加者の移動が大変になる積雪が深い冬期は、これまで対面調査を避けてきたが、積雪の時期にこそ**学童期キャラバン**の意味がある可能性が考えられたため、冬休み期間中の開催を検討中である。 **P2：グループ B～2011、2012 年度生まれ** **カーリングイベント**は予想を超える応募数があり、抽選で落選した参加者も多かったため、R8 年 2 月に「冬のカーリングイベント」を追加開催する。**対面調査での兄姉への再勧奨**は引き続き実施する。**進路受験相談会**は、最年長参加者が受験を意識し始めた冬以降に実施を予定している。P1 の**手続きガイドブック**は、R7 年度中にグループ B（2011、2012 年度生まれ）への 13 歳以降調査継続リマインド発送時にも同封することで、2%（約 40 人）の同意率上昇を目指す。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**P3：紙質問票返送率維持に向けた取組：「ゆるエコ北海道」** 北海道ユニットセンターでは質問票送付時期の工夫や、電話やショートメール等様々な方法で返送依頼を実施してきたが、返送率は全国平均を下回る。分析の結果、最終返送率の約 90%が全ての質問票を提出してきた参加者であり、未提出集団への返送依頼効果は薄いと考えられた。一方で、質問票提出状況が良くない参加者も学童期検査の参加や 13 歳以降調査の継続同意が頻繁にみられることから、協力取りやめがない限り、いつかどこかで参加してもらえることを期待する**「ゆるエコ北海道」：ゆるやかな調査継続スタイル**を尊重し、過度な返送依頼はせず、質問票発送 4 週間後のハガキによる返送依頼のみを行った。 **P4：web 質問票回答率 up に向けた取組：ログインチェック** 北海道ユニットセンターでは 13 歳調査継続同意率が高いにも関わらず、web 質問票回答率が全国平均より低い。その理由として、小 6 での最初のログイン・同意から、実際の中学入学後 web 質問票配信まで時間があることから、その間にアカウント情報やサイトの使用方法

	を忘れてしまい、web 質問票に回答していないことが考えられた。特に調査に意欲的な層はログイン・同意の時期が早く、web 質問票開始まで 1 年以上空くこともある。そこで、すでに 13 歳以降調査の手続きを完了している参加者へも**対面調査の場でログイン**してもらい、ID を忘れている等の事例へ対応を計画・実施した。
（C）評価	**P3：紙質問票返送率維持に向けた取組：「ゆるエコ北海道」** **⇒ 13 歳以降調査継続同意に繋がったことから達成と考える** 紙質問票の返送率に極端な低下はなく、現状を維持できている。学童期キャラバンで過去全て未提出の参加者 3 名が 13 歳以降調査に同意した。北海道では質問票の提出率が良くない参加者も継続同意率が高い。特に学童期非参加かつ質問票提出回数 7 回以下の集団でも 13 歳以降調査の同意が 17%(全国は 9%)である。参加者ごとの参加スタイルを尊重した**「ゆるエコ北海道」**の効果だと考えている。 **P4：web 質問票回答率 up に向けた取組：ログインチェック ⇒未達成** 本取組は現小学 6 年生が web 質問票に回答し始める来年度以降に結果が明らかになる。
（A）改善	質問票提出状況が悪くても、13 歳以降調査継続への意欲が必ずしもないわけではないことから、過度な返送依頼は今後も控える一方、学童期・詳細調査の検査会場では積極的な勧奨を続ける。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	**P5:地域全体を巻き込んだ成果の還元：みんなエコチルサポーター** 参加者への調査成果の還元として、過年度に引き続き論文内容を説明する動画**「オンライン市民講座9：妊娠中の自宅の床材が小児喘息に及ぼす影響」(図 5)**を 1 本公開した。子どもにもわかりやすい内容を目指し、研究者自身のナレーションを吹き込むことで調査を身近に感じられるよう制作した。ID、パスワードが必要な参加者用 web サイト（エゾチルランド）に先行公開した後は、通常の You tube でも公開し、参加者のみならず、幅広い一般市民にもエコチル調査と成果を知ってもらうことを目的とした。 従来、ユニットセンター単独で実施するイベントは企画・運営等に多大な労力を要する上、運営委託費用も高額なため、開催数が頭打ちだった。R7 年度は**大学、行政、地域との連携**をより強化し、それらのイベント・講演会等に積極的に関与する形で、低予算・多数の活動を目指した。大学との連携では、科学系イベント実施、博物館への出展や医療従事者研究者向けの市民セミナー講演等を実施、行政・地域との連携では、高校への出張講義や中学生のユニットセンター訪問職業体験を計画・実施した。 **P6： ユニットセンター成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成**

	以前より、ユニットセンター教員と事務員の成果発表支援チームを作り、成果発表予定課題リストを作成・管理して各課題の執筆責任者へ定期的な進捗確認や会議を随時行って、早期かつ質の高い論文の作成を図っている。R7 年度も**（1）北海道ユニットセンターからの成果発表論文数増加（R6 年度は 5 本）、（2）大学院生の教育の充実**を目標に引き続き実施した。課題の執筆責任者とユニットセンター教員が指導しながら、大学院生や若い研究者が課題執筆に中心的な役割を担うことで次世代の研究者育成を目指した。
（C）評価	**P5:地域全体を巻き込んだ成果の還元 ⇒ 概ね達成** 期間内のイベント等活動回数は 13 回で過去最多であった。「オンライン市民講座」全体の視聴数は前年同期間比 2 倍超となり、新作動画作成とともに ID 等入力不要の Web 上で公開したことで視聴数が増加した。大学との連携により大学全体に調査活動が周知された。その結果、北大博物館から 5 年毎に入れ替える常設展示への誘いがあり、より多くの市民の目に触れることが可能となった。参加者と同年代である中学生の職業体験では、調査意義・成果を伝えるなど、大学・行政と連携した新しいタイプの活動は未開拓の幅広い市民層へのアプローチとなり、緩やかではあるが市民との協力関係を醸成している。 **P6: 成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成 ⇒達成** 期間内に 8 本の論文受理があった（昨年度は 5 本）。うち中心仮説に関わる課題 1 本は、インパクトファクターが 10.3 の雑誌に受理され、発表本数増加と質の高い論文の目標を十分に達成できた。エコチル調査論文を大学院生の学位審査に使うなど、次世代研究者の育成増加も達成できている。対面調査では、北大・日本赤十字北海道看護大学の学部生・大学院生を検査実施スタッフに雇用して調査の推進に協力を得るとともに、様々な学問分野に携わる学生が研究者と触れ合い、疫学調査を学ぶ機会となった。
（A）改善	**P5:地域全体を巻き込んだ成果の還元** 大学・行政のように大きな組織との連携は、低予算で幅広い成果還元が可能である。今後もさらに一般市民を巻き込んだ調査推進、成果還元を行うことで、参加者がエコチル調査への参加意義を再確認でき、前向きに継続する環境を作り出していく。調査参加者への「特別待遇」を維持するため、「オンライン市民講座」の最新作は参加者限定公開を一定期間続け、ログイン ID、パスワードを目に触れやすくして視聴のハードルを下げる。 **P6： ユニットセンター成果発表体制の強化と、次世代の研究者育成** 成果発表は参加者に加え、大学や行政、一般市民にとっても大きなモチベーションとなる。今後のユニットセンター体制を維持する上でも、成果発表を継続的に支援するとともに、優れた研究成果を持つ若い研究者を育て、安定したユニットセンター運営を目指す。

図1：ポータルサイトへのログイン手続きをわかりやすく記載したガイドブック（一部抜粋）





コアセンターの説明書だけでは
自分で手続きが進められない参加者が多く、ポータルサイトの手順以前にスマホの使い方に慣れていないため、途中で諦めてしまう場合が多いことがわかった。

このガイドブックでは、親・子両方の手続きを、家庭のスマホ使用状況によって場合分けし、iPhoneやAndroidの機種ごとに実際の画面のスクリーンショットを図示しながら手順を解説した。



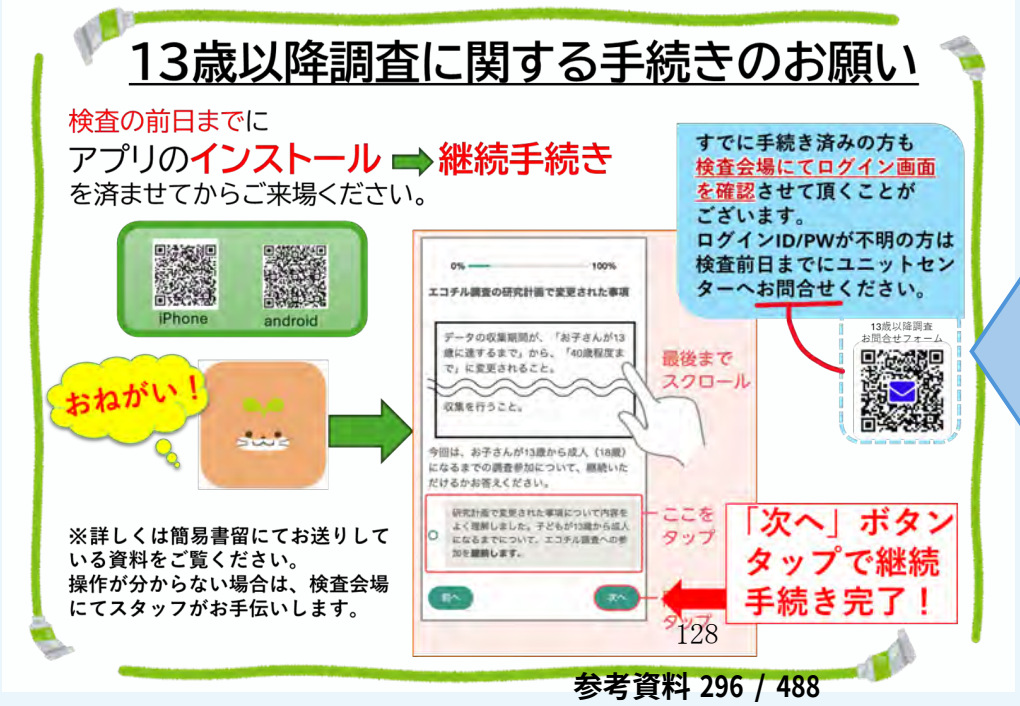
図2：ポータルサイトのアカウントを記載するエゾチルカード



親子それぞれのアカウント情報を
記入して保存してもらう



図3：尿キット発送時に同封する　同意手続きの手順を書いたパンフレット



これによって
対面調査参加者の
約80%が
検査前日までに
代諾者同意の手続
きを済ませて来る

カーリングイベント

図4：オリジナルパッケージの ゆめぴりか







エコチルとやまくんも
来てくれました！



Dr.Iのミニ講座
～エコチル論文を読んでみよう

図5：オンライン市民講座9 （一部抜粋）





最初は参加者限定
「エゾチルランド」で先行公開。
一定期間経過後に多くの市民へも成果を知ってもらうため、
You tubeで公開。





エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　宮城ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　27　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	**P1 参加者との双方向コミュニケーション** **P2 参加者への定期的な成果のお知らせ** **P3 学童期検査参加および調査継続へのモチベーション維持の工夫**
（D）実施	**D1: 参加者との双方向コミュニケーション** **D1-1** 学童期のお子さん・保護者向けのオンラインの参加型セミナーを行い (図１)，アンケートを取り，結果を共有し，次回以降に生かしている．今年度はミナーでは，睡眠，咳および呼吸器問題，メンタルヘルス，ワクチン，成長痛，腹痛（消化器疾患）などの身近な話題について，それぞれの専門家に概説してもらった．さらに講義動画を YouTube にアップし，視聴可能とした． **D1-2** 地域の行事や対面調査時の参加者との対話を，知りたいことの希望やエコチル調査への思いを伺う機会として大切にしている． **D1-3** 当 UC の情報誌「MUC だより」に写真や手紙をお送りいただき，次号に掲載することで，送った人，読んだ人双方がエコチル調査へのモチベーションを保つように工夫している (図 2)． **D2：参加者への定期的な成果のお知らせ** **D2-1** 上記オンラインセミナー開始時に毎回 5 分程度，宮城 UC を始めとするエコチル成果を教員がお話ししている． **D2-2** MUC だより，SNS などで新規の成果を参加者にわかりやすく解説する工夫をしている．HP では，成果の項目を参加者にわかりやすく伝える工夫をしている (図 3)． **D2-3** 今年度は MUC だよりと一緒に近年の成果をまとめた手のひらサイズの成果集をお送りした(図 4)．また，詳細調査参加者に対し，詳細調査の成果をまとめた「しょうさいだより」を送付した（図 5)． **D2-4** 地元 FM ラジオ局と連携し，CM の放送や教員による成果の報告など，広く一般にもエコチル調査を喧伝し，参加者が調査に参加していることを誇らしく思えるような働きかけを行っている(図 6)． **D3：学童期検査参加および調査継続へのモチベーション維持の工夫** **D3-1** 学童期検査は主に集団形式で実施している．週末や長期休暇に

	調査日を設定し，宮城県内 8 会場で，各地域の集団サイズに合わせて調査を行っている．集団調査に参加できない参加者は，個別に調査を行っている．今年度は，参加者の居住地域の分布を考慮して会場を 1 件追加し，参加者の利便性を図った．集団，個別を合わせさまざまな日程，場所を選択できるようにすることで，参加モチベーションを上げる工夫をしている． **D3-2** 参加者により，採血を伴う調査のため，明るく空間的にゆとりのある会場設営を心がけ，圧迫感のない雰囲気作りを行った (図 7). **D3-3** 調査参加への感謝と成果の社会還元の意義を参加者本人・保護者に直接伝えている．集団検査時には「参加してくれたことで社会の色々なところで役に立ってるよ」などの積極的な声掛けの他，会場への成果ポスターやパネルの貼付およびスタッフによる成果の解説を行った (図 7). **D3-4** 学童期集団検査参加時に調査会場限定のプレゼントを準備した．集団検査会場にプレゼントを配置し，さまざまな種類の小さな文房具の中から 3 つを選択できるようにした (図 8).
（C）評価	**C1-1** オンラインセミナーは毎回 10-20 人の参加があり，満足 87%，やや満足 13%と好評だった．また，セミナーは HP や X，市民向けイベントでもお知らせしていたため，エコチル調査を始めて知ったという方もアンケートに答えて下さっていた. **C1-2** 対面調査時に成果やセミナーについてお話することで 13 歳調査継続のモチベーションになったケースもある. **C1-3** MUC だよりにへの返送は 15 件，今年の目標などのお手紙もいただき，双方向コミュニケーションが出来た. **C2** 様々な場所や機会での成果報告の効果について，短期的な評価は難しいが，参加者や一般市民の方から，「ラジオを聞きました」，「エコチルを初めて知りました」というような声をいただく機会が徐々に増えている. **C3-1** 対面調査は週末・休日を中心としたことで，希望する多くの参加者を受け入れることができた．また今年度は，参加者の居住地域の分布を考慮して会場を 1 件追加し，参加者の利便性を図った．医学生による補助も含め調査スタッフを多く配置することでスムースな検査の実施と，13 歳以降調査の勧奨などの声掛けを積極的に行うことが出来た．この結果，対面調査時に参加した 591 名の対象者のうち，13 歳以降調査継続率 86.1%を達成した． その内訳として集団参加者 591 名の内「継続」は 509 名(86.1%)，調査日前に「継続」335 名，声掛け後「継続」173 名(声掛け人数 231 名,74.9%)，

	声掛けなし「継続」1 名であった. **C3-2** 今年度は，調査会場を追加するなど更なる充実を図り，昨年度のノウハウを生かしてよりスムースな検査実施体制を築けたものと考えていが，9 月末時点では，昨年ほどの参加率を達成できていない.
（A）改善	**A1** 保護者や参加者の知りたい情報を届けられるようなセミナーを継続する．オンラインのみならずオンサイトでの企画も計画中である. **A2** 成果集や成果報告，ラジオでの発信などを継続する. **A3** 本年度は，調査未参加者に継続的に勧奨を行い，個別で対応するとともに，まとまった人数の参加が見込める地域では追加の集団調査を行う予定である．また，来年度はより多くの参加者が集団調査に参加できるよう，勧奨の方法や日程について十分に検討を行う.

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	参加者に対する継続的なコミュニケーションや，これまで消極的だった参加者の調査継続・調査への積極的な参加を促すリマインド法を考慮した．また，調査が Web 中心になり，参加者が成長し考え方や生活スタイルが変化していく中で，参加者やその家族とのコミュニケーションをどのようにとるべきか，対面調査をどう利用していくか，などユニット内での体制構築も含め検討を重ね，下記のように計画した. **P1 謝礼の工夫** **P2 リマインド方法の工夫** **P3 対面調査会場での参加者とのコミュニケーション**
（D）実施	**D1 謝礼の工夫** **D1-1** S6 参加者に対しては，ポイントカード (図 9)を作成し調査参加率および質問票回収率向上を図った．具体的には，質問票の提出と、定期的に発送するお知らせハガキ (図 10) や情報誌と連携したクイズへの回答でポイントがつくシステムを作成した. **D1-2** S5 参加者に対し，昨年好評だった替え芯を選べるボールペンのプレゼントによる質問率回収率向上を図った. **D2 リマインド方法の工夫** **D2-1** 参加者の年齢に合わせた情報の発信 (MUC だより,ラジオ広報,中学生向け新聞への記事掲載)やイベント (セミナー，子育てイベントへの積極的参加)を実施し，過度にならない程度に，積極的にコミュニケーション（繋がりの維持）を図った（詳細は PDCA ウ：社会還元）. **D2-2** 継続手続き未完了の代諾者や Web 質問票未回答の代諾者など、対象を細かく分けて A4 サイズハガキを送付した（図 11）. **D2-3** ユニットセンター広報誌発行時に継続手続きについての案内を

	掲載した. **D2-4** 継続手続き未完了の代諾者にアカウント情報を再送し、後日電話と SMS でもリマインドを実施した. **D2-5** 質問票の送付は都度 X でお知らせし返送をお願いするとともに郵送でのリマインド実施にも合わせて発信した. **D3 対面調査会場での参加者とのコミュニケーション** **D3-1** 集団調査会場となる関係機関とのコミュニケーションや事前の情報収集により，調査時に柔軟な対応ができる体制を整えた. **D3-2** 対面調査・集団調査参加者に対しては，face to face でのコミュニケーションにより, 調査への参加の労いと, 継続的な協力を促した. **D3-3** 学童期検査対象児のきょうだいがいる場合，年長児の手続き状況を確認して声がけをおこない，その場で同意書の回答を促した. **D3-4** 対面調査時に継続手続き未完了の代諾者に声がけ、継続手続き済みの代諾者にはアメニティ (図 12)を配布した. **D3-5** 会場で専任の RC や医学生を配置し，調査継続手続きやアプリの設定の補助を行った.
（C）評価	**C1-1** S6 質問票の返送数はポイントカードおよびお知らせはがき発送後に増加した. **C1-2** S5 質問票の返送数はポイントカード送付後に増加した. ボールペンの替え芯プロジェクトにより，一昨年の同時期よりも増加した. **C2-1** **C2-2** ハガキの送付が 10 月末のため、どのくらい反響があるかは現時点では未定である。 **C2-3** 広報誌発送翌日から 10 日間で、2013 年度生まれ継続同意数 24 件子ログイン数 19 件、2012 年度生まれ継続同意数 4 件子ログイン数 10 件、2011 年度生まれ子ログイン数 3 件が増加となった。(期間中実施された、対面調査会場での同意も含む) **C2-4** アカウント再送翌日から継続同意数が 75 件増加した **C3** 対面調査(特に集団調査)後に 13 歳以降調査の登録・ログインが増加した（図 13）.
（A）改善	**A1** ポイントカードやボールペンなどの謝礼の工夫によって増加することが分かったが，さらにリマインドを工夫し回収率を上げたい. **A2** 継続手続きのリマインドと並行し、Web 質問票の回答率を上げるために中学生を対象としたリマインドの工夫が必要 **A3** 対面調査との組み合わせが 13 歳勧奨や継続モチベーションの維持に重要であるため，来年度以降もさらに工夫し継続していきたい.
ウ．成果の社会還元の取組	

（P）計画	**P-1** HP や YouTube，X を利用し，一般の方へも広く周知する． **P-2** 大学オープンキャンパスで成果を全国の高校生に周知する． **P-3** 地元ラジオ局と連携し，一般の方へも広く周知する． **P-4** 地域の情報誌に広告を掲載し，対象者を含む中学生に周知する． **P-5** 地域のイベントに出展し一般の方に成果を周知する．
（D）実施	**D-1** HP 上で成果報告をポスター形式で公開し，また貼付したリンクから YouTube 上のエコチルセミナー動画を視聴できるようにして，参加者および一般の方への社会還元に取り組んだ．これらの情報については SNS（X)でも案内した． **D-2** 東北大学オープンキャンパスにてエコチルブースを設置し，宮城ユニットセンターの研究成果をポスターとして展示した．_ **D-3** 地元 FM 局と連携しエコチルキャンペーンと題して，①エコチル調査の CM，②教員による 5 分程度の成果発表コーナー，③レギュラー番組内で各 DJ からエコチル調査に関するコメント，を放送した．一般市民に対するエコチル調査の認知度向上を図るとともに，参加者の協力によって社会にとって大切な調査が支えられている，というメッセージを伝えることで参加者の意識向上を図った． **D-4** 地元新聞社が年 4 回発行する中学生とその保護者向けの季刊誌に①エコチル調査の概要，②宮城県でも調査を行っていること，③受動喫煙による健康への悪影響や，デジタル機器による睡眠への影響など，これまでの研究成果について掲載した (図 14)． **D-5** 地域イベント出展 1　大崎市健康と福祉のつどい 研究成果の周知を図った．イベントの参加者は健康に関する意識が高い層であると考えられ，受動喫煙が妊婦や子どもに与える悪影響を周知することで，その周囲にも禁煙への意識波及を図った． 地域イベント出展 2　みんなで子育てフェスタ＆健康フォーラム 「あなたのその声がけ，ポジティブ？ネガティブ？」と題して出展した．子育て世代が多く参加するイベントであり，声がけする際の言葉の選び方によってお子さんへの影響が異なることを伝え，さらにエコチル調査によって得られた研究成果の周知を図った． 地域イベント出展 3　世界緑内障週間　健康ワンダーランド～疾患の早期発見につなげる検査・体験～ イベントの参加者は健康に関する意識が高い層であると考えられ，エコチル調査によって得られた研究成果の周知を図った． 地域イベント出展 4　エコファミワークショップ バスボム作成ワークショップを行った．参加者は子育て世代であり，エコチル調査の認知度向上と研究成果の周知を図った(図 15)．

（C）評価	**C-1** 長期的な効果についてはまだ不明であるが，イベントなどの際に「HP を見て来ました」と言っていただけることが増えた．X のフォロワー数が少しずつ増加している． **C-2** 来場者 4,150 人のうち，エコチルブースに合計 734 人の高校生や保護者が来場し，多くの質問が出て，科学コミュニケーション活動に寄与した（図 16）． **C-3** ラジオリスナーからは初めて知った，成果を知って勉強になった，今からでも参加できるのかといった多くのメッセージをいただいた（図 17）．また，複数の対象者から，ラジオ宛てにエコチルを続けて来てよかったとのメッセージが送られてきた．ラジオ放送後もイベントなどで「ラジオで知りました」の声が聞かれるようになった．ラジオのパーソナリティーのシンガーソングライターがエコチルの取り組みに感銘を受け，ボランティアでエコチルの CM ソングを作詞作曲してくれた． **C-4** 宮城県内の中学生のうち 90%以上に配布される季刊誌であり，配布される 60,000 人のうち 4,000 人以上が参加者である．参加者の周囲への認知度上昇により，参加者自身がエコチル調査に参加していることを誇らしく感じ，今後の調査に自発的に参加してくれることを期待している． **C-5** イベント出展の際は，エコチルの成果報告のみならず，成果と関連するワークショップやゲームなどの要素を取り入れ，成果を伝えやすくする工夫を行った．子育て世代の多いイベントでは，食品や受動喫煙に関する成果に対する反響が特に大きかった．
（A）改善	**A1** 紙媒体への HP の QR コード貼付による閲覧の誘導，YouTube 動画，ショート動画の工夫による登録者数の増加，X のフォロワー増員への取り組みをさらに行っていく． **A2** 来年度もオープンキャンパスで多くの高校生に周知する． **A3** ラジオ局訪問企画など，継続的にラジオとのつながりを持ちながら，ラジオによる社会還元効果をより高めていく． **A4** 中学生の学年の対象者がいる間，この企画を継続する．内容についてはさらに吟味を重ね，より中学生の学習や理解を深められる内容を工夫する． **A5** まだまだエコチルを知っていただいている方が少ないので，小さなイベントも見逃さず，さまざまな場所で周知を続けていきたい．教育委員会や学校現場への参入についても企画している．

図1 エコチルセミナー案内（上半期）

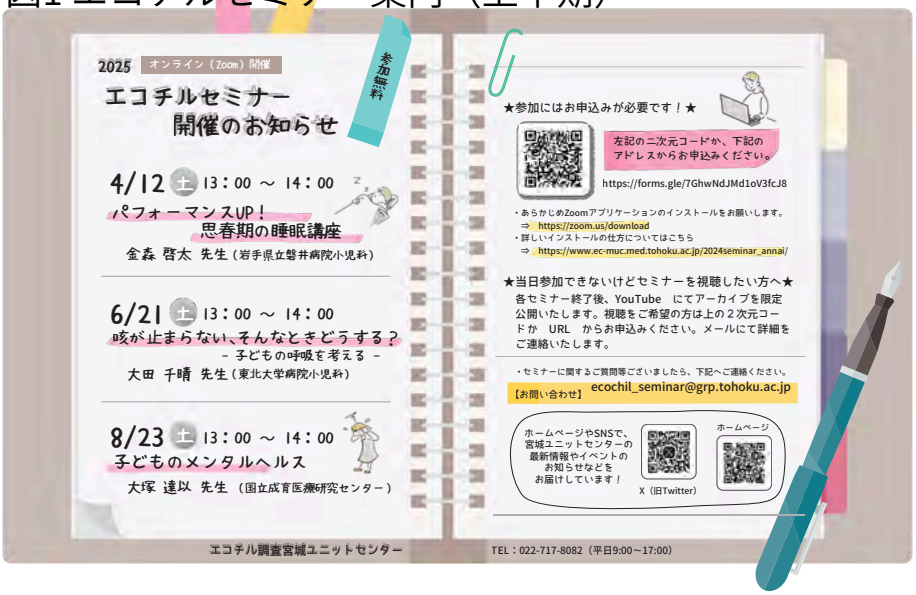


図2 MUCだよりへのお便り集



←図3 サイエンスライターによる分かりやすい成果の記載



図4 研究成果集の送付

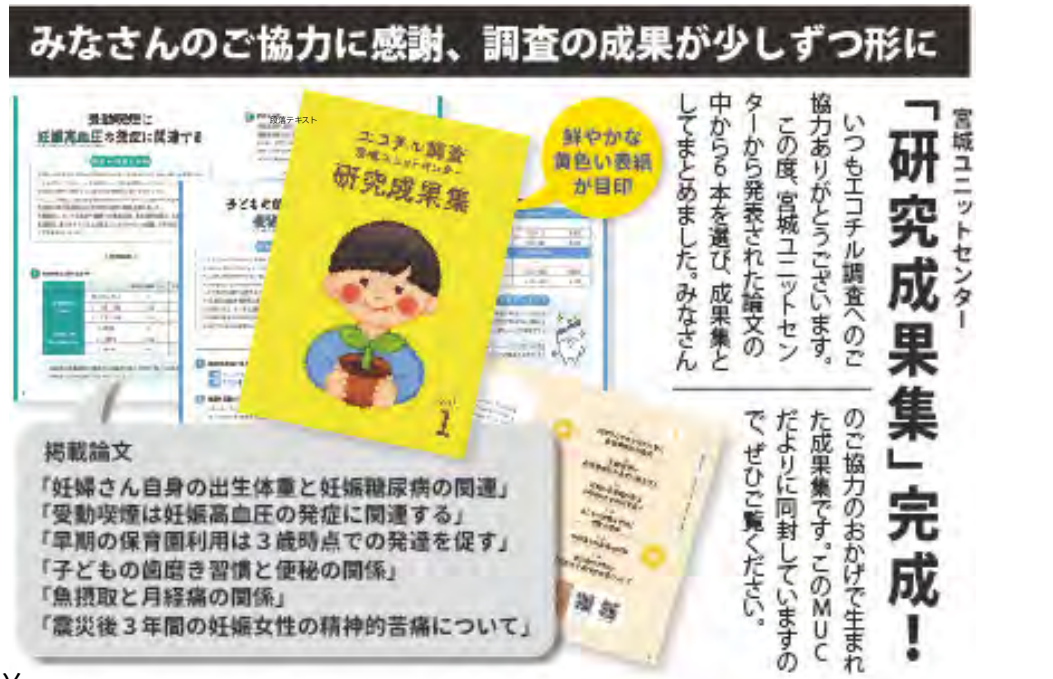


図5 しょうさいだよりの発送

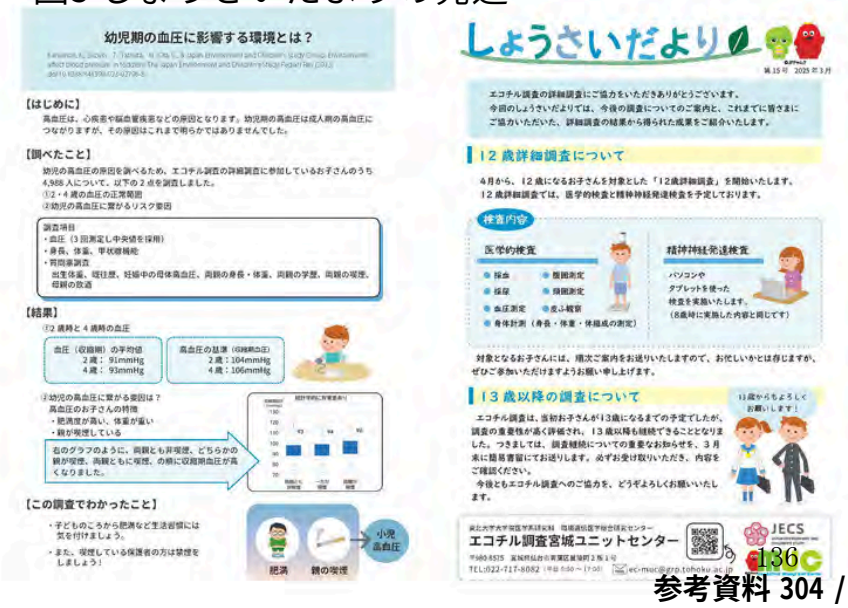


図6 地元ラジオ局とのタイアップ企画



図7 ゆったりと快適な会場設営



図8 「3つ選べる」集団会場プレゼント企画



図9 ポイントカードによる質問票回収率向上作戦

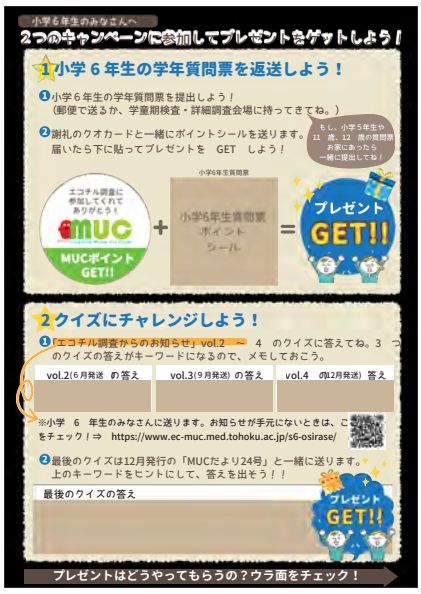






図10 イベントカレンダー付ハガキ



←図12 13歳調査代諾者への
地元産「和紅茶」のアメニティ

図11 対象者状況別ハガキ



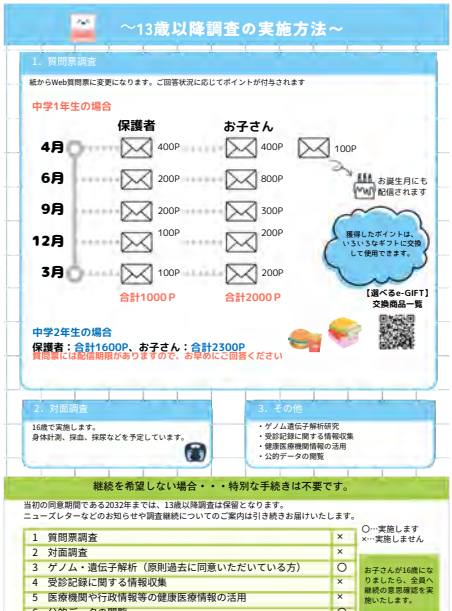
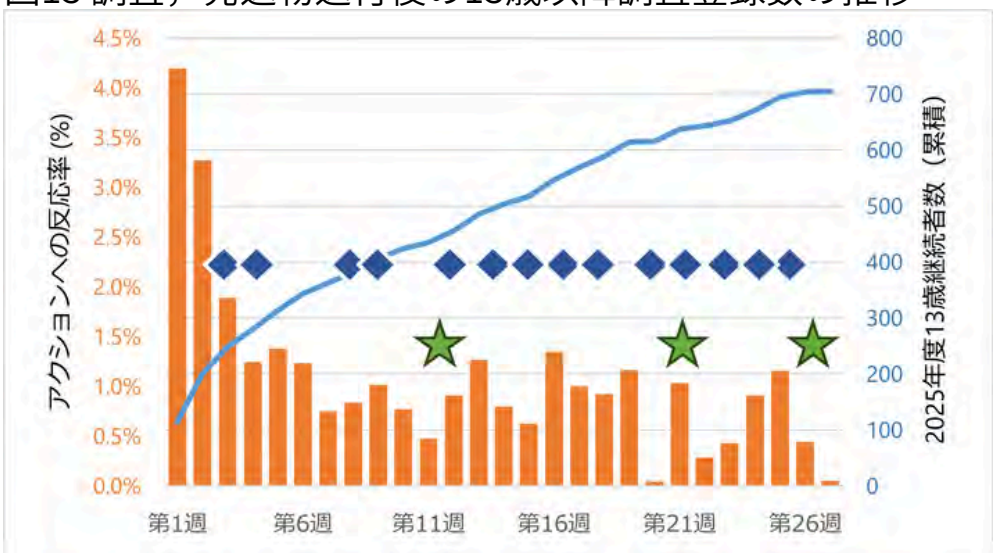


図13 調査，発送物送付後の13歳以降調査登録数の推移



◆ 学童期集団調査
★ 成果集・MUCだよりなど郵送物

図14 中学生向け新聞でのエコチル広告



図15 地域イベントでのバスボムワークショップ



図16 東北大学オープンキャンパスで高校生たちとディスカッション



図17 ラジオ番組への反響

●女性40代/仙台市（Morning Brush宛）
おはようございます。エコチルのことがラジオから流れてきたので、初めてメールを送ってみました。
私は家族でエコチルに参加しています。少しサボったりもありましたが笑、ラジオでたくさん流れているので、世のためになっているんだなぁと思うと少し誇らしいです。息子が将来家族を持った時に、少しでも環境がよりよくなって、もっとこどもが育てやすい未来になっていたらいいなと思います。
●女性40代（RAD宛）
エコチル調査、参加していますよ。参加し始めてからもう13年。調査の積み重ねと広がりで、色々なことがわかってきましたね。
少しでも世の中の力になれることは、とても嬉しいことです(^^)
●男性40代（Morning Brush宛）
エコチル調査を調べ自分達には何が出来るのか日々考えております。妊婦さんや子供達はもちろん全ての人達に害を及ぼさない様に環境に配慮した生活を少しずつですが始めております。
皆んなが快適に過ごせるようになればと思っております。

●男性10代/石巻（Sendaian Hot Music宛）
エコチル初めて知りました！
うちには小学生の弟がいるので子どもの健康と環境に関することを考えていきたいものですね。
●男性40代（SOUNDGENIC宛）
ラジオで言ってるエコチルとはなんぞやって思っており調べました。参加者のお子さんが40歳程度になるまで調査を継続することを見据えて、まずはお子さんが18歳に達するまでの計画を立てて調査を進めていますって書いてもありました。我が家は2人とも18歳以上ですが参加出来ればしていきたいと思っておりますが、出来なければ何かしらでサポートしていきたいと思います。
●女性40代（RAD宛）
先日、友人から家族が増えたよーと、出産報告があり、幸せのお裾分けをもらいました！「エコチル調査」というワード、気になってHP拝見しました。親になった友人。自分の体に加えて、これから我が子の健康も考えなくてはいけないですよね…とてもタイムリーだったので、友人にも共有しようと思います。
●女性40代（SOUNDGENIC宛）
エコチル調査、初めて知りました。
この調査によって子供たちが健康に暮らしていける環境が整っていく事願っています。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：福島ユニットセンター

評価時点	令和７年１０月３１日

※計画実施欄の番号右側( )内記号定義　K:Kaizen（計画拡充・改善）　N:New（新規計画）

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組

（Ｐ）計画
（Ｄ）実施

○計画 1　モチベーション維持に関する取組

指標	13 歳までの調査:参加者減少率を 1%以内とする。

取組 1-1(K)｜環境セミナー（参加者対象イベント）の開催（別紙 1）

参加者親子を対象に環境に関する現状・課題を学び会う機会として、顔の見える双方向の交流を図りながら、県内公共施設等において実施している。

県環境創造センターの「コミュタン福島」において、「自然と科学のふしぎ、環境問題について学びましょう！」をテーマとして、令和7年7月に開催した。
第1部では、センター長による13歳以降の調査継続勧奨を含む「エコチル調査でわかってきたことの紹介」と題して講話の時間を設け、第2部では「体験プログラム」として、ファラデーモーターの製作等を体験するとともに、コミュタン福島の見学ツアーにより再生可能エネルギー等について学んだ。

取組 1-2(K)｜ニューズレターのコンテンツの見直し(別紙 2)

参加者との双方向のコミュニケーションツールとして発行しているニューズレター「エコチル★ふくしま こぼちる通信」夏号(令和7年6月発行)においては、参加者に中学生が増えてきたことから、中学生も興味を持つ試みとして、「今年挑戦すること」をテーマに川柳を募集した。

また、地元のサッカーチーム「福島ユナイテッド FC」の選手インタビューを掲載するとともに、「おしえて先生！」コーナーでは、運動部活動が盛んになる時期の情報として、整形外科医師による「スポーツによるけが」をテーマとするなど、中学生が興味を持つコンテンツへの見直しを実施した。

○計画 2　13 歳以降調査継続のための取組

指標	13 歳以降調査継続:新たな取組により、13 歳以降調査の継続率向上につなげる。

取組 2-1(N)｜相談体制の強化（別紙 3）

13 歳以降調査継続勧奨および手続サポートのため、引き続き①参加者からの電話による問い合わせや相談対応を行うとともに、②学童期検査会場においては、専任の相談対応スタッフによる対面の相談対応を行った。

さらに、今年度からは、各ユニットセンターに配分された予算を活用して、「13歳以降調査継続に関する相談会」を令和 7 年 6 月県内2か所で実施した。

【会場】
・福島市会場:スタッフ5名、郡山市会場:スタッフ6名
【告知方法】
・ユニットセンターのホームページ及びインスタグラム、X(旧Twitter)
・相談会開催地に配布される地域情報紙
・協力意向未回答者へのハガキ発送（対象地域のみ）

	取組 2-2(N)｜協力医療機関ホームページ(以下 HP)へのバナー設置 学童期検査予約の利便性の向上及び 13 歳以降継続参加につなげるため、協力医療機関に対し、医療機関の HP から検査予約ページに遷移するバナーの設置を依頼した。  **取組 2-3(K)｜地域運営協議会の体制連携強化(K)** 13 歳以降調査を円滑に進めるため、昨年度から小学校長会に加え、中学校長会の会長及び各地域役員の計 8 名に加わっていただいているが、今年度は、年度初めに新任役員を訪問し、中学校における Web 利用の課題等について意見交換し、13 歳以降の Web 調査の参考とした。
（C）評価	**○計画 1 モチベーション維持に関する取組** **上半期実施分達成** **取組 1－1:環境セミナーのアンケート結果** ・イベントの満足度:目標 80%⇒結果 96% ・環境問題への理解度が深まった人の割合:目標 75%⇒結果 100% イベント参加者へのアンケートより、上記の 2 項目ともに目標達成との結果となった。アンケートでは、「理科で学んだ以外のことも環境セミナーに参加して知ることができた」など、環境セミナーの目的を評価する感想を得た。 **取組 1－2:ニューズレターのコンテンツの見直し** 小学生だけでなく、中学生からの投稿もあったことから、引き続き、参加者とのコミュニケーション強化のため、保護者だけではなく、参加者の興味にフォーカスしたコンテンツにシフトするなど、見直しを継続していく必要がある。 【取組結果】9 月末時点の子ども現参加者数は 11,794 人(昨年 9 月末時点 11,845 人)、現参加率は、93.4%(前年度同月末から 51 人、0.4%減少)であり、目標を達成できたことから、参加者の調査参加へのモチベーション維持につながっているものと考えられる。 **○計画 2 13 歳以降調査継続のための取組** **上半期実施分ほぼ達成** **取組 2-1:相談会の実施結果** 「13 歳以降調査継続に関する相談会」には 41 名の参加があり、13 歳以降調査の継続に繋げることができた。参加者へ説明する中で、学童期検査への参加予約をいただくなど副次的な効果もあった。なお、年度後半にも、同様の相談会を計画している。 **取組 2-2:協力医療機関 HP へのバナー設置** 9 月末時点で、21 施設の HP にバナーが設置され、学童期検査への誘導、さらには検査会場での 13 歳以降調査継続にも繋がっていると考えられる。 【取組結果】新たに実施した取り組みにより、13 歳以降調査継続参加者の確保及びモチベーション維持につながっているものと考えられる。
（A）改善	**○計画 1**:モチベーション維持に関する取組では、引き続き、顔の見える双方向の交流を継続するとともに、ニューズレターの紙面においては、中学生にも興味が持てる記事を増やす等の取り組みを強化する。 **○計画 2**:13 歳以降調査継続のための取組では、引き続き、学童期検査や相談会など、対面での勧奨・サポートができる場面につながる機会を増やす取組を進める。

イ. 質問票回収率の維持・向上の取組

（P）計画
（D）実施

指標	返送方法の工夫により、下降傾向の質問票回収率の維持・向上を図る。

○ 計画1　紙質問票の回収率向上のための取組

取組 1-1(K)｜ハガキやショートメール、質問票再送での返送依頼

紙質問票回収率向上に向け、返送依頼を工夫した。学年質問票発送完了後、1 か月目にポストカード、2 か月目に質問票を再送。年明けに更に返送数が増えるよう、3回目のハガキや質問票の再々送を特例で行った。

年齢質問票は返送依頼時期を見直し、ショートメールを質問票発送後 3 週目→2 週目、7週目→5 週目にし、質問票再送を 10 週目→9 週目に早めた。

取組 1-2(K)｜質問票へのプレゼント同梱

学年質問票には、参加児同士で同じグッズを持っている事によりコミュニケーションが生まれ、参加意欲向上につながることを期待し、全参加児に実用的で使用しやすいノック式消しゴム（図 1）を学年質問票に同封して送った。

12 歳年齢質問票（食事調査票が含まれ分量が多い）返送率向上を目的として、「カスタマイズボールペンキャンペーン」を実施した。発送時にボールペン本体と赤黒 2 本のリフィル芯を同封し、質問票を返送いただくと残り 3 本の希望するリフィル芯を進呈することとした（図 2）。参加者自身が質問票を返送することでボールペンを完成させる喜びを感じられるようにした。

図 1 「ノック式消しゴム」
（学年質問票郵送封筒に封入して進呈）



図 2 カスタマイズボールペンキャンペーン（12 歳質問票）



届いたリフィル芯を入れたら完成

○ 計画 2　Web 質問票の回収率向上のための取組

取組 1-1(N)｜参加者ポータルシステム「お知らせ」機能の活用

Web 質問票回答率向上に向け Web 質問票配信時には、ユニットセンターからもアプリの「お知らせ」機能を活用しメールを送信した。また、Web 質問票未回答者には同様の機能を使い回答依頼を行った。

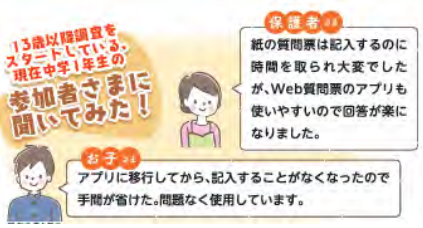
取組 1-2(N)｜ハガキによる回答依頼とプレゼント送付

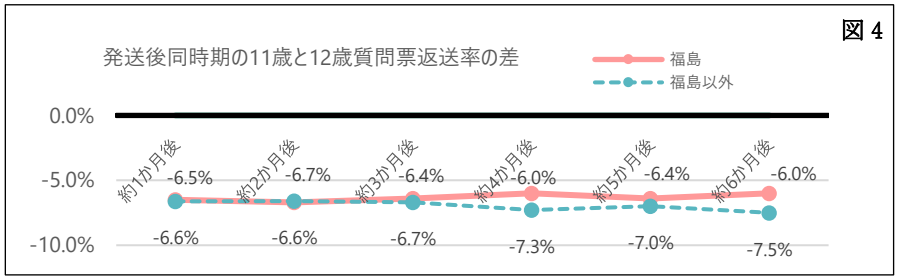
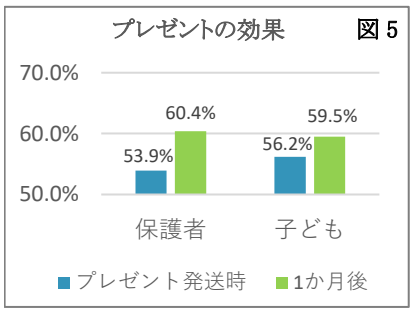
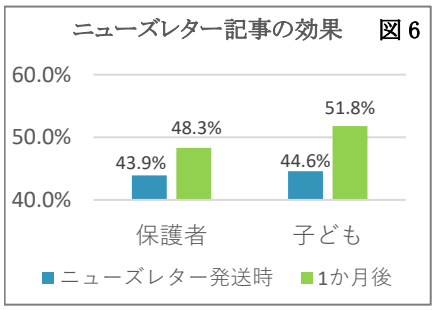
Web 質問票の回答依頼をハガキでも行った。保護者へは、13 歳以降継続のお礼やポイント交換方法等を記載したハガキを送付した。参加児へは、全員に学習に役立つプレゼント「はがせる暗記マーカー」を送付した。

取組 1-3(N)｜参加者からの声をニューズレターへ掲載

ニューズレターの記事に Web 質問票へ回答している保護者と参加児からの感想を掲載し、Web 質問票への回答を促した（図3）。

図 3 ニューズレター掲載記事



（C）評価	○ 計画1　紙質問票の回収率向上のための取組  ※実務担当者 WEB 会議質問票調査進捗状況資料より ノック式消しゴムについて、参加者からは「カッコイイ消しゴムありがとう」「使いやすいです」等のお手紙や感想が寄せられた。 カスタマイズボールペンについては、参加者からの電話等で、「いつ替え芯届けて貰えますか」「子どもが毎日ポストを見に行って、替え芯届くのを楽しみに待っています」等の連絡をいただき、関心を寄せる取組となったことが伺えた。 11 歳と12歳質問票返送率から、大幅な返送率の低下はなく回収率を維持していることがわかる(図4)。現時点ではキャンペーンの効果が現れている。 ○ 計画 2　Web 質問票の回収率向上のための取組 4 月 1 日から保護者と子どもそれぞれに Web 質問票の配信が開始され、2 週間毎に回答数を確認し、質問票回答率の推移をグラフにして記録した。 プレゼントを送付した時点と1か月後で、6 月配信の保護者質問票回答率を比較すると、6.5 ポイント(53.9%→60.4%)、子ども質問票の回答率を比較すると 3.3 ポイント(56.2%→59.5%)上昇した(図 5)。 ニューズレターを発送した時点と、1カ月後の 9 月配信の保護者質問票回答率を比較すると、4.4 ポイント(43.9%→48.3%)、子ども質問票の回答率を比較すると 7.2 ポイント(44.6%→51.8%)上昇した(図 6)。   上昇率は他の週よりも高く、参加者とのコミュニケーション活動が回答率を上げる為には不可欠であると言える。
（A）改善	○ 計画1　紙質問票の回収率向上のための取組 紙質問票での定期的な返送依頼を継続する。一方で高提出率の参加者から協力取りやめの申し出が散見されている。状況等について詳しく話を聞き、無理なく負担にならないように継続参加できる働きかけを行っていく。 ○ 計画 2　Web 質問票の回収率向上のための取組 余裕をもって回答していただくため、長期休みや連休等に合わせてポータルシステムからの「お知らせ」配信を検討していく。また、ニューズレターによるコミュニケーション活動は効果があるので、より多くの回答が得られるように今後も工夫していく。

ウ. 成果の社会還元の取組

(P)計画
(D)実施

参加者をはじめ福島県民へエコチル調査継続の周知及び成果を広く社会へ還元することを目指す。特に中心仮説課題の社会還元に取り組む。

○ 計画 1(K) 学術分野における成果還元

指標	中心仮説を含む積極的な論文発表ができる

取組 1-1(K)｜全学の研究活性化を通じた学術論文発表促進

全学での学術成果発表促進のため、学術ワーキンググループ(以下、WG)を運営し、定例勉強会(毎月)・学内査読・研究相談等を実施した。

解析用データセット作成支援員を配置し、新規データ利用者へのデータ取扱オリエンテーションの実施、希望者への相談対応を行った。

中心仮説課題の論文執筆の加速化に加え、プレスリリース時の対応について学内で調整し、フローの作成を含めた実施体制を構築した。

取組 1-2(K)｜学術の発展・教育活動を通じた人材育成への貢献

エコチル調査の成果等(成果発表届出対象)を含む、学会発表、学会シンポジウム・セミナー・研修会等の講演を令和 7 年 4 月～10 月までに計 13 件行った。

○ 計画 2(K) 参加者・県民の環境・健康への関心が高まる成果共有

指標	1)参加者・県民へ成果を周知する機会を持つ 2)環境・健康への関心が高まる取組を実施し、高い満足度(80%以上)を得る

取組 2-1(K)｜参加児含む県民の調査認知度を高めるイベント開催

参加児を含む親子を対象に県内地域資源を活用した体験型学習の機会を提供した。2025 年度は 10 月に郡山カルチャーパーク(郡山市観光交流振興公社)にて地域スポーツスクールの協力により「エコチル★ふくしま　おやこでダンス教室」を開催した。センター長によるエコチル調査から分かってきたことの紹介や 13 歳以降調査に関する説明・協力依頼を行った。

取組 2-2(K)｜研究成果還元資料の作成・配付

「エコチル調査からわかってきたことエコチル★ふくしま版」(A4 サイズ 1 枚両面(小学校のお知らせ仕様)を年 1 回発行し、ニューズレターに同封し配付した(別紙 4)。また、一般向けにホームページへ掲載して周知を図った。第 4 号は令和 7 年 3 月に発行し、第 5 号は子ども向け紙面を含めた研究成果の発信を予定している。

取組 2-3(K)｜県民(一般)との成果共有、調査に対する理解の醸成

自治体等主催イベント 2 イベント(郡山市こどもまつり、大学主催地域健康イベント)へブース出展し、調査や成果の周知を図った。

取組 2-4(N)｜「調査からわかったプレコンセプションケア」講演

福島ユニットセンター副センター長(産婦人科医)によるエコチル調査から得られたプレコンセプションケアに関する知見について、県内保健医療従事者および高校生を対象にした講演を実施した。その知見が今後大切となる高校生に広く聞いてもらえるよう、計画を発展させ、福島県教育庁健康教育課との連携を進めた。今後健康教育課より、福島県内高等学校へ出前授業の案内を配布してもらい、希望校を募る予定である。

○ 計画 3(K) 県内学校保健・教育分野との連携強化

指標	学校保健・教育分野の地域運営協議会委員と調査の円滑な実施や成果還元において連携が強化できる

	取組 3-1(K)｜中心仮説課題を含めた成果報告 地域運営協議会において、福島ユニットセンターで論文執筆された課題の成果報告を行った。特にプレスリリースされた中心仮説課題についても執筆者が委員に分かりやすい形で説明した。 **取組 3-2(K)｜質問票回答集計結果資料掲載データ活用** 教育機関及び行政機関において関心のある事項をまとめた「エコチル調査からかわってきたこと vol.3」(9 歳までの質問票単純集計結果のリーフレット)を発行し、参加者、教育・行政機関等へ配布した(別紙5)。教育現場等で利用できるようデータ提供用に各図表の画像(jpeg/png 形式)ファイルを準備し、広い利活用を目指し対応した。
(C)評価	**○ 計画 1 学術分野における成果の還元** 上半期達成 中心仮説課題 3 編がアクセプトされ、2 編のプレスリリースを終え、1 編が準備中である(2025 年 10 月 28 日現在)。新聞社からの取材申し込みを受け、2 編それぞれが 2025 年 4 月 23 日、2025 年 10 月 1 日に新聞掲載された。学内でプレスリリース時の対応について体制構築していたことで滞りなく進めることができ、新聞等により広く情報発信がなされた。 ＜大学 HP 掲載内容＞ さい帯血中カドミウム濃度と子どもの性比との関連 重金属と子どものぜん鳴 **○ 計画 2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有** 上半期達成 2－1 の「おやこでダンス教室」は、88 名が来場し、アンケートの結果、イベント参加について保護者の 100%、子どもの 98%が満足と回答した。また、「エコチル調査でわかってきたこと」の講演について 100%が調査への理解が深まったと回答した。2－3 の「郡山市こどもまつり」は終了し、ブースの来場者が 700 人を超え盛況であり、広くエコチル調査に対する理解醸成の機会となった。 **○ 計画 3 県内学校保健・教育分野との連携強化** 上半期達成 教育関連機関委員との連携強化に向け各種項目に取組んだ。地域運営協議会委員へのアンケート回答より「エコチル調査で得られたデータを論文等によって、社会に貢献していくこと、子どもと保護者に還元していることが、素晴らしい取り組みだと感じた」との回答があった。エコチル調査への関心を高め、調査の円滑な実施に向け連携が強化されたと考えられた。
(A)改善	**○ 計画 1 学術分野における成果の還元** 公表された 6 歳時固定データを利用し、昨年度より多くの関係者が論文執筆活動に従事できるよう取組む。 **○ 計画2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有** 今年度実施予定の項目を含む 2－2 から 2－4 に引き続き取組む。取組を評価し、次年度の活動計画に反映させていく。 **○ 計画 3 県内学校保健・教育分野との連携強化** エコチル調査の成果を含めた出前授業の拡大を含め、引き続き県内学校保健・教育分野との連携を強化していく。

別紙

（別紙１）環境セミナー



第１部　エコチル調査でわかってきたこと



第２部　体験プログラム

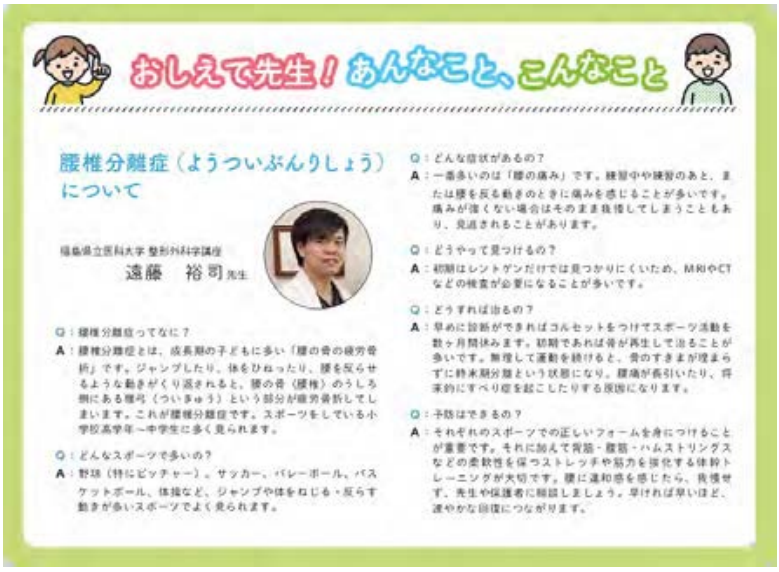




（別紙２）ニューズレター







（別紙３）１３歳以降調査継続相談会



（別紙4）


エコチル調査で
わかってきたこと
エコチル
ふくしま版
第4号
「プレコンセプションケア」とは？
エコチル調査でわかってきた「プレコンセプションケア」の大切さ ～食事～


エコチル調査でわかってきた 妊娠中の飲酒（お酒を飲むこと）・喫煙（たばこを吸うこと）・受動喫煙（たばこの煙にさらされること）の影響
▶飲酒
▶喫煙・受動喫煙
4歳半から6歳までのデータが加わった研究が始まります！
13歳以降の調査（Web質問票など）のご協力のおねがい
アンケートご協力のお願い

（別紙5）


エコチル調査
子どもの健康と環境に関する全国調査
エコチル調査で
わかってきたこと
Vol.3
福島ユニットセンターにおける
質問票調査の回答結果より
公立大学法人福島県立医科大学
エコチル調査福島ユニットセンター
環境省


■ 子どもの肥満
Q. 小学校で測定したお子さんの身体測定の記録
男児
女児
小学1年生
小学2年生
小学3年生
おしえて先生！あんなこと、こんなこと
子どもの肥満について

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　千葉ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　9　月　30　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	次の３つを目標として計画を立てた。 **①参加者や子どもたちの、環境・健康に関する課題、調査の意義、調査の成果への理解を促進し、主体的な参加につなげる。** **Plan1.** ニュースレターの発行・配付（年２回発行） **Plan2.**「なるほど!ぴよ BOOK」（旧キッズマガジン）の発行・配付（年２回発行） **Plan3.**「エコチル調査なるほど！セミナー」 動画作成・配信(年 1 回) **Plan4.** 周知活動（公共イベントへの参加、調査概要の紹介） **Plan5.** 学童期検査参加者配付グッズとして「DNA origami」を配付 **Plan6.**「11、12 歳子どもアンケートお礼カード」 作成・配付 **②子どもたちにエコチル調査に親しみをもってもらう。** **Plan7.** イベント「エコチル川柳コンテスト」 **Plan8.**「ぴよ Tube!!」での動画配信 **③13 歳以降調査の継続率向上に取り組む。** **Plan9.** ニュースレターでの 13 歳以降調査の案内 **Plan10.** 代諾者向け 13 歳以降調査リマインド **Plan11.** 子どもの未ログインへのリマインド **Plan12.** 学童期検査会場でのログイン勧奨（子向けマンガ配付等）
（D）実施	**①参加者の、環境・健康課題、調査への理解、主体的参加の促進** **P1. ニュースレター**では、調査への理解を促すために毎回、健康や環境に関するテーマを一つとりあげたマンガや記事を掲載している。（図１） 特に、保護者やお子さんの年齢層などから、どんな情報を求めているか・提供できるかを意識した紙面づくりを行っている。同時にエコチル調査への理解促進の工夫として、日常生活にもつながるような環境課題を取り上げ、わかりやすく・楽しく理解できるよう心掛けている。 **P2. なるほど!ぴよ BOOK** では、健康や環境について子どもが興味をも

	てるようわかりやすく解説した記事を掲載している。昨年度までは「キッズマガジン」として発行していたが、参加児の年齢層を考慮し、冊子名を「なるほど！ぴよ BOOK」に変更した。12 号は「抗酸化ビタミン」を取り上げた。楽しんで読めるようクイズ等を取り入れている。(図 2) **P3.** 「**エコチル調査なるほど！セミナー**」Web 配信 第 8 弾「身近にある化学物質とのつき合い方」では、身近な化学物質に対する考え方、つき合い方についてのセミナーを 9 月 30 日公開した(図 3)。毎回質問を募集し、動画およびニュースレターで答える、双方向イベントとして実施している。 **P4.** 公共のイベントに積極的に参加し、エコチル調査の紹介、ポスター掲示し、**エコチル調査の周知**を図っている。(図 4) **P5.** 小学 6 年学童期検査参加した子どもに、ゲノム・遺伝子解析の理解の一助となるように「**DNA origami**」（DNA の形を作れる折り紙、DNA の説明付き）を配付している。(図 5) **P6.** 子どもアンケートに回答してくれた子どもたちに**お礼カード**を送り、調査の意義を一言で伝えている。 (図 6) **②子どもたちにエコチル調査に親しみをもってもらう取り組み** **P7.** 「**エコチル川柳コンテスト**」イベントでは、参加者及び家族限定の投稿型イベントとして川柳を募集し、作品を SNS 等に紹介した。応募した参加者（子）にはノベルティを贈呈した。（図 7） **P8. ぴよ Tube!!**では、なるほどセミナーや成果の紹介動画の他、英語を楽しむ動画やクッキング動画を配信している。（図８） **③13 歳以降調査の継続率向上に取り組み** **P9. 13 歳以降調査**への理解・参加率向上に向け、ニュースレターにて、13 歳以降調査やポータルの使用方法等についてわかりやすく説明する記事を掲載した。 **P10. 代諾者の同意率向上**にむけた代諾者への勧奨を、今年度は、ノベルティーキャンペーンと抱き合わせで実施した。未同意の対象者で 2025 年度中 1・中 2 の学年には、代諾者のログイン情報を再送した。また、ログイン方法をわかりやすく説明したパンフレットを作成し、ログイン情報と一緒に送付した。2025 年度小 6 の学年には、A4 サイズの大判ハガキを発送した。 **P11.** 13 歳以降調査の**子どもの未ログイン**を減らすため、子どもの宛名

	での**リマインド**ハガキを送付した。 **P12.** 学童期検査会場で積極的に**ログイン勧奨**を行った。子へのアプローチとして、**子への声かけ、マンガを使った案内**を行った（図９）。
（C）評価	**①参加者の、環境・健康課題、調査への理解、主体的参加の促進** **P1.** ニュースレター27 号（9 月発行）のアンケートでは、「とても良かった」「良かった」との回答が、「行け！ぴよきち探検隊！『空気が危ないって、どういうこと？』大気汚染物質」では 80.3%、「思春期の体と心の変化」では 85.8%、「豊かな心をはぐくむ子育て 多様な自己評価の大切さ」では 83.1%であった。自由回答では、「毎回勉強になる」「環境については日ごろ情報がなくとても勉強になる」「継続して読みたい」等の回答も多く、ニュースレターによる情報発信は、参加者の理解・主体的参加につながっていると考える。 **P2.** なるほど！ぴよ BOOK12 号（9 月発行）のアンケートでは「とても良かった」「良かった」の回答が、「体の『酸化』を防ぐ『抗酸化ビタミン』」では 85.2%、各種クイズからなる「ぴよきちからの挑戦状！」では 75.9%であった。アンケートの自由回答でも、「毎回楽しみにしている」という回答も多く、子ども自身の理解やモチベーション維持につながっていると考える。 **P3.** 「エコチル調査なるほど！セミナー」 の第 7 弾「子どもの成長と思春期～子どもから大人へ」の動画は、198 回の再生回数であった。以前配信したセミナーの視聴者も増えている。 **P4.** 環境イベント「エコメッセちば 2025」に参加し、エコチル調査の周知を行った。会場来場者数は例年 5000 人を超えており、本ブースでは 265 組 681 名が来場し、来場者ほか 360 組に配付物を配り、盛況であった。ブース来場者の 9 割以上がエコチル調査を知らない方であり、周知活動としての効果は大きいと考える。 **P5.** 「DNA origami」は多くの親子に関心を持っていただいている。 **P6.** 今年度はお礼カードのアンケートは実施していない。 **②子どもたちにエコチル調査に親しみをもってもらう取り組み** **P7.** 川柳イベント では、61 作品の応募があり、YouTube 再生回数は選出した 10 作品でトータル 5446 回(9 月末時点)と好評を博した。 **P8.** ぴよ Tube!!での動画閲覧数は、最も多いもので 2.9 万回を超えた。エコチル調査参加者はもちろん、子どもたちに広く楽しんでもらう動画コンテンツも併せて提供することで、一般の方へのエコチル調査周知にもつ

	ながる可能性があると考えている。 **③13 歳以降調査の継続率向上に取り組み** **P9.** アンケートでは 9 割以上が「理解できた」との回答であったが、「理解できなかった」との回答も少数あったため、今後、よりわかりやすく、伝わりやすい記事に工夫する必要があると考えている。 **P10.** 13 歳以降調査の代諾者の同意率は、リマインド送付後 1 ヶ月で 6%上昇した（2025 年度小 6 の学年）。また、既に 13 歳以降調査が始まっている 2025 年度中 1 や中 2 の学年においても、リマインド発送後に同意率が増加したことから、キャンペーンやログイン ID の発送による一定の効果があったと考えている。 **P11.** 13 歳以降調査の子どものログイン率は、リマインド送付後 1 ヶ月で、19%上昇した。子ども宛に勧奨ハガキ送付したことで、子ども自身の気づき・やる気につながったと考えている。 **P12.** 学童期検査会場での代諾者のログイン勧奨では、声かけ対象者のうち、同意率は 86%であり、効果が高かった。
（A）改善	①Plan1 から 3 については好評を得ているため、今後も継続して実施する。子どもの成長に合わせ、わかりやすい説明になるよう工夫する。特に、ニュースレターでは、アンケートで要望の多かった企画を次号の内容に積極的に取り入れる等、参加者のニーズに添った情報発信を行う。 ②イベント・動画は、調査への関心を高めるような内容と、より多くの人に見てもらえるように広く周知する方法を検討し実施する。 ③学童期検査参加前のログイン勧奨や、学童期検査での声かけが効果的であったことから、次年度もより力を入れて継続する。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	**リマインド方法や対象を工夫して回収率向上の取り組みを進める** **Plan1.** WEB 質問票未回答に対するリマインド **Plan2.** 紙質問票の返送依頼
（D）実施	**P1. WEB 質問票未回答に対するリマインド**のハガキを送付した。保護者宛てのハガキに加え、子ども宛てのハガキも作成し送付した。 **P2. 質問票返送依頼**は、質問票再送が効果的であることから、ハガキ、電話に続いて、質問票を再送している。
（C）評価	**P1.** WEB 質問票未回答に対するリマインド送付後 1 ヶ月で、2025

	年配信分に関して、保護者は 14%増加、子は 9%増加した。 **P2.** 年齢質問票回収率は、コピー送付での質問票の返送依頼開始以降、一定の回収率を維持しており、効果があると考えている。
（A）改善	リマインドの送付やコピー送付で一定程度の効果は得られていると考えられるが、引き続き効果の高い方法を検討していく。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**エコチル調査の成果を参加者、地域の方々に積極的に紹介する** **Plan1.** 学術集会、論文、地域運営協議会、講演等における成果（公表論文）の紹介 **Plan2.** 子ども向け論文紹介作成（年 2 回配布） **Plan3.** ニュースレターの発行・配布（年 2 回配布） **Plan4.** 成果の紹介動画 **Plan5.** 環境イベントでの論文紹介（10 月）
（D）実施	**P1.** 地域運営協議会（4 回）において、**エコチル調査の概要と公表論文紹介**を毎年実施している。また、国内・国際学会（日本毒性学会、EUROTOX 2025）での発表を行った。 **P2. 子ども向け論文紹介**「**ぴよきちパパのエコチル講座**」として第 6 回「食事のバランスと血液中の金属」、第 7 回「お母さんの体格と赤ちゃんの体重」を参加者に配付した。(図 10) **P3. ニュースレター**（9 月配付）ではエコチル調査で発表されたパラベン類に関連する論文の内容を掲載した（図１）。 **P4.** 寄附研究部門の市民公開講座「メディア視聴と小児の心身の発達との関係について」と題し、**論文の内容を紹介する動画を公開**した。 **P5. 一般向け環境イベント**「エコメッセちば 2025」において、昨年度発行した論文紹介「**ぴよきちパパのエコチル講座**」の第 5 回「子どもがメディアを見る時間と発達」と第 6 回「食事のバランスと血液中の金属」を 360 組のブース来場者に配付した。
（C）評価	**P1.** 海外でのエコチル調査紹介にも力を入れ、国内・国際学会での発表 2 件を実施した。 **P2.** 「ぴよきちパパのエコチル講座」のアンケートでは、第 6 回「食事のバランスと血液中の金属」に対しては 91%が「とてもわかりやすかった」「まぁ、わかりやすかった」と回答、第 7 回「お母さんの体格と赤ちゃんの体重」

	に対して 75%が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答した。親子で環境や健康について考える機会になっているとのコメントもあり、子どもたちに調査意義を伝える機会にもなっていると考えている。 **P3.** 記事「パラベン類」のアンケートでは 83.1%が「とても良かった」「良かった」と回答した。アンケートの自由回答でも「勉強になる」等の回答が多く、好評であった。 **P4.** 市民公開講座は限定公開であり、40 回の視聴があった。これまでの成果紹介動画は他の掲載動画とともに視聴回数が伸びており、一般の方へのエコチル調査の周知にもつながっていると考えられた。 **P5.** 9 割以上がエコチルを知らない方がであったが、一般の方にエコチル調査の成果を広く紹介することができた。また、アンケートより環境への関心が高いことがわかり、エコチル調査に関心を持って頂く事ができた。
（A）改善	今後も、社会的インパクトの高い内容の論文の報道発表や、シンポジウム・学会等で積極的に成果を紹介する。イベントでの成果の還元について引き続き検討する。文書として配付する「エコチル講座」やニュースレターでは、多くの参加者に成果を紹介できるため、今後もわかりやすく成果を伝えるよう工夫しながら、取組を継続する。

図 1. ニュースレター「ちばエコチル調査つうしん」（年２回３月･９月発行）





図 2.「なるほど！ぴよ BOOK」（年２回３月･９月発行）





図 3.「エコチル調査なるほど！セミナー」



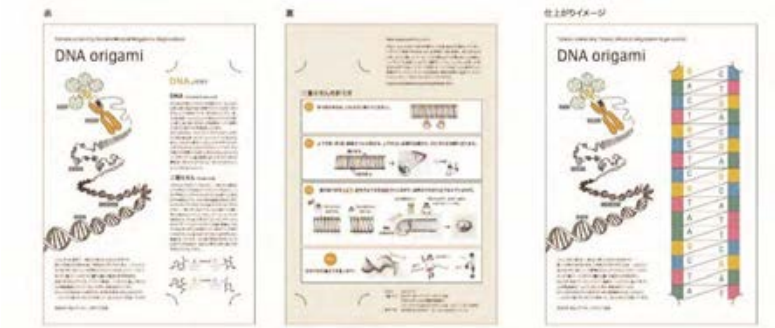
図４．エコチル調査　周知活動（イベント参加の様子、ポスター）





イベント参加の様子

図５．「DNA origami」　小学６年生学童期検査で配付



DNA の形を作れる折り紙、*DNA* の説明付き（東北大学　東北メディカル・メガバンク機構作成）

図６．子どもアンケート　お礼カード（10、11、12 歳）

謝礼とともに郵送





図７．夏休みイベント「エコチル川柳コンテスト」







図 8. 「**成果動画の紹介**」YouTube にて 9 月配信

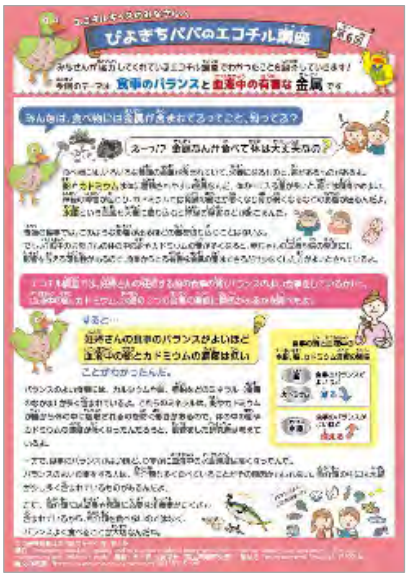


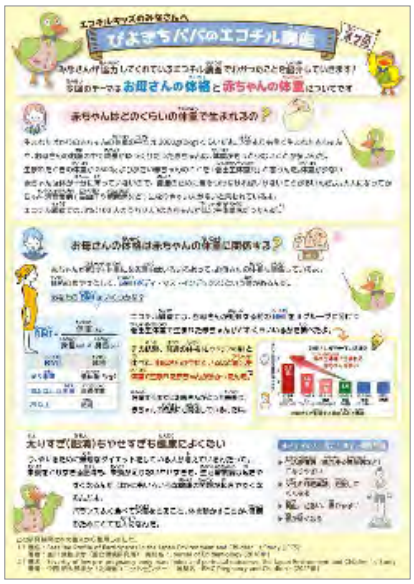
図 9. 学童期検査会場でのログイン勧奨（子向け**マンガ配付**等）





図１０. ぴよきちパパのエコチル講座（年 2 回発行）





エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　神奈川ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10 月 31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	①13 歳以降アカウント情報送付時期の検討 ・できるだけ対面での勧誘をしていきたい。 ・過去２年間の参加者の動向として、アカウント発送後すぐに登録していただけなかった場合には、１月以降に検討してからという方が多かった。また、お子様の登録は 2-3 月になる方が多かった。早くお渡ししても無くされることも多いため、2025 年度のアカウント情報のお渡し方法は下記のようにする。 ・12 月までは学童期検査・詳細調査時に参加していただける参加者に、検査資料送付時、13 歳以降の資料も同封する。 アカウント情報は、検査当日に手渡し勧誘を行う。当日同意が確認取れた参加者には子どものアカウント情報も手渡す。 ・1 月以降の予約の方と、それ以外の方は 12 月に一斉に発送する。 ・1 月以降の学童期検査・詳細調査に参加する方は、前日に同意状況を確認し、追加の説明をする。 ②中学１・2 年の回答率向上の検討 ・母親が同意しているが、子どものアカウントが作成されていない参加者に対して、子のアカウント情報を発送する。 特に母親は回答している方への個別の対応も検討する。 ③中学１・2 年の参加率向上の検討 ・不参加などの連絡がない参加者については、参加の呼びかけをしてみる。 ・中学 3 年１学期ぐらいに、ボランティア活動証明書をお渡しすることを検討する。

（D）実施	①13 歳以降アカウント情報送付時期の検討

	・12 月までに対面調査に参加する対象者には、アカウントをその場でお渡しし勧誘する。 ・それ以外の方は、12 月にアカウントを発送する。 ②中学 1・2 年の回答率向上の検討 ・子アカウントを再発送する。 ③中学 1・2 年の参加率向上の検討 ・11 月にエコチル通信を発送し、その中に、ボランティア活動証明書を発行することを記載し、参加を呼び掛ける。
（C）評価	①13 歳以降アカウント情報送付時期の検討 10/12 までの参加者について、当日同意 275/387（71%）・持ち帰って検討する 78/387（20%）・不同意 34/387（9%）となった。現在同意している方が、343 名いるので、持ち帰って検討するとなった 78 名のうち 68 名が同意しており、343/387（89%）が継続参加となっている。対面での勧誘効果があったと評価できる。 ②中学 1・2 年の回答率向上の検討 親が同意していて子が未ログインのお子様が中学 2 年生 81/376（22%）・中学 1 年生 123/792（16%）となっている。また、登録をしてもらえていない子どもがいる。 ③中学 1・2 年の参加率向上の検討 11 月以降に、配布予定のため現在は評価できない。
（A）改善	①13 歳以降アカウント情報送付時期の検討 学童期検査・詳細調査などの対面調査に協力してくださる参加者の 13 歳以降の継続率は高くなるが、対面調査の参加率が 30%程度のため、対面調査への参加率を上げていく工夫も必要となる。 ②再度 ID を送付してみる。また③の参加率向上の対策と合わせて再度検討したい。 ③ユニットセンターからの情報発信での評価を見て、再度検討する。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組

（P）計画	①紙質問票 質問票ごとに３回のリマインドを継続的に実施する。 ②13 歳以降の質問票 コアセンターからの 3 回のリマインドでの効果がない参加者については、ユニットセンターから発送している情報誌で回答を依頼する。
（D）実施	①紙質問票 質問票発送後、6 週・10 週・19 週後にそれぞれ、ショートメール・はがき・ショートメールを発送する。 ②13 歳以降の質問票 11 月発行の情報誌で回答依頼もする。
（C）評価	①紙質問票 回答率の低下を食い止めることができていない。 ②13 歳以降の質問票 11 月発行予定のため、今後の評価となる。
（A）改善	①紙質問票 はがきに内容を変更してみるなどしてみる。 ②13 歳以降の質問票 改めて検討する。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	神奈川ユニットセンターでの論文発表も掲載した新聞広告を実施する。 大人向け・中高校生向け・小学生向けに分けて対応
（D）実施	8-9 月に広告を出した（別添）。
（C）評価	小学生向け・中高校生向けなど現参加者と同年代の見る新聞に広告することで、エコチル調査の知名度向上に寄与していると考える。
（A）改善	評価方法が難しいため、今後の対応は更なる検討が必要だと思う。

別添

こども新聞（小学生向け）



中高生新聞

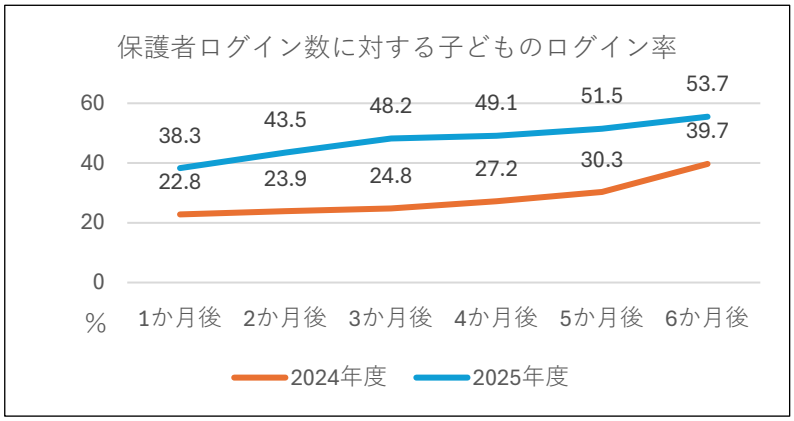


エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：甲信ユニットセンター（山梨大学）

評価時点	令和　7　年　10　月　20　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	**小学 6 年生の参加児に焦点を当てたコミュニケーション活動の充実** エコチル調査は 13 歳以降、紙の質問票から Web 質問票に変わるため、参加児が小学 6 年生になった時点で保護者のスマートフォン等に参加者ポータルシステムの専用アプリをダウンロードしてもらい、調査継続の意向を確認するとともに、子ども本人にもアカウントを発行し、Web 質問票への準備を依頼している。 本年度は 13 歳以降の調査継続に向けて、キーポイントとなる小学 6 年生の子どもたちをターゲットに、調査参加・継続へのモチベーション向上を目指した新規企画や取組を工夫することとした。
（D）実施	**1.「テレビ山梨情報番組『スゴろく』親子観覧ツアー」の開催** 今年 3 月、山梨県のローカルテレビ局「テレビ山梨（UTY)」が設立 55 周年を記念して、自社制作の情報番組「スゴろく」を親子で観覧できるイベントを開催するという情報を得た。UTY 系列の広告代理店とはエコチル調査が始まった時から広報活動やイベントなどを通じて支援・協力関係を構築してきたため、エコチル調査に参加している親子を限定とした観覧ツアーの開催について相談したところ、夏休み中の 8 月 4 日（月）～8 日（金）の 5 日間、エコチル調査の親子限定で、1 日 5 組、計 25 組を受け入れてもらえることになった。 この観覧ツアーを小学 6 年生の親子に限定したイベントとし、2013 年度生まれの参加児 1,269 名とその保護者に宛てて、5 月 28 日に A4 版の案内ハガキを発送し、メールで参加者を募集した。その結果、6 月 30 日の締切日までに定員を大幅に上回る 94 組の応募があった。このため募集枠を 1 日 5 組から 6 組に増やして抽選を行い、計 30 組の親子を選定した。 「観覧ツアー」当日は UTY のアナウンサーがガイド役となり、参加親子は実際に番組を撮影しているスタジオセットを見学し、テレビカメラや大型モニターの操作を体験。コントロールルームでは技術スタッフから照明や音響を使った演出方法の説明を受けた。その後、16：50 から 1 時間にわたり生放送している情報番組「スゴろく」に親子ゲストとして出演し、インタビューに答えたり、出演者と一緒にダンスをしたりして番組を盛り上げた。 番組終了後には、ユニットセンターのスタッフが 13 歳以降の調査や手続きの流れについて説明し、改めて協力を依頼した。 （「別添 1」参照） **2. 保護者のアプリに子どものログインを促すお知らせを毎日配信** 13 歳以降調査の準備として、保護者が専用アプリ等で調査継続の意思表示をすると、翌日には保護者のアプリに子どものアカウント情報が配信される。それを使って子どももアプリにログインし、練習用の質問に回答するとポイントがもらえるという仕組みになっている。しかし、過去 2 年間の取組では、保護者のログイン数に対して子どものログイン数が伸び悩んでいることが課題となっていた。

	本年度は保護者のログイン数に子どものログイン数がなるべく近づくよう、保護者がアプリにログインして継続の意思表示を行った日から 1 週間後の時点で、子どものログイン状況を確認し（土日分は月曜確認分に含める）、未ログインの場合はアプリのお知らせ配信機能を活用して、保護者宛てに子どものログインを促す依頼文を送信する取組を始めた。 アプリへのお知らせ配信は参加者ポータルシステムの操作が必要となるため、ユニットセンター独自にマニュアルを作成してリサーチコーディネーター 5 人が日替りで担当することとした。毎日実施後には件数を集計するとともに、参加者ごとに作っている個人カルテにも子どものログインを促すお知らせを配信したことを記載して記録に残している。
（C）評価	**1. 「観覧ツアー」の開催について** 「観覧ツアー」の開催から一か月後の 9 月 9 日に、参加した 28 組（2 組は体調不良等で当日キャンセル）を対象にメールで事後アンケートを実施した。9 月 30 日までに 17 組の親子から回答が寄せられた。 今回のイベントの内容について、「満足」「まあ満足」「やや不満」「不満」の 4 段階で満足度をたずねたところ、「『スゴろく』への生出演」については全員が「満足」と回答。「メールでの申し込み方法」と「スタジオや調整室の見学」はそれぞれ 16 組が「満足」、1 組が「まあ満足」という回答だった。スタジオ見学を「まあ満足」とした理由として、「もう少し見学に時間をかけられたらよかった」との意見があった。 「お子さんの満足度」については、全員が「楽しかったようだ」と回答。自由記載欄には「普段見られない番組の裏側を見たり、さまざまな方が番組を作っていることが知れたりと、キャリア学習としてもとても良かった」「私も娘もお友達から『見たよー！』と温かい声をいただき、番組放送後も嬉しい時間が過ごせた」「素敵な機会をいただけた事で『エコチル調査に参加してよかったね』と家族で話した」などの感想が寄せられ、記憶に残るイベントとして楽しんでもらえた様子がうかがえた。 また、10 月 20 日現在、イベント参加者 28 組中、24 組がエコチル調査アプリにログインし、13 歳以降の調査継続の意思を示しており、モチベーションアップにも効果があったことが示唆された。 **2. エコチル調査アプリにお知らせを配信する取組について** 保護者のアカウント情報を発送してから 1 ヶ月ごとに、保護者のログイン数とそれに対する子どものログイン率を集計し、2024 年度と 2025 年度で比較したところ下記グラフのような結果となった。  子どものログインを促すお知らせを配信していなかった 2024 年度に比べ

	て、2025年度の子どものログイン率は保護者アカウントを発送した1か月後から、約15ポイント高く、その後も20ポイント前後の差をつけて推移していることから、お知らせ配信の効果が認められた。
（A）改善	2024 年度から、エコチル調査の対象地域にある小学校に出向き、5、6 年生を対象に森林保全をテーマにしたカードゲームの体験授業を実施しているが、本年度のテレビ局観覧ツアーと合わせて、子ども本人と直接コミュニケーションを図る機会を増やすことで、エコチル調査に対する子どもの認知度が高まり、それが 13 歳以降調査の継続率向上にもつながるものと期待している。思春期に差し掛かり、複雑化する子どもの好みや要望になるべく応えられるような企画や取組を引き続き考えていきたい。 また子ども本人のログインは、保護者へのお知らせ配信に加えて、多くの子どもが専用のスマートフォンを持つようになる 6 年生の年末～年度末に改めて子ども本人に宛てたメッセージなどを送付し、協力を呼び掛ける予定である。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	**<u>13 歳以降調査が「休眠状態」になっている参加者の掘り起こし</u>** 13 歳以降のエコチル調査の継続率は、2025 年 3 月 31 日時点で、中学 2 年の保護者が 51.6%、中学 1 年の保護者は 48.4%で、約半数にとどまっていた。 13 歳以降の Web 質問票の回答率を上げるためにはまず、調査継続者を増やす必要があり、本年度は継続の意思が確認できないまま子どもが中学生になっている「休眠状態」の参加親子を掘り起こす取組を検討することとした。
（D）実施	**<u>1. 大判ハガキによるニューズレターを送付</u>** 小学 6 年生の時点で行っているアプリの準備や調査継続の意思表示は、中学生になってからでもできるが、中学に進学した 4 月以降、アプリで継続の意思表示をする保護者は激減しており、中学生以降は手続きができないと誤解している人が少なからずいることがうかがえた。 このため、本年度中学 1 年生と、2 年生になった子どもの保護者のうち、調査継続の意思確認ができていない「休眠状態」の人を対象に、13 歳以降の Web 質問票調査は中学生になってからでも始められることを伝えるニューズレターを作成し、8 月 25、26 日に発送発行した。 対象となった保護者は中学 2 年が 283 人、中学 1 年は 571 人だった。ニューズレターは、参加者に内容がダイレクトに伝わるよう、A4 版の大型ハガキを使用し、表面に「今からでも間に合います！」とのタイトルを付けて、13 歳以降の調査は中学生になってからでも始められることやアプリのダウンロード方法をまとめた記事を掲載した。 また、初回ログインに必要な ID・パスワードが分からなくなっているケースを想定し、メールによる問合せフォームを作成してニューズレターに掲載した。問合せは 24 時間受付可能とし、希望する返信方法や時間帯なども選択できるようにして、参加者の要望に対応できる環境を整えた。（「別添 2」参照） **<u>2. 対面でのファミリーイベントを 5 年ぶりに開催</u>** 2011 年度のエコチル調査スタート時から、参加家族を対象に年に 1 回程度開催してきた対面のイベントについては、コロナ禍を契機に 2020 年度から中止していたが、本年度は「休眠状態」になっている中学生の家族を含めた全参加者を対象に 5 年ぶりに開催し、対面で直接コミュニケーションを図る機会を作ることとした。 内容については、参加者が気軽に来られるよう、芸能人ゲストを招いたトー

	クショーを開催することとし、トーク部分を録音して後日ラジオでオンエアーすることでエコチル調査の広報活動にもつなげる、という計画を立てた。 会場についても参加者の来場しやすさを第一に考え、大学近くにある「イオンモール甲府昭和店」のイベント広場を初めて選定した。小学 6 年生までの紙の質問票調査の謝礼として活用している「WAON ポイント」のダウンロードなどが会場内でできるというメリットも考慮した。 実際のイベントは 11 月 15 日（土）13：30～14：30、元サッカー女子日本代表選手で現在はママさんタレントとして活躍している丸山桂里奈さんをゲストに迎え、「子育てトークライブ」を行う予定である。その内容は 11 月 30 日（日）13：00～13：53 まで、山梨県内のラジオ局「FM FUJI」で放送されることも決定している。 また、会場にはエコチル調査のブースを設営し、来場した調査参加家族には記念品を配付して、日ごろの感謝の気持ちを直接伝えるとともに、13 歳以降の調査に関する相談コーナーも開設して協力を呼び掛ける予定である。
（C）評価	**1. 大判ハガキによるニューズレターについて** ニューズレター発送後、約 1 か月が経過した 9 月 30 日現在、中学 2 年の保護者で 2 人、中学 1 年の保護者では 10 人が、新たにシステムにログインし、13 歳以降の調査継続に同意の意思を示した。劇的な効果とまではいえないかもしれないが、「休眠状態」の保護者の掘り起こしにつながった。 また ID・パスワードに関する問い合わせメールも 9 月 30 日現在で 47 件寄せられており、そのうち中学 2 年の保護者からが 4 件（8.5%）、中学 1 年の保護者からは 19 件（40.4%）を占めている。これは新規のログイン件数を上回っており、これからまだ中学生以降の同意者が増える可能性があることを示している。 **2. ファミリーイベントについて** イベントについてはまだ開催していないため評価はできないが、当日の来場者数とともに、エコチル調査ブースに立ち寄った参加者数や子どもの年代別の内訳、相談コーナーにおける参加者からの相談内容などを集計し、効果を検証する予定である。
（A）改善	中学生以降、「休眠状態」になっている参加者の掘り起こしについては、中学 2 年の保護者より 1 年の保護者の反応がよかったため、これから中学生になる 2013 年度、2014 年度生まれの参加親子に対しては、中学校入学後に「休眠状態」になった場合でも、その期間が短いうちに調査継続を働きかけることが重要だと思われる。来年度の中学生向けの取組については、時期も考慮して早めに対応していきたい。 また、調査継続の意思表示をした参加親子に対して、確実に Web 質問票の回答行動にまでつながるような新たな取組も考えたい。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**研究成果を子どもたちや一般市民に分かりやすく伝える工夫** 2025 年 9 月 30 日現在、エコチル調査のデータを活用した研究論文は、山梨大学から 56 編が公表されている（追加調査を含む）。これらの研究成果はこれまで、ユニットセンターの公式ホームページや、参加者・関係者に配付しているニューズレターなどで紹介してきたが、さらに広い範囲で社会に還元できるよう、新たな取組や情報発信の方法について工夫することとした。

（D）実施

1. マスコミを対象とした「研究論文説明会」の開催

2024 年 11 月から 12 月にかけて、追加調査として実施している「8 歳学童期総合健診」のデータを活用した研究論文 2 編（和文タイトル：「小児のスギ花粉感作とヤケヒョウヒダニ感作および母親の感作との関連」「学童期におけるアレルゲン特異的免疫グロブリン E 感作、アレルギー性鼻炎症状および QOL の関連性」）が医学雑誌に掲載された。これまで研究論文が公表された際には、可能な限りプレスリリースを発信してきたが、「エコチル調査のデータを使用している」という共通点がある論文の情報発信が続くと、マスコミに取り上げてもらいにくくなるというジレンマを感じていた。

公表された論文は 2 編とも子どものアレルギー性鼻炎に関する内容で、県民の関心度も高く、マスコミに取り上げられることでより多くの人々にエコチル調査の研究成果が還元できると考え、新たな試みとして記者を対象とした「説明会」を開催することとした。

準備としてまず、論文を執筆した研究者にマスコミ向けの資料作りから当日の発表、記者との質疑応答まで一貫して対応してもらえるよう協力を要請し、快諾を得た。また、大学内の広報担当部署の職員にも趣旨を説明し、相談したところ、プレスリリースや説明会の開催案内の発信、マスコミからの申込・問合せなどを引き受けてもらえることになった。

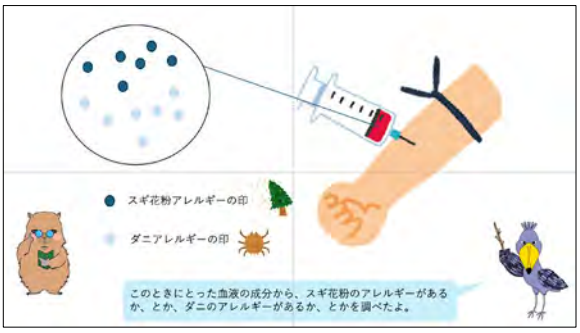
説明会は 2025 年 2 月 7 日に大学内の講堂で開催することとし、マスコミ各社には 1 週間前の 1 月 31 日に、情報解禁日を付けてプレスリリースを配信した。その際、研究タイトルについても一般市民に伝わりやすくなるよう柔らかい表現を工夫し、「子どものスギ花粉感作とヤケヒョウヒダニ感作および母親のスギ花粉感作との関連」「山梨県の子どものアレルギー性鼻炎の現状と日常生活への影響について」とした。さらに、研究の詳細については「記者説明会」を開催して、研究者本人から発表するとともに、取材対応なども行うことを告知した。

説明会には山梨県内のテレビ局 3 社と新聞社 2 社から申し込みがあり、当日は記者やディレクター、カメラマンら 8 名が出席した。論文を執筆した研究者がそれぞれの内容についてスライドを使って説明し、記者からの質問に回答。終了後にはテレビ局の独自インタビューなどにも対応した。

（「別添 1」参照）

2. 研究成果を子どもにも分かりやすく紹介する動画の作成

子どもたちが小学校高学年になるに従って、保護者から、「エコチル調査の成果について、子どもにも分かるような資料があると話がしやすい」といった声を聞く機会が増えた。



子ども向け成果発信動画の一場面

昨年末に上記の記者説明会で取り上げたアレルギー性鼻炎に関する論文 2 編がアクセプトされた際、花粉症の研究であれば子どもたちにとっても身近な話題であり、成果を分かりやすく伝える題材になると考え、子ども向けの資料作りに取り組むことになった。

資料の素材を検討するにあたり、冊子やニューズレターなどで取り上げることも考えたが、日ごろから You Tube やゲームに慣れ親しんでいる子どもたち

	には、動画の方が分かりやすいのではないか、という意見が持ち上がり、アニメーション動画を作成することになった。その際、教材のような堅苦しいイメージではなく、子どもたちに人気のある You Tube チャンネルのような雰囲気にすることを心掛けた。 イラストが得意なスタッフの家族に協力してもらい、カピバラとハシビロコウを擬人化したキャラクターを作成。2 人が掛け合いをしながら、スギ花粉症と診断された子どもの割合や花粉症が日常生活に与えている影響、ダニアレルギーとの関連などについて紹介する 4 分程度の動画を 2 本、無料の音声読み上げソフトを使って作成した。 動画は学童期検査・詳細調査の待合室で 1 日に数回上映し、参加者に気軽に楽しんでもらっている。
（C）評価	**1.「研究論文説明会」の開催について** 説明会に出席した記者からは、「研究者がポイントをまとめて説明してくれたので分かりやすかった」「説明会の映像が撮影できたので、テレビニュースとして使いやすい」などの感想が寄せられ、概ね好評だった。 また、参加したテレビ局 3 社はいずれも平日 18 時台にニュース番組を放送しているが、説明会を開催したことにより、研究成果が生のニュースとして取り上げられ、早速、当日の夕方に放送された。 新聞については山梨日日新聞が翌日の朝刊の第 2 社会面にトップ記事として掲載したほか、毎日新聞も 2 月 13 日の山梨県版で 4 段見出し付きの記事を掲載し、これまで発信したプレスリリースの中で最も大きな反響があった。 **2. 研究成果の動画作成について** ELSI・PPI 調査研究分科会と連携して実施した中学生へのグループインタビュー（2025 年 3 月 15 日）において、参加した 14 名の生徒たちに作成した動画を見てもらい、改善案についての意見を聴取した。 中学生からは、「動画の時間が長いので短くした方が見てもらいやすいのでは」「セリフのスピードをもう少し早くしたほうがよい」などの指摘があった。 また、動画のほかにも、好ましい成果発信方法として何人かの参加者から漫画を勧める意見が寄せられた。
（A）改善	研究成果の動画については、中学生へのグループインタビューで得られた意見を踏まえて内容を修正し、新しいバージョンを学童期検査の待合室で流している。今後はイベント会場など、さらに子どもたちの目に留まる機会をとらえて活用していきたい。 エコチル調査は今後、16 歳になった時点で、子ども本人に調査継続の意思確認を行うことになっており、エコチル調査で得られた研究成果を社会に還元することによって子どもたちが調査の重要性を認識し、それが調査を主体的に継続してもらうためのモチベーションにもつながるものと考える。さらに子どもが理解しやすい成果の還元方法について検討を進めたい。

テレビ山梨「スゴろく」夏休み親子観覧ツアー



「スゴろく」のスタジオセット



テレビカメラの操作を体験する参加者

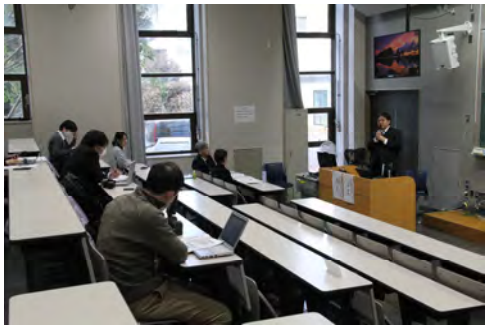


副調整室で照明や音響の仕組みを学ぶ



番組終了後には出演者と記念撮影も

研究成果記者説明会



「研究成果説明会」の様子



研究内容を説明する島村助教



インタビューを受ける三宅准教授（左）



終了後には追加取材にも対応

「休眠状態」の中学生親子に送付した大判ハガキ

別添２





エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　甲信サブユニットセンター（信州大学）

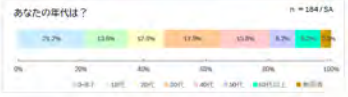
評価時点	令和　7 年 10 月 24 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	学童期検査において直接研究及び成果発表に携わる教員を派遣することにより、参加者とのコミュニケーションを深めるとともに積極的継続への方向付けを行う。
（D）実施	月４回ペースの検査実施に参加し、積極的継続の参加者にはアプリ使用面でのアドバイスや継続未確認の参加者には同意勧奨を実行した。
（C）評価	過去における対面検査において参加者に直接研究者が接することは無かったため、双方にとって有意義であったと言える。
（A）改善	対面検査の進行速度により、やむを得ない時間調整が発生することがあるため平準化できるよう検討していく。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	13 歳以降調査の質問票回答率向上に向けてのアプローチを検討。信州大学では長年にわたりハガキでの勧奨を続けてきたこともあり、ハガキでのアプローチは有効なコミュニケーションの１つである。 そのため今回もハガキでの勧奨を行うこととした。
（D）実施	まず、一斉配信されるリマインドと重なることがないよう年間の配信予定を確認し、ハガキの発送を 8 月上旬と決めた。 デザインについては、おもて面は青い空のグラデーションとかき氷を背景に、白抜きの「質問票のご回答はお済みですか？」という手書き風の一文と、中心に置いた当 UC のシンボルキャラクター、エコぴよの「暑中お見舞い申し上げます」と吹き出しのセリフで季節のご挨拶状のような雰囲気に仕上げた。 裏面には未回答の質問票の確認方法を実際のアプリ画面を模して視覚的に分かるように載せ、質問票には回答期限があることや今後の配信スケジュールなど、要点だけを簡潔に記載した。

	 
（C）評価	ハガキ発送前、発送後の 3 週間での質問票回答率を比較した。 （保護者、子どもそれぞれの 4 月 6 月配信分の合計で算出） ハガキ発送前は質問票の回答率が停滞しており、3 週間でわずか 0.6%ほどしか増えていなかった。 しかしハガキ発送後は全体で約 7%、特に 6 月配信分に関しては 2011 年生まれの保護者は 12.8%、子どもで 13.7%、2012 年生まれの保護者は 7.9%、子どもは 8.2%と大幅な回答率アップに繋がった。 ハガキ 1 枚での効果としては高く評価できると言える。
（A）改善	質問票の回答率を向上させるためにはアプローチが必須だが、過度な勧奨は参加者にとって負担や不快感を与え、ひいては調査への協力取りやめにも繋がりかねない。 そのバランスが大変難しく苦戦するところではあるが、重たすぎないアプローチのために細かい工夫を重ねていく必要がある。勧奨の回数やハガキの内容などについては今後もしっかりと検討をしていく。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	＜調査地域でのイベント出展による還元＞ 信州大学農学部の一般向けイベントにてブース出展し、市民に向けてエコチル調査のアピールとともに成果を還元した。

（D）実施	信大マルシェ（農学部キャンパスにて 9/20 実施）にて来場者に対してヨーヨー釣りやアンケートに答えるとポップコーンのプレゼントを行い集客を図った。    
（C）評価	天候に恵まれず総来場者は 1000 名程度であった。うち約 180 名が来展されアプローチできた。アンケートによると一般市民の認知度は約３割で、うちメディア３割、掲示ポスター２割であった。メディアは以前ＦＭ放送でＰＲしていたこととポスターは学校、保育園や病院等での掲示が効果を発揮している。来展された市民へ楽しく親しみやい活動となった。   
（A）改善	更に集客につながる企画を練るとともに身近でわかりやすい話題を提供し調査の認知度の向上とともに調査参加者の意識維持につなげていく。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：富山ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　16　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	**<u>「エコチルとやま新聞」表紙写真募集</u>** 13 歳以降調査のアプリを利用する参加者と保護者のモチベーション維持のため、調査開始から年 2 回発行し郵送配布する「エコチルとやま新聞」の表紙を飾る写真を募集する企画を立てた。 **<u>公共広告：バスラッピング・街頭モニター・車マグネット</u>** 参加者の周囲の多くの方が「エコチル調査」を知っていることで、参加者のモチベーションが維持されることを期待して、エコチル調査の認知度向上を目的に**A.富山市内路線バスへのフルラッピング広告、B.街頭液晶モニターへの動画広告放映、C.車外貼付マグネット広告**を企画した(**別添アー①**)。 **<u>「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」</u>** 参加者ポータルアプリからの Web 質問票の回答を促すことと、子どものログイン率向上を目的に、Web 質問票の配信月と誕生日に郵送の通知を送ることとした。
（D）実施	**<u>「エコチルとやま新聞」表紙写真募集</u>** 写真募集の案内はポータルサイトのお知らせ機能にて参加者と保護者全員に 5 月 30 日に配信した。写真のテーマは「みんなに見てもらいたい、とやまの風景」とし、メール添付で画像送付を依頼した。また、応募者全員に記念グッズを進呈することを通知した。 **<u>公共広告：バスラッピング・街頭モニター・車マグネット</u>** 「エコチル調査」の名前、調査の概要などを周知するため、視覚的に訴えるデザインになるよう工夫した。**A.富山市内路線バスへのフルラッピング広告、B.街頭液晶モニターへの動画広告**は、行政機関によるデザイン画の許可申請の受理を受け、**A**は令和 7 年 10 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日に運行、**B**は令和 7 年 9 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日に放映となった。**C**は 2 種作成し、学外での対面検査に使用するレン

	タカーの側面に貼付した。 　また、9 月に発送したエコチルとやま新聞の表紙写真は「乗り物がある富山の風景」という企画で募集し、「ラッピングバスを写してね」と呼びかけ、参加者とのコミュニケーションを図ることとした。 **「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」** 　質問票配信月の１週目に、子どもがログイン済みの方にはハガキで、未ログインの方には配達記録郵便にてログイン ID と PW を同封した封書で Web 質問票が配信されたことを案内した。案内にはどのような質問票で何ポイントもらえるか、期限があるかなどの情報を加えた（**別添アー②**）。 　また、誕生日を迎えた方を１週間ごとに抽出し、誕生日配信の質問票が送られたことを、誕生祝のメッセージと定形郵便で郵送できるサイズの文具をプレゼントとして同封して知らせることとした（**別添アー③**）。
（C）評価	**「エコチルとやま新聞」表紙写真を募集** 　配信者数は 3,078 名中（保護者と子ども）、29 名から 41 点の写真応募があった。内 1 点を vol.32 の表紙に採用し、撮影者に撮影時のエピソード文を寄稿してもらい掲載した。普段 Web 質問票の回答以外に利用しないアプリのお知らせ配信でも、一定数の反響があることがわかった。質問票の回答率が伸びたかは、今後、昨年度との比較で評価する予定である。 **公共広告：バスラッピング・街頭モニター・車マグネット** 　バスの運行や動画広告の放映後間もないため、現時点で参加者からのリアクションはまだない。また、一般市民への周知がどの程度浸透したかも現時点では評価できていない。公共の場でエコチル調査をアピールする戦略が 13 歳以降調査の継続や質問票調査の回答率等に反映されるかも今後評価していく予定である。 **「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」** 　今年中 1 となった参加者のうち、同意した保護者に対する子どものログイン率は、83.2%となり、全国平均の 76.4%より高い値となった（2025 年 10 月 Web 会議資料より）。Web 質問票配信後から配信案内ハガキ到着前と、ハガキ到着後の同じ経過日数（4 月は 4 日間、6 月は 5 日間）の回答率を見たところ、4 月；前 263 件（総配信数に対する回答率 9.9%）、後 392 件（14.7%）、6 月；前 267 件（10.0%）、

	後 354 件（13.3%）だった。このことから、アプリのお知らせ&メール配信で回答するよりハガキ到着後に回答する人が多いことが明らかになった。
（A）改善	**<u>「エコチルとやま新聞」表紙写真を募集</u>** アプリのお知らせ配信を見られない小 6、小 5 の参加者に対しても働きかけるため､次号の表紙写真募集をエコチルとやま新聞 vol.32 でも案内し、今後も継続する企画とした。また次号は「乗り物がある富山の風景」というテーマにしたため、街で見かけたラッピングバスやマグネットを貼付したレンタカーの写真応募も期待したい。 **<u>公共広告：バスラッピング・街頭モニター・車マグネット</u>** 参加者モチベーション維持につながることが明確になれば、効果的な媒体が何かを吟味して一般市民への周知を今後も継続する。 **<u>「13 歳以降調査 Web 質問票配信案内の郵送」</u>** 郵送による案内は一定の効果があると考えているが、今後もより多くの回答が得られるよう、ハガキを用いた配信直後の案内のほかに、配信から 2～3 か月経過しても未回答の人への回答要請についても検討したい。メールによる回答要請はポータルシステムで自動で配信が行われているため、メール以外で参加者の関心が得られる手法について引き続き検討していく。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	**<u>とやま元気っこチャレンジの周知</u>** 「とやま元気っこチャレンジ」とは、富山県教育委員会が制作したアプリで、県内の小・中学生が身長、体重、スポーツテストの記録を自ら入力・閲覧できるツールである。 学校で計測する項目を転記する設問では回答の欠測が多く、転記の対応の煩雑さが質問票の回収率低下につながっている可能性も考えられた。 そこで、質問票の回収率向上および空欄のまま返送することを防ぐことを目的として､「とやま元気っこチャレンジ」の使用方法を紹介するリーフレットを質問票に同封することを企画した（**別添イ－①**）。
（D）実施	**<u>とやま元気っこチャレンジの周知</u>** 2024 年フォローアップと広報資材を作成するスタッフが富山県教

育委員会を訪ね、この企画の趣旨を伝え、作成するリーフレットにアプリの画像使用の許諾を得た。以下のリーフレットを小学 5 年質問票の発送時に同封して参加者に本アプリの機能を周知した。

（C）評価

<u>とやま元気っこチャレンジの周知</u>

リーフレット同封の有無で質問票回収率に差はなかった(表 1)。

表 1. 質問票回収率

対象	リーフレット同封	あり	合計	回収率
小学5年生	なし	1,983	2,469	80.3%
	あり	1,298	1,632	79.5%

一方、リーフレットを同封した群では回答が空欄であった質問票の割合が有意に減少していた(表 2)。

表 2. 回答が空欄だった質問票の割合の比較

小学5年生質問票 質問項目	リーフレット同封 なし（1,974）		あり（1,294）		
	n	%	n	%	p
5年生_1学期（前期）_身長	726	36.8%	423	32.7%	**0.016**
5年生_2学期（後期）_身長	935	47.4%	576	44.5%	0.110
握力（右）	1,543	78.2%	808	62.4%	**<.0001**

また、数名の参加者より、「このアプリを教えてもらったことで子どもの情報が家で閲覧できて嬉しい」というコメントも届いた。

（A）改善

<u>とやま元気っこチャレンジの周知</u>

「とやま元気っこチャレンジ」の紹介リーフレットを同封することで、質問票の空欄が有意に減少し、アプリの活用を通じて学校での測定記録を家庭でも確認できることに肯定的な反応が得られた。一方で、質問票回収率自体の改善には至らなかった。今後は、リーフレット同封に加え、学校や教育委員会からも本アプリ利用の意義を周知してもらうような協力体制が作れないかを模索する。

ウ．成果の社会還元の取組

（P）計画

<u>子育て世代が集まる地域イベントへのブース出展とフリーペーパーへの広告掲載</u>

「エコチル調査」で明らかになった成果を乳幼児の子育て世代に還

	元することを目的に、子育て世代が集まるイベントへのブース出展を企画した。また、同世代に配布されるフリーペーパーへの広告掲載を企画した。選定したイベントは、①魚津市こども模擬選挙（魚津市主催の期日前投票を促すためのイベント)、②リトル・ママフェスタ in 富山（一般企業が主催する子育て世代向けの展示会）である。これらのイベントではコアセンター発行のリーフレット「エコチル調査って何？」と、富山ユニットセンターが発表した研究成果をまとめた小冊子「エコチル調査でわかったこと」Vol.1～3 を配布することとした。また、調査名だけでも周知しようと、ロゴ入りボールペン、ユニットセンターのキャラクターをモチーフとしたペーパークラフトと折り紙も配布した(別添ウ－①)。 広告掲載を企画したフリーペーパーは、イベント①を主催した魚津市が発行する魚津市子育て応援ガイドブックと富山県内全域の保育施設等に配布される KidsDo10・11 月号とやま版とした。 **論文発表のプレスリリース** 論文発表時にできる限りプレスリリースする計画を立て、メディアに取り上げられるよう内容を吟味した。
（D）実施	**子育て世代が集まる地域イベントへのブース出展とフリーペーパーへの広告掲載** ブース前を通る方に、「エコチル調査をご存じですか？」と声をかけ、「以前から知っている/今日初めて知った」のいずれかを 1 人ずつボードにシールを貼付してもらい回答を得た。回答者にはグッズ 1 点と、家族単位でリーフレットと小冊子を手渡し、エコチル調査を知らないという方にエコチル調査について説明した(別添ウ－②)。 広告は富山ユニットセンターが発表した研究成果のホームページにアクセスしやすいように、QR コードを記載した(別添ウ－③)。 **論文発表のプレスリリース** 令和 7 年 4 月～令和 7 年 9 月末までに論文発表のプレスリリースを 4 件行った。
（C）評価	**子育て世代が集まる地域イベントへのブース出展とフリーペーパーへの広告掲載** 出展ブースへの来場者数は、①483 人、②799 人であり、エコチル調査認知度は、①以前から知っている 120 (24.8%)/今日初めて知った 363 (75.2%)、②以前から知っている 83 (10.4%)/今日初めて知った

	716 (89.6%)であり、大多数が初めて知った方であった(**別添ウ－④**)。 来場者には小冊子「エコチル調査でわかったこと」を配布した。①は小～中学生の子育て世代の家族、②は妊娠期～乳幼児の子育て世代の家族をターゲットとし、世代層によってエコチル調査の認知度の差異を知ることができた。特に②は小冊子「エコチル調査でわかったこと」の内容が合致する世代であったため、「リアルタイムな情報源」、「このような調査があることに感激した」という好意的な声が多く寄せられた。 フリーペーパーへの広告掲載によるホームページの研究成果ページへのアクセス数変化はまだないため、今後評価していく予定である。 **論文発表のプレスリリース** プレスリリース後、7 件の新聞掲載につながった。また、参加者からは「掲載された新聞記事を見て、自分たちが調査に協力していることの成果を知ることができ、調査参加への意義を感じた」という意見を直接伺った。
（A）改善	**子育て世代が集まる地域イベントへのブース出展とフリーペーパーへの広告掲載** エコチル調査成果に関心がある子育て世代に向けて、対面やフリーペーパーを活用して調査を周知できることは成果の社会還元に有効な手段であると考えられる。これからも地域で行われるイベントを吟味し、より多くの方に周知する道筋を模索していきたい。 **論文発表のプレスリリース** プレスリリースにより新聞に掲載されたことで、参加者や地域の人がエコチル調査への関心を高めるきっかけになったと考えられる。今後も可能な限りプレスリリースを行い、本調査に対する理解を促進するとともに、研究成果を発信していきたい。

〔別添〕

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組

アー①

A. バスラッピング





B. 動画広告の静止画（一部抜粋）



C. 車用マグネット







アー②

Web 質問票配信のお知らせ







アー③

誕生祝のメッセージとプレゼント





イ．質問票回収率の維持・向上の取組

イー①





ウ．成果の社会還元の取組

ウー①

ペーパークラフト

（オモテ面）　（ウラ面）　完成！



折り紙（5 色）



ウー②

①魚津市こども模擬選挙





②リトル・ママフェスタ in 富山







ウー③

①魚津市子育て応援ガイドブック



別添-2

②KidsDo10・11 月号とやま版



ウ－④

エコチル調査認知度アンケートの様子



別添-3

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　愛知ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　24　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	**背景と課題認識** これまでの運用を通じて，13 歳以降の継続同意手続きにおいて，**①初回ログイン，②親子の端末共有によるアカウント切替**でトラブルが生じやすいことが明らかとなった。加えて，親子で端末を共有している場合，通知は片方にしか届かないため，質問票の配信が伝わらないリスクがある。これらを踏まえ，**アプリ通知以外の手段で配布情報を伝達する必要**がある。 また，13 歳以降の調査継続同意の向上には，小学 6 年生の検査会場での対面支援（ログイン・同意手続きフォロー）は有効であることが確認された。そのため，**対面調査への参加を一人でも多く確保し，会場での体験の満足度を高めることが重要**である。 **実施方針** そこで我々は、以下の計画を立てた。 1. **Web 質問票配布の周知**:**大判ハガキ**によるリマインドを実施。 2. **学童期検査の参加確保・満足度の最大化**:勧奨の工夫により，参加者を集める。さらに子どもが意欲的に参加できる仕組みを作る。 3. **会場での同意取得**：対面調査会場で 13 歳以降調査の継続同意を勧奨。 4. **エコチル調査についての理解促進**:エコチル調査へ参加する意義を説明するアニメーションやマンガを作成・提示。 5. **インセンティブ**:継続同意者に国立環境研究所見学ツアーの応募資格を付与。 6. **ボランティア証明書**:中学生に愛知ユニットセンター独自の証明書を発行。 7. **みらい推進委員会**：地域別に開催し，同意率・回答率向上策を児と共に検討。兄弟・友人の参加も可として周知を拡大。
（D）実施	**1）13 歳以降 Web 質問票の回答率向上** コアセンターの一括リマインドに加え，愛知ユニットセンタ

	ー独自の**大判ハガキ**を用いて回答の勧奨を行った。魅力のアピールのため，**人気ギフトを紙面に掲載**した（別添ア-1）。さらに，保護者の同意があるものの Web 調査への回答が一度もない中学 2 年生に対して，大学生と協働して回答促進資料を 4 パターン作成・送付した。最も効果が高かったのは，**子ども宛レターパックで ID・PW を再送した方法で，33 人中 5 人が反応**した（他パターンも含めると **6 人**）。 **2）学童期検査への来場促進（架電）** 架電スキルが高いリサーチコーディネーターが，昼休みおよび 19 時頃までの帰宅後時間帯を狙って学童期対面調査の予約支援を行った。架電リストには，小 2 学童期検査の参加状況，質問票提出状況，兄弟参加の有無，母親の職業・勤務形式・勤務時間を反映し，これらに合わせて説明内容を最適化した。この**架電戦略は，エコチル調査の掲示板（情報共有）で公開**している。 また，会場では会場での満足度を高めるため，**検査・検体提出・13 歳以降同意・プレ質問票の各工程でスタンプを押すビンゴ**（別添ア-2）を導入し，とくに採血ブースでは参加者が 9 個から番号を選べる仕掛けを設け，満足度を高めた。 **3）会場での同意取得とアプリ相談会** 来場前に 13 歳以降同意がない参加者には，会場で同意取得を実施した。プレ質問票が未実施の親子には当日実施を試み，**エコネコ反射板キーフォルダー**を配布（別添ア-3）。さらに，最終受付後の 2 時間を「アプリ相談会」として，中学生も含め予約不要で案内した（別添ア-4）。**来訪者は 4 名（1 名は 2 度来訪しのべ 5 名）**であり，そのうち未同意だった 3 名を同意までサポートした（同意済 1 名は当該年度の学童期検査時にサポート）。 **4）理解促進コンテンツと参加動機調査** エコチル調査に参加する意義や成果を分かりやすく説明するため，**オリジナルのアニメーション**や**マンガ**（別添ア-5）を作成し，主に対面調査会場で提示した。あわせて，将来的な運営に反映させるため，参加動機調査を実施した。 **5）国立環境研究所見学ツアー** 継続同意を完了した親子を対象に，**国立環境研究所見学ツアー**を実施。子どもアカウントに応募フォームを配信し，**130 名**の応募中の 9 組を招待した（実施日：2025 年 7 月 25 日・26 日）。 **6）ボランティア証明書の発行** 中学生参加者に対するインセンティブを強めるため，Web 質問

	票の回答に対して愛知ユニットセンター独自のボランティア証明書の発行を計画している。 **7）みらい推進委員会の開催（児の参画）** 2025 年 10 月 4 日・5 日に，**調査参加児中心とした対面イベント（みらい推進委員会）**を実施した。**参加 79 人**（参加児 67 人〈小 6〜中 2〉，兄弟・友人 12 人〈小 5〜中 3〉）が参加した。**同意率・回答率向上策について子どもたち自身の目線から検討**してもらい，現状の問題点や改善案を議論した（別添ア-6）。
（C）評価	**1）Web 質問票の回答率** 令和 7 年 9 月末時点で，13 歳以降調査の Web 質問票は 4 月配布分で 50%以上に達した**（親：5590/7489（75%），子：3652/5572（66%））**。昨年度から，Web 質問票に関して愛知ユニットセンターは全国でも**トップクラスの回答率**を維持している**（2024 年度配信の質問票のうち，回答率がユニットセンター間で 1 位であった質問票が，親では 10/11，子では 8/16）**。 **2）学童期対面調査への参加獲得（架電）** **2025 年度は参加申込がない 835 名に架電し，架電した中で 235 名（学童期検査参加児の中で 28.5%）**が学童期対面調査への参加に至った。対面調査参加時に 13 歳以降調査の同意が未完了であった者の多くが会場で同意に至っており，その結果，**令和 7 年 9 月末の時点で，令和 7 年度の 13 歳以降調査の積極的参加率は 58%となった。**あわせて，令和 7 年 9 月時点の学童期対面調査の参加率は **48%**である。 **4）アニメーション・マンガによる理解促進** 視聴した参加者（親子）から，「はじめてエコチル調査の全体像を理解できた」「非常に重要な研究だと分かった」といった感想が複数寄せられた。 **6）国立環境研究所見学ツアーの効果** ツアー参加者募集後から 10 日で，継続同意件数が **58 件増加**した**（周知前の 10 日間（31 件）と比較して 87%増）。**Web 質問票の回答数には増加効果が見られなかった（周知後回答数 1327 件，周知前 10 日間 2154 件）。参加者の満足度は概ね高水準であった。ツアー参加を通じて，エコチル調査への参加意欲と理解度が向上した。 **7）ボランティア証明書** 中学生へのボランティア証明書の発行は，年末から年度末にかけて実装予定である。

	8）みらい推進委員会の効果 告知後，担当した教員による回答依頼も併せて実施し，**未回答の質問票への回答が増加し当該期間の未回答率は一時的にゼロとなった**（別添ア-7）。母親の未回答率も低下した。イベント応募者の母親は回答率が高い傾向がある一方，子どもは必ずしも同様ではないため，対面で接点を持つことが回答促進に有効であると考えられる。また，母親の関心度が低い層からの意見収集は難しいが，**関心の低い子どもたちの意見を聴取できた点は重要**である。今回，**多くの参加児がエコチル調査の意義を十分に理解していなかった**ことが明らかになり，今後のコンテンツ改善に向けた具体的示唆が得られた。
（A）改善	エコチル調査の意義を理解していない参加者，特に子どもにいかに理解してもらうか，また，どのようにその情報を伝えるかを工夫する必要がある。 また，学童期検査会場でプレ質問票を未実施の参加者に，どのようにそれを完了してもらうかも課題である。 さらに，受験やクラブ活動で夏に学童期検査へ来場できなかった層に再アプローチし，対象者の参加率 50%以上の達成を目指す方針である。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	**背景と課題認識** 昨年度の聞き取り（未提出者の対面調査参加時の会話や電話でのやり取り）から，郵送された質問票を未開封のままにしている参加者が相当数いることが分かった。そこで，今年度は**受取時にすぐ開封してもらう工夫**を中心に，返送率の向上を図る。 **実施方針** 1. **封筒の即時開封促進**：質問票を受け取った時点で開封してもらえるよう，封筒の表示や仕様を見直す。 2. **12 歳質問票ノベルティの導入**：封筒におみくじ表記を追加し、開封性と回答動機を高める。 3. **ショートメールリマインドの継続**：昨年度と同様に，未提出者へショートメールでリマインドを配信する。 4. **会場での回答・回収の完了**：対面調査の前に回答状況を確認し，会場でその場で回答と回収を完了させる。 5. **謝礼送付の迅速化**：行動と報酬が短時間で結びつくことが行動の強化につながるため，昨年度より質問票受取後翌月には必ず謝礼を送付するようにしている。

（D）実施	**1.2 封筒やそのデザインのリニューアル** 年齢質問票・学年質問票の封筒を、簡単に開封できる仕様に変更した（別添イ-1）。また、12 歳質問票では封筒表面に「おみくじ入り」と明記し、受取後の即時開封を促す工夫を施した。 **3. ショートメールによるリマインドの実施** 年齢質問票の未提出者に対し、送付から 4 週間経過時点でショートメールによるリマインドを実施した。 **4. 対面調査会場での直接のリマインド** 対面調査前に回答状況を確認し、未回答者には会場で記入してもらい、可能な限りその場で回収した。 **5. 翌月の謝礼送付** 月末に受取数を集計，すぐクオカードを発注する流れを作ることで，受取の翌月２週目には謝礼発送を完了させた。
（C）評価	**1.2 封筒やそのデザインのリニューアル** 対面調査の聞き取りでは「開封しやすくなった」という声が増えている。前年度同時期（6 月配布開始～9 月末）における返送率の比較では、11 歳質問票・5 年生質問票はほぼ同水準であった（11 歳：2025 年度 52%、2024 年度 52%；5 年生：2025 年度 49%、2024 年度 49%）。小学 6 年生は前年の返送率が高かった（2025 年度 51%、2024 年度 54%）。一方、おみくじを封筒に明記した 12 歳質問票は本年度がわずかに高かった**（2025 年度 51%、2024 年度 50%）**。 **3. ショートメールによるリマインド** 本年度は未提出者に対してショートメールを 831 通送付し、その後 **328 通（送付総数における 39%）**の返送があった。 **4. 検査会場での回答勧奨** 検査時点で未回収であった **138 件**の質問票を会場で回収することができた。
（A）改善	開封にハサミが不要の封筒は継続し、配達されたらすぐに開封したくなるようさらなる工夫をすることで、回収率の向上を図る。ショートメールでのリマインドに加え，公式 LINE 等 SNS もさらに活用し，回答を促すきっかけ作りを行っていく必要がある。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	エコチル調査の意義や成果を参加者の親子および関係者にわかりやすく伝えることを目的とし，行政との連携を生かして，短

	い動画を中心とした発信を行い，**地域イベント・学校経由の広報・Web 掲載**を組み合わせて到達と理解を高める方針である。
（D）実施	昨年度より，エコチル調査の仕組みや意義を解説する短尺動画を複数作成し，対面調査会場で放映した。併せて**協力地域の教育委員会に視聴と助言を依頼し，子どもに身近なテーマの選定，さらなる短尺化（1〜2 分），表現の平易化等のフィードバックを得た**。これを踏まえ，愛知ユニットセンターが報告した「出生順と身長」に関する研究を約 1 分の動画に再構成し，**各地域の参加児比率等の情報を盛り込んだ地域版を用意した**（別添ウ-1）。 一宮市では教育委員会の学校連絡アプリを通じて保護者に配信し（配信数：**約 29,000 件**），**市民健康部のホームページにも掲載**して広く周知した。さらに，地域の主要イベントである**七夕まつりの休憩スペースに研究紹介ポスターを掲示**した。 名古屋市北区では教育委員会の協力のもと，**地域の小・中学校の校長会でエコチル調査の説明を行い，区内 29 校に動画 URL を掲載したポスターの掲示を依頼**した（別添ウ-2）。加えて，北区の区民祭り「きた・きたフェスタ」では新たに作成した研究紹介動画（例：タバコの影響）を放映し，動画や環境テーマに関するアンケートを実施した。イベントは事前にニュースレターで告知し，参加児にはオリジナルのポーチやシールを配布しつつ，現地で継続同意や ID 確認等の個別サポートも行った。
（C）評価	保護者からは「調査の仕組みと意義が理解できた」「論文成果の動画で自分の体験が腑に落ちた」といった肯定的反応が得られた。子どもからも理解は概ね良好であったが，学童期調査の会場では滞在時間が限られ全動画を視聴できないという声もあった。きた・きたフェスタのブース来訪者は約 100 名であり，うち**エコチル参加者は 22 名**であった。その場で**未回答の継続同意 1 名を回答まで支援**し，ID 忘れ等の支援を 2 件行った。 行政連携については，学校経由アプリ配信（約 29,000 件）と市ホームページ掲載により**広域到達が実現**しており，エコチル非参加者を含む一般市民への効果については今後の追跡で明らかにしていく必要がある。
（A）改善	今後は動画の冒頭で要点を先出しするなど構成を工夫し，さらに短時間でより理解しやすい内容へ改善する。地域との連携はこれまでの関係構築の成果であり，引き続き連携を密にして継続・強化する。



別添ア-1. 中学生の子ども宛に送付した大判ハガキ



別添ア-2. 対面調査会場で導入したビンゴ



別添ア-3. エコネコ★反射板



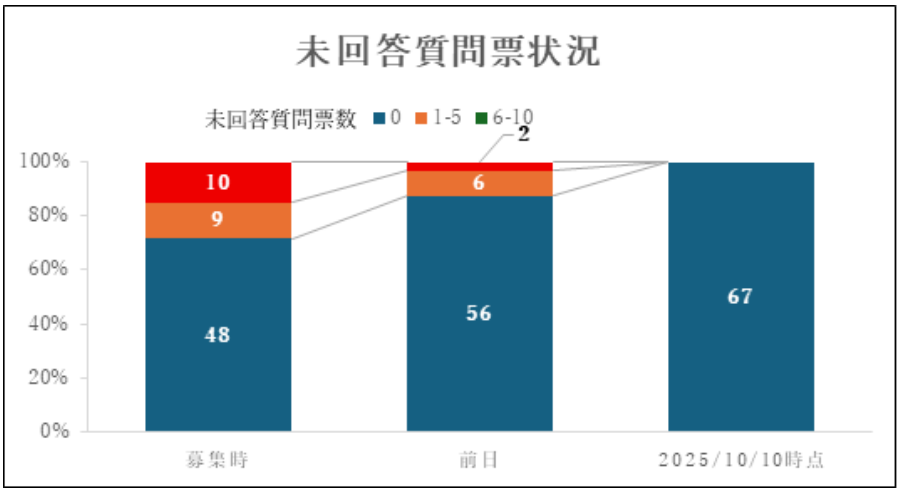
別添ア-4. アプリ操作の相談会の告知ハガキ



別添ア-5. オリジナルマンガ(1 ページ目)



別添ア-6.　『みらい推進委員会』でのグループワークの様子



別添ア-7.　『みらい推進委員会』告知後に，担当教員による回答勧奨もあり，参加者の未回答質問票が一時 0 まで減少



別添イ-1.　開けやすい仕様の新デザインの封筒。12 歳時の封筒にはおみくじ入りであることを明記。



別添ウ-1. 保護者向けアプリ・市の HP・小中学校掲載のポスター経由で配信したエコチル調査紹介動画。画像は名古屋市北区バージョンの動画の一部。

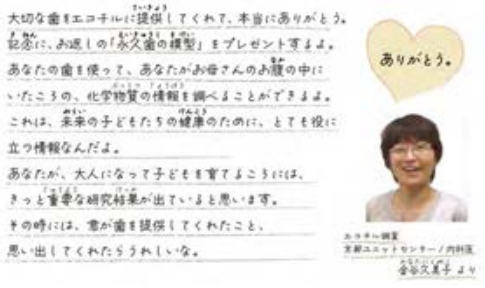


別添ウ-2. 名古屋市北区の小中学校に掲載を依頼したポスター

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：京都ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10 月　31 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P） 計画	調査が 13 歳以降も続くことを念頭に、参加児本人が調査の意義を理解し、前向きな気持ちで参加を続けてもらえるようにする
（D） 実施	**１：様々な媒体でエコチル調査の意義と成果を発信** ニュースレター「かわら版」（右）を年に２回発刊し、参加者と研究者との交流やエコチル調査の意義や成果を発信する場としている。この他、ポスター、ホームページ、イベント「研究体験してみよう」（後述）等にて、エコチル調査の意義を参加者と共有できるよう努めた。  **２：参加児に疫学研究を体験してもらうイベントを開催** 参加児を対象としたイベントをシリーズで開催し、エコチル調査の意義や研究成果について楽しく学べる機会を提供している。今年は京都/長浜/木津川各地区において対面イベント「研究体験してみよう」を開催した。エコチル調査を例に、仮説作りや検証方法について紹介し、参加児に自由に仮説を作ってもらったり、実際にデータを収集し検証してもらったりした。またイベントの様子をニュースレター（前述）等で紹介することにより、イベントに参加していない児も体験を共有できるよう努めた。 **３：代わりの歯プレゼント（乳歯調査）** 脱落乳歯を提供くださった方で希望する方に、代わりにコレクションケースに収めてもらえる記念の歯をお送りする取り組みを継続している。脱落乳歯の提供は、多くの参加児にとって初めての「皆んなのために自分の大切なモノを提供する」機会である。善意への感謝と共に、どのように役立つのかもしっかり伝えて、エコチル調査を通じて自分が社会の役に立てることを理解してもらえるように努めている。 

	４：エコチル参加への認識と 13 歳以降継続について調査 追加調査として、エコチル調査に参加した経験につきどのように感じているか参加者に問い、13 歳以降継続の動機になっている要因を明らかにし、今後のフォローアップ活動に繋げる調査を進めている。
（C） 評価	**イベント「研究体験してみよう」**には 30 名以上が参加し 22 名から事後アンケートへの回答を得た。「イベントを通して、研究の話題に興味を持っていただけましたか?」に対して 22 名全員が「とても興味を持った」もしくは「少し興味を持った」と回答し、自由記載では「仮説をたててデータをとって結果を得る、という流れを子どもに体験させることができて大満足でした。これまでいまいち乗り気でなかった夏休みの自由研究のヒントになったのでは？」「研究所内を歩きながら、ここに座っている研究者は、どんな研究をしているのかなと想像しながら、見学しました」などの感想を得た。参加者に科学や研究に興味を持って頂く良い機会となったことが伺える。 **「代わりの歯プレゼント企画」**には、１～２割の参加者が応募してきており、乳歯の回収率も全国平均を 10%程度上回っている。さらに、歯のやり取りに関連したコミュニケーションから、参加児にエコチル調査に参加している自覚が芽生え、また社会貢献について考える機会となることもある様子がうかがえた。そして保護者が、そのような児の様子から児の成長を感じ、その喜びをスタッフと共有できることもあった。信頼関係につながるものであると考えている。
（A） 改善	科学や研究への興味や疫学研究への期待を持って積極的に継続いただけるよう、地道に活動を続けていきたい。イベントについては、ニュースレター等で内容を紹介することにより、イベントに参加していない児も体験を共有できるよう努める。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P） 計画	**Web**：アプリにアクセスすることに慣れてもらう **紙**：参加者が、出来るだけストレス少なく質問票に回答できるような工夫を継続する
（D） 実施	**Web：学童期検査来場時に「一緒に」アクセス** 京都 UC では個別に検査を実施しており、検査の隙間時間にスタッフが参加者ひとりひとりと会話しながら、アクセスをサポートすることが可能である。各参加者の状況に応じて、アプリのダウンロードからポイント交換まで参加者と「一緒に」作業することにより、慣れない操作への負担感の軽減をはかった。 **Web:効果の高い集団とタイミングを割り出し、電話やハガキ等でリマ**

<table>
<tr><td></td><td><u>インド</u>
リマインド効果が高い集団を割り出し（親が回答している場合の未回答児等）、夏休み前など参加者に時間ができそうな時を狙って、目隠しした ID/PW 付きのハガキや電話等でリマインドを行った。
<u>Web：アプリ上で「ボーナスクイズ大会」を実施する計画</u>
謎解きリーフレット（作成）と連動し、アプリ上でクイズを配信するイベント「アプリを起動せよ！秘密のボーナス・ステージへＧＯ！」を実施、さらに抽選プレゼントキャンペーンも行い、アプリへの誘導をはかる計画を進めている。
<u>紙：質問票送付封筒に「見込み労力」表示</u>


質問票を開封せずに置いている場合が多いことが判明している。記載に必要な労力があらかじめ分かっていれば、時間が取れた際に記載を始めて頂きやすいのではないかと考え、回答にかかる概ねの時間（労力）が分かるようなメッセージを質問票の送付用封筒にラベル貼付している。
<u>紙：質問票返送依頼は、温かくユーモラスに</u>
質問票回答依頼の際には、手紙に温かくユーモラスなイラストを添える等して、参加者の負担感の軽減をはかっている。</td></tr>
<tr><td>（C）
評価</td><td>Web：学童期検査が佳境に入る夏休みを中心に、児のログイン率が伸びている（表 1）。
表 1. 子ログイン率（令和 7 年 9 月 29 日集計分）
<table>
<tr><td>%</td><td>3/1</td><td>4/1</td><td>4/29</td><td>5/26</td><td>6/23</td><td>7/21</td><td>8/25</td><td>9/1</td></tr>
<tr><td>京都・長浜地区</td><td>0</td><td>20.4</td><td>29.8</td><td>29.8</td><td>37.3</td><td>41.0</td><td>51.6</td><td>52.7</td></tr>
<tr><td>木津川地区</td><td>0</td><td>31.8</td><td>47.1</td><td>47.1</td><td>65.7</td><td>67.1</td><td>78.7</td><td>79.8</td></tr>
</table>
紙：質問票返送率は昨年度からさらに改善しており、また全年齢において全国平均を上回っている（表 2）。
表 2. 質問紙返送状況（令和 7 年 9 月 29 日集計分）
<table>
<tr><td>%</td><td>10 歳</td><td>10歳子</td><td>11 歳</td><td>11歳子</td><td>12 歳</td><td>12歳子</td><td>2 年</td><td>3 年</td><td>4 年</td><td>5 年</td><td>6 年</td></tr>
<tr><td>京都</td><td>81.3</td><td>79.2</td><td>75.6</td><td>74.2</td><td>68.2</td><td>67.3</td><td>84.8</td><td>84.6</td><td>82.7</td><td>76.2</td><td>67.4</td></tr>
<tr><td>全国</td><td>72.9</td><td>71.7</td><td>68.3</td><td>67.4</td><td>59.9</td><td>59.2</td><td>77.6</td><td>76.6</td><td>74.4</td><td>63.1</td><td>56.2</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>（A）
改善</td><td>アプリ上のイベント「アプリを起動せよ！秘密のボーナス・ステージへＧＯ！」の効果が出てくるのはこれからである。効果を見極め、今後の取組に活かしていきたい。</td></tr>
</table>

ウ．成果の社会還元の取組

（P） 計画	参加者に加えこれから実際に活用いただくことになる一般の方やインフルエンサーにも、エコチル調査という大規模調査が進んでいること、研究結果が出てきていることを知っていただく。また、調査の結果が正しく理解され、上手に利用される一助となる工夫を考える。
（D） 実施	<u>１：地域エコチル運営委員への成果報告と連携のお願い</u> 各市の保健医療関係者や教育関係者等、地域エコチル運営委員には今後、エコチル調査の成果を社会に還元していく際のキーパーソンが多く含まれている。これらの方々に、本年も引き続き成果を報告したほか、成果の社会還元においても連携をお願いしていきたい旨、協力を要請した。 <u>２：対面イベント「研究体験してみよう」</u> 参加児を対象に、対象３地域各地区において、対面イベント「研究体験してみよう」を開催、誌面報告した（前述）。疫学研究を体験してもらうことは、参加継続への動機になるだけでなく、将来、疫学調査の結果を理解し利用する際の一助になるものと考えている。
（C） 評価	対面イベント「研究体験してみよう」では、事後アンケート回答者全員が、研究の話題に「とても興味を持った」もしくは「少し興味を持った」と回答し、また「最初はどんなのかわからなかったけど、やっていくうちに楽しくなってきた」「仮説をたててデータをとって結果を得る、という流れを子どもに体験させることができて大満足でした」等の感想が得られている。エコチル調査の結果を正しく理解し、上手く利用していく素地につながるものと考えている。
（A） 改善	現在の対面イベントは少人数を対象としているが、研究者やスタッフの経験値を上げて、より多くの方が参加できるものにしていきたい。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：大阪ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　31　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	**1. 参加者のモチベーションアップにつなげる取組：**継続の動機づけのために参加者向けのコミュニケーションを充実させ、帰属意識や参加意識を高める取組として、従来維持している UC 独自の Web サイトに、新規コンテンツを継続的に掲載する。 **2. 調査に積極的な参加者・調査に積極的ではない参加者双方に興味を喚起できる取組：**参加者コミュニケーションの一環として、また今後の継続的な調査参加、またはホリデー中の参加者の掘り起こしを考慮した対面・参加型イベントを実施する。
（D）実施	**1. 参加者のモチベーションアップにつなげる取組：**参加者とのコミュニケーションツールとして UC 独自の Web サイトを設置している。参加児の参加意識や帰属意識を高め、調査を身近に感じて楽しんで調査に協力いただくことを期待して 2022 年度に開設した、子ども向けコーナー「たこチルとあそぼう」を継続した（下図）。「たこチルからの挑戦状」は、エコチル調査についてクイズ形式で楽しみながら知ってもらうことを目的としている。「たこチルミュージアム」では、ニューズレターで募集したお子さんたちからのイラストやメッセージの掲載、「ピカッとたこチルひらめいた」では、まちがいさがしやパズルなど毎月更新した。また、研究成果の普及のため発表済み論文の一般市民向け解説を更にわかりやすく記載し掲載する「たこチルの論文探検隊！」を新設し２つのコンテンツを掲載した。  **2. 調査に積極的な参加者・調査に積極的ではない参加者双方に興味を喚起できる取組：**大阪母子医療センターを会場に「おおさかユニットセンター講演会 2025」を開催した。また、学童期検査参加への動機づけとなるよう、学童期検査会場で医師による

	ミニ講座開催を実施した。大阪大学では、小中学生とその親向けに病院見学・研究者との交流のイベントを企画し、特に研究の裏側、体や健康に興味を持ち理解を深め、より綿密なコミュニケーションをとる予定である（12 月と 3 月に計 3 回開催)。また、教育系タレント・ユーチューバーなどを起用した対面でのイベントを計画していたが、産業医科大学 SUC を中心に全国規模で今後展開されることとなったためそれに合流することとした。
（C）評価	**1. 参加者のモチベーションアップにつなげる取組：**ホームページのアクセス数による評価を行ったところ、「たこチルからの挑戦状：57 件」、「たこチルミュージアム：285 件」、「ピカッとたこチルひらめいた：259 件」であった。「たこチルミュージアム」へのアクセス数が増えている一方、「たこチルからの挑戦状」や「ピカッとたこチルひらめいた」は減少しており、参加者の年齢層に応じた興味のあるテーマの変化が示唆された。新規ページ「たこチルの論文探検隊！」は 117 件であり今後のアクセス増が期待された。 **2. 調査に積極的な参加者・調査に積極的ではない参加者双方に興味を喚起できる取組：**10 月開催予定の「おおさかユニットセンター講演会 2025」は定員に近い申し込みがあった。学童期検査会場における医師によるミニ講座についても、アンケート結果から好評であったことを確認できた。12 月開催予定の大学見学会への応募が予想を超える反響であったため、急遽、実施日・回数を増やして(午前午後の 2 回＋翌年 3 月)対応することとした。病院見学会についての期待は高く、学童期検査会場などで複数の参加者より楽しみにしているといった好意的なコメントを多くいただいた。
（A）改善	**1. 参加者のモチベーションアップへの取組の改善**：参加者の年齢やニーズに応じたコンテンツを定期的に追加する。学童期検査会場、詳細調査会場、各種対面イベント時での広報等を活用し、Web サイトのアクセス数を更に上昇させることを検討する。また、アンケート結果などから明らかになった、参加者のニーズに応えられるようなイベントを計画する。 **2. 調査に積極的な参加者・調査に積極的ではない参加者双方に興味を喚起できる取組：**今年度の企画が好評であるため、次年度も同様の企画の実施について検討する。今年度の企画実施時にアンケート調査を行い、次年度はより参加者のニーズに合ったテーマ設定や企画調整を行う。また、現在企画されている全国規

	模での有名教育系タレント・ユーチューバーの起用によるイベントと相乗効果を考慮したイベント・アプローチ等を今後検討し実践する。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	大阪ユニットセンターは現参加者数（子どもの数）が 3 番目に多いユニットセンターでありながら、令和 6 年企画評価委員会資料によれば現参加者率は全国 2 位、質問票回収率の低減率は全国 4 位、令和 6 年度回収率も全国平均を上回っている。今年度も引き続き、13 歳以降の調査継続の参加率の向上、質問票回収率の向上、及び、参加者のモチベーション維持に取り組んだ。 **1. 質問票の回収率向上に関する取組**：従来の取組に加え、新規の取組について検討・実施する。 **2. 13 歳以降の調査継続に関する取組** **2-1 同意取得：**調査継続率向上のため、学童期検査や詳細調査での個別の声掛けと確認を行い、調査への参加継続を促す。同意手続き後のプレ質問票の回答が終わっていない参加者に対して、対面での声掛け、サポートを実施する。 **2-2 同意後の Web 回答：**Web 質問票に未回答の参加者に対してハガキでリマインドを行い、ログインできない等のトラブルに対しては電話でサポートを行う。
（D）実施	**1. 質問票の回収率向上に関する取組**：送付物の開封を促すため、質問票の送付用封筒に誕生日プレゼントを同封した。また、質問票回収率維持のため、年齢質問票と学年質問票の返送依頼を徹底した。質問票送付後、4 週・7 週にメールでリマインド、12 週に電話（過去返送歴あり対象、不通者へ再送）、21 週に 2 回目電話（前回不通者対象）で段階的に回収を促進した。 10 歳質問票から改善した点として、電話での督促の際に留守電だった場合にメッセージに加え、質問票を再送することとした。再送の際には鉛筆やたこチル付箋などのノベルティを同封した。年齢質問票の回収状況も見ながら、年齢質問票と学年質問票の返送依頼時期が重複しないように調整し、参加者が負担を感じないよう配慮した。 学年質問票では、質問票送付後、5 週にはがき、3 か月にメール、4-5 か月に再送（全未回収者対象）を実施し、その後提出状況良好者のみメール 2 回目、必要に応じて再再送付を判断（年

	齢質問票との重複に配慮）して実施している。 **2. 13 歳以降の調査継続に関する取組：** **2-1 同意取得:**学童期検査については採血日と採血以外の検査日の 2 日に分けて実施しているため、それぞれで声がけの機会を作った。特に 1 回目で登録作業を会場で支援しながら促したのちに、2 回目は検査日までにポータルサイトへログインしていない方、ログイン済だがプレ質問票への回答が済んでいない方を抽出してステータスに応じた対応をすることで、会場内でスムーズに登録完了または未回答者への操作方法の説明などをできる環境を整えた。詳細調査会場においても、参加者全員に声かけの機会を作り、会場でできる支援をすべて実施した。また、両検査会場において、不同意であっても、エコチル調査からの案内を受けていただくこと、13 歳までの調査は完遂していただくよう働きかけた。 質問票調査を活用した取組として、小学 6 年質問票の返送依頼のハガキに 13 歳以降調査の同意勧奨及び困りごとのある方には問い合わせの連絡を促す旨を記載する等、メッセージの発信を行った。 **2-2 同意後の Web 回答:**2025 年 7 月 7 日に、2011 年生まれと 2012 年生まれの代諾者・子どちらかに質問回答状況「未開始」があった方約 1400 世帯に対して、「たこチルからのおたより」として送付した。内容は、情報を減らしてキャラクターたこチルのアップで目を引くデザインにして、説明を少なめにした勧奨ハガキを送付した。 
（C）評価	**1. 質問票の回収率に関する評価：**昨年度に比べ、各年齢とも回収率は維持できている。 **2-1. 13 歳以降の調査継続に関する評価：**6 月以降開始している学童期検査会場や詳細調査にて、対面で同意確認を勧奨し同意率の向上に努めることができている。6 月 23 日時点の代諾者ログイン率 24.2%、積極的継続化の割合 215 から、9 月 29 日時点では、それぞれ 39.4%、36.9%で、子どものログイン率も 27.4%→57.1%と上昇した。不同意であったとしても 2 日目の声掛けによって 13 歳までの調査の協力取りやめにつながる事例はなかった。対面で丁寧に説明することで、参加者の疑問点に細やかに対応し、同意率の向上とモチベーション維持にもつながった。

	2-2 同意後の Web 回答: たこチル勧奨ハガキ送付後 2 週間以内で約 200 件の回答のピークがあるなど回答の増加がみられた。
（A）改善	**1. 質問票の回収率への取組に関する改善：**紙ベースの質問票は、来年度も同様に細やかな対応を継続する。 **2-1. 13 歳以降の調査継続勧奨に関する改善：**13 歳以降調査継続の同意については、学童期検査で対面での積極的な勧奨を継続し、2 日目の学童期検査前には、引き続きプレ質問票の回答状況を確認し、未回答者にはその状況に合わせて操作方法の説明を丁寧に行う。 **2-1. Web 回答勧奨に関する改善：**Web 質問票については、未回答者にハガキリマインドを行い、アプリや Web ログイン方法について丁寧に説明を行う。回答方法が変更となったことでの不安や疑問を解消するための対応を行う。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**1. 研究成果の発信：**中心的な研究仮説を学術論文として積極的に発表する。発表済み論文を一般市民向けに分かりやすく解説したサマリーを Web サイトで公開する。 **2. 市民への情報提供活動**：子育て支援に関する知見を Web コラムとして定期的に配信する。調査活動の進捗や成果について広報誌を通じて継続的に発信する。
（D）実施	**1-1. 定期的な研究発表会の開催：**月 1 回の頻度で新規研究課題の発表会を実施した。センター長・センター長補佐出席のもと、専門的な指導を提供した。研究手法や分析方法について参加者から建設的な意見を収集した。改善された研究課題をアブストラクトとして申請した。 **1-2. 論文執筆の進捗管理：**事務局での研究進捗管理担当の役割を明確にし、著者への定期的な進捗確認した。必要に応じセンター長・センター長補佐との個別面談を設定した。中心仮説に関する研究の論文化を重点的に推進した。 **1-3. 論文の品質管理体制：**第 1 著者・第 2 著者による研究手法の精査を徹底した。センター長・センター長補佐による全体的な指導と確認を行った。ユニットセンター内での段階的な査読プロセスで精査した。 **1-4. 人材育成の推進:**学位取得に関わる研究 3 件を推進するとともに他大学研究者との積極的な共同研究体制を強化した。

	2-1. アウトリーチ活動：大阪ユニットセンターから公表された論文の日本語概要版を合計 36 編アップした。また、お子さんに読んでいただけるよう「たこチルの論文探検隊！」としてわかりやすい論文解説ページを独自 Web サイト上に新設した。 **2-2. 子育てコラム（年 4 回）の更新** **2-3. 母子医療センター年報への活動報告掲載** 冊子体以外に Web サイト上でも公開されている年報へ活動報告を掲載することにより、一般市民の方に広く活動内容を知っていただく機会を提供した。 **2-4. 講義等での成果報告：**エコチル調査から発表された論文について大阪大学の大学院講義、学部生実習で紹介した。また、医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチンマテリアルプロジェクトでも報告を行った。 **2-5. 地域への成果還元：**講演会によるエコチル調査参加者および地域住民の方に対するエコチル調査の紹介と啓発、および、成果還元の取り組みとして「おおさかユニットセンター講演会 2025」を開催した。 
（C）評価	**1-1/2/3. 研究成果の発信：**国際誌(インパクトファクター2.5～8.0)6 編掲載、内 1 編は中心仮説論文を報告し国環研との共同プレスリリースを行った。中心仮説課題 1 編の論文化を継続、新規研究課題 22 件を申請した。 **1-4.** 人材育成として博士課程学生 2 名が学位論文作成を継続中である。波及効果として、1 件の追加調査にかかわる他大学との新たな共同研究（外部研究費）、他大学及び研究施設所属の研究者 6 名、2 名の他部局の研究者が参加した。 **2-1/2. 情報発信・社会還元：**Web コンテンツ閲覧実績（2025 年 4 月～2025 年 9 月）論文概要版：319 件、子育て応援コラム：26,939 件、たこチルの論文探検隊！:117 件であった。
（A）改善	**1-1/2/3. 研究推進・論文化の強化：**中心仮説課題 1 編の論文化を継続的、組織的に支援する、新たな研究課題提案を促進する。 **1-4. 人材育成の拡充：**研究指導体制の更なる充実、若手研究者の育成プログラムの強化を行う。 **2-1/2/3/4/5. 研究成果の社会発信強化：**論文概要版の閲覧数増加に向けた施策、大学院講義、学内、病院内での周知活動の実施、その他効果的な広報手段の検討を行う。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　兵庫ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　9　月　30　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	**①エコチル調査を身近に感じられるような取組** ホームページの充実を図り、親しみやすい情報を発信する **②エコチル調査の進捗状況を参加者にお知らせする取組** 広報誌により調査進捗状況などを発信する **③参加者と直接お会いする機会を得る取組** 対面式のイベントを開催する **④詳細調査、学童期検査の参加率の維持・向上を図る取組** 参加者の利便性を考えた調査日程を設定する **⑤13 歳以降の調査継続への協力を依頼する取組** 案内を送付した上で、対面調査において協力を依頼する
（D）実施	**①エコチル調査を身近に感じられるような取組** ホームページのコンテンツを充実させるために、『楽しい脳トレ＆クイズコーナー、エコチルひょう GO でチャレンジ GO!!』を定期更新している。また、参加者によるブログリレーの執筆者を広報誌等で募集し、多くの参加者に積極的にブログを執筆してもらうことで、エコチル調査への主体的な参加意識が高まるように努めた。より多くの参加者にホームページの閲覧を促すために、ホームページの QR コードを質問票発送時に同封する送付状等に掲載している。 **②エコチル調査の進捗状況を参加者にお知らせする取組** 定期的に発行している広報誌により、エコチル調査の進捗状況や得られた成果について報告している。参加者に興味を持って広報誌を読んでいただくために、専門家（医師や公認心理師・臨床心理士など）からの情報提供を行っているが、2024 年 12 月に発行した広報誌「エコチルひょうご」では医師から「PFAS の健康影響」に関して、2025 年 3 月に発行した「エコチルひょうごたより」では公認心理師・臨床心理士から「子どもたちが抱える悩み」に関する情報提供を行った。

	③参加者と直接お会いする機会を得る取組 対面式イベントとして、7 月 12 日（土）に「電気」と「空気」に関する科学実験教室を開催した。このイベントでは、教育的な要素の含まれる内容となるように工夫した。 ④詳細調査、学童期検査の参加率の維持・向上を図る取組 学童期検査及び詳細調査の会場選定は対象者の居住地を地図上にプロットして、徒歩または自転車で来場できる範囲にある市内 7 ヶ所の公共施設を会場とした。小学生が参加しやすいように、夏休み期間を中心に週末及び平日に合わせて 19 日間実施した。中学受験する参加者が多いため、昨年度より受験後の 1 月末～2 月中に対面調査を追加実施しており、2025 年度においても 2026 年 1 月末～2 月中に 4 回の調査を実施する予定である。 ⑤13 歳以降の調査継続への協力を依頼する取組 2012 年度生まれの参加者に対しては、夏休み期間を中心に行っていた小学 6 年生の学童期検査を中学受験が終わった 2 月にも行い、来場された全員を対象に調査継続の依頼を行った。3 月には、小学校卒業及び中学校入学のお祝いと 12 年間調査を継続していただいたお礼と合わせて、13 歳以降の調査の継続の同意をお願いする文書を発送した。2012 年度生まれの参加者が中学 1 年生になってからは、2011 年度生まれの中学 2 年生の参加者と合わせて、A4 サイズの大判ハガキにて 13 歳以降の調査の継続の手続きをフローチャート形式で示して参加者にお知らせした。また、保護者が同意済みであるにも関わらず、ログインが済んでいない子どもを対象として、お子さんのログインの手順を記載した A4 サイズの大判ハガキを発送した。 2013 年度生まれの参加者については、夏休み期間を中心に小学 6 年生の学童期検査の場で調査継続の依頼を行った。今年度は学童期検査開始前にアカウントを発送することができ、更に新たな取組として、代諾者に対して学童期検査の来場前にログインしていただくようにお願いする書類を送付した。検査会場では、お子さんのログインもお願いした。 2011～2013 年度生まれの参加者を対象として、13 歳以降の調査に関する問い合わせの中で特に多い質問を広報誌に掲載することで、同意手続きを分かりやすくお伝えすることを心掛けた。

（C）評価	**①エコチル調査を身近に感じられるような取組** 『楽しい脳トレ&クイズコーナー、エコチルひょう GO でチャレンジ GO!!』は隔週で追加し、本年 9 月末現在 149 のコンテンツを掲載している(4～9 月の間に 16 コンテンツ追加)。また、参加者によるブログリレーの執筆者は 4～9 月に 7 名、合わせて 37 編の投稿があった。2025 年 4～9 月におけるホームページの月平均ページビュー数は 3,546（前年比 84%)、月平均訪問者数は 1,121 人（前年比 77%）であり、昨年よりも減少していた。また、今年度はテレビ局より、ホームページに掲載中のクイズを番組で使用したいとの依頼があったことから、参加者だけでなく、より多くの方にも興味を持っていただけるコンテンツが掲載できていると評価できた。 **②エコチル調査の進捗状況を参加者にお知らせする取組** 広報誌（2025 年 5 月発行、参加者全員に送付）の記憶に残る記事としては、「13 歳以降調査継続について」が 43%となっており、多くの方がエコチル調査の継続に関心を抱いていることが分かった。 **③参加者と直接お会いする機会を得る取組** 7 月 12 日(土)に開催した「科学実験教室」では、61 名の参加が得られた。アンケート調査の結果では、「とてもよかった」「まあよかった」を合わせて 100%と好評であった。 **④詳細調査、学童期検査の参加率の維持・向上を図る取組** 本年度の学童期検査の対象者は 1413 名であり、9 月末現在の参加者は 512 名（36.2%）である。本年度中にさらに調査を予定しており、参加率は 40%を超える見込みである。詳細調査の対象者は 168 名であり、9 月末現在の参加者は 109 名（65%）であった。10 月以降の調査への参加予定者を合わせると、75%程度の参加率を見込んでいる。 **⑤13 歳以降の調査継続への協力を依頼する取組** 2011 年度及び 2013 年度の参加者については、代諾者の同意率及び子どもログイン率は全国平均を上回っている。2012 年度の参加者についてはアカウント発送が遅れたことが影響して同意率は全国平均を下回っているものの、さまざまな取組を行った

	結果、全国平均に近づきつつある。
（A）改善	ホームページの閲覧数が減少していることから、参加者や一般市民のニーズに応えることができるようにコンテンツの充実を図り、より魅力的なホームページを構築する。また、ニュースレター等も活用して、エコチル調査に関する情報発信を進める。対面式イベントは好評であるため、参加者の成長に見合った内容を考慮して引き続き開催する。イベントへのアンケートからは、研究成果の発信を期待する声が多数寄せられているため、成果発表にも力を入れていきたい。 学童期検査、詳細調査は本年度までの実施状況を踏まえて、次年度も円滑に進むように準備を進める。 13 歳以降の調査継続へのお願いは、引き続き学童期検査において対面で依頼するとともに、学童期検査に来場していない参加者及び中学生に対してはハガキなどでお願いしていきたい。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	**①質問票の返送率の定期的確認と未返送者に対する返送依頼** **②子どもアンケートの返送率向上**
（D）実施	**①質問票の返送率の定期的確認と未返送者に対する返送依頼** 毎月開催するユニットセンター定例会議で発送月ごとの質問票の返送率及び返送依頼状況を検討しているが、返送率は 65%以上を維持している。質問票が未返送の参加者に対して電話やショートメールによる返送依頼を行い、更なる返送率の向上を目指している。 また、質問票の未返送者に対して返送を依頼するためにハガキを送付しているが、文字だけでなくイラストも掲載し、参加者に親しみを持ってもらえるような工夫をしている。文字数を減らしてシンプルなデザインにすることで、視覚的な負担を減らす工夫もしている。 現在行っている返送依頼の方法は、以下の通りである。 1）質問票発送 3 週間後にハガキによる返送依頼を実施。 2)ハガキ送付 4 週間後にショートメールによる返送依頼を実施。 3）ショートメール送付 4 週間後に電話による返送依頼を実施。 4）3）で不通であった方（留守電にメッセージを残せなかった方を含む）を対象に、4 週間後に電話による返送依頼を実施。 **②子どもアンケートの返送率向上**

	昨年度は子どもアンケートの返送率が全国平均より低い状態であったが、今年度は返送率が向上して全国平均をやや上回るようになった。アンケート回答への謝礼の品として、小学校などで使用できるようなランチョンマットや巾着袋を作成し、広報誌及びホームページで周知を図り、子どもアンケートへの協力を呼びかけた。なお、質問票と同様に子どもアンケートについても、2024 年 12 月及び 2025 年 3 月に発送した広報誌においても返送のお願いを掲載している。
（C）評価	**①質問票の返送率の定期的確認と未返送者に対する返送依頼** ハガキや電話による質問票返送依頼を積極的に行っている結果として、質問票回収率は全国平均を上回る水準が維持できた。 **②子どもアンケートの返送率向上** 子どもアンケートの返送率もほぼ全国平均を維持できた。
（A）改善	質問票の返送率を向上させるためには電話による返送依頼が効果的であるため今後も継続するとともに、更なる返送率の向上を目指して、返送依頼の時期も含めて効果的な返送依頼方法を検討する。子どもアンケートの返送率の向上に向けた取組についても、効果的な返送依頼の方法を引き続き検討する。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	**①エコチル調査の成果を一般の方にも発信する取組** 市民公開講座を行う。 **②エコチル調査で得られた成果を教育に活かす取組** エコチル調査で得られた成果を、関連学会、大学ホームページ、大学の講義などで紹介する。 **③エコチル調査の重要性を次世代の若者に発信する取組** 兵庫県が主催している若者世代による環境活動の活性化を通して将来社会の担い手を育成することを目的とした「ひょうごユース eco フォーラム（兵庫県主催）」に参加する。
（D）実施	**①エコチル調査の成果を一般の方にも発信する取組** 2025 年 3 月 23 日に開催した市民公開講座では、センター長よりエコチル調査の概要及び成果を説明した。また近年の課題であるマイクロプラスチックについて、同志社大学経済学部 准教授 原田禎夫氏に「未来のために知っておきたい海とプラスチックの話」と題してご講演いただくとともに、映画『マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらが作る 2050 年～』を上映した。また、

	一般市民対象の阪神シニアカレッジにおける講義等でもエコチル調査の概要とこれまでに得られた成果について紹介している。 **②エコチル調査で得られた成果を教育に活かす取組** 2024 年に発行した広報誌「エコチルひょうご」では、PFAS についてエコチル調査で得られた結果を掲載した。2025 年 3 月に発行した広報誌「エコチルひょうごたより」には、微小粒子状物質（PM2.5）と子どものぜん息・アレルギーとの関連を掲載した。 医学部、看護学部の講義等においては、エコチル調査の概要とこれまでに得られた研究成果について解説した。 **③エコチル調査の重要性を次世代の若者に発信する取組** 2024 年 12 月に開催された「第 6 回ひょうごユース eco フォーラム（兵庫県主催）」に参加し、環境問題に関心を持っている高校生、大学生や企業を対象としてエコチル調査の概要及び成果についてポスター発表を行った。
（C）評価	**①エコチル調査の成果を一般の方にも発信する取組** 市民公開講座への参加者は 25 名であったが、参加者からは「調査に参加できていることを嬉しく思った」「日常生活の中でできることがたくさんあることに気づけた」など日常生活への応用やエコチル調査への参加意欲向上が期待できる感想が寄せられた。 **②エコチル調査で得られた成果を教育に活かす取組** 大学の講義等を通じて、エコチル調査で得られた成果を多くの研究者、学生に発信して、エコチル調査の重要性を伝えた。 **③エコチル調査の重要性を次世代の若者に発信する取組** 大学等での講義やひょうごユース eco フォーラムでは、次世代を担う若者にエコチル調査について説明することができた。
（A）改善	今後も参加者や地域住民にエコチル調査の成果をわかりやすく伝えるため、市民公開講座等を行い、その動画をオンラインで配信するなど、多くの人が視聴しやすい方法を検討する。 成果を広報誌やホームページに掲載する際には、論文の内容を分かり易くまとめることを、引き続き、心掛けていく。 引き続き、ひょうごユース eco フォーラムにも参加し、次世代を担う若者にエコチル調査の重要性を伝えていきたい。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

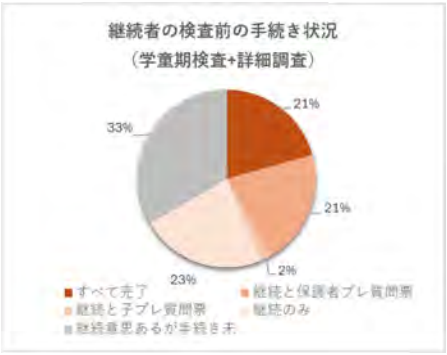
調査実施機関名：　鳥取ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　9 月　30 日
回答者	氏名（　永島　英樹　） 役職（　鳥取ユニットセンター長　）

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画 （D）実施	**１３歳以降調査継続に対する勧奨の取組** **学童期検査・詳細調査での取組** ①　予約者に継続の意向を事前に検討してもらうため、検査 1 週間前のキット等を送付する際に独自で作成した「13 歳以降の調査協力に関する確認書」（図 1）を同封し、記入して持参してもらった。 ②　予約者の継続状況を事前に確認し、会場で手続きが行えるよう保護者と子どものアカウント情報を紙で用意し、必要な方に手渡した。また、会場のインターネット環境（Wi-Fi）を整備した。 ③　参加者一人ひとりに応じた説明や手続き状況の確認、操作補助を円滑に行うため専属の担当スタッフを配置した。 ④　「13 歳以降調査について」（コアセンター作成）の動画を保護者と子どもに視聴してもらい、理解を促進した。 ⑤　独自に作成したチラシ「質問票の変更点」（図 2）「WEB 質問票配信スケジュール」（図 3）「ポイント交換リスト」（図 4）「同じデバイスを使用する場合　ID・パスワードの変更手順」（図 5）を使用しながら説明した。必要時、アプリのデモ画面を見てもらいながら視覚的に説明した。 ⑥　継続する方には「継続手続き」、「保護者プレ質問票の回答」、子どもの「ログイン」「プレ質問票の回答」をアプリ上で確認した。未回答項目があればその場で手続きを促し、操作補助も行った。会場で回答ができない方には「13 歳以降調査開始までの流れ」（図 6）に未回答項目を記入し、手続き漏れがないよう持ち帰ってもらった。 ⑦　一つのスマホでアプリを使用する場合は複数の方法があることを説明し、参加者のそれぞれの状況に応じた方法を共に考え、操作補助も行った。多胎や兄弟姉妹がいる参加者に対しても、アプリの使用方法についてアドバイスを行った。 ⑧　検査**前日**までに継続手続きした方にプレゼントするキャンペーンを行った（事前案内送付時に案内チラシを同封し、検査前キット

	等送付時に確認書（図 1）で事前周知した） **その他の取組** ① アカウント情報送付前に A4 大判ハガキ（図 7）で「13 歳以降の調査継続について」を送付し、先行通知した。 ② ID・パスワードを変更した方に利用してもらう「ID・パスワード保管カード」（図 8）を作成し送付した。（2013 年度生はアカウント情報に同封、2011 年度生、2012 年度生は継続した方に送付） ③ それぞれのポイント交換先の交換手順を記載したスタッフ用「ポイント交換マニュアル」（図 9）を作成し、対面調査や問い合わせ時に活用した。 ④ ニューズレター（がいなだより）に特集を組んで掲載した。 ⑤ 鳥取ユニットセンターのホームページに専用ページを追加した。 ⑥ 問い合わせが 24 時間可能な QR コードを作成し広報誌等に取り入れた。 ⑦ 2013 年度生で継続していない方、プレ質問票が未回答の方に圧着ハガキ（図 10）を送付予定。（10 月上旬） ⑧ 県内で集客人数が一番多い商業施設でブースを作り、13 歳以降継続勧奨や専用アプリの使用方法の説明、ポイント交換方法等の相談会を実施予定。併せて、地域住民の認知度向上を目的としてチラシ配布やアンケートの協力を依頼し、エコチル調査への理解度を確認する予定。（11 月末） **2012 年度生プレ質問票のポイント未交換（交換期限 7/4）に対する取組** プレ質問票のポイント未交換者 335 人（保護者 169 人、子ども 166 人）（6 月 13 日時点）に対し、交換期限が近づいていることを知らせる圧着ハガキを送付した。さらに、期限前日に未交換の親子 33 組（66 人）に電話またはショートメールを行った。
（C）評価	・13 歳以降調査継続勧奨は対面調査での勧奨が有効的であるため、今年度も学童期検査、詳細調査での勧奨を重点的に行った。9 月 21 日時点で学童期検査、詳細調査参加者 470 人中 396 人（84%）が継続すると回答した。特に詳細調査参加者の継続率は 94%であり、エコチル調査の理解度が高いため継続する方が多いことが改めてわかった。 ・独自に作成した確認書（図 1）を事前に送付した結果、参加者の多くが継続の可否を事前に検討しており、当日の説明を効率的に進めることができた。

・「検査前日までに継続手続きキャンペーン」は、前日までに継続手続きを済ませることで、検査当日に会場で「保護者プレ質問票」「子どものログイン」「子どものプレ質問票」の手続きが可能となり、その場でスムーズに手続きを促すことを目的としている。9 月 21 日時点での継続者のうち検査前日までに継続手続きを行った方は 264 人（67%）であるが、そのうち検査前日までに手続きが完了していた方は 21%であった。しかし、担当スタッフによる説明やアプリ上での手続き状況の確認、未回答項目の回答依頼や操作補助を行った結果、会場での手続き完了者は 56%に達した。また、継続を希望しながらも、未手続きのまま来場した方 132 人（33%）に対して継続手続きを促したところ、全員がその場で手続きを行った。このことから、継続を希望していても手続きの機会を確保しにくい方にとって、学童期検査への参加は、手続きできる有効な機会になったと考えられる。





また、確認書で「検討中」または「継続しない」と回答していた 58 人のうち、7 人の継続手続きが確認できた。スタッフによる個別説明や動画視聴を通じたコミュニケーションにより、参加者の意識に変化が生じ、継続意向につながったと推察される。

この取組により継続率、子どものログイン率、プレ質問票の回答率の向上につなげることができた。

2012 年度生プレ質問票のポイント未交換（交換期限 7/4）に対する取組

交換期限が近づいている中、約 4 割の方がポイント交換を行っていなかったため、交換を促す圧着ハガキを送付し、さらに期限前日にも電話やショートメールを行った結果、未交換者 335 人中 251 人（保護者 120 人、子ども 131 人）、全体の 75%が期限日までに交換を完了した。

また、ハガキ送付後、ユニットセンターにはアカウントに関する問

	い合わせが 25 件寄せられた。これらに対して個別に丁寧な説明を行ったことで、参加者の理解が深まり、不慣れなアプリの使用による負担を軽減する効果もあったと考えられる。
（A）改善	参加者と直接コミュニケーションを図ることで、参加者の立場に寄り添った対応が可能となり、調査の継続に対するモチベーションの維持にも寄与すると考えられる。今後も、継続意向やプレ質問票の回答への対応に加え、アプリの操作方法やポイント交換手続きに関する説明にも重点を置き、丁寧で円滑かつ的確な対応を継続していくこととする。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**学年質問票、年齢質問票の返送率向上のための取組** 質問票発送後 1 ヶ月から 1 ヶ月半が経過しても返送がない方には、ショートメールにて返送依頼を行っている。（携帯番号が不明な場合には固定電話への連絡またはハガキを郵送している）さらに、ショートメール送信後も返送がない場合には質問票の再送付を実施している。 **WEB 質問票の回答率向上のための取組** 2025 年 4 月、6 月、9 月に配信された WEB 質問票に対し、10 月 20 日までに 5 件以上回答した保護者およびお子さんそれぞれを対象に、プレゼントするキャンペーンを企画した。本キャンペーンは、プレゼントの条件を緩和することで、ログインが困難な方や継続していない方に継続を促す機会を提供することを目的としている。これにより、調査への参加意欲や回答率の向上を期待している。（プレゼントの発送は来年 2 月の予定）
（C）評価	**学年質問票、年齢質問票の返送率向上のための取組** 小学 4 年～6 年および 2025 年 1 月～6 月発送分の返送依頼前の平均返送率は 48.4%であったが、返送依頼から 3 週間後には平均 59.8%と高くなった。（図 1）その後、質問票の再送付を行った結果、再送 4 ヶ月後の平均返送率は 31.1%となり、どちらの取組も一定の効果が認められた。（図 2） さらに全ての学年質問票および年齢質問票の返送率は全国平均を上回っており、これは以前から継続して実施している効果的な取組の成果と考えられる。

	図1　返送依頼前と返送依頼後の返送率の変化 発送月 / 返送依頼前 / 返送依頼後 小学４年 62.6 69.1 小学５年 50.1 63.5 小学６年 48.8 58.9 2025.1月発送 44.5 57.7 2月発送 42.6 57.4 3月発送 37.4 53.2 4月発送 53.2 61.0 5月発送 46.9 55.1 6月発送 49.1 62.1 **平均 48.4 59.8** （%） 図2　各質問票の再送付の返送状況 / 再送数 / 再送4か月後の返送数 / 返送率 小学4年 48 14 29.2% 小学5年 104 46 44.2% 小学6年 132 24 18.2% 11歳 76 25 32.9% 12歳 81 25 30.9% **平均 31.1%** **WEB 質問票の回答率向上のための取組** キャンペーン期間中につき現時点での評価は難しいものの、告知後には複数のアカウントに関する問い合わせがあり、一定の反響が見られることから、今後の効果が期待される。
（A）改善	現在の取組により質問票の返送率の維持・向上が図られていることから、今後も同様の取組を継続するとともに、さらなる効果的な取組の検討を進めていく。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	・サイエンスコミュニケーション活動 論文作成をした後、大学を通じてプレスリリースを行い、広く市民に研究結果を知ってもらう。 鳥取ユニットセンターの広報誌に研究結果の紹介を行い、参加者にエコチル調査で得られた結果について知っていただく。 ・学会発表/論文発表 論文作成の内容の学会発表を行い、広く研究者にも研究結果を知ってもらう。 ・疫学者の育成 エコチル調査を通じて、学部学生や大学院生等に対して疫学に関する講義を行い、一人でも疫学者が増えるよう活動する。 大学院生に対し、研究指導を行う。
（D）実施	・サイエンスコミュニケーション活動 鳥取ユニットセンターの広報誌において、暫定データの紹介等を行った。さらに、エコケミストリー研究会からの依頼原稿の作成を行った。 ・学会発表/論文発表

	論文を作成した。 ・疫学者の育成 医学部に対してエコチル調査の実施方法や実施内容に関する講義を行った。 大学院生に対し、研究指導を行った。
（C）評価	・サイエンスコミュニケーション活動 まだ、評価は得られていない。 ・学会発表/論文発表 論文が受理された。 ・疫学者の育成 大学院生の学位論文が現在査読中である。 医学部生の講義でエコチル調査や出生コホート研究の紹介を行い、試験を行ったところほぼ全員に理解してもらうことができた。
（A）改善	・サイエンスコミュニケーション活動 今後も継続してサイエンスコミュニケーション活動を行っていく。イベント等で市民向けの研究紹介を行う。 ・学会発表/論文発表 論文数の向上を目指す。 ・疫学者の育成 大学院生の学位論文受理を目指す。

（図 1）13 歳以降の調査協力に関する確認書



（図 2）質問票の変更点



（図 3）WEB 質問票配信スケジュール



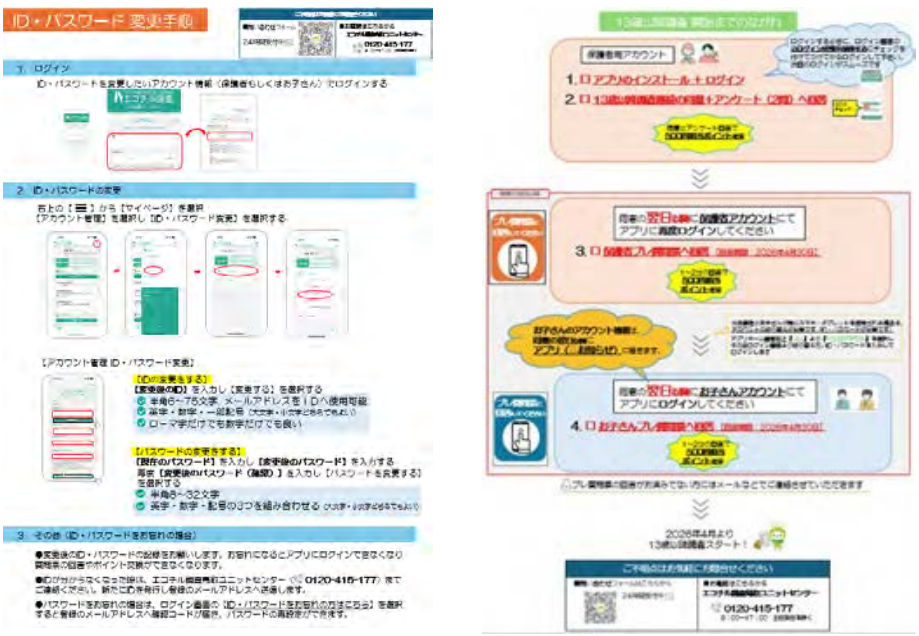
（図 4）ポイント交換リスト



（図 5）同じデバイスを使用する場合　ID・パスワードの変更手順

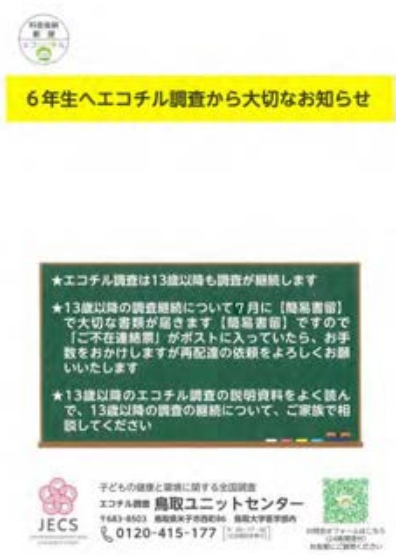


（図 6）13 歳以降調査開始までの流れ



（図 7）13 歳以降の調査継続について（A4 大判ハガキ）

表



裏



（図 8）ID・パスワード保管カード

表



裏



（図 9）ポイント交換マニュアル（スタッフ用）の一部





（図 10）プレ質問票未回答の方（保護者・子ども）と継続していない方に送付の圧着ハガキ

プレ質問票未回答の方

保護者



子ども



継続していない方



圧着部



エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　高知ユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　31　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画 （D）実施	<u>1.同意率 50%を達成（2013 年度生まれ）</u> **① 学童期検査・詳細調査会場での同意率 90%以上** **・同意促進のためのプレゼントキャンペーンと検査前電話勧奨。**前日迄に同意手続きを完了して検査に来た方にスポンジプレゼント。検査の初回案内でキャンペーンを周知し予約者には検査前に電話で勧奨を実施。参考① **・チェックリストと対面サポートによるログイン手続きの円滑化** 独自プログラムを活用し、個々に応じた手続きの進捗状況、裏面には親子アカウント情報を自動反映させたチェックリストを作成。検査当日の対面勧奨時には、チェックリストをもとに、継続手順と進捗を説明しながら、子ログイン・親子プレ質問票回答までの手続きをサポートし円滑化を図った。また兄弟児分も同様に準備、勧奨し、兄弟で継続に繋げている。参考② **② 子どもの参加率（2013 年度生まれ代諾者に対し 80%以上を目指す）** 現時点、代諾者に対する割合約 69%、配信対象者に対する割合約 34%。 参加意欲を高められるようなアプローチで、ログイン率 80%を目指す。 **・対面による子どもへのアプローチ** 今年度から、学童期検査説明コーナーを「13 歳以降調査の説明コーナー」とし、イラストや地元の風景を交えた制作動画を用いて子どもに勧奨し、ログインとプレ質問票回答迄導く導線を構築。動画とリサーチコーディネーターによる丁寧な説明で子ども本人の継続意欲向上に取組んだ。参考③ また、参加児にエコチル調査へ興味関心を持ってもらい調査継続に繋げることを目的として開催した体験型イベント「研究者に会いに行こう」では、子ども達が飽きないよう動きあるスライドを用いて調査概要と研究手順について説明し、科学にも興味関心を持ってもらう工夫を凝らした参考④ **・感謝が生む社会貢献の実感** 詳細調査検査会場での感謝状手渡し、学童期検査結果返却時の成長曲線・ボランティア証明書の同封、質問票発送時の ID・パスワード記録欄付き感謝状の同封など、調査を通じて成長を振り返る機会を提供するとともに、社会貢献を実感してもらい継続意欲を高められるような工夫を施した。参考⑤ <u>2.プレ質問票リマインド（2012 年度生まれ）</u>

	4月のWeb質問票配信に向け、事前ログインとプレ質問票回答未の方に抵抗なく取り組めるようリマインドを実施。1回目(3/18)手続きの進捗がわかるチェックリストを一括出力し発送（507通）参考⑥、2回目(4/9)ショートメール送信(384件)、3回目（4/18）独自プログラムより対象者を抽出、プレ質問票と 4 月配信の質問票回答後に得られるポイント数を反映させたハガキを一括出力し発送した(365通)参考⑦ **3.アプリ操作が苦手でも継続できる仕組み作り（保護者向け）** 学童期検査会場では子どもの検査待ちの全保護者に声掛けし、アプリ操作の説明やポイント交換のサポートを実施。7月から月1回「コンシェルジュデスク」を開設。チラシ、SNSで周知。計7名の参加者が利用した。参考⑧ **4.会報誌(ちょるるんNews)の活用** 例年のWebアンケートの結果を踏まえ、「調査の結果」や「思春期の子育ての困りごと」など、参加者のニーズの高いテーマを中心に構成し、13 歳以降調査に関する情報発信にも活用。夏号では、問い合わせの多い内容を、図やイラストを活用し視覚的に理解しやすい内容(ワンポイントアドバイス、Q&A形式等)で掲載。苦手な人でも取組やすくなるように工夫。また意思不明者には別途カバーレターを活用して継続勧奨も行っている。参考⑨
（C）評価	**1-①.学童期検査・詳細調査会場での同意率90%以上達成** 配信対象者に対する同意率は36.6%（807/2202）を推移（9月29日時点）9月時点で、学童期検査参加者の同意率92.8%（452/487)。詳細調査参加者の同意率97.9%（94/96）と、目標90%を上回っており対面検査時での勧奨は全体の向上を牽引している。下期の検査参加者確保が叶えば、50%到達。 **1-②.代諾者に対する子どものログイン率80%達成見込み76.8%(9月末)** **・対面による子どもへの勧奨で子どもログイン率90%超え。**動画を用いた勧奨とサポート体制の効果により、学童期検査参加者の子どもログイン率96.5%（436/452)。詳細調査参加者は91.5%(86/94)と全体のログイン率向上を牽引している。9月時点で、昨年度2012年度生まれの67%（代諾者数に対する割合）を上回り、父親の来場等による事後手続きを考慮すると実質同意率はさらに上回ると推測。また、検査後に届く、成長曲線送付効果や2月に実施するプレ質問票リマインドで目標80%達成の見込み。 **・夏休み体験型イベントでの子どもアンケート結果**では、回答者全員が「今回のような企画にまた参加したい」と回答。調査へのメッセージには「すごい結果を出していてこれからも続けていきたい」「協力していきたいです。これからも頑張ってください」等のメッセージが多数寄せられたことから参加者エンゲージメント向上に有効である。(17組中16組継続同意) **2.プレ質問票回答リマインドで子どもログイン201人増(2012年度生まれ)** プレ質問票リマインド（3回実施）により、開始時3/18から回答期日4/30

	までに子どものログイン数が 183 人増加した。回答期日後も増加し、6/30 時点でリマインド開始から累計 201 人の子どもログイン増を確認した。 **3.不同意から継続同意への転換** コンシェルジュデスクを利用した参加者のうち 1 組が、兄弟ともに不同意から同意へ転換。学童期検査会場で説明を受け、サポート体制を知り、「兄とともに同意に切替る」との意思を示し、兄弟児ともに継続同意に至った。 **4.会報誌(ちょるるん News)の活用** Web アンケートの回答では「13 歳以降調査についての説明が分かりやすかった」との評価が得られ、参加者の需要に合っていると評価できる。
（A）改善	**○学童期検査の参加率向上に向けた層別リマインドの実施（10・11 月）** 学童期検査での対面勧奨が継続同意に効果的なため検査の参加を呼び掛けるリマインドハガキを送付(10 月)。加えて過去の質問票回答件数に応じ層別化を図り電話とショートメールを使い分けたアプローチを実施(11 月)。下期の学童期検査の参加者を増やす事で同意率 50%を目指す。 **○小学 6 年生の意思不明者にハガキによるリマインド勧奨を実施(10 月)** 1 回目ハガキ（10 月）参考⑩、2 回目コーヒーセミナーイベント開催案内ハガキ（11 月）参考⑪イベント参加条件は「継続してくれた方」とし継続を促す。3 回目ハガキ（2 月)。引き続き継続同意率 50%を目指す。 **○エンゲージメント向上に効果的な小 6 対象の体験型イベントは継続実施** **○ ホリデー層掘り起こしイベント開催（12 月）** 青年期検査を見据えても、保護者の積極的参加は今後も不可欠である。スタッフのサポートでモチベーションが保たれた事例もある事から、幡多地域での開催など拡充していく。また、「大人のためのコーヒーセミナー(12/6)」を開催し、サポートが不十分だった 2011 年度生まれを含む小 6～中 2 の全世帯を対象にイベント案内を送る（11 月)。イベント参加の条件を継続同意者に限定し、会場にはコンシェルジュデスクを併設しアプリ操作のサポート体制も整える。イベント案内を通じて新規継続者を募る。 **○リマインドの検証により効果的なアプローチを実施(2 月)** プレ質問票リマインド直後の反応結果（レター116 人、ショートメール 24 人、ハガキ 43 人）から、反応が低いショートメールは短文通知(ポイント有効期日)に限定し、ログイン勧奨等詳細な情報発信には郵送を活用する。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**1.質問票回収率向上(2013・2014 年度生まれ)** ・各年代に応じ人気の文具を厳選し、適切な時期の質問票に同梱し開封を促す。オリジナルクリアファイル（感謝状)・クルトガシャープペンシル・ノート（小 6）資料⑫オリジナル紙ファイル（11 歳）資料⑬

・返送依頼は、11・12 歳は、1 回目ハガキ、2 回目電話とショートメール、3 回目ハガキ、4 回目質問票コピー送付、小 5・6 年生は、1 回目型抜きハガキ、2 回目ハガキ、3 回目質問票コピー送付

・学童期検査当日、未返送者を事前把握し検査当日に声掛けし希望者のみ質問票への記入してもらう。

2. Web 質問票回答率向上(2011・2012 年度生まれ)

コアセンターのリマインドとは別の手法で回答率向上に取組んだ。独自プログラムを活用し、配信したすべての質問票のうち、一つでも未回答がある世帯を抽出。個々に応じた回答状況と、ポイント交換状況を一覧化、ポイント未交換・未獲得数を記載したリマインドレターを一括出力し対象世帯に発送。子どもログイン状況に応じて「済」「未」で分類し、子ども未ログイン世帯にはログイン手順付きの案内を別途送付。参考⑭

・2011 年度生まれ：7 月 454 通（うち子どもログイン未 173 通）

・2012 年度生まれ：7 月 625 通（うち子どもログイン未 266 通）

（C）評価

1. 質問票回収率に改善が見られた

11 歳質問票及び子どもアンケート、12 歳質問票及び子どもアンケート、小学 5 年生、6 年生の質問票回収率は全国平均を 0.7～2.1%下回っており改善が必要である。回収率の前年比では、12 歳質問票、12 歳子どもアンケート、小学 6 年生に改善が見られた(図 1：R7 回収率(9/28))。また全国平均との差は、11 歳子どもアンケート以外は前年より 0.1～1.8%の縮小が見られた(図 1： 前年比(全国平均との差))。特に小学 6 年生(S-6)は 1.8%と縮小が顕著に見られた事から、例年同梱している文具と感謝状の効果に加え、継続勧奨の取組や、対面検査（学童期・詳細調査）時の声掛けも質問票回収率向上につながったといえる。

（図 1）

	C-11y	C-11y_子ども	C-12y	C-12y_子ども	S-5	S-6
R6 回収率(9/24)	70.2%	69.6%	63.1%	62.6%	69.6%	63.9%
全国平均	71.3%	70.3%	64.9%	64.2%	72.1%	66.4%
全国平均との差	**-1.1%**	**-0.7%**	**-1.8%**	**-1.6%**	**-2.5%**	**-2.5%**
R7 回収率(9/28)	69.8%	69.1%	**63.4%**	**62.8%**	68.9%	**64.2%**
全国平均	70.8%	69.9%	64.5%	63.8%	71.0%	64.9%
全国平均との差	**-1.0 %**	**-0.8 %**	**-1.1 %**	**-1.0 %**	**-2.1 %**	**-0.7 %**
前年比(全国平均との差)	**0.1 %**	**-0.1 %**	**0.7 %**	**0.6 %**	**0.4 %**	**1.8 %**

	2.Web 質問票リマインドにより中学生の新たな子どもログイン数増加 中学 2 年生計 68 人（3 月・7 月実施、9/1 時点）、中学 1 年生計 30 人（7 月実施、8/25 時点）合計 98 人の増加が確認できた。中学生世帯への Web 質問票リマインドレターによる一定の効果が得られた。得られるポイント数を記載したレター送付時に、回答の初手であるログインを促す工夫を凝らし Web 質問票の回答率向上に繋げる。
（A）改善	下期の学童期検査参加のリマインド実施時には、質問票回収状況も把握しながら電話及びショートメールでの返送依頼を平行実施する。さらに検査当日、直接返送依頼ができるよう、事前に返送状況を把握し、検査当日は職員で情報共有し回収率維持向上に取組む。 中学生には、全学年の対象世帯に年 2 回（7 月・2 月）リマインドレター送付を継続する。一方で、「案内が多い」との声も寄せられているため、今後も状況を見極めながら、内容やタイミングに工夫を凝らし、効果的なリマインド方法を検討し実施する。4 月から質問票の配信が始まることに気づいてもらえるよう、「4 月 1 日から質問票配信が始まります！」という案内ハガキを 3 月に発送し、4 月早々の回答につなげることを目指す。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	1．参加者及び一般市民へ親しみやすい形で成果を還元 ・会報誌夏号では、高知ユニットセンター発表の論文を紹介し、調査の成果を共有した。さらに、教育学部教授の協力のもと、思春期の子どもに関するコラムを掲載。会報誌発送時には Web アンケートも同封し、今後期待する広報活動についての設問を通じて得られた回答を、今後の広報活動の参考・ヒントとして活用していく。 ・参加者向けイベントで、成果ポスター展示及び広報資材配布を行った。 ・地域メディア誌（高知新聞全 20 回）連載の子育てコラム「ずっと、ぎゅっと！」第 3 弾と、エコチル調査の研究成果を冊子に纏め、参加者および一般市民に配布した。参考⑮ ・SNS を活用し、参加者や保護者との接点を広げるとともに、地域全体への情報発信を行った。 2．地域とともに広報活動を実施 地域と連携しながら広報活動を実施 ・幡多地域の協力医療機関主催の夏祭りにブース出展し成果紹介ポスター展示と広報資材の配布を行い、来場の 150 人全員には認知度調査を行った。広報資材には QR コードを掲載し HP・SNS へのアクセスを促した。 ・協力医療機関（総合病院）の外来デジタルサイネージ装置を活用し、「大規模国家プロジェクト子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調

	査)」の動画配信を開始した（6 月)。 ・地域イベント「赤ちゃん会」会場（高知・幡多）で子育て世代向けに、広報資材を配布（4 月)。 **3. 夏休みの広告を通じた Instagram 投稿企画で次世代への関心喚起** 夏休みに大型商業施設で広告を掲出し Instagram プレゼント企画「ちょるるんを探せ！」を実施。子どもの関心を引く工夫を凝らした。参考⑯
（C）評価	**1.参加者コミュニケーション　会報誌夏号 Web アンケート集計結果**  参加者 298 名からアンケートの回答が得られた。広報活動へ期待する声は、「調査結果をもっと知らせる」が最多（53.69%)。次に成果の還元が強く求められている。「思春期の子育ての困りごとを相談」（47.32%）も高く、会報誌などでの対応が期待されている。「参加していない方への周知」（16.78%）の声も増加しており、一般市民への成果還元も重要である。集計結果は参加者の声をもとに運営に活かしている事を、会報誌やホームページでフィードバックする事で双方向コミュニケーションを図る。 **2. 地域とともに広報活動を実施** 幡多地域の協力医療機関開催の夏祭りで行った認知度調査では、回答 150 件中、知っている 85 件(56%)知らない 65 件（43%）であった。11 月出店予定の「科学の祭典」でも一般への周知活動と認知度調査を実施予定。 **3. Instagram 投稿企画を通じフォロワー数が 63 人増加（9 月 365 人）** 「ちょるるんを探せ！」Instagram 投稿企画では、投稿条件のハードルが高かったのか、投稿 1 件・閲覧数 114 件と参加が伸び悩んだが、広告効果は「見たよ」の声が多く寄せられ、一定の認知度向上の効果は得られたと考える。Instagram フォロワー数が増えれば、情報がより多くの人に届きやすくなるメリット がある事から今後はフォロワー数獲得に向けた取組も模索していく。質問票回収率改善(図１)、子どもログイン率向上の背景には、これらの広報活動の積み重ねが大きく寄与していると考える。
（A）改善	今後は子どもたちの生活の中心となる、中学校・高等学校への認知度向上が必要となってくる事から、引き続き学校関係者との連携を図り、教育現場への広報活動を行っていく。引き続き、地域との連携を図りながら、身近な生活に役立つ情報も含め、親しみやすい形での情報発信に努める。

参考①学童期検査チラシ



参考②⑥　手続き進捗チェックリスト



※連絡協議会掲示板で共有

参考③動画　※ご視聴希望の場合は高知 UC 迄



参考⑤-1詳細調査「感謝状」



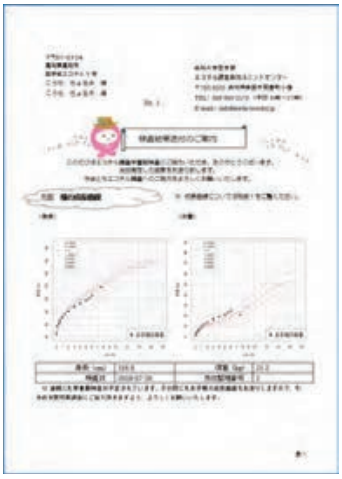
参考④「研究者に会いに行こう！」







参考⑤-2学童期検査結果返却「成長曲線」



◆高知ユニットセンター　公式配信媒体◆

ホームページ　Instagram　X(旧 Twitter)

Facebook　YouTube

参考⑤-3質問票発送時「感謝状」





参考⑦リマインドハガキ（ポイント数反映）



参考⑧　コンシェルジュデスク（チラシ・写真）









参考⑨会報誌「ちょるるん News」





参考⑩小６意志不明の方向けリマインドハガキ(1 回目)





参考⑪小６意志不明の方向けリマインドハガキ（2 回目）

［小６向け］





［中学生向け］

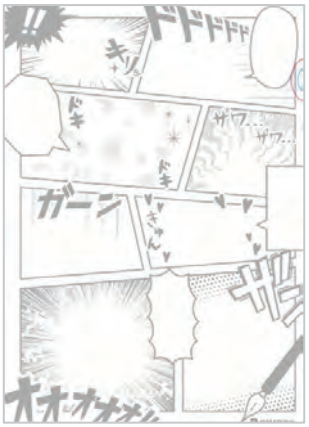




参考⑫小学６年質問票同梱「文具」



参考⑬11 歳質問票同梱「紙ファイル」



オモテ



ウラ

参考⑭　リマインドレター







参考⑮「子育てコラム集」「チラシ」

冊子



参加者_オモテ



一般_オモテ



ウラ



参考⑯イオンモール高知広告ジャック・Instagram 企画「ちょるるんを探せ！」

［エレベータ広告］



［フードコート広告］





［企画予告状］



エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：産業医科大学サブユニットセンター

評価時点	令和７年１０月３０日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画 （D）実施	13 歳以降調査の開始に伴い、本年度も小学生・中学生の学年に応じた広報フォローアップ活動を計画・実施した。特に中学生（参加者ポータルログイン後の小学 6 年生含む）は「エコチルティーンズプロジェクト」として継続。参加者ポータルを活用すること、参加している子ども達の意見反映やアクションをしてもらう等双方向コミュニケーションをすること、の 2 点を全ての活動に課し、第 1 弾から第 5 弾までを実施した。今後 16 歳での子ども本人同意も見据え、それに向けた意欲醸成に向け「エコチル調査を一緒に作る」という意識向上を目指し、以下の取組を実施した。 **【第一弾】アプリコンテンツ「独占インタビュー動画」配信** 前年度、参加者ポータルのお知らせ配信を活用し、サブユニットセンター所属医師のインタビューとしてアプリコンテンツ動画の配信を実施。WEB 質問票回答期限やポイント失効期限に合わせ定期的に配信しリマインドに活用しつつ、全ての動画に出てくる文字を組み合わせるメッセージを完成させ参加者ポータルから応募してもらう取組を行った。本年度も配信およびメッセージ募集を継続し、本年度からログイン可能となった 2013 年度生（小学 6 年生）の参加児にも働きかけた。 **【第二弾】エコチル LINE スタンプ作ってみらん？！** 2011 年度および 2012 年度生の意見を反映させた「オリジナル LINE スタンプ」の配信を実施した。動画と同様に、WEB 質問票回答期限やポイント失効期限に合わせて定期的に配信する、配信時にはリマインド内容も記載し印象を和らげる、といった工夫も行った。さらに、2013 年度生の WEB アンケートも実施し、意見を反映させた新たなスタンプ制作も開始した。アンケート時には前回の LINE スタンプの感想も聞き、子ども達の声を積極的に収集した。 **【第三弾】「届けエール!! 2025 年のキミへ」応援動画配信**

	パイロット調査参加者が中学 3 年生を迎えたため、受験応援メッセージや思い出の写真を参加者から募集し動画を制作、Youtube チャンネルやホームページ、Instagram にて一般公開した。高校受験は、多くの子ども達が初めて経験し困難を感じるライフイベントであり、子ども達のライフイベントに寄り添った応援や発信を行うことでエコチル調査への親近感を高めること、同じ参加者からのメッセージを発信することで仲間としての一体感を高めること等を目的とした。 **【第四弾】「“Tell Me Your Dream”～夢を話そう～」開始** 新たな取組として、サブユニットセンター所属医師とのコミュニケーション窓口を設置した。令和 7 年 6 月に参加者ポータルからお知らせ配信しニュースレターでも紹介した。子ども達の夢や悩みに医師が耳を傾け、思春期の子ども達のアウトプットを促しつつ気軽にコミュニケーションできるツールを設置することで、調査への親近感や安心感を高めることに活用した。 **【第五弾】「キミ色スターコンテスト」開始** 新たな企画として「キミ色スターコンテスト」を実施した。「キミだけの色で輝け！」をキャッチコピーに、これだけは誰にも負けない！、自分の好きなこと、自信があること、といった内容を、星型の応募用紙に自分だけの色と共に描いてもらう企画であり、思春期を迎えた子ども達が自由に表現できる内容とした。また、合理的配慮として子ども自身が応募できない方でも、保護者が応募できることを案内し、全ての参加者が楽しめるような配慮も行った。
（C）評価	第一弾の動画配信については、本年度に入ってからも新たにメッセージの応募が見られ、前年度はまだログインが出来なかった学年もプロジェクトへの参加を楽しみに待って頂けていたことが伺える。 第二弾の LINE スタンプは、これまでに 3 回配信を完了している。ダウンロード数は、シリーズ 1～3 の累計で 10 月時点で 1,022 件に上っており、参加者の約 36.0%となっている。重複があるとしてもシリーズ 1 のみで 623 件であり約 22.0%の方にダウンロードいただいた形となる。これまで広報活動を行った際、アクションを起こす層は 1 割前後が多い印象であり、倍以上の割合であることから、かなりの効果があったと考えられる。 第三弾の応援メッセージ動画は、Youtube チャンネルおよび Instagram での公開の視聴数合わせて 500 回を超えており、高評

	価も複数票が入っている。令和 7 年度も「届けエール!!2026 年のキミへ」を制作する予定であり、募集を開始した所、応募も徐々に集まってきており、子ども達の意欲向上に役立っている様子が伺える。 第四弾のコミュニケーション窓口は、現時点ではまだ投稿は確認できていないが、Instagram で医師の紹介や情報発信を行った所、1,000 件を超える視聴数が見られた。 第五弾のコンテストについては、〆切は今年度末までのため途中経過であるが既に 47 件の応募があり、小学生・中学生の両方から届いている。前年度に実施した「エコチル川柳」コンテストの応募数 76 件と比べても、応募数も順調であること、中学生からも反応があったことから、成長に合わせた企画の効果が出ていると捉えている。 それぞれの活動の前後には、参加者ポータルの保護者ログイン率・同意率、子どもログイン率の推移を確認している。第三弾の応援動画では、配信開始前後を比べると、2012 年度生（中学 1 年生）で、保護者ログイン率が 40.1%から 42.5%、同意率が 38.7%から 41.8%、子どもログイン率が保護者同意者を分母とし 30.0%から 33.2%の向上が見られた。 第二弾の LINE スタンプの夏の配布分では、2013 年度生（小学 6 年生）では、ニュースレター発送や学童期検査と合わせた効果と考えられるが、保護者ログイン率が 28.0%から 35.3%、同意率が 25.8%から 34.3%、子どもログイン率が保護者同意者を分母とし 14.8%から 24.2%の向上が見られた。中学 1 年生でも保護者ログイン率が 0.2%、同意率が 0.1%、子どもログイン率 0.2%の向上が見られた。わずかではあるものの、中学生は、既に学童期検査が終わり対面での勧奨が難しい状況がある中で、ホリデー（休眠）状態となっている参加者に働きかける効果があったと評価できる。また小学 6 年生への LINE スタンプアンケートでは、10 月現在 27 件の回答があり、配布中のスタンプについては、33.3%がダウンロード済、22.2%が今後ダウンロードする予定、との回答が得られた。さらにダウンロードした 80%が「すごく良かった！」「良かった」と回答しており、「使いやすかった」「北九州市ならではで好感度持てる」等の感想も得られ、満足度が非常に高いことが分かった。
（A）改善	今後も特に子ども達のログイン率及び WEB 質問票回答率向上に向け「エコチルティーンズプロジェクト」をさらに発展させて

	いく予定である。動画配信は 1 月に応援メッセージ動画の配信を予定しており、引き続き配信前後の状況を注視しつつ、Youtube や SNS など様々な媒体を活用し展開する。LINE スタンプも引き続き定期的な配信を行っていく予定である。小学 6 年生の意見を元にした新たなシリーズは 3 月に修了証書と共に配布を開始し、来年度は現在の小学 5 年生へのアンケートも行っていきたいと考える。コンテストは、入賞作品をニュースレター等で還元する予定である。 　また今後新たな企画として、子ども達の意見を元にしたホームページ制作や研究成果紹介ページの制作も企画しており、「エコチル調査を一緒につくる」という観点で、子ども達の意見を反映させた調査の実施に努めたいと考える。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	質問票返送依頼については、返送依頼対象者を以下(1)～(3)に分け、参加者の特性に合わせたより緻密な返送依頼を継続することとした。 (1) 7 歳質問票以降一度も返送なし (2) 7 歳質問票以降全部返送 (3) 7 歳質問票以降数冊返送 　返送が見込める対象者(2)(3)については、(1)の対象者への返送依頼回数よりもう 1 アクション増やし、(1)の対象者と(2)(3)と一律に返送依頼を行うのではなく、費用対効果を考慮し、より返送が見込める(2)(3)への返送依頼を増やして対応を行っている。本年度は以下の流れで実施した。 ＜年齢質問票＞ 質問票発送→ハガキ→ショートメール→ショートメール（まじめな方のみ）→再送（まじめな方のみ） ＜学年質問票＞ 質問票発送→ハガキ→ショートメール→再送 　年齢質問票については、前年度までは、ショートメールを先行していたが、より丁寧なメッセージを添え返送を促すため、ハガキ先行に見直しを行った。一方で、2 回目のショートメールや再送を返送率が良い方（まじめな方）のみに絞り実施することで費用を削減し、且つ効率化も継続した。 　またシールラリー（小学 6 年間に 12 冊を返送していただいた

	方にプレゼントあり）を活用し質問票返送向上に努めた。参加者の個別の状況に合わせて、謝礼発送時に手紙を書き、次の質問票や未返送の質問票の発送意欲向上、エコチル調査継続への意欲向上に役立てているが、本年度より新たにシールラリーの個別の返送状況を謝礼の送付状に印刷することを開始した。 他、新たに質問票問合せ用の専用メールアドレスを設置し、QRコードから再送依頼や問合せができる体制を構築した。
（C）評価	12 歳や小学 6 年質問票の返送率が伸び悩んでおり、7 月末時点では小学 6 年質問票で全国平均を下回っていたが、各種取組により 9 月末時点で送付後 6 か月以上の質問票で 12 歳が 66.8%、小学 6 年生が 64.3%まで向上し、いずれも平均を上回る返送率に改善した。 再送については、本年度は各学年で平均して約 5%程度の返送となっている。紙質問票の対象者が少なくなってきたこともあり、徐々に効果が鈍化しているが、費用対効果のバランスを見ながら今後の継続を検討していきたいと考える。 未返送がある方にはシールラリー活用を推奨することで促しがしやすくなり、参加者も「それなら書いてみようかな」と記載意欲の向上促進効果がみられている。令和 7 年度までで学年によって 5 割～6 割はコンプリートを達成しており向上効果がみられている。 新たな問合せ体制については、まだ開始して間もないが、早速参加者から問合せがあり、設置の効果がみられた。
（A）改善	今後も参加者への丁寧な返送依頼を継続し、返送率向上を目指したいと考える。令和 8 年度は紙質問票の最終実施年度となるため、周知を徹底すると共に、シールラリーを活用し視覚的に個別状況を示すことで、勧奨を推進したいと考える。問合せ方法はメール、電話、ショートメールなどと組合せ複数の方法を提供できており、参加者の引き続きの利便性に努めていきたい。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	<u>ホームページ研究成果紹介ページリニューアル</u> 本年度、サブユニットセンターのホームページにおいて、研究成果「エコチル調査でわかったこと」ページをリニューアルし公開した。全国の研究成果をカテゴリーで分類し、キーワード検索、カテゴリー、タグなどから、どんな研究があるのか簡単に探せる他、ポイントやＱ＆Ａの表示を設けることで、専門家以外の

	方や子ども達でも気軽にわかりやすく要点を見ることを可能とし、分かりやすい研究成果紹介に努めた。 Instagram での地域連携機関との相互フォロー Instagram も担当チームにて積極的に更新を続けており、投稿数は既に 450 件に迫っている。さらなる情報発信を目的に、新たに地域の連携機関である産科婦人科クリニックとの相互フォローを実施した。 地域の子ども達のスポーツ大会への広告掲載 新たな取組として、地域の同年代の子ども達への認知度向上ならびにエコチル調査への親近感向上のため、「(公社) 福岡県宅地建物取引業協会北九州支部杯‘24　第 45 回北九州近県少年サッカー大会」のプログラムに広告掲載を行った。プログラムは、参加する子どもや保護者が必ず目を通す冊子であり、北九州のみならず、福岡県内、さらには九州から関西地区の府県のチームも複数参加していることから、自分達が取り組んでいるスポーツへの応援メッセージ、および同年代の子ども達がエコチル調査を知ってくれ応援してくれることを通して、調査参加意欲向上に寄与することを目指した。
（C）評価	研究成果紹介ページでは、既に 19 本掲載を行った。公開開始よりまだ期日が少ないため評価はこれからとなるが、10 月のアクセス解析では、表示回数が 135 件であったものの、エンゲージメント率は 98.15%という非常に高い数値となった。10 月の他ページでは 40%～80%台であることと比べると、特筆して多くの方が高い関心度合いを示したと評価できる。 Instagram はこれまではサポーターの相互フォローは実施してきたが、連携機関とは初の試みであり、フォロワーも 10 月時点で 170 件に増加がみられた。 サッカー大会での広告掲載については、北九州、福岡県内、九州から関西地区の府県の幅広い地域で、参加人員である約 1,500 人に周知を行うことができた。掲載ページもプログラムと見開きのページに掲載しており、参加者や多くの子ども達および保護者にエコチル調査を知って頂くことができたと考えられる。
（A）改善	今後も研究成果紹介ページや Instagram は順次アップロードを行い、DM なども活用し一般の方とのコミュニケーションも継続する予定である。広告掲載については、北九州市との連携を検討しており、より効率的且つ効果的な実施に努めたいと考える。

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：九州大学サブユニットセンター

評価時点	令和　7 年　10 月　3 日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	①13 歳以降調査の継続について、中学へ進級後もフォローし、効果的かつ参加者に負担の少ないリマインドを実施する。 ②学童期調査(CAT/身体計測)と詳細調査(CAT)に参加した方の 13 歳以降調査同意率を 80%以上にすることを目標として、勧奨を行う ＜定義＞ 対面調査の参加者：今年度 CAT 検査が終了している参加者とする。理由としては、CAT 実施日の方が積極的に同意勧奨をおこなっているため。
（D）実施	①13 歳以降調査に同意していない参加者を対象として、中学進級グッズとともに同意勧奨の案内を送付した。 ログイン・同意していない参加者の中には、継続しないとの意思を持ってしていない参加者もいることから、リマインドとして単体で文書を送付すると、そうした参加者の取りやめを促すことに繋がるケースがあった。一方で、子どもがスマートフォンを持つタイミングで同意を考えている代諾者がいることも把握していたため、中学入学後のフォローも重要と考えられた。 よって、グッズ同封の「お知らせ」というスタンスで案内を行い、リマインドを受け取る負担感を軽減することに取り組んだ。 ②CAT 検査案内の郵送物に 13 歳以降調査についての勧奨用紙を同封する。(参考資料 1) CAT 検査前に参加者ポータルサイトへのログイン状況を確認。受付時に継続同意していない、プレ質問票を行っていない、子どもがログインしていない参加者(代諾者など)に対して 13 歳以降調査について声かけを行った。その際、同意の意思がある参加者に対しては、待ち時間を利用してアプリのダウンロードからプレ質問票まで進捗状況に応じて進めてもらうことを提案し、必要時は初回アカウントの ID とパスワードを提示した。 さらに詳細調査の参加者に対しては、医学的検査の受付時にも、

<table>
<tr><td></td><td>継続同意について未実施の参加者へ口頭で勧奨を行った。</td></tr>
<tr><td>（C）評価</td><td>①中学 1 年時の同意推移について、2025 年度と前年度で比較した。※2025 年度より 6 月に 13 歳以降同意案内入りグッズ送付
<table>
<tr><td>中学 1 年</td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td></tr>
<tr><td>2024 年
分母 735 名</td><td>+0.5%
(4 件)</td><td>0%
(0 件)</td><td>0%
(0 件)</td><td>0%
(0 件)</td><td>+0.1%
(1 件)</td><td>+0.1%
(1 件)</td></tr>
<tr><td>2025 年
分母 1321 名</td><td>+0.9%
(12 件)</td><td>+0.4%
(5 件)</td><td>+1.1%
(15 件)</td><td>+0.2%
(2 件)</td><td>+0.1%
(1 件)</td><td>+0.2%
(2 件)</td></tr>
</table>
割合にすると若干ではあるが、2025 年度は前年度の同時期に比べ、継続的に同意率が伸びている。特に 6 月、グッズに同意勧奨を同封した月に同意の増加が見られた。
グッズに同封することで開封率が高くなり、案内を読んで頂けた結果、同意への関心が高まり、一定の効果があったと考えられる。
②8 月末時点で、学童期検査(CAT/身体計測)参加者の 80.2%、詳細調査(CAT 検査)参加者は 88.5%が 13 歳以降調査に同意している。対面調査参加者のエコチル調査への参加意欲は高いことが伺える。CAT 検査の際に直接個別に参加者へ声掛けを行える点は良く、CAT 検査時は保護者の待ち時間が発生するため、その時間を利用した声掛けや勧奨は有効であったと考える。</td></tr>
<tr><td>（A）改善</td><td>①グッズに同封する形でのリマインドを継続する。また、保護者と子どもがスマートフォンを共用する場合、都度ログアウトすることに難色を示されるケースがしばしばある。よって、アプリ版と Web 版を併用できること(例えば保護者はアプリ版でログイン、子どもは Web 版でログインしブックマークをする）をアナウンスし、ログインへの敷居を下げたい。
②CAT 検査時に 13 歳以降調査の同意勧奨を継続する。今後は CAT 検査の前後(検査の勧奨前後)で同意が増加しているのか、評価していきたい。
今年度の詳細調査対象者全体(検査未終了者含む)の同意率は現時点で 58.0%である。詳細調査の対象者は 2 年おきに対面調査へ参加して頂いていた方も多く、エコチル調査への参加意欲が高いことが考えられる。今回会場に来られない方など直接声掛けを行えない参加者への勧奨方法も検討する必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="2">イ．質問票回収率の維持・向上の取組</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>（P）計画</td><td>Web 質問票の回答率を向上させる。</td></tr>
<tr><td>（D）実施</td><td>既に同意している参加者に対して、中学進級グッズの中に、コアセンターから配布された Web 質問票の年間スケジュールを入れた。</td></tr>
<tr><td>（C）評価</td><td>2011 年度生まれの 4 月配信質問票について、2025 年度と前年度の回答率を比較した。
※2025 年度より 5 月に質問票案内入りグッズ送付
<table>
<tr><td>代諾者</td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td></tr>
<tr><td>2024 年</td><td>30.1%</td><td>35.1%</td><td>40.4%</td><td>42.0%</td><td>49.5%</td><td>51.6%</td></tr>
<tr><td>2025 年</td><td>31.4%</td><td>43.2%</td><td>48.0%</td><td>49.4%</td><td>53.6%</td><td>55.1%</td></tr>
<tr><td>子ども</td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td></tr>
<tr><td>2024 年</td><td>30.0%</td><td>35.3%</td><td>40.1%</td><td>42.5%</td><td>49.6%</td><td>52.0%</td></tr>
<tr><td>2025 年</td><td>23.5%</td><td>40.5%</td><td>45.3%</td><td>46.6%</td><td>50.0%</td><td>51.4%</td></tr>
</table>
・代諾者は、4 月時点（配信直後）の回答率は前年度とほぼ変わらず、5 月の回答率は 2025 年度の方が 8.1 ポイント高かった。
・子どもは、4 月時点では 2025 年度の方が 6.5 ポイント低い回答率であったが、5 月の回答率は、2025 年度の方が 5.2 ポイント高かった。
上記より質問票案内入りグッズの送付により、質問票回答率の向上に一定の効果があると考えられた。また、配信直後の回答率が伸びない場合であっても、リマインドによって回答率のリカバリーができる可能性が示された。</td></tr>
<tr><td>（A）改善</td><td>グッズに同封する形でのリマインドを継続する。また、アプリを開くと、新しい質問票の下に古い質問票が配置されており、新しい質問票から答える参加者も多いと思われるため、古い質問票（回答期限が近い質問票）から先に回答していただくような注意書きを追加し、質問票の回答漏れを防ぎたい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">ウ．成果の社会還元の取組</td></tr>
<tr><td>（P）計画
（D）実施</td><td>九州大学エコチル調査事務局ホームページでは「調査でわかったこと」というページを設け、エコチル調査の情報を解析しわかったこととして九州大学より発表された論文を紹介している。今年度は 4 月に新しく 2 件の論文を紹介した。7 月に発行している「すくすくえこちるっこ!ふくおか(以下すくえこ)」には、調査でわかったことを紹介する記事を設け、詳細はホームペー</td></tr>
</table>

	ジで確認できるようにサイトの URL と QR コードを掲載した。 また、ホームページの閲覧数の増加を目的として、「すくえこ」にクロスワードパズルを掲載。その回答はホームページを見て確認してもらう方式をとった。(参考資料 2)
（C）評価	ホームページのアクセス数を月毎、ページ毎に確認。ホームページには 25 のページがあり、総閲覧数のうち「調査でわかったこと」のページ閲覧数が 17～32%を占めていた(2024/9～2025/7)。これはトップページの次に多い閲覧数であり、これによりホームページ閲覧者が、調査でわかったことについて関心が高いことが伺える。しかし、4 月に新しい論文紹介を行っても、「調査でわかったこと」の閲覧数の増加は見られていない。参加者へ新しく論文掲載を行ったことが伝わっていないためであると考える。 また、「すくえこ」は 7 月より発送開始である。記事掲載により「調査で分かったこと」の今後の閲覧数増加を期待している。 ホームページ閲覧数の増加については、7 月よりクロスワードパズルの回答をホームページに掲載開始しているため、今後確認する必要がある。
（A）改善	今年度(2025/7)よりインスタグラムによる広報活動を開始した。新たな論文掲載など、ホームページの更新に伴うお知らせも発信し、成果を参加者へタイムリーに伝えることができるようにする。 また、インスタグラムのみでなく、ホームページトップ画面の「おしらせ」でも更新したことがわかるように表示する。 クロスワードパズル回答の掲載に伴い、ホームページ閲覧数の増加がみられた場合は、来年度の「すくえこ」にも同様にクロスワードパズルなど掲載し、回答をホームページに掲載することで参加者がホームページを閲覧する機会の増加を図り、研究成果が目に留まりやすくなるようにする。

（参考資料 1）　13 歳以降調査の勧奨用紙



(参考資料 2)「すくすくえこちるっこ」より一部抜粋

調査でわかったこと



皆さまから頂いた情報を解析して分かったこととして、
九州大学から発表された論文をご紹介します。

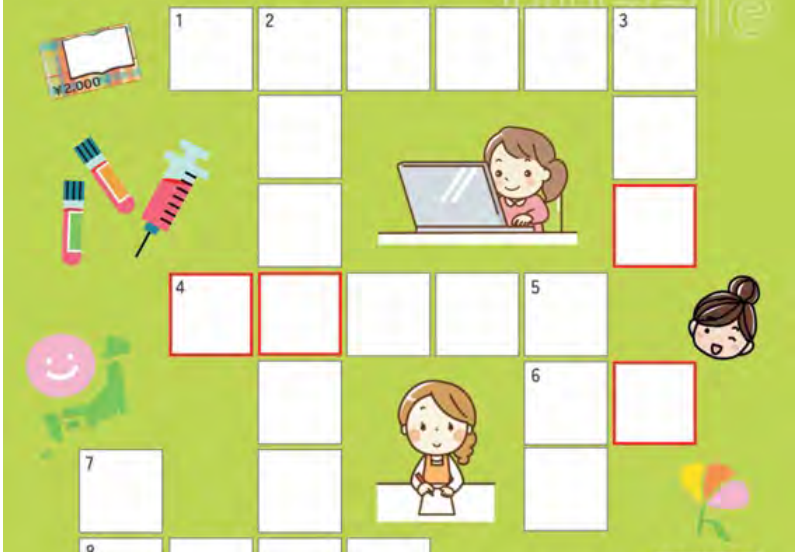
「妊娠中のお母さんの職業上の抗がん剤・放射性物質の取り扱いは、こどもの死産・流産や形態異常に影響する？」
「子どもの睡眠障害の早期回復は発達障害のリスク低減に関係する？」
などの論文が発表されました。

詳しくはこちらからご覧いただけます
https://eco.kyushu-u.ac.jp/results.html

エコチル×クロスワード

Crossword Puzzle

クロスワードをといて、赤いマスのひらがなをならべてみよう！エコチル調査にかんする言葉ができるよ♪こたえはホームページで発表しているから、ぜひ見てみてね！



正解はわかったかな？
こたえはこちらから！
https://eco.kyushu-u.ac.jp/newsletter/answer.html

横のヒント

1. 学童期検査に参加すると、お礼にもらえるものだよ！これがあると本を買えるよ！
4. エコチル調査で集めたデータは、何に役立てられる？ヒント：たくさんの「○○成果」が発表されているよ！
6. この広報誌にいる女の子のキャラクターの名前は？ヒント：○○ちゃんだよ！
8. エコチル調査では、子どものときに抜ける歯を集めて調べるよ！この歯の名前は？

縦のヒント

2. エコチル調査では、生活や健康について答えてもらう紙があるよ！何ていうのかな？
3. 学童期検査が行われるのは、夏休みと日曜と…もう1つの曜日は？
5. 中学1年生からの調査では、専用の「○○アプリ」を使って答えられるよ！何アプリかな？
7. エコチル調査は、日本全国で行われているよ！日本のような大きなまとまりを何という？

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　熊本大学サブユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　31　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画	（１）参加児向けの体験型イベントを企画し、エコチル調査に興味関心を抱く機会を作る。 ①第 1 回エコチル調査全国フォーラムに、参加者親子 6 組を、熊本大学エコチル調査特派員として派遣し、フォーラムに参加した感想を記事にし、熊本大学エコチル調査の情報誌に掲載する。 ②地元のラジオ局見学と生放送に出演し、エコチル調査の広報を参加児に行ってもらう。また、ラジオ CM 用のサウンドロゴを参加児の声で作成し、定期的に CM で流す。 ③ラジオでエコチル調査の特番を 1 時間枠で作成する。まずは、エコチル調査の概要説明を行い、あらかじめラジオ局が学童期検査時に取材を行い、その時の音声を紹介。また、保護者や参加児にエコチル調査への想いについてインタビューに答えてもらう。次に、エコチル調査で分かってきたこと（研究成果）について研究者から説明を行い、県民に対し成果の還元を行う。 （２）１３歳以降調査の同意率の向上 ①学童期検査会場で、未ログインの人すべてに声掛けを行い、希望者には、担当者が説明を行いアプリのインストールから同意まで勧奨を行う。 ②母が同意したことを確認し、子どものログインまで会場で終了させる。 ③13 歳以降調査に関するお願いとして、熊本大学でアプリのインストールから母親の同意方法、子どもの同意方法までまとめたオリジナルパンフレットを作成し、アプリにログインしていない参加者を対象に配布する。(参考資料 9)
（D）実施	（１） ①エコチル特派員の募集に関しては、1,428 人中 43 組の応募があり、厳選な抽選の結果 6 組の参加親子に決定した。これを企画するに当たり、旅費支給に関し大学側との交渉が難航したが、

	事務担当者への説明や理由書を記載し、ようやく実行まで行きつくことができた。参加の様子については、年度末発行の熊本大学エコチル調査の情報誌に掲載予定。 ②ラジオ出演に関しては、1,428 人中 21 人の応募があった。11 月 15 日に収録予定である。 ③熊本大学エコチル調査ラジオ特番については、9 月 28 日の学童期検査時に取材に来られ、許可を得ることができた参加者の調査時の様子の収録やインタビューに応じてもらった。また、特番全体の収録は 11/15 の予定でセンター長、副センター長、研究者が出演予定である。 （２） ①～②学童期検査会場での勧奨は、母親が未ログイン 159 人中会場で同意された方 143 人（90%）、子どもは 244 人中 217 人（88.9%）であった。詳細調査参加者は、母親未ログイン 35 人中同意 31 人（88.6%）、子ども未ログイン 52 人中同意 48 人（92.3%）であった。ログインをされない方の理由は、「少し検討したい。自宅で行う。子どもに聞いてみないとわからない。」等であった。 ③2011 年～2013 年の対象者で未ログインの方 1,115 件、子どもが未ログインの方 219 件、意志不明者 22 件に 13 歳以降調査に関するお願いを送付した。送付後、ID・PW についての問い合わせが 27 件あり、すぐに ID・PW の再送付を行った。 送付後、2 週間で 2012 年産まれの母親の同意が 4 名、子どもが 7 名増加、2013 年産まれの母親の同意が 10 名、子どもが 5 名増加した。
（C）評価	（１）今年度は、参加者が参加できるイベントを企画した。計画が現在進行中のものもあり評価が難しい部分があるが、エコチル調査に参加している意義をあらためて感じることができたなどの感想をいただいた。年度末に、計画の全企画について再評価を行う予定。 （２）13 歳以降の取り組みとしては、パンフレットを送付後、参加者の反応が大きく、同意率の向上にも繋がっていった。現在、問い合わせの方に ID･PW を送付しているため、送付した方々がすべてログインし同意まで終わるように、追跡を行いながらリマインドを行い、さらなる同意率の向上に努めていく必要がある。
（A）改善	次年度は、全対象者が小学校を終了年度になり、Web 質問票へ移

	行し郵送物も減っていくため、参加者とのコミュニケーションの機会が減っていく。そのため次年度は参加児を対象とした環境やエコチル調査を学べるイベントの企画を行い、参加意欲を高めていく機会を増やしていきたい。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画	（1）質問票の回収率の向上及び維持に向けて、リマインドの徹底 （2）学童期検査会場で質問票未記入の方に声掛けを行い、希望があれば会場で記載していただく。また、事前連絡時に記載済みの質問票があれば持参していただくよう声掛けを行う。 （3）全国的に 12 歳質問票の回収率が低下しているため、早期提出キャンペーンを行い、提出意欲を高める。
（D）実施	（1） 【質問票送付について】 質問票にスタンプラリーカードを同封　（参考資料２） 【質問票送付後】（参考資料１：抽出年度別の参加者の学年質問票の回収状況推移） ① 質問票送付から４週間後　ショートメールを送信 ② 質問票送付から約６週間後　ショートメールを送信 ③ 質問票送付から約８週間後　ハガキを送付 ④ 質問票送付から約 11 週間後　2 年以内に提出のあった参加者へショートメールを送信 ⑤質問票送付から 13 週間後　2 年以内に提出のあった参加者へ質問票再送付（ポケットティッシュ同封） （２～３）【熊本大学 SUC の独自の取り組みについて】 ①質問票再送付 確実に開封してもらえるようポケットティッシュを同封。 ②スタンプラリー（参考資料３：S-6・12ｙ早期提出キャンペーン） 年度内に届く２冊の質問票を両方提出でスタンプラリー達成とする。達成されたプレゼントは、毎年アンケートを取り、実用的でもらって喜ばれるものをセレクトしている。予算は 500 円以内で調整。（参考資料２） ③質問票の返送依頼メール文は、スタンプラリーリーチの方は、送付文を工夫し参加者のモチベーションに働きかける。 ④2024 年度から 12 歳と小学 6 年質問票の回収率向上の取り組みとして、S-6　12ｙ早期提出キャンペーンを行い、発送後 14 稼

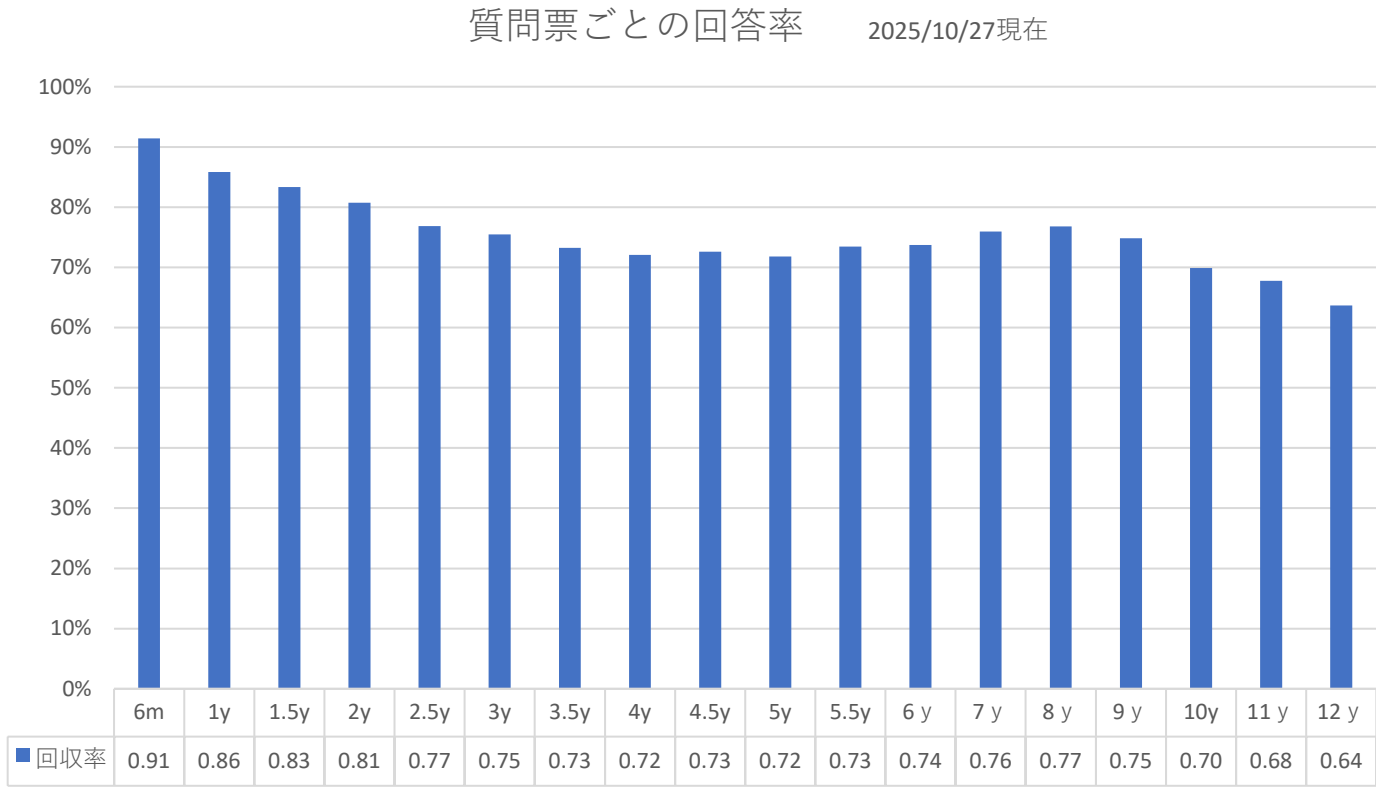
	働日以内にユニットセンター到着分にアメニティを送付する。 ⑤でこぽんハガキ（参考資料４） 質問票提出の際に、コメントのあった参加者にはでこぽんハガキでお返事を行う。 質問票提出者のうちに、前調査時期に未提出だった参加者にお例文を送付。 ⑤　学年質問票事前案内（参考資料５・6） 進学時の春休みに事前案内を行い、質問票では小学校での身体測定の記録や欠席日数の設問があることを周知し、オリジナルの「成長の記録表」を送付。5 年生には「スポーツテストの記録表」も同封する。 ⑦10 歳以降の子ども質問票を記載してくれた参加児には、参加児宛てに、お礼文とアメニティを送付し、コミュニケーションを図る。（参考資料７） ⑧13 歳以降の取り組みは、Web 質問票の回答率を高める工夫として、すべての質問票に回答してくれた保護者とお子さんにそれぞれアメニティを送付する。（事前に大判ハガキを送付し、参加者へ周知する。）（参考資料 8） ⑨学童期検査に参加された方が質問票を直接会場で記載されたのは 2 名であったが、前日にお声掛けを行うことで、5 名の方が会場に質問票を持参してくださった。
（C）評価	質問票の回答率は、前年度と比較して大きく変動はなく維持傾向。年齢質問票発送直後の回答率は、30～40%程度であるが、リマインドを 5 回行うことで、さらに 30%程度の回答率が上昇した。特に、リマインド④と⑤を追加で行うことで、リマインド数に対し 14～18%程度の回答があったため、リマインド③で終了せずに、根気強く④～⑤を行うことで一定数の効果は得られている。 熊本大学 SUC の独自の取り組みについては、スタンプラリーカードの活用及び 12ｙ早期キャンペーンを行うことで、各質問票の回答率が前年度比 2.9%上昇した。
（A）改善	質問票の回答率には、3 地域別で比較すると、地域差が出ている。今後は、地域別にリマインド方法を変えるなど、もう一工夫を行い、より回答率が向上できるように検討していく。 子どもアンケートを記載してくれた参加児に、アメニティ以外にも、生活や学習面に役立つ情報及びエコチルの取り組みなどをマンガなどで紹介したものを同封し、エコチル調査にもっと

	関心が高まるような取り組みを検討していく。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画	メディアを利用した広報を展開し、エコチル調査の認知度を高め、エコチルの成果還元にもつなげていく ①熊本県で視聴率が高い朝の情報番組の「ZIP」の地方枠でエコチル調査の成果について関心をもってもらえるような CM を流し、環境省 HP の成果発表に誘導する。 ②地元新聞にエコチル調査の広報を行い、県民含め参加者への認知度 UP を図る ③エコチル調査地域（人吉・球磨）が発行している地元誌「どうぎゃん」に、熊本大学から発表した論文の紹介を行う
（D）実施	①TVCM については、作成中であり、放映は 1 月以降の予定。 ②地元新聞に中綴じ両開き 2 面を使用し、エコチル調査について広報を行った。記事は文字数をできるだけ少なくし、エコチル調査の概要と研究成果について掲載を行った。また、記事のイラストは、8 歳の時に参加児にご当地キャラクターを募集した時のイラストを使用した。その結果、熊本日日新聞社の広報部門で奨励賞をいただいた。（参考資料 10） ③毎年、エコチル調査地域（人吉・球磨）が発行している地元誌「どうぎゃん」で広報を行っており、今回は「妊娠中のフェノール暴露と出生児の喘息発症の関連」及び「胎児期の水銀ばく露と子どもの精神神経発達およびけいれん発症の関連」について成果を掲載した。
（C）評価	今年度はメディアや新聞雑誌を中心に、広報を行い成果還元に繋げていった。新聞に関しては奨励賞をいただき、より多くの企業の方々にも、エコチル調査の存在を知っていただく機会となった。毎年、人吉・球磨地域の地域雑誌にエコチル調査の成果発表について掲載を継続しており、地域の方にエコチルの研究成果を還元してきた。学童期検査でも参加者から直接「『どうぎゃん』を読み、エコチル調査に参加し自分たちがお役に立てていることを誇らしく思った」などの感想を聞くことができた。
（A）改善	新聞広告については、奨励賞の授賞式に参加し、広報の在り方について学ぶことができた。広報戦略としては、視覚的に興味関心を引き、次にインパクトのあるキャッチフレーズ。そして、本文につなげていくことが重要であるために、次回の広報について

	は、文字数をもっと少なくし、興味関心を持った方がQRコードなどで検索したくなるようなインパクトのある内容を掲載することで、熊本大学のHPや環境省の成果発表検索に繋げていくことを目指していく。また、次年度は、直接参加児に還元できるような取り組みを行っていくことを検討している。

参考資料１　質問票回答状況



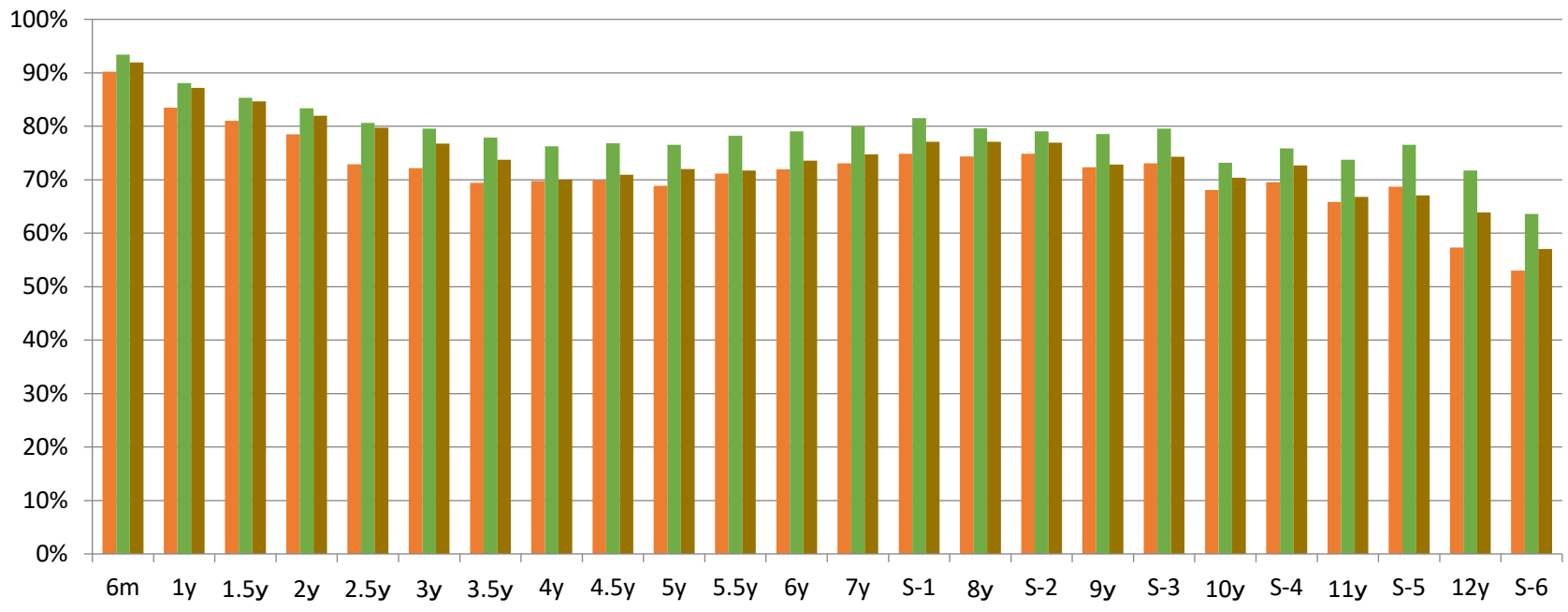
	6m	1y	1.5y	2y	2.5y	3y	3.5y	4y	4.5y	5y	5.5y	6 y	7 y	8 y	9 y	10y	11 y	12 y
■回収率	0.91	0.86	0.83	0.81	0.77	0.75	0.73	0.72	0.73	0.72	0.73	0.74	0.76	0.77	0.75	0.70	0.68	0.64

地域別回答率

※2025/8/4抽出分まで（送付後、3か月経過）

前回より**増＝赤字**／**減＝青字**

	人吉･球磨		天草		水俣･芦北	
		（前回）		（前回）		（前回）
6m	**90.2%**	(90.2%)	**93.4%**	(93.4%)	**91.9%**	(91.9%)
1y	**83.5%**	(83.5%)	**88.1%**	(88.1%)	**87.2%**	(87.2%)
1.5y	**81.0%**	(81.0%)	**85.3%**	(85.3%)	**84.6%**	(84.6%)
2y	**78.5%**	(78.5%)	**83.4%**	(83.4%)	**82.0%**	(82.0%)
2.5y	**72.9%**	(72.9%)	**80.6%**	(80.6%)	**79.7%**	(79.7%)
3y	**72.2%**	(72.2%)	**79.6%**	(79.6%)	**76.8%**	(76.8%)
3.5y	**69.4%**	(69.4%)	**77.9%**	(77.9%)	**73.7%**	(73.7%)
4y	**69.7%**	(69.7%)	**76.2%**	(76.2%)	**70.0%**	(70.0%)
4.5y	**69.9%**	(69.9%)	**76.8%**	(76.8%)	**70.9%**	(70.9%)
5y	**68.9%**	(68.9%)	**76.5%**	(76.5%)	**72.0%**	(72.0%)
5.5y	**71.1%**	(71.1%)	**78.2%**	(78.2%)	**71.7%**	(71.7%)
6y	**71.9%**	(71.9%)	**79.1%**	(79.1%)	**73.5%**	(73.5%)
7y	**73.1%**	(73.1%)	**79.9%**	(79.9%)	**74.7%**	(74.7%)
S-1	**74.8%**	(74.8%)	**81.5%**	(81.5%)	**77.1%**	(77.1%)
8y	**74.3%**	(74.3%)	**79.6%**	(79.6%)	**77.1%**	(77.1%)
S-2	**74.9%**	(74.9%)	**79.1%**	(79.1%)	**76.9%**	(76.9%)
9y	**72.3%**	(72.3%)	**78.5%**	(78.5%)	**72.8%**	(72.8%)
S-3	**73.1%**	(73.1%)	**79.5%**	(79.5%)	**74.3%**	(74.3%)
10y	**68.1%**	(68.1%)	**73.2%**	(73.2%)	**70.4%**	(70.4%)
S-4	**69.5%**	(69.5%)	**75.8%**	(75.8%)	**72.7%**	(72.7%)
11y	**65.8%**	(65.8%)	**73.8%**	(73.8%)	**66.8%**	(66.8%)
S-5	**68.7%**	(68.7%)	**76.5%**	(76.5%)	**67.1%**	(67.1%)
12y	**57.3%**	(57.3%)	**71.7%**	(71.7%)	**63.9%**	(63.9%)
S-6	**53.0%**	(53.0%)	**63.6%**	(63.6%)	**57.0%**	(57.0%)
全体	**73.0%**	(73.0%)	**79.5%**	(79.5%)	**75.4%**	(75.4%)



督促件数	－	70	48	38	13	5
回答数	67	23	13	8	3	
督促後回答率	45.6%	32.9%	27.1%	21.1%		16.7%

11歳　　郵送数　　972

	再依頼なし	再依頼①	再依頼②	再依頼③	再依頼④	再依頼⑤
	－	メール	メール	ハガキ	メール	再送付
督促件数	－	469	376	341	157	147
回答数	67	99	55	30	54	
督促後回答率	28.4%	21.1%	14.6%	8.8%		17.8%

12歳　　郵送数　　1004

	再依頼なし	再依頼①	再依頼②	再依頼③	再依頼④	再依頼⑤
	－	メール	メール	ハガキ	メール	再送付
督促件数	－	571	459	408	158	150
回答数	367	114	72	28	43	
督促後回答率	36.6%	20.0%	15.7%	6.9%		14.0%

各年度グループごとの学年質問票　Ｓ－５　Ｓ－６の回答状況比較

	S-5				S-6		
年度	2011年生	2012年生	2013年生	2014年生	2011年生	2012年生	2013年生
発送数	533	873	952	475	527	868	952
督促なし回収	288	424	319	166	200	308	379
回答率	54.2%	48.60%	33.5%	34.9%	38.0%	35.5%	39.8%
督促①	210	479	574	274	282	508	514
回答数	52	94	144	67	65	119	88
回答率	64.0%	59.30%	48.6%	49.1%	50.3%	49.2%	49.1%
督促②	157	383	424	208	277	391	418
回答数	17	92	39	32	42	29	51
回答率	67.2%	69.90%	52.7%	55.8%	58.3%	53%	54%
督促③	147	315	399	192	197	374	389
回答数	15	26	42	25	15	16	30
最終回答数	372	636	544	290	322	472	548
最終回答率	70.1%	72.9%	57.1%	61.1%	61.2%	54.38%	57.56%

※督促④と再送付⑤を送った場合の最終回答率

	④⑤	④⑤⑤大はがき再送あり	2025年度は④	④⑤⑤大はがき再送あり	2025年度は④まで分
督促④⑤	153	246	468	63	156	182	153
回答数	37	44	71	2	37	49	4
総回答数	409	680	615	292	359	521	552
最終回答率	76.7%	77.9%	64.6%	61.5%	69.4%	60.0%	58.0%

参考資料2　　スタンプラリーカード見本



2025年度　オリジナル白雪ふきん



参考資料3　S-6　12ｙ早期提出キャンペーン周知文書



参考資料4　でこぽんハガキ見本

- 質問票提出の際にコメントがあった参加者への返事
- 前調査時期に質問票を未提出だった参加者にお礼文など



参考資料5　成長の記録表



参考資料6　学年質問票提出キャンペーン案内チラシと2025年度プレゼント内容



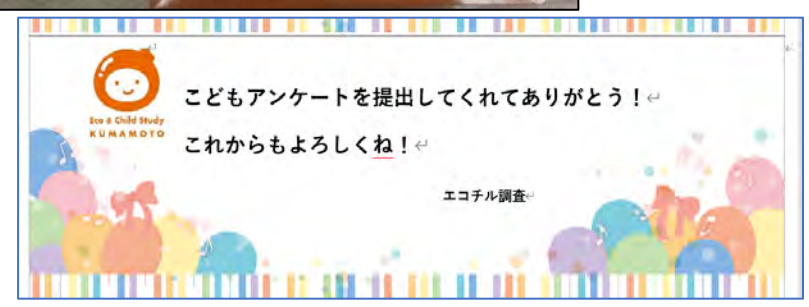




参考資料7　10歳以降の子どもアンケートプレゼント

10歳以降の子どもアンケートを提出のお子さんへ
えんぴつとオリジナル付箋セットを別途プレゼント





参考資料8　WEB質問票全回答者アメニティ







参考資料9　13歳以降調査に関するお知らせ



参考資料 10　新聞広告

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　宮崎大学サブユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　20　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画 （D）実施	【モチベーション維持の取組】 ① サブユニットセンターオリジナル「成長記録カード」の配布 調査に長い期間協力してよかったと感じてもらい、その後の継続につなげることを目的として、サブユニットセンターオリジナルの「成長記録カード」を作成し、小学 6 年質問票に同封して送付した。ハガキサイズの成長記録カードには、これまで提出された質問票から身長・体重の記録（3 つの時期）と 5 歳質問票のお子さんの手書きの名前を掲載した。成長記録カードは質問票に同封するため、見落とすことがないように説明文書をイラスト入りの内容に変更し、参加者の目に留まりやすくした。 ② フォローアップイベントの企画･開催 参加者に調査への意欲や関心を維持・向上してもらうためフォローアップイベントを開催している。アンケートで「子どもが成長し保護者と一緒に出掛けたがらなくなった」との意見を複数いただいたため、保護者向けのイベント「コーヒースクール」を企画・開催した（R7 年 7 月 12 日）。その他イベントについても企画・準備中である。 ③ 協力医療機関(小児科)での声掛け ワクチン接種時に協力医療機関を訪れた参加者に対して、医療機関よりエコチル調査の協力の感謝とねぎらいの言葉を掛けていただくとともに調査の重要性を伝えてもらうことで、調査の重要性を再認識してもらいモチベーションの維持向上を促すことを目的として実施している。 ④ 取りやめ希望者の引き止め 取りやめ希望があった際には休止を勧めるようにしている。また、13 歳以降調査の説明書を送付した小学 6 年生からの取りやめ希望が多いため、その場合は「あと少しなので現行調査までは続けてみないか」との提案と今後はニュースレターやイベント案内の送付や 16 歳の本人への意思確認についての説明を行うようにしている。 【13 歳以降の継続のための取組】

	① 継続率の向上 **・勧奨時期の変更** アカウントが手元になくても自ら事務局へ連絡してこないことが多かったため、手元にアカウントがある可能性が高い時期（初回アカウント送付後 2 か月以内）に最初の勧奨を行うことにした。これまでは通常サイズのハガキで勧奨を行っていたが、参加者の目に留まりやすいように大判（A4 サイズ）ハガキに変更して送付した。A4 サイズのため継続の手続方法を画面キャプチャ付きで紹介するスペースを設けることができ、ハガキを見ながら手続きできるようにした。 **・過年度対象者（2011～2012 年度生）への勧奨** 過年度の対象者には、入学祝いや進級祝いとして記念品を送付する際に同意手続を案内する文書を同封して送付し、同意手続きはまだ可能であることを強調した。 **・対面調査やイベント時の声掛けと事前案内** 対面調査の実施前に送付する予約票に 13 歳以降調査の同意手続きをお願いする文書を同封することにした。また、対面調査時やイベント時に声掛けを実施し、さらに操作が苦手な参加者には手続きの補助を行っている。 ② 参加者の問い合わせの対応の向上 **・サブユニットセンター内のマニュアルを作成** 13 歳以降調査に関する対面調査の声掛け用のマニュアルや、参加者からの問い合わせに対応するための電話応対シートを作成し、特定のスタッフだけでなく、複数のスタッフが声掛けや問い合わせに対応できるようにした。また、ポイント交換については「選べる e-gift の使い方」サイトよりサービス毎に手順をまとめたファイルを作成し、電話応対時の補助資料として活用している。
（C）評価	【モチベーション維持の取組】 取りやめの件数は昨年度 8 件（4～9 月）だったが、今年度 6 件（4～9 月）と減少している。アプリでの参加が面倒だと感じ、取りやめを希望している参加者もおり、紙の質問票の現行調査まで続けることを提案すると取りやめを思いとどまる参加者も複数いた。これらの取組は、取りやめを防ぐ効果があったと思われる。 また、保護者向けイベントでは、これまでの子ども同席のイベントとは異なり、保護者同士での会話が多くあり、連絡先の交換をするなど保護者同士の交流の場が提供できていた。実施時のアンケートに「これまで参加したイベントで一番良かった」との感想もあった。保護者向けイベントは参加された方に満足度の高いものとなっており、エコチル調査に対する印

	象も向上したと考えられる。 取組の効果を個別に評価することは難しいが、宮崎大サブユニットセンターの 13 歳以降調査の積極的継続の割合は平均を上回っている。また、質問票の回収率も高い水準を維持しているため、これらの取組が参加者の調査に対するモチベーション維持・向上の一助となっていると考えられる。 【13 歳以降の継続のための取組】 今年度の 13 歳以降の積極的継続率は 50.2%（9 月末時点）で、昨年度同時期の積極的継続率 43.8%より高くなっており、これは取組の成果と評価できる。また、過年度の対象者も今年度に入って 10 名（9 月末時点）が継続の手続きを行っている。この 10 名は過去に何度も継続の勧奨を行っている参加者であり、数名でも継続の手続きをされたことは評価したい。 サブユニットセンター内のマニュアルや電話応対シートを作成したことで、問い合わせに対してスムーズに対応ができている。
（A）改善	モチベーション維持の取組について、現状を維持しながら実施していきたい。 13 歳以降調査の継続手続きは、スマホ操作などが苦手な方に対して電話口だけでの対応では不十分である。現在は、電話では解決せずに参加者から希望があった場合に調査地区内にある事務所へ来ていただき、操作説明をしながら対応する形をとっているが、今後は全体に案内して対応できるような体制を構築することを目指したい。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	① 長期未提出者の提出の促し **・長期未提出者へ送るハガキの文言とサイズの変更** これまでの参加者とのやり取りから、長期未提出者は「ずっと質問票を提出していないので、今さら提出しても意味がない」と思っている傾向がみられた。長期未提出者には、質問票の発送の前週に質問票の発送をお知らせするハガキを送付しているが、 「Q.ずっと提出していなし…今更提出しても無駄でしょうか？」 「A.そんなことはございません！今回お届けする質問票からでも構いません。提出していただけると大変助かります。」 という Q&A 形式の文言を入れ、今までの提出の有無は気にせず新しく届いた質問票を提出してほしいというメッセージを発信している。また、参加者の目に留まるように大判ハガキ（A4 サイズ）に変更した。 **・ショートメールの内容の変更**

	ショートメールについては一斉送信で機械的に送っている内容と思われないようにメッセージ内容を変更した。具体的には、担当者の名前を入れて季節のことなど勧奨以外の文章を入れて個人的に送っているようなメッセージになるように心掛けた。 **・対面調査時やイベントの声掛けや事前案内** 未提出の質問票がある参加者には事前の体調確認のショートメールに「記入済みの質問票をお持ちでしたら当日受け取りますのでお持ちください」という文言を追加して送信している。また、対面調査時やイベント時に声掛けを実施している。 ② Web 質問票の回答率の向上 **・Web 質問票配信のお知らせハガキの送付** アプリの自動リマインドの配信スケジュールを考慮し配信が少ない時期（7 月）に 4 月～6 月の Web 質問票が配信されていることを案内するハガキを 13 歳以降調査継続者全員へ送付した。 **・未ログイン者（子ども）へのアカウント送付** Web 質問票の回収率を向上するためには、未ログイン者がアプリにログインすることも重要と考えた。そこで、アプリに未ログインの子どもに対して子どもアカウントを送付した。また、ログインした子どもにはプレゼント（キャンパス復習しやすいファイル）を用意し、ログインするとプレゼントがもらえることのお知らせもアカウントに同封して送付した。アカウントを再送後 1 か月程度経過してもログインがない子どもにはハガキにてログインのお願いを送付している。
（C）評価	① 長期未提出者の提出の促し ハガキのメッセージを変更したあと、これまで長期間未提出だった参加者から最新の質問票の提出があった（15 名※9 月末時点）。なお、この質問票の提出までに他のリマインドを実施していないため、質問票発送をお知らせするハガキの文言変更と大判ハガキサイズへの変更の影響が大きいと考えられる。 また、対面調査やイベントに長期未提出者が参加された際に受付で記入済みの質問票を提出される方や調査の待ち時間で記入できるものを書いて、書ききれないものは自宅で記入して送付してくださる参加者もいるため、顔を合わせてのお願いの効果は大きいと感じている。 質問票の回収率は全国平均を上回り高い水準を維持しているため、それぞれの取組が一定の効果があると評価できる。 ② Web 質問票の回答率の向上 Web 質問票配信のお知らせハガキを送付する前後の回答件数を比較した

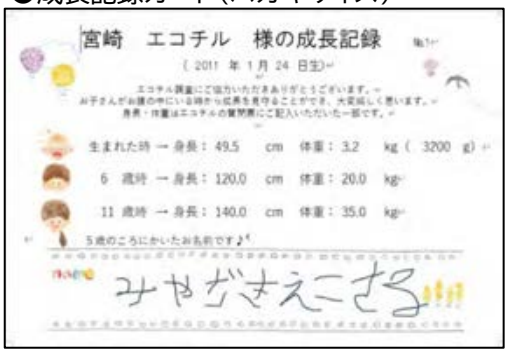
	ところ、ハガキ送付前 1 週間の回答数が 59 件だったが、ハガキ送付後 1 週間の回答数は 111 件となっていた。ハガキでの案内は一定の効果がみられた。 子どもアカウントの送付は、これまで複数回に渡ってログイン勧奨をしている過年度の参加者でも効果がみられた（ログイン数は、2011 年度生で 4 名増加、2012 年度生で 26 名増加)。 また、2013 年生まれの子どもログイン率は 77.0%（9 月末時点）で、昨年度の同時期の 38.9%と比べると大幅に向上している。 アプリにログインをした子どもは、そのままアプリ上にある Web 質問票に回答する傾向が見られたため、この取組は Web 質問票の回答率の向上に効果があったと考えられる。
（A）改善	現在の取組で質問票回収率および Web 質問票の回答率は全国平均以上の水準を維持できているため、今後もこれまでと同様の取組を実施していきたい。その中で、他のユニットセンターの成功例があれば取り入れながら回収率・回答率の向上を目指していきたい。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	① エコチル調査の認知度向上 **・調査地区市民への広報の取組** 子どもでも読みやすい漫画形式で調査の紹介をするチラシを作成し、調査地区の小・中学校を通じて全児童に配布した。あわせて市内全域の自治会回覧も実施した。 また、チラシの配布と同時期にエコチル調査の CM を放映し、県内全域で広く広報を行った。テレビ CM は、子どもがテレビを目にしやすい夏休み時期を中心に放映することを計画した。 さらに大学広報と連携し、ホームページバナーへのエコチル調査のホームページのリンクを掲載したり、大学の YouTube チャンネルへの CM 動画の掲載を行ったりした。 **・調査地区の教育分野との連携強化** 調査地区の小・中学校校長会でのエコチル調査の説明と協力のお願いを行った。 ② 新規論文の投稿促進 アクションパスポート申請のサポートを実施し、新規論文執筆を促している。
（C）評価	テレビ CM についてのアンケートを実施したところ、「すごい取り組みだと思うので、色んな人に知ってもらうことは大事だと思います。」や、「エ

	コチルの質問票で身体測定を記入するのに担任の先生に聞くのですが、エコチルに関して知らない先生がいてその説明からしていました。今回の CM を見て理解してくれる人が増えたらいいなと思います。」という感想をいただいた。一般市民や参加者もエコチル調査のことをもっと広く周知して欲しいと感じているようだった。 今年度の新規論文投稿予定は 2 件あり、研究解析者も増えている。アクションパスポート申請時の手続きについてマニュアルを作成し研究解析者に配布して申請の手助けを行った。
（A）改善	エコチル調査の認知度に関しては、引き続き参加者以外の方にも広く知れ渡るように取り組みを検討して実施していきたい。

宮崎大サブユニットセンター別添１

●成長記録カード（ハガキサイズ）



●成長記録カード説明文書（A4 両面）





●保護者向けイベント招待状



●イベント当日の様子







●13 歳以降調査　同意勧奨ハガキ（A4 両面）





宮崎大サブユニットセンター別添 2

●過年度対象者（2011～2012 年度生）への勧奨と記念品








●対面調査の事前送付資料に同封する 13 歳以降調査の手続きお願い文書（A4 両面）





●子どもアカウント送付時同封文書





●子どもログインお願い（ハガキ）



宮崎大サブユニットセンター別添 3

●質問票発送をお知らせするハガキ



（通信面）



（宛名面）

●漫画形式で調査の紹介をするチラシ





●テレビ CM（宮崎大学 YouTube チャンネルにも掲載済み）





エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況
（令和７年４月～令和７年９月末時点）

調査実施機関名：　琉球大学サブユニットセンター

評価時点	令和　7　年　10　月　28　日

ア．参加者の調査参加へのモチベーション維持の取組	
（P）計画 （D）実施	**【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付１）** **１．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時のアプローチ** ①学童期検査予約者に対し発送する尿検査キットに、参加者ポータルアプリ事前インストールを促す案内文書を同封した。 ②対面調査時に直近の各種調査協力状況、13 歳以降調査に関する回答を同胞参加児分も含めてリストアップした。検査中待機している代諾者へ声かけし、13 歳以降調査継続への回答依頼を行った。13 歳以降調査を「継続する」と回答した場合は、参加児の検査が終了した際にコアセンター作成のパンフレットを用いながら中学生以降の調査方法やアプリ使用方法について説明した。 ③検査会場での 13 歳以降調査継続勧奨については、極力検査会場で参加児のログインやプレ質問票回答まで完了するように説明するが、会場内で継続同意した方はプレ質問票の配信が翌日となる。そのような方や「自宅で検討したい」という方にはそれぞれ今後の手順を記載した用紙を手渡し、自宅でも参加者自身で手続きをできるようにした。 ④ 対面調査の検査説明を行う際、エコチル調査だより 19 号のマンガを用いて、エコチル調査の意義や成果が役立てられていることを特に参加児へ向けて説明し、調査協力への感謝の意を示した。 **２．子ども向け冊子配布** 令和 4 年度にマンガでエコチル調査の意義などを説明した子ども向け冊子を全参加者へ配布し、対面調査時にアンケートを実施した。アンケートにて参加児が未読であるとの回答を複数認めたため、検査終了時に謝礼とともにお渡しした。 **３．13 歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付** 参加者ポータルアカウントの発送時に簡易書留で送っており、未受け取りの方へは 3 回まで再送を行っている。それでも毎年未受け取り者がいるため、2013 年度生まれの対象者へアカウントを発送する 1 週間前に大判ハガキを送付し、「簡易書留で参加者ポータルアカウントを

	もうすぐ発送する」旨を事前に連絡した。
（C）評価	**【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付１）** **１．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時のアプローチ** ①②2013 年度生まれ対象者の 13 歳以降調査継続意思回答率、プレ質問票回答率を対面調査予約状況と合わせて集計した。継続同意者かつ対面調査予約のあった方のうち、検査キットに同封した案内文書が到着する頃から検査前日までの同意率は 15.1 %であった。案内文書が届く前の同意率は 17.4%であったが、その中には検査キット発送後に予約が変更になった方も複数名含まれているため、案内文書を見て同意をした方は比較的多いと考えられる。なお、検査予約者のうち検査当日の同意率が 64.0%と一番多く、対面での勧奨が効果的と考えられた。 ③上記のとおり検査当日に半数以上が継続同意しているためか、検査後の同意率は 3.5%と低い。検査当日に同意した参加者のうち、プレ質問票が親子共に回答済みの方は 43.6%であり、そのうち 62.5%が検査後 1 週間以内にプレ質問票を完了していた。検査会場でお渡しした用紙に一定数の効果があったものと考えられる。 ④特に集計はしていないが、スタッフミーティングにおいて「参加児および付き添い者の多くが関心を示していた様子であった」と意見が出た。直接参加児へ語り掛けることが、今後の調査協力へのモチベーション維持につながると考えられる。 **１．子ども向け冊子配布** 昨年度の集計結果より、79.5 %の参加者は参加児自身が冊子を読んでいないことが分かった。今後、アンケート等で評価を行う。 **２．13 歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付** 令和 7 年度中に参加者ポータルを初回発送したうち、再送を要した割合は 19.9%であり、3 回再送後も未受け取りの割合は 3.7%であった。アカウント発送前の大判ハガキ送付を行っていなかった昨年度の再送 18.4%、未受け取り 3.2%と比較すると若干受け取り率が低下しているように思われる。しかし、大判ハガキは目につきやすく情報掲載量も多い上、参加者にとっては急に簡易書留が届くよりも事前にお知らせする方が良いと思われる。
（A）改善	**【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付１）** **１．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時のアプローチ** 引き続き取り組みを継続する。 **１．子ども向け冊子配布** 引き続き対面調査実施時に配布し、参加児の調査への理解を深める。今後、アンケートなどで評価を行う。

	２．13 歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付 引き続き取り組みを継続する。

イ．質問票回収率の維持・向上の取組	
（P）計画 （D）実施	**<u>【質問票回収率を維持・向上させるための取組】（添付 2）</u>** **１．質問票返送期限の目安を貼付** 質問票を封筒のまま溜め込んでしまい、いつ届いた質問票が分からなくなっている参加者が一定数いる。そのため、質問票の発送および再送時の封筒に返送期限の目安を貼付する取組を行っている。 **２．質問票返送依頼方法** **３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入** 質問票発送から一定期間ごとに下記のとおり返送依頼を行っている。 ① 質問票発送から 3 週間後にショートメール ② ①の 3 週間後にハガキ送付 ③ ②の 3 週間後にショートメール ④ ③の 3 週間後に質問票の再送（独自の返送依頼文書つき） ④ ④の 3 週間後にショートメール また、質問票の再送を行う際に独自の返送依頼文書を封入している。再送によるリマインド効果に加え、謝礼を明示することでモチベーションを維持できるよう工夫している。 **４．ポータル相談会の実施** 13 歳 WEB 質問票の回答率が全国と比較し著しく低く、中には参加児が未ログインのままの方もいる。また、WEB 質問票回答済みの方でもポイントが未使用のまま期限を迎える例もある。そのため、WEB 質問票配信対象者全員に対し、ポータル相談会の案内を大判ハガキで送付した。ポータル相談会は小学 6 年生の代諾者も対象で別途ご案内しているが、実際にスタッフが一緒に画面を見ながら操作方法の困りごとを解決するために開催した。
（C）評価	**<u>【質問票回収率を維持・向上させるための取組】</u>** **１．質問票返送期限の目安を貼付** **２．質問票返送依頼方法** **３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入** 返送期限が令和 6 年 10 月 1 日以降、令和 7 年 9 月 30 日以前の参加者について、返送率を以下のように集計した（学年質問票は令和 6 年度発送分のみ）。 ●表 1. 10 歳～12 歳および小学 4 年～6 年質問票返送率 ※（）内は前年度からの返送率増減

全体返送率（返送数/抽出数）	うち返送期限内	うち返送期限外
55.3 %（-7.2 %）	17.2 %（-3.9 %）	38.1 %（-3.3 %）

●表 2. 返送依頼方法に対する返送率（返送数/返送依頼数）

返送依頼方法		返送率
①	質問票発送から 3 週間後にショートメール	18.8 %（-3.5 %）
②	①の 3 週間後にハガキ送付	7.1 %（-0.3 %）
③	②の 3 週間後にショートメール	3.9 %（-0.2 %）
④	③の 3 週間後に質問票の再送（独自の返送依頼文書つき）	6.5 %（+1.7 %）
⑤	④の 3 週間後にショートメール	5.6 %（+0.4 %）

令和 7 年度は令和 6 年度の集計と比較し全体の返送率は 7.2 %低下した。令和 6 年度には返送期限内の返送率がやや増加していたが、令和 7 年度はいずれも低下した。返送依頼方法に対する返送率に関しては①～③までは返送率が低下しているが、④～⑤はやや増加している。実務担当者 Web 会議で提示されている累積の返送率は 12 歳質問票ならびに小学 6 年質問票で改善傾向にあることと乖離がある。要因としては、近年住所不明で打ち切りとなる事例が増えているためと考えられる。そこで、令和 4 年度～令和 6 年度の協力中止ならびに打ち切りの件数と質問票返送率を調べた。打ち切りと協力中止全体の件数のうち、打ち切りの割合が令和 6 年度では 44. 4 %であったが、令和 4 年度では 76.9 %、令和 5 年度では 83.3 %と多くなっていた。返送率はいずれの年度も打ち切りとなった参加者では 37.0～38.0 %であったのに対し、協力中止となった参加者では令和 4 年度で 74.2 %、令和 6 年度で 82.6 %と高くなっている。返送率の低い参加者が打ち切りとなり、結果的に返送率の高い参加者が残ったものと考えられる。

4．ポータル相談会の実施

令和 6 年度はポータル相談会を開催し 3 名の参加者が来場し、主にログイン操作に関する相談を受けた。電話やショートメールなどで説明してもログインができなかったが、子どもアカウントが代諾者とは別であることを参加者が理解していなかった等初歩的な問題がほとんどであった。来場件数自体は少なかったものの、相談会のお知らせを

	送付した後に「アカウントがわからない」などの問い合わせも多く寄せられ、参加者ポータル操作のつまづきを解消することで Web 質問票の回答率向上に一定の効果があったものと考える。しかし、令和 7 年度は詳細調査や学童期検査で 13 歳以降調査勧奨にかける時間を多く確保し操作方法を丁寧に説明している分、ポータル相談会への参加希望自体は 0 件であった。
（A）改善	紙媒体の質問票が残り一学年分となるため、大きな変更は行わないが対面調査における声かけの強化や、返送依頼のメールを追加するなど検討する。 Web 質問票に関しては未だに子のログインが完了していない参加者もいるため、定期的なログインを促すような勧奨を検討している。勧奨応報としては、参加者ポータルの自動配信に加え大判はがきや型抜きハガキで、参加者の目につきやすいよう工夫する。

ウ．成果の社会還元の取組	
（P）計画 （D）実施	**<u>【成果の社会還元の取組】</u>** **１．参加者向け広報誌における全国での成果紹介** 参加者向け広報誌において、全国で発表された論文のうち１つをピックアップして紹介している。令和 8 年 1 月発行予定の広報誌においても紹介予定である。紹介するにあたり、発表したユニットセンターの広報物なども確認し、論文執筆者の意図を大きくずれた表現をしていないか、一般の方特に参加児が読んで理解しやすいかどうか、という観点で記事を作成しスタッフ間で確認している。 **２．対面調査実施時に成果紹介パンフレットを配布** 環境省がまとめた成果紹介パンフレットを対面調査実施時の謝礼時に直接お渡しし、調査参加により様々な成果につながっていることを改めて説明した。
（C）評価	**<u>【成果の社会還元の取組】</u>** **１．参加者向け広報誌における全国での成果紹介** **２．対面調査実施時に成果紹介パンフレットを配布** 集計はしていないが、対面調査時に成果を紹介することで参加児および付き添い者の多くが関心を示していた様子であった。
（A）改善	**<u>【成果の社会還元の取組】</u>** **１．参加者向け広報誌における全国での成果紹介** **２．対面調査実施時に成果紹介パンフレットを配布** 今後、アンケート等で子ども向け冊子の感想を聴く機会を設ける。

【参加者等のモチベーション維持のための取組】（添付1）

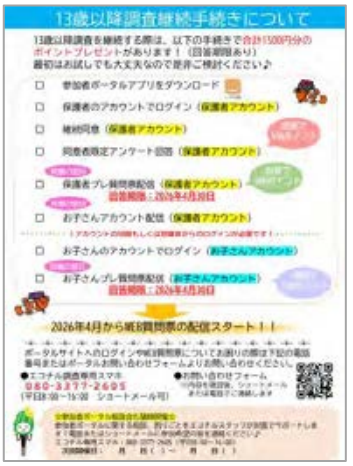
1．詳細調査および学童期検査（以下、対面調査）時のアプローチ



①検査キットに同封した案内文書



③検査会場で継続同意した方向け



③検査会場では継続同意せず自宅で検討する方向け

2．子ども向け冊子配布



3．13歳以降調査継続に向けての大判ハガキ送付



宛名面

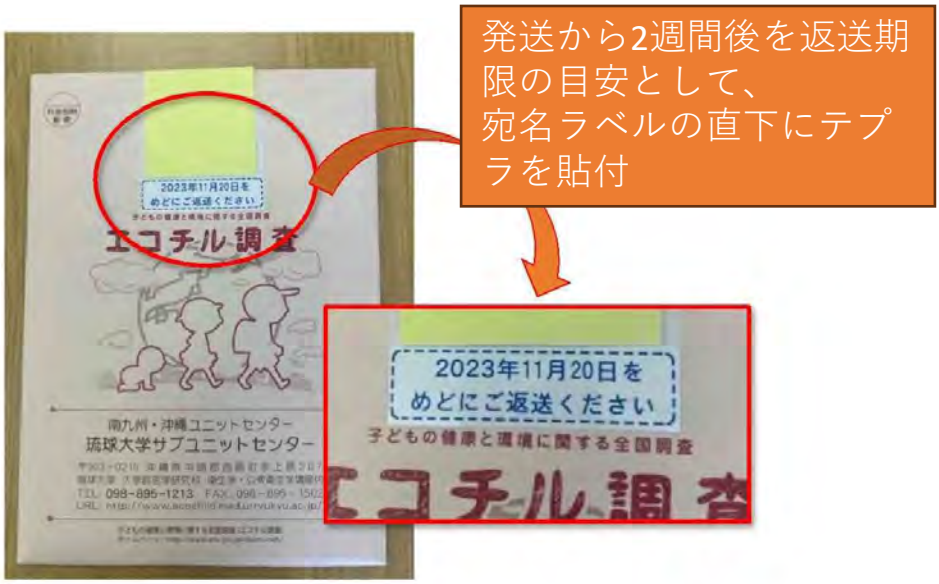


裏面

参加者ポータルアカウント
発送前のお知らせ大判ハガキ

＜掲載内容＞
- 参加者ポータルアカウントがもうすぐ届くので受け取りお願い
- 調査継続のお願い
- 参加者ポータルの操作手順やアカウントが分からない場合の連絡先

１．質問票返送期限の目安を貼付



再送時も同様にテプラ貼付を行う。

２．質問票返送依頼方法
３．質問票再送および独自の返送依頼文書封入



②ハガキの例





③質問票再送時の返送依頼文書の例

参考資料５

子どもの健康と環境に関する全国調査
（エコチル調査）
基本計画

平成 22 年 3 月 30 日策定

令和 5 年 3 月 30 日改定

環　　境　　省

はじめに

「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」は、平成 22（2010）年度に開始された、全国約 10 万組の親子を対象とした大規模疫学調査である。

エコチル調査は、総合科学技術会議における、環境省として初めてのライフサイエンス分野におけるプロジェクトとして、平成 22（2010）年度概算要求に関する科学技術施策の優先度判定においてＳ評価を得て、平成 22（2010）年度に基本計画に基づき 10 万人の子どもを対象とする大規模疫学調査を実施するために必要な予算が確保され、調査を開始することとなった。

エコチル調査は、環境省の企画・立案に基づき、コアセンターを国立研究開発法人国立環境研究所に設置し、調査の総括的な管理・運営を行い、メディカルサポートセンターを国立研究開発法人国立成育医療研究センターに設置し、医学に関する専門的知見をもってこれを支援し、公募により決定された全国 15 か所の大学・研究機関に設置されたユニットセンターが各地区での参加者のリクルート及びフォローアップを実施するという体制で開始された。

本基本計画においては、エコチル調査の参加者（子ども）が 40 歳程度になるまで調査を継続するに当たり、参加者（子ども）が 18 歳に達するまでの調査体制及び基本方針を取りまとめるものとする。また、参加者（子ども）の先頭集団が 17 歳に達する令和 10（2028）年度を目途に見直しを行うことを予定する。

なお、本基本計画に基づき、研究実施機関が研究計画書及び実施マニュアルを別に作成する。

環境省大臣官房環境保健部

目次

１．背景 1
２．基本計画の改定体制 3
３．本調査の名称 3
４．調査の目的 3
５．調査で解明すべき課題 4
６．調査の対象とする環境要因と健康影響の指標について 4
　６－１　調査の対象とする環境要因 4
　６－２　観察すべき主な健康影響の指標（アウトカム・エンドポイント） .. 7
７．パイロット調査について 8
８．調査実施体制について 8
　８－１　環境省 10
　８－２　コアセンター 10
　８－３　メディカルサポートセンター 11
　８－４　ユニットセンター 11
　８－５　協力医療機関 18
　８－６　地方公共団体 18
　８－７　調査の外部委託 18
　８－８　パイロット調査実施機関 19
９．調査実施手順について 19
　９－１　実施概要 19
　９－２　調査参加者 20
　９－３　調査項目の概要及びスケジュール 21
　９－４　質問票調査 22
　９－５　試料の採取、輸送、分析、保管 22
　９－６　健康医療情報との連結 23
　９－７　フォローアップ 23
　９－８　調査の質の保証・全国規格 24
１０．データマネジメントについて 25
１１．生体試料の長期保存について 26
１２．リスク管理について 28
１３．参加者の保護とコミュニケーションについて 29
１４．倫理安全面への配慮とインフォームド・コンセントについて 31
１５．調査から得られたデータ・生体試料の利用、解析、共有について 33
１６．成果の社会還元・情報発信について 33
１７．ヒューマンバイオモニタリングの実施について 34

１８．国際連携について 34
１９．調査費用について 35
２０．本調査の契約について 35
２１．基本計画の見直しについて 35
参考資料：検討体制 36
用語の定義（Glossary） 39

１．背景

平成 9（1997）年に米国のマイアミで開催された先進 8 か国の環境大臣会合において、世界中の子どもたちが環境中の有害物質の脅威に直面していることが認識され、小児の環境保健をめぐる問題に対して優先的に取り組む必要があることが宣言され、同時期に、デンマーク、ノルウェー、米国で 10 万人規模の子どもを対象とする大規模な疫学調査が開始された[1]。平成 14（2002）年の持続可能な開発に関する世界サミット（WSSD : World Summit on Sustainable Development）では、「化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用、生産されることを 2020 年までに達成することを目指す」とされ、2006 年には WSSD における合意の実現のための方策として、科学的なリスク評価に基づくリスク削減、情報の収集と提供、能力構築と技術協力等を進めることを定めた国際的な合意文書である「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ（SAICM：Strategic Approach on International Chemical Management）」が採択された。さらに、平成 21（2009）年にイタリアのシラクサで開催された環境大臣会合「子どもの健康と環境」において、大規模な疫学調査を各国が協力して実施することが合意された。

国内では、平成 18（2006）年の「小児の環境保健に関する懇談会報告書」において、子どもの脆弱性、環境保健に関する課題に対して推進すべき施策の方向性について提言が取りまとめられた。その中で、環境要因（化学物質のばく露、生活環境等）が子どもの成長・発達に与える影響を明らかにするために、実験を中心としたメカニズムの解明を図るとともに、「小児を取り巻く環境と健康との関連性に関する疫学調査」も併せて推進することの必要性が言及された。

環境リスクがヒトの健康に与える影響を明らかにするために、従来から動物実験、基礎研究を中心としたメカニズムの解明が図られてきた。一方で動物とヒトでは、形態学的、生理学的な種差があることから、動物実験の結果をそのままヒトに当てはめることは難しく、実際のヒトの集団でどのような影響があるのかを観察する疫学的なアプローチが重要である。

そこで、平成 20（2008）年に、環境中の化学物質の影響を検出することができる大規模な新規出生コホート調査の立ち上げが提言され（「小児環境保健疫学調査に関する検討会報告書」）、平成 22（2010）年に「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）基本計画」が策定された。この基本計画に基づき、化学物質をはじめとする環境要因が子どもの健康に与え

[1] 米国での調査（National Children’s Study）はその後中止となった。

る影響を解明するための大規模疫学調査としてエコチル調査が開始され、平成 23（2011）年１月から平成 26（2014）年３月末までにリクルートされた約 10 万人の妊婦、約５万人の父親と約 10 万人の生まれた子どもが参加し、参加者（子ども）が 13 歳に達するまでの計画として追跡調査を行っている。

一方で、基本計画策定当初（平成 22（2010）年）、13 歳以降も追跡を行うことで環境因子が人の生涯の健康に及ぼす影響について調査することが理想であり、13 歳以降の継続については、その時点の研究成果・社会的要請・フォローアップ率などを勘案して判断されることが適当とされた。これについて、令和 6（2024）年には参加者（子ども）が 13 歳に達することを踏まえて、令和 3（2021）年に設置された「健康と環境に関する疫学調査検討会」において、これまでのエコチル調査の成果等について総括を行い、令和 4（2022）年 3 月には、13 歳以降も 40 歳程度まで調査を継続する方針が取りまとめられた。これを受け、令和 4（2022）年度の「エコチル調査企画評価委員会」において、基本計画の改定に向けた検討を行った。

こうした検討の結果、環境が次世代を含む人の健康に及ぼす影響を調査するため、調査参加者について長期間（40 歳程度まで）の追跡調査を行うことを見据え、まずは参加者（子ども）が 18 歳に達するまでの基本となる計画を追加するため基本計画を改定することとした。



＜図１　エコチル調査の経緯＞

２．基本計画の策定及び改定体制

平成 22（2010）年の基本計画の策定に当たっては、「エコチル調査に関する検討会」及び複数のワーキンググループにおいて検討を行った。

令和 4（2022）年度の改定に当たっては、「健康と環境に関する疫学調査検討会」の報告書（令和 4（2022）年 3 月）に基づき、令和 4（2022）年 7 月から「エコチル調査企画評価委員会」において検討を行った。

３．本調査の名称

本調査の名称は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」（Japan Environment and Children's Study）とする。また、本調査の略称としては「エコチル調査（JECS）」を用いる。

４．調査の目的

エコチル調査は、胎児期から小児期にかけての環境要因がその後の健康に与える影響を明らかにするための調査として実施されている。特に、化学物質のばく露や生活環境が、胎児期から小児期にわたる子どもの健康にどのような影響を与えているのかについて明らかにし、リスク管理当局や事業者への情報提供を通じて、自主的取組への反映、化学物質規制の審査基準への反映、環境基準への反映等、適切なリスク管理体制の構築につなげることを目的として開始された。なお、先天異常など環境中の化学物質の影響が指摘されている発生率が極めて低い事象については、最低でも 10 万人の調査対象が必要であること、また、比較的発生率が高い事象についても、低濃度でも影響を及ぼす化学物質の関与を十分に検出する目的から、10 万人規模のデータを集積することとなった。

参加者（子ども）が 13 歳に達して以降も追跡を継続し、上記に加えて、ライフコースアプローチという観点から、化学物質のばく露や生活環境と思春期以降に発症する疾病等との関連を確認することを目的とする。

５．調査で解明すべき課題

エコチル調査では、「胎児期から小児期にかけての化学物質ばく露をはじめとする環境因子が、妊娠・生殖、先天異常、精神神経発達、免疫・アレルギー、代謝・内分泌系等に影響を与えているのではないか」を中心仮説と置き、調査を実施している。さらに、13 歳以降の調査を継続することから、本調査で解明すべき課題として、胎児期の化学物質ばく露等と思春期以降に年齢依存性に発症する疾病等の長期の健康影響との関連を検討していくことになる。具体的な研究仮説については、研究計画書で設定する。

併せて、この中心仮説に基づく種々の仮説を明らかにするために、化学物質のばく露以外の要因である交絡因子についても検討を行う必要があることから、遺伝要因、社会要因、生活習慣要因等を考慮に入れることとしている。

なお、小児がんについては症例数の確保が難しいため、本調査としては仮説を設定しないが、国際的な枠組み（The International Childhood Cancer Cohort Consortium：I4C 等）の参加により、研究を推進する。

６．調査の対象とする環境要因と健康影響の指標について

６－１　調査の対象とする環境要因

本調査において検討すべき主な要因は、環境に由来する化学物質のばく露及びその他の要因（交絡因子）であり、以下の点（表 1）に考慮し、分析候補物質を選定した（表 2）。ただし、実際に測定を実施する物質については、調査の実施に併せて検討を行うこととした。

表 1.　分析候補物質の選定に際して考慮された点

- 体内に蓄積されやすい物質（例えば残留性有機汚染物質（POPs）など）
- 胎盤を通過しやすい物質（例えばメチル水銀など）
- 子どものばく露の機会が増えている物質（例えばシックハウス症候群に関連した様々な揮発性有機物質（VOC）など）
- 国民が不安や心配に感じている物質（例えば農薬類など）
- 中心仮説の検証に役立つ物質

試料の採取・保管に当たってはこれらの物質が適切に分析し得る方法を実施マニュアルに定め、生体試料の化学分析においては、最新の研究状況、分析法の整備状況等を考慮した上で優先順位づけを行う。分析については、方法や必要な試料の種類や量、分析経費、試料の保存性等を勘案し、分析対象物質を定め、段階的に実施する。体制整備等により、分析結果が得られるまでの作業の効率化を進めることも検討を行う。

表 2.　分析候補物質の一覧（平成 22（2010）年）

a	無機物質	mercury (水銀)	
		lead (鉛) 、cadmium (カドミウム)等	
		arsenic　(ヒ素)	
			化学形態別　ヒ酸、亜ヒ酸、ジメチルアルシン酸、アルセノベタイン等
		selenium (セレン)、aluminum (アルミニウム)等	
		iodide (ヨウ素)、perchlorate (過塩素酸)、nitrate (硝酸) 等	
b	塩素系 POPs（除農薬）	ダイオキシン類 (PCDDs、PCDFs、Co-PCBs)	
		PCBs (polychlorinated biphenyl) 並びに代謝物 (水酸化 PCB)	
		HCB (hexachlorobenzene)、PeCB (pentachlorobenzene)	
		その他	
c	臭素系 POPs	臭素系難燃剤	
			PBDE (ポリブロモジフェニルエーテル：PeBDE、OBDE 等)
			PBB (ポリブロモビフェニル：HBB、PeBB 等)
			その他
		臭素化ダイオキシン類 (PBDDs、PBDFs)	
d	農薬	POPs-Organochlorine Pesticides	
			クロルデン (cis-,trans-chlordane、cis-, trans-nonachlor、oxychlordane)
			DDT 類 (p,p'-, o,p'-DDT、p,p'-, o,p'-DDE、p,p'-, o,p'-DDD)
			ドリン類　dieldrin その他
			ヘプタクロル類　heptachlor、cis-, trans-heptachlorepoxide
			HCH (alpha, beta, gamma, delta) hexachlorocyclohexane
			Mirex (マレイックス)
			Toxaphene (代表異性体)
			Chlordecone
		Organophosphorus pesticides (OP：有機リン系殺虫剤)	
			OP metabolites: dimethylphosphate、diethylphosphate、dimethylthiophosphate、diethylthiophosphate 等
			3-methyl-4-nitrophenol (Fenitrothion metabolite)、p-nitrophenol (parathion metabolite)
			acephate or methamidophos
			dichlorvos (DDVP) or metabolite (DMP)
			3,5,6-trichloro-2-pyridinol (chlorpyrifos metabolite)
		Pyrethroid pesticides (ピレスロイド系殺虫剤)	

			3-phenoxybenzoic acid 、2,2-dimethylcyclopropane-1-carboxylic acids (Pyrethroid metabolites) 等
		Carbamate / dithiocarbamate pesticides (カーバメイト系殺虫剤)	
			ethylthiourea 等尿中代謝物分析
		Neonicotinoid (ネオニコチノイド系：Acetamiprid、Imidacloprid)	
			6-Chloronicotinic acid (Imidacloprid metabolite)
		Herbicides (除草剤)	
			PCP 及びその他のクロロフェノール類、Atrazine 、Bentazone 、Diuron 、Bromobutide、Glyphosate 等
		Antimicrobial (殺菌剤)	
			Flutolanil、Carpropamid、 Iprodione、Flusulfamide 等
		その他	
e	有機フッ素化合物	Perfluorinated chemicals (PFCs)	
			PFOA、PFOS (perfluorooctane sulfonic acid) 等
f	フタル酸エステル	Phthalates	
			Mono (2-ethylhexyl) phthalate (DEHP metabolite) 等
g	香料	nitro musk	
		polycyclic musk	
h	フェノール		Parabens (methyl-, ethyl-, propyl-, butyl-, benzyl-hydroxybenzoate 等)
			Bisphenol A (ビスフェノール A)、Bisphenol F 等
			nonylphenol (ノニルフェノール)等
i	PAHs	polycyclic aromatic hydrocarbons 多環芳香族炭化水素	
			BaP (benzo(a)pyrene)、pyrene、phenanthrene 等
			同代謝物 (1-OH-pyrene、1-,2/9-,3-,3-OH-phenanthrene 等)
			Ames test/umu test
j	喫煙		cotinine (コチニン)、thiocyanate
k	大気汚染	VOC (volatile organic compounds：揮発性有機化合物)	
	室内汚染		benzene (ベンゼン)、toluene (トルエン)、xylene (キシレン)等
			formaldehyde、acetaldehyde、acrolein、crotonaldehyde
		一般項目	
			NO_2、SO_2、SPM、$PM_{2.5}$、CO、ozone、allergen
			p-dichlorobenzene
l	その他		phytoestrogens
			caffeine (カフェイン)
			triclosan
			Deet (N,N-diethyl-3-methylbenzamide)
			pyridine
			acrylamide (アクリルアミド)
			tributoxyethyl phosphate (TBEP)、Tributyl phosphate (TBP)等
			その他の化学物質及び代謝産物
m	早期影響指標		8-hydroxydeoxyguanosine (8-OHdG) 等

６－２　観察すべき主な健康影響の指標（アウトカム・エンドポイント）

小児期までに観察すべき主な健康影響の指標に加えて、13 歳以降に調査を継続するに当たり、思春期以降に年齢依存性に発症する疾病等と胎児期の化学物質ばく露との関連の確認を行えるよう、表 3 の例示をはじめとして、アウトカムの評価を行う。

表 3. 健康影響の指標（アウトカム・エンドポイント）（例示）

- 身体の成長：出生時体重低下、出生後の身体の成長発育状況等
- 先天異常：尿道下裂、停留精巣、口唇･口蓋裂、消化管閉鎖症、心室中隔欠損、ダウン症等
- 性分化：性比、性器形成障害、脳の性分化等
- 精神神経発達：自閉症、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥･多動性障害）等
- 免疫系：アレルギー、アトピー、喘息等
- 代謝･内分泌：耐糖能異常、肥満、生殖器への影響等
- 思春期以降に年齢依存性に発症する疾病等　※13 歳以降

また、縦断的に検討することが必要と考えられる指標については、経時測定を適切に計画する。特に、小児期までに認められた化学物質等の健康影響と 13 歳以降に認められる健康影響との関連等については、しっかりと追跡したデータに基づいて評価することが必要である。なお、当該影響の発生メカニズムに関して、既存の知見と照合するなど、多面的な調査が必要であることにも留意する。

なお、アウトカムの判定に関する基準、評定方法等の詳細は「実施マニュアル」に定め、全国で標準化を行う。

（参考）遺伝因子

環境因子と健康影響の関連について、遺伝因子を考慮して検討を行うことで、観察研究においても無作為化介入試験と同様に、因果関係を推論することが可能となる（メンデルランダム化研究）。本調査において、遺伝子解析を実施し、遺伝因子を含めた解析を実施する。遺伝子の発現やその後の生体反応、健康影響には様々な環境因子が影響するため、エピゲノム解析や、オミックス解析の実施も検討する。

なお、遺伝子異常に関するデータは特に機微な情報を含むことから、データの取扱いのみならず、解析結果の利用方法についても十分な配慮を行う。また、再現性の高い解析結果を得るために研究の大規模化が必要であ

り、個人情報に十分に配慮した形で、国内外の他のコホートと連携した解析等も考えられる。

7．パイロット調査について

エコチル調査では、全国での 10 万組の親子を対象とした本体調査の実施に先立ち、平成 20（2008）年から小規模な集団を対象としたパイロット調査を実施している。

パイロット調査では、インフォームド・コンセントを得て登録された小規模な参加者集団を対象とし、本体調査で実施すべき調査項目を、本体調査に 2 年ほど先行して実施している。調査手法の実施可能性の確認を行い、本体調査に向けて適切な修正を適時に施すために重要な役割を果たしている。こういったパイロット調査については、継続的に自治医科大学、産業医科大学、九州大学及び熊本大学において実施する。

さらに、生体試料中の環境化学物質の分析手法の確認についても、小規模コホート研究を設定して東北大学で実施しており、生体試料からばく露評価を行うための手法の確立に貢献している。

8．調査実施体制について

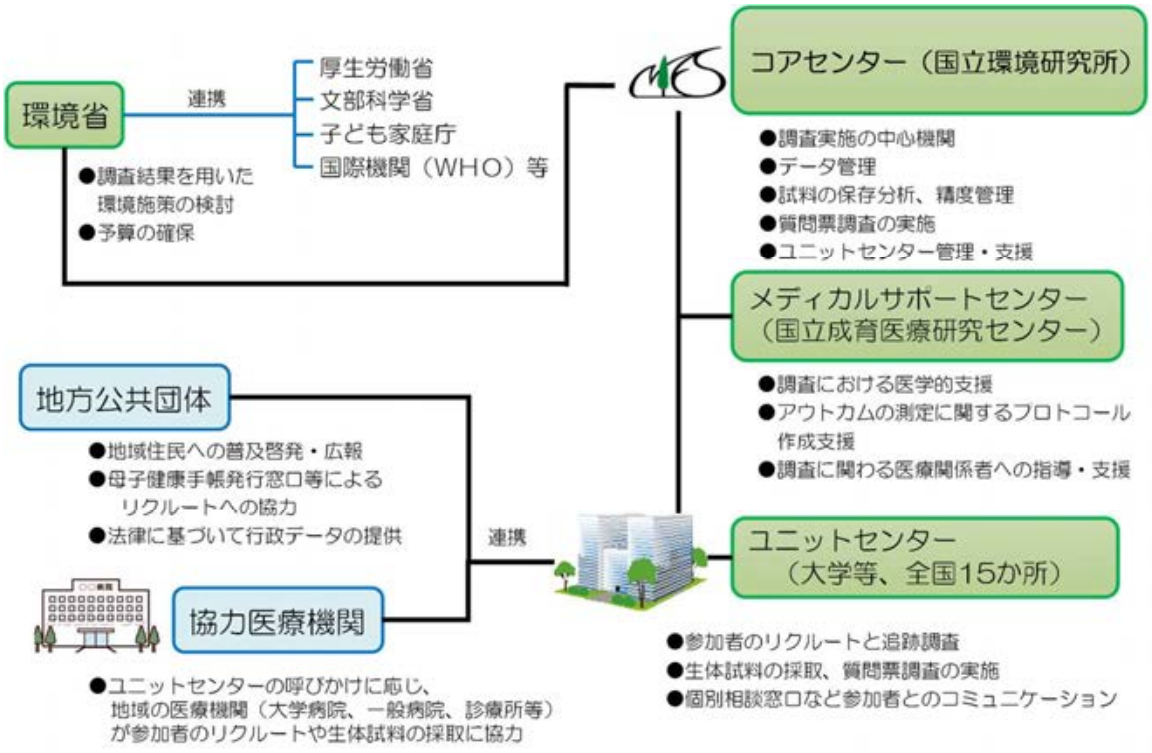
本調査は環境省の企画・立案に基づき、コアセンターを国立研究開発法人国立環境研究所に設置し、調査の総括的な管理・運営を行い、メディカルサポートセンターを国立研究開発法人国立成育医療研究センターに設置し、医学に関する専門的知見をもってこれを支援し、公募により決定された全国 15 か所の大学・研究機関等に設置されたユニットセンターが各地域での参加者のリクルート及びフォローアップを実施するという体制で開始された（図 2）。

参加者（子ども）が 13 歳に達して以降も調査を継続するに当たっては、原則としてこの体制を引き継ぐ。なお、参加者が進学や就職等を機に全国に転居する可能性があることを考慮し、参加者の年齢に合わせて柔軟に対応できる組織構成を検討していくこととする。具体的には、参加者（子ども）の先頭集団が 18 歳に達する令和 11（2029）年度までに、効果的、効率的、持続可能な研究実施体制の検討を行うことを想定する。

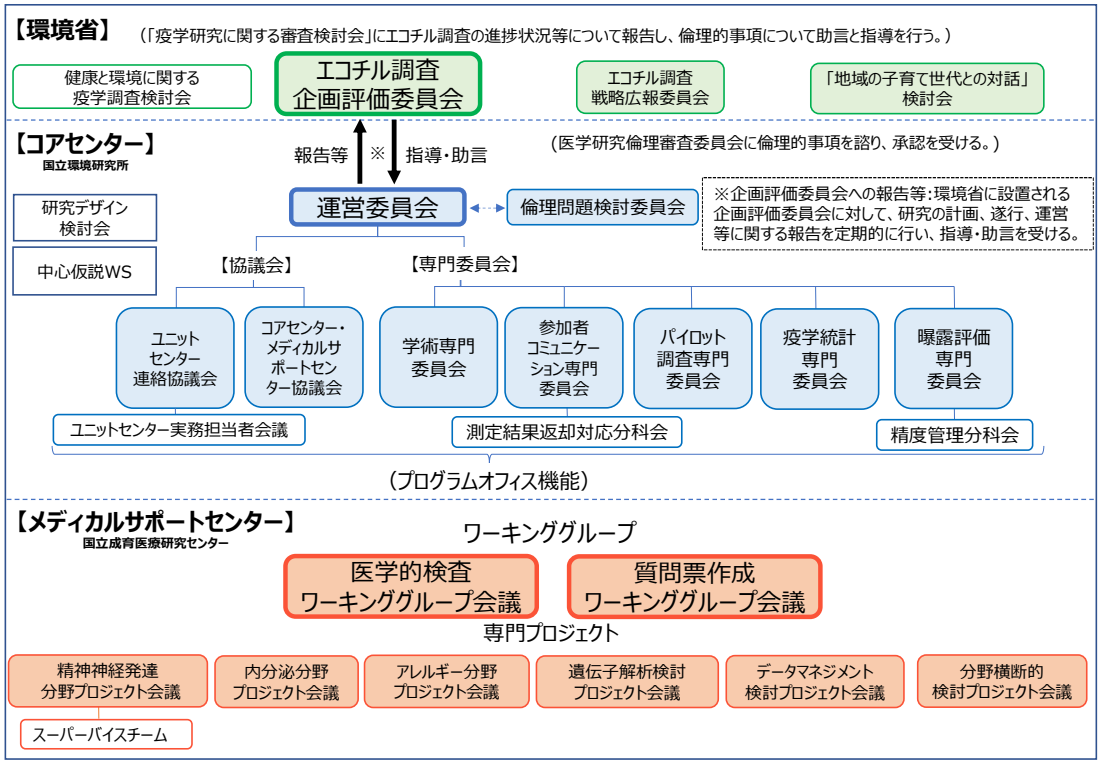
調査は、基本計画、これに基づく研究計画書、実施マニュアル等に基づい

て実施する。研究計画書、実施マニュアル等については、コアセンターを中心に検討を行い、研究計画について倫理審査を受け、コアセンターが設置される国立研究開発法人国立環境研究所の長である理事長の許可を得た後、ユニットセンターが設置される大学・研究機関の長の許可を得て実施される。エコチル調査の運営体制は図３のとおりであるが、適宜変更を行う。

また、調査データを広く共有することで、より迅速なデータ解析、成果発表につなげ、成果の社会還元を加速化するための体制を構築する。



＜図２　エコチル調査の実施体制＞



＜図３　エコチル調査の運営体制＞

８－１　環境省

環境省は、本調査の企画・立案、予算の確保及び評価を行う。企画・立案に当たっては、パイロット調査から先行的に得られる知見を活用しながら、有識者会議等で検討を行う。また、調査の円滑な実施及び効果的な成果の還元について、必要な関係省庁、国際機関等との調整を行う。さらに、幅広い対象への広報、情報発信等の成果の社会還元を担う。

８－２　コアセンター

エコチル調査の研究実施の中心機関として、コアセンターを国立研究開発法人国立環境研究所に設置する。コアセンターは、調査の総括的な管理・運営を行う。

コアセンターは、調査に係るデータ（遺伝情報を除く。）を集積・保管するデータ管理システムの運営、データ共有のための体制整備、生体試料や環境試料の保存・分析、調査実施に関するプロトコールと実施マニュアルを作成する。また、参加者追跡に関わる広報・コミュニケーション活動をユニットセンターと協働で行う。調査全体の進行管理を行うとともに、リスク管理方針を定め、ユニットセンターの管理・支援を行い、調査全体の

事務局機能を担う。また、国内外における学術連携の窓口となるほか、環境省に対する調査活動報告を行う。

８－３　メディカルサポートセンター

エコチル調査に係る医学的な支援を行うメディカルサポートセンターを国立研究開発法人国立成育医療研究センターに設置する。

メディカルサポートセンターは、臨床の専門性に立脚し、コアセンターを支援し、研究の円滑な実施に協力するとともに、ゲノム・遺伝子解析に関する研究を主導し、ゲノム・遺伝子解析に関するデータの分析、保管、管理を行う。

メディカルサポートセンターは、健康影響の指標（アウトカム）の測定に関して指導的役割を担う。アウトカム測定方法の選択・アウトカム診断・判定方法の標準化、測定に関するプロトコール・実施マニュアルの作成、アウトカム測定に関する指導、アウトカム測定者のトレーニング、アウトカム測定の精度管理及びそれらに対する医学的相談の管理を行う。

８－４　ユニットセンター

ユニットセンターは、約 10 万人のリクルートの達成のため、エコチル調査の開始時に公募により全国 15 か所に設置され、複数の大学又は研究機関が中心となって構成されている。各ユニットセンターは、それぞれ設定した域内の調査地区において、参加者のリクルートを行い、参加者（子ども）が 18 歳に達するまで追跡調査を担当する。

表 4. ユニットセンター一覧（令和 4（2022）年）

NO	ユニットセンター	調査地区	大学名（共同研究機関）
1	北海道	札幌市北区及び豊平区・旭川市・北見市の一部・置戸町・訓子府町・津別町・美幌町	北海道大学
			札幌医科大学
			旭川医科大学
			日本赤十字北海道看護大学
2	宮城	気仙沼市・南三陸町・石巻市・女川町・大崎市・涌谷町・美里町・加美町・色麻町・栗原市・登米市・岩沼市・亘理町・山元町	東北大学
3	福島	福島県全域	福島県立医科大学
4	千葉	鴨川市・南房総市・館山市・鋸南町・勝浦市・いすみ市・御宿町・大多喜町・木更津市・袖ヶ浦市・富津市・君津市・千葉市緑区・一宮町	千葉大学
5	神奈川	横浜市金沢区・大和市・小田原市	横浜市立大学
6	甲信	甲府市・中央市・甲州市・山梨市・富士吉田市・伊那市・駒ヶ根市・辰野町・箕輪町・飯島町・ 南箕輪村・中川村・宮田村	山梨大学
			信州大学
7	富山	富山市・黒部市・魚津市・滑川市・朝日町・入善町	富山大学
8	愛知	一宮市・名古屋市北区	名古屋市立大学
9	京都	京都市左京区及び北区・木津川市・長浜市	京都大学
			同志社大学
10	大阪	岸和田市・貝塚市・熊取町・泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市・岬町・和泉市	大阪大学
			大阪府立病院機構　大阪母子医療センター
11	兵庫	尼崎市	兵庫医科大学
12	鳥取	米子市・境港市・大山町・伯耆町・南部町・江府町・日野町・日南町・日吉津村	鳥取大学
13	高知	高知市・南国市・四万十市・梼原町・香南市・香美市・宿毛市・土佐清水市・黒潮町・大月町・三原村	高知大学
14	福岡	北九州市八幡西区・福岡市東区	産業医科大学
			九州大学
15	南九州・沖縄	水俣市・津奈木町・芦北町・天草市・苓北町・上天草市・人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村・延岡市・宮古島市	熊本大学
			宮崎大学
			琉球大学

当面のユニットセンターの役割等は以下のとおりである。

A. ユニットセンターの役割

１）参加者（子ども）が 13 歳に達するまで

１. 原則として１ユニットセンターは、３年間で約 2,000～9,000 人のリクルートを行い、参加者のフォローアップを行う。なお、研究期間途中でのユニットセンターからの辞退は認めない。

２. 全体調査及び詳細調査は、コアセンターが示す研究計画書及び実施マニュアルに従い、必要に応じてメディカルサポートセンターの指示を受けつつ行う。

３. ユニットセンターは、調査地区の自治体や医療関係団体との協力体制を確保するため、地域エコチル調査運営協議会を設置し、企画運営を行う。

【ユニットセンターが地域との連携において確保すべき項目】

調査地区の都道府県・市区町村の連携の確認

住民基本台帳の照会許可

現場スタッフ（小児担当課等）の承諾

医師会の協力（調査と関係の深い医会）

保育所連盟、幼稚園連盟、教育委員会、自治会長、民生委員等との連携

地域エコチル調査運営協議会の設置（以下は構成員の例）

ユニットセンター長（座長）

協力医療機関、医師会、看護協会等

周産期小児担当（区市町村レベル）

健康担当（区市町村レベル）

環境担当（区市町村レベル）

保健所

教育委員会、保育所連盟、幼稚園連盟、小学校長等の教育担当

４. ユニットセンターは、参加者からインフォームド・コンセントを得るための適切な体制を確保する。同意書は紙媒体で、ユニットセンターに研究期間中保管する。

５. インフォームド・コンセントが得られた妊婦に対しては、①データシステムへの登録、②医師によるエコチル調査専用の診察記録票の記入と回収、③質問票調査の実施、④採血・採尿を行う。採血・採尿は、インフォームド・コンセントを受けた段階で１回目を、妊娠中期末又は後期の始めに２回目を採取する。

６．　出産時には、さい帯血、さい帯の採取を行い、速やかに指定の輸送業者に手渡す。
７．　出産後は、別途定める実施マニュアルにのっとり、生体試料を採取し、速やかに指定の輸送業者に手渡すか、冷凍保存後に指定の輸送業者に手渡す。
８．　参加者（子ども）に対して、13 歳に達するまで、年に２回程度の質問票調査を実施する。加えて、面接・環境試料の採取・生体試料（血液、尿、毛髪等）の採取を行う。面接や試料採取の頻度や具体的な調査内容については、別途定める実施マニュアルのとおりとする。
９．　参加者（子ども）が 13 歳に達する前に、13 歳以降 18 歳に達するまでの調査への参加継続について、代諾者からインフォームド・コンセントを得る（子どもへのインフォームド・アセントを含む。）。
１０．参加者のうち一部の対象者に対して、詳細調査を実施する。詳細調査の内容については、別途定める研究計画書のとおりとする。
１１．追跡率の確保については、ユニットセンターが責任を負う。追跡率が悪いユニットセンターに関しては経費の削減を行うこともあり得る。
１２．参加者へのニュースレターの送付などは、コアセンターにおいて一括して行うが、各ユニットセンターは、追跡率の向上のために創意工夫を行い、不断の努力を継続することが期待される。
１３．定常的な経費（人件費を中心とするユニットセンター運営経費）として、標準的な 6,000 人規模のユニットセンターの場合、年間約 1 億円を措置する。（ここには、参加者への謝礼等は含まれない。）（注：これらの数字は今後の予算状況によって変更する可能性がある。）
１４．ユニットセンターは、参加者の個人情報をコアセンターが管理するデータベースに登録する。全体調査及び詳細調査で得られた情報は、全てコアセンターにおいて一元的に管理し、各ユニットセンターに対しては、必要なデータアクセス権を付与する。
１５．ユニットセンターは、専任かつ常勤のリスク管理責任者及び専任かつ常勤の情報管理責任者を指名し、コアセンター、環境省と随時連絡の取れる体制を確保する。
１６．ユニットセンターは、コアセンターと連携して、参加者に対する問合せ窓口を設置する。
１７．必要に応じて、本調査についてユニットセンターが所属する機関の倫理委員会に審査を受け、調査実施について機関の長の許可を得る。
１８．リクルートを別途定める実施マニュアルに決められた方法で行うこと。なお、全体調査に加えて、詳細調査の対象となる可能性を説明し

た上でリクルートすること。

１９．ユニットセンターはメディカルサポートセンターと連携をとり、標準化された方法で面接等を行う。そのために、必要なスタッフをメディカルサポートセンターが行う研修に参加させ、標準化された方法で面接等を行う。

２０．ユニットセンターは決められた時期に訪問調査を行う。訪問調査は原則として看護師又は保健師ともう一人のスタッフとで行う。訪問時には定められた調査を行う。その調査の方法等に関して、メディカルサポートセンターが行う研修を受ける必要がある。

２１．その他、全体調査、詳細調査の具体的手順は実施マニュアルに定めるとおりとする。

２）参加者（子ども）が 13 歳以降 18 歳に達するまで
（※　１）から継続して実施する内容も含む。）

１．　参加者について、フォローアップを行う。フォローアップにおける調査は、コアセンターが示す研究計画書及び実施マニュアルに従い、必要に応じてメディカルサポートセンターの指示を受けつつ行う。

２．　ユニットセンターは、調査地区の自治体や医療関係団体との協力体制を確保するため、地域エコチル調査運営協議会を設置し、企画運営を行う。

３．　別途定める実施マニュアルに則り、生体試料を採取し、速やかに指定の輸送業者に手渡すか、冷凍保存後に指定の輸送業者に手渡す。

４．　参加者（子ども）に対して、18 歳に達するまで、質問票調査への回答促進を行う。加えて、面接・試料（血液、尿、毛髪等）の採取を行う。面接や試料採取の頻度や具体的な調査内容については、別途定める実施マニュアルのとおりとする。参加者（子ども）が 16 歳に達した際に、16 歳以降の計画への参加継続について、本人からのインフォームド・コンセントを得る。

５．　参加者のうち一部の対象者に対して詳細調査を実施する場合には、その内容については、別途定める研究計画書のとおりとする。

６．　追跡率の確保については、ユニットセンターが責任を負う。追跡率が悪いユニットセンターに関しては経費の削減を行うこともあり得る。

７．　参加者へのニュースレターの送付などは、コアセンターにおいて一括して行うが、各ユニットセンターは、追跡率の向上のために創意工夫を行い、不断の努力を継続することが期待される。

８．　定常的な経費（人件費を中心とするユニットセンター運営経費）とし

て、標準的な 6,000 人規模のユニットセンターの場合、年間約 1 億円を措置する。（ここには、参加者への謝礼等は含まれない。）（注：これらの数字は今後の予算状況によって変更する可能性がある。）

９．　ユニットセンターは、参加者の個人情報をコアセンターが管理するデータ管理システムに登録する。調査（追加調査を除く。）で得られた情報は、全てコアセンターにおいて一元的に管理し、各ユニットセンターに対しては、必要なデータアクセス権を付与する。

１０．ユニットセンターは、専任かつ常勤のリスク管理責任者及び専任かつ常勤の情報管理責任者を指名し、コアセンター、環境省と随時連絡の取れる体制を確保する。

１１．ユニットセンターは、コアセンターと連携して、参加者に対する問合せ窓口を設置する。

１２．必要に応じて、本調査についてユニットセンターが所属する機関の倫理委員会に審査を受け、調査実施について機関の長の許可を得る。

１３．ユニットセンターはメディカルサポートセンターと連携をとり、標準化された方法で面接等を行う。そのために、必要なスタッフをメディカルサポートセンターが行う研修に参加させ、標準化された方法で面接等を行う。

１４．その他、調査（追加調査を除く。）の具体的手順は実施マニュアルに定めるとおりとする。

B. ユニットセンターとして得られるメリット

１．　データへのアクセス

(ア)自己ユニットが収集したデータへのアクセス

自らが収集した試料や質問票については、コアセンターでの分析・集計が終了次第、可及的速やかに各ユニットセンターに対してデータベースへのアクセス権が付与される。

(イ)全国データへのアクセス・論文発表の権利

全国データへのアクセス及び論文の発表は、別途定める「エコチル調査で収集されたデータの利用と成果発表に関する基本ルール」によるものとする。

２．　全国的な生体試料分析、全国的な質問票内容への提案権

将来的な分析を目的としてコアセンターに保存されている生体試料に関してどのような分析を行うか、フォローアップ期間中に実施される質問票調査の際にどのような質問を行うかなどの全体調査や詳細調査の内容について、ユニットセンターは案を提案する権利を有す

る。

３．　追加調査の実施

　ユニットセンターが独自の費用を用いて、本調査に付帯的に実施する「追加調査」については、全体調査・詳細調査に影響を与えない範囲で実施することができる。

C. ユニットセンター運営について

１．　「ユニットセンターの役割」を全て実施できること。なお、参加者（子ども）全員が 18 歳に達する令和 14（2032）年度までのユニットセンターの持続的な運営が求められる。
２．　質問票の回答を促進するなど、参加者コミュニケーションを進めることができる体制が求められる。
３．　参加者の維持・管理（個人情報管理）を行う体制が求められる。
４．　対面式調査を行う際に対応できる体制の調整が求められる。
５．　研究成果の発信を行う。

（参考）ユニットセンターの選定要件（平成 22（2010）年公募時）

１．　「ユニットセンターの役割」を全て実施し得ること。なお、各要件をより良く満たすための固有の条件、努力や工夫がある場合、その点をプラスに考慮する。
２．　リクルートの方法がポピュレーション・ベースとして適切なものかどうか、選定要件として特に重視する。
３．　リクルート可能な者が特徴的なばく露を有する地域を対象地区として設定できる場合は、選定要件として特に重視する。
４．　創意工夫により、ユニットセンターの運営コストを低減できる場合は、選定要件として特に重視する。
５．　疫学調査を成功裡に実施した経験がある場合、それを特に重視する。中心仮説の立証に特に貢献できる研究能力、体制、努力や工夫がある場合、その点をプラスに考慮する。
６．　ユニットセンター内において、原則として、環境保健・公衆衛生の教室を中心としつつ、産科、小児科、環境科学など関連する教室間の連携、協力体制が確保されていること。
７．　協力病院との連携、協力体制が確保されていること、又はされる見通しであること（既に確保されている場合は、その点をプラスに考慮する。）。

８．　地域の医療・教育関係者等（医師会、看護協会、幼稚園・保育所連盟、自治会、教育関係団体等）との連携、協力体制が確保されていること、又はされる見通しであること（既に確保されている場合は、その点をプラスに考慮する。）。

９．　リクルート実施予定地域の自治体との連携、全面的な協力体制が確保されている、又はされる見通しであること（合意文書等により既に確保されている場合は、その点をプラスに考慮する。）。

１０．リクルート実施予定地域に関して、他の公募者との間であらかじめ調整ができていること。

１１．16 年間にわたり、安定的にユニットセンターとして機能する人的、組織的な基盤があること。

１２．情報セキュリティの確保のための、体制整備、物理的なスペースなどが準備できていること。

１３．コアセンターが管理するエコチル調査データベースに、インターネットを通じて、コアセンターが指定するプロトコールを用いてアクセスできる技術的・組織的な準備ができていること。

８－５　協力医療機関

ユニットセンターの依頼に応じ、調査対象者となる妊産婦の登録、生体試料の採取を行う地域の医療機関を協力医療機関と呼ぶ。

協力医療機関として想定されるのは、調査地区の妊婦及び参加者（子ども）が受診すると考えられる診療所、一般病院、総合病院、大学病院の産科小児科、周産期医療センター等である。

８－６　地方公共団体

調査地区の地方公共団体には、以下のような協力を依頼することが想定される。

地域エコチル調査運営協議会への参加
地域における普及啓発、広報協力（回覧板等を含む。）
母子手帳発行窓口等におけるリクルートへの協力（リクルート時）
乳幼児健診等との連携（乳幼児期・学童期調査時）
住民基本台帳等の照会許可

８－７　調査の外部委託

環境省、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンタ

ーは、本調査を実施するために必要とされる作業の一部を、必要に応じて、外部の業者・機関等に委託・外注して実施させることができる。発注者は、外部委託によっても、調査の質が定められた基準を満たすことに支障が生じないよう、受託者を管理・監督する義務を負う。

８－８　パイロット調査実施機関

パイロット調査実施機関は、各機関が実施主体となり、本体調査に先立ってパイロット調査を実施する。調査の詳細等の企画については、コアセンター等と連携して行う。

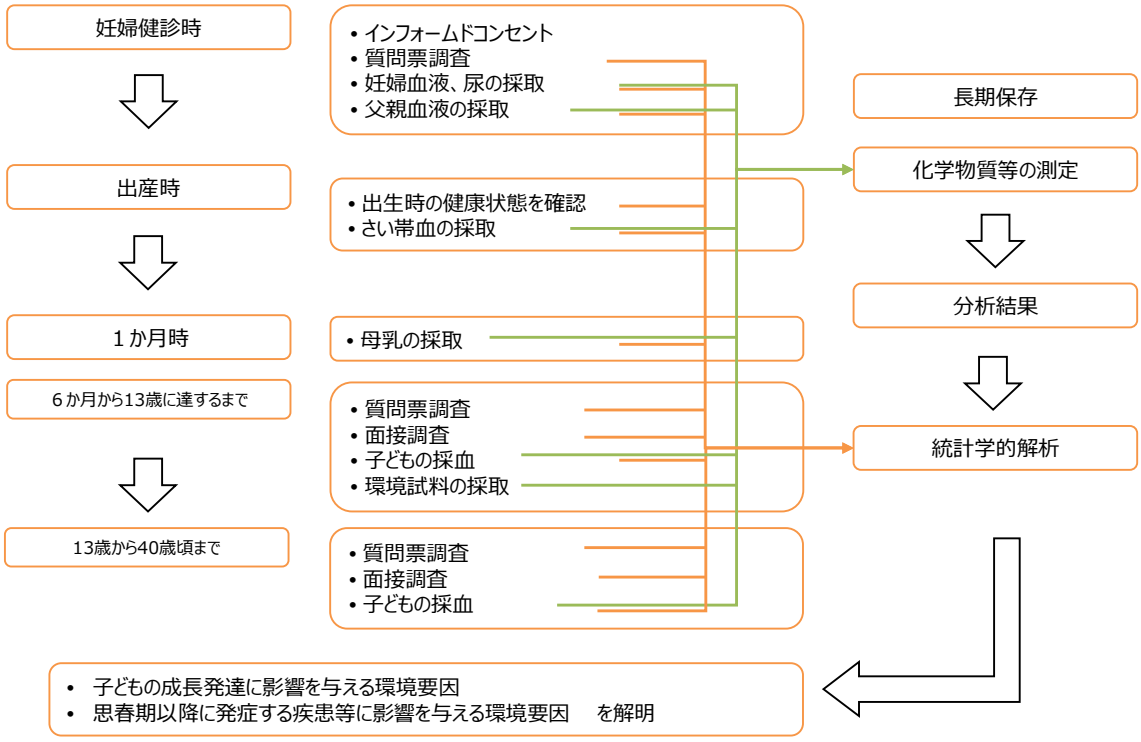
９．調査実施手順について

９－１　実施概要

エコチル調査は、妊婦を初診時に産科施設にて登録し、生まれた子どもを長期間追跡する、いわゆる出生コホート研究であり、参加者（子ども）が 40 歳程度まで追跡調査を行うこととする。

本調査では、本人からの情報収集（質問票調査）に加え、必要に応じて、生体試料の採取や、データ連携により、公的機関等からの情報収集を行う。質問票調査は、12 歳までは郵送法で行い、13 歳以降の調査では参加者ポータルシステムを用いて、Web 質問票形式で行うことを基本とする。生体試料は、健康アウトカム及びばく露の客観的な測定のために必要であり、調査期間中の適切な時期（例えば、13 歳以降 18 歳に達するまでの間に 1 回、18 歳以降 40 歳に達するまでの間に数回）に採取することを目指す。また、今後、健康医療情報のデジタル化が進むことを想定し、参加者の同意を得た上で、健康医療情報との連結のために必要な個人識別番号の取得を行うことも検討する。

また、本調査は全国調査であり、実施手順については、特殊な事情を除き全国で統一的な方法で実施することとする。



＜図４　エコチル調査の実施概要＞

９－２　調査参加者

エコチル調査は、参加登録を行った妊婦から生まれた子どもを追跡しており、参加者（子ども）が 40 歳程度まで追跡を継続する。

妊婦のリクルートは、全国のユニットセンターにおいて、平成 23（2011）年 1 月から 3 年間行われた。具体的には、ユニットセンターの協力医療機関（産科施設）等において、調査対象者となり得る全ての妊婦に対して、本調査への参加を依頼し、診察時（可能な限り初診時）に十分な説明を行った上で、調査への参加のインフォームド・コンセントを得た。登録時期は、妊娠前期（14 週未満）を理想とするが、14 週以降の登録及び出産直前の登録も排除しないこととした。

13 歳以降の調査においては、参加者（子ども）を未成年から成年にわたって追跡することから、本調査計画のうち、13 歳から 18 歳に達するまでの調査計画については、参加者（子ども）の代諾者からインフォームド・コンセントを得る。さらに、参加者（子ども）が 16 歳に達して以降は、参加者（子ども）本人からインフォームド・コンセントを得て追跡を行うこととする。

９－３　調査項目の概要及びスケジュール

調査のスケジュール案を表5に示す。これに基づく具体的な調査項目は、研究計画書等に定めることとする。ただし、今後の予算の状況、研究の進捗等を踏まえて、研究計画書等の必要な改定を適宜行う。

表 5. 調査計画一覧表

時期	全体調査	詳細調査
リクルート時 （妊娠前期）	診察記録票記入 父親・母親質問票調査 母体血・尿採取 父親の血液採取	
妊娠中期～後期	質問票調査 母体血・尿採取	
出産時	診察記録票記入 さい帯血採取	
出産入院時	母体血、ろ紙血、（子ども）、母親の毛髪採取	
出生後 1 か月	診察記録票記入 質問票調査 母乳、子どもの毛髪採	
出生後 6 か月 ～6 歳	質問票調査	1.5 歳時：環境測定 2 歳時：精神神経発達調査（面談調査） 医学的検査（血液検査、身長計測等） 3 歳時：環境測定 4 歳時：精神神経発達調査（面談調査）、医学的検査（血液検査、身長計測等）

6～12 歳	質問票調査 学校保健記録記載情報の収集 脱落乳歯の収集 8 歳時：精神神経発達検査、身体計測、採尿 12 歳時：小児科診察、精神神経発達検査、身体計測、採血・採尿	6 歳時、8 歳時、10 歳時及び 12 歳時：個人ばく露モニタリング、2 回程度 8 歳時、10 歳時及び 12 歳時：精神神経発達検査、医学的検査（血液検査、身体計測等）
13～15 歳	質問票調査	
16 歳	質問票調査 身体計測、採血・採尿	
17 歳	質問票調査	
～40 歳程度	（調査内容は今後検討）	

９－４　質問票調査

質問票調査は、12 歳までは郵送法で行う。13 歳以降の調査においては、Web 質問票形式で行うことを基本とし、参加者維持と負担も考慮して研究計画書を作成する。

質問票調査については、回答の妥当性・信頼性を保証するために標準化された方法に基づくことが必要であるとともに、調査対象者の受容性に十分に配慮する必要がある。

９－５　試料の採取、輸送、分析、保管

本調査では、参加者である母親、子ども及び父親から生体試料の提供を受ける。

１）生体試料の採取

生体試料として、毛髪、尿、血液、母乳、乳歯等の収集を行うが、試料の種類、採取時期及び採取方法は「実施マニュアル」に定め、全国で標準化して行う。

２）生体試料の輸送、分析、保管

生体試料の輸送、分析、保管は、コアセンターの監督の下に行う。生体

試料そのものの品質管理は調査データの根幹であり、生体試料の効率的な品質管理を行う必要がある。

保管については出し入れが前提の分析までの一時保管と、長期間安定的に保存することを目的とする長期保存を分けて考える必要があり、長期保存設備に関しては本基本計画「１１．生体試料の長期保存について」に記す。

３）環境試料の採取、分析、保管

家庭などの生活環境における化学物質等へのばく露状況を把握し子どもの健康影響との関連を解析するためには、各種環境試料の採取、分析並びに長期保存が有効と考えられる。採取した環境試料について、試料の分析、保管を進める。

４）精度管理

本調査の分析に係る精度管理はコアセンターが中心となって実施する。測定データの精度管理のためには最新の測定技術の担保が必要であり、中長期的な研究施設整備計画を含め、効率的な管理体制の構築を行う。

９－６　健康医療情報との連結

個人情報保護に留意した上で、他の健康医療情報との連結について、関係機関との調整を進めることを検討する。健康医療情報の収集に当たっては、参加者との信頼関係の確立が重要であり、将来にわたるデータ活用についても含めて、参加者が不安を感じないための取組の検討を進める。

９－７　フォローアップ

追跡期間は数十年の長期にわたると予定されていることから、安定的な調査体制を継続することが必要である。様々な工夫を行うことで、参加者（子ども）が 13 歳に達するまでの追跡率が 80%以上になることを目標とし、それ以降については最大限高い追跡率を維持することを目標とする。特に、調査期間を延長することから、追跡率向上の取組をより一層強化する必要がある。

フォローアップに当たっては、コアセンター、メディカルサポートセンターの管理・支援を受けて、ユニットセンターが、環境保健・公衆衛生教室を中心としつつ、小児科、環境科学など関連する教室の協力を得て行う。

なお、現在ユニットセンターが主に担っている長期的に参加者に協力を得るための取組等について、参加者が進学や就職等を機に全国に転居する

可能性があることを考慮し、参加者追跡のための体制構築については検討が必要である。

１）フォローアップで求められる内容としては以下のものが掲げられる。

① 追跡率の維持

- 参加者の満足度・理解度を高める。
- 様々な時点で質問票調査、検査等が実施されるので、参加者との継続的なコミュニケーションが重要である。

② 打ち切り理由・転帰の把握

- 全国統一基準で行なわれる全体調査と詳細調査に関してはリクルートしたユニットセンターが責任を持つ。
- 参加者の調査地区外への転出は、面談調査等のデータは欠損となるが、質問票調査については継続が可能である。
- 他のユニットセンターが担当する調査地区内への転出の場合は、参加者の意向により、その地域を担当するユニットセンターが調査を引き継ぐ場合がある。
- フォローアップの質問票回収率については常に把握し、高い追跡率を保つように工夫する。
- 参加者（子ども、父、母）の死亡（死因）・罹患追跡には、人口動態統計及び住民台帳等も利用する。
- 連絡できなくなった参加者に対しては、電話、家庭訪問、行政データへのアクセス等により状況を把握する。

③ 特殊な疾病に罹患した参加者の状況把握

- かかりつけの医療機関･主治医から情報を得る。

２）追跡率を維持するための工夫としては以下のものが挙げられる。

- 参加者への適時適切な情報提供・交換（ニュースレター、ホームページ、ポータルサイトなど）
- 居住地の把握

９－８　調査の質の保証・全国規格

統一した仕様で実施する大規模な全体調査及び詳細調査のデータの質を保証するために、各調査について「実施マニュアル」を定め、必要に応じて、e-learning 等も活用しながら人材トレーニングを実施する。

以下の項目について、それぞれ実施マニュアルを作成することとする。

- 調査実施手順
- 試料の採取時期・方法、輸送、分析・測定項目及び分析・測定方法
- アウトカムの判定に関する基準、評定方法
- データ管理、データ共有
- リスク管理・コミュニケーション　等

１０．データマネジメントについて

調査データのマネジメントは、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）等を遵守し、適切にデータの作成、管理、加工等を実施し、適切に記録し、それを保管する。

エコチル調査で取り扱うデータは、質問票や同意書のように紙媒体に記録されたもの及び記録された内容をコード化したテキスト情報や画像情報、電子化された臨床情報やその他の既存資料、生体試料を保管・管理するための電子情報や化学物質等の分析データ、などが含まれる。本調査で用いられる各種資料（協力依頼文書、同意書、質問票、生体試料保管容器など）には資料種別記号と一連の通し番号が割り当てられる。この記号・番号は研究期間を通して一意に定められる。

１）　データの保管・管理

本調査で収集された全てのデータは、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」に対応したデータセンター等によって運用されるデータベースに保管・管理される。各々のデータベースへのアクセス権については厳密に管理される。データセンターでは随時データバックアップが行われ、また災害等の被災を考慮し、遠隔地の別サイトにも保管される。

本調査で得られたデータの長期間にわたる保管に関しては、コアセンターの監督の下に行う。データの保管に関しては、追跡期間及びデータ解析期間の間は、個人を容易に特定できないよう加工した上、特定の個人の識別情報と照合できる対応表を別に作成し、これらを別々に保管する。以降は特定の個人の識別情報を削除した情報とすることで期間を定めない長期保管と活用を予定し、参加者の同意を取得する。

２）　データ管理システム

調査進捗管理のため、リクルート・登録・同意取得状況、質問票調査実施状況（データ入力、質問票送付、受け取り、保管等）、臨床情報等の取得、謝金の支払い、問合せ状況等に対応する調査進捗管理システムを構築する。また、生体試料の採取、移動、分析、保管状況を管理するシステムを構築する。

本調査で収集された全てのデータは、厳密なアクセス権の管理が行われる。データシステムを操作する全てのユーザーはコアセンターに登録して、ユーザーの所属機関（コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンター）の権限レベル、ユーザー単位の権限レベル、ならびにアクセスするデータベースの属性に従って、アクセス権が付与される。データ管理システムへアクセスする際のユーザー認証には生体認証など適切な方法を用いる。

３）システムセキュリティ

データ管理システムは国立環境研究所情報セキュリティポリシーに基づいてそのセキュリティを構築するとともに、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」、個人情報保護法など関連する規則等との整合性も考慮して、組織的、人的、物理的、技術的な安全管理措置を講じることにより、必要かつ適切なセキュリティレベルを構築する。

４）その他

基本文書、実施マニュアル等の文書管理システム、Web 会議システム、情報共有・発信のためのホームページ（一般向け、調査参加者向け）やポータルサイト（調査参加者向け、調査関係者向け）を活用し、調査を円滑に進める。

１１．生体試料の長期保存について

参加者から提供された生体試料（血液、尿、母乳など）の一部については、コアセンターが管理する保存施設で長期的に保管し、当初の計画を策定した時点で想定されなかった分析等の必要が生じた場合に分析に供することができる。また、遺伝子解析に供する目的で血液等を長期保存する。

長期保存された生体試料は、その時点でのばく露情報のスナップショット

（又は母乳中の POPs のように積分値）を与える試料であり、長期保存施設はそれを将来に向けて保存するタイムカプセルの役割を果たす。試料を長期保存することにより、試料採取時点では判明していなかった影響について、他の手法では得られない貴重な情報が得られる可能性が担保される。

１）エコチル調査で求められる長期保存の期間等

保存施設には、調査に参加した母親と子ども及び父親から採取された生体試料（血液、尿、母乳など）が長期的に保存される。本調査では、妊娠中の母親をリクルートし、その子どもが 40 歳程度に達するまで追跡することになる。生体試料については、調査終了後も試料を保管する旨の同意を得る。

同意の取得に際しては、後年、新たな化学物質・バイオマーカー・疾患関連遺伝子・原因遺伝子などの分析の必要が生じた場合、又は子どもの健康に関する別の調査からの分析の要請が生じた場合に対応するため、最大限の同意を得るものとする。

なお、発がん物質や環境ホルモン作用を持つ物質に認められるように、ばく露から影響の顕在化までに 20 年を超える期間を要するような毒性を有する物質もあり、こうした物質の影響と過去のばく露情報を対比させるためには、数十年規模の保存も視野にいれた保存体制の確立が求められる。事業終了後の試料保存の継続については、保存施設の維持・管理・改修等に関わる方針、保存の延長期間等について、検討を行うものとする。

２）生体試料の管理

生体試料については、中長期的に有効活用できるよう適切な管理が必要である。保存する試料の所在及び状態は常に把握し、適切な管理を行う。管理の実施に当たっては、長期にわたる安定かつ確実な保存の実施、匿名性の確保、感染性病原微生物・ウイルス等の拡散防止が特に重視される。また、特に分析化学の観点から、試料採取から輸送、保存に至る過程でのトレーサビリティの確保、コンタミネーションや変質の防止が極めて重視される。

在庫管理：　生体試料の収受、保管、廃棄。分析等への供与等の履歴
履歴管理：　採取時の状況、保存時の状況、温度、冷凍・解凍・分注
トラッキング：送出日時、送出先、受領確認
安全管理：　適切な安全管理の実施
　　感染防止への配慮
　　停電時のバックアップ、分散重複保存など

情報管理：　　個人情報管理者の配置
　　試料を扱う職員に関する教育

３）長期保存のための施設・設備

化学物質の分析を主たる目的に考えると、試料をできるだけ手を加えずに保存すること（保存前に前処理操作をすればするほどコンタミネーションや変質、除去などによる情報の喪失が懸念される。）、またできるだけ低温の冷凍条件下で、光や酸素のないところでの保存が望ましい。

１２．リスク管理について

１）参加者が回避し得る健康リスクへの対応

調査実施に際して、参加者の健康に悪影響が生じるおそれがあり、かつ、そのおそれを回避するための何らかの方法が存在すると判断される場合、又は各種実施マニュアルの関連事項に該当する場合には、当該参加者及びその保護者に対して直ちに連絡し、内容の説明を行うとともに、専門医を紹介するなど適切な医学的助言を行う。なお、判断に際してユニットセンターはコアセンター及びメディカルサポートセンターに対して助言を求めることができる。ユニットセンターは、このような連絡を参加者に対して行った場合には、その内容をコアセンターに報告する。

２）調査に関する事故への対応

調査に関する事故の対策については、リスク管理や危機管理の方法に関する実施マニュアルを作成し、全研究実施機関が協力して実施する。各研究実施機関は、リスク管理責任者を置き、定期的にリスク評価を行い、予測されたリスクについてはその予防に努める。発生した事故については、速やかにリスク管理責任者に報告するとともに、コアセンターのリスク管理責任者との迅速な連携の下に対応する。

想定される事故として、テクニカルな間違い、参加者の健康に対する悪影響、個人情報の漏えいなどが考えられる。

３）エコチル調査に対する保険（研究の実施に伴う補償）

本調査の実施に当たり、万が一、調査参加者に損害を与えた場合に備え、傷害保険及び損害賠償保険に加入する。

また、調査参加者に損害を与えた場合に必要な措置は、必ずしも金銭の

支払いに限られるものではなく、健康被害にあっては当該医療機関における医療の提供も含まれる。

4）データ・試料保存、活用に関するリスク管理

コアセンターにデータ管理責任者及び試料管理責任者を置き、それらの管理の統括を行う。データ管理及び試料管理のそれぞれについて、事業継続計画（BCP）を作成し、自然災害や大規模停電等の事態においても、データ及び試料が失われないよう管理を行う。

データ及び試料の活用に当たってのデータや試料の損失リスクに関しては、利用契約や共同研究契約を適切に結ぶことにより管理を行う。

5）成果発表、活用に関するリスク管理

調査の成果は、論文発表だけでなく、報道発表も含め、様々な媒体で発表されることが想定される。特に、報道発表等に対する社会の反応や SNS による情報拡散、コメント等への対応については、担当者を置いて対応することが望ましい。

１３．参加者の保護とコミュニケーションについて

1）問合せ窓口の設置

調査を実施するに当たり参加者の種々の疑問に答えるため、コールセンターを設置する。定期的に更新される FAQ データベース活用による即時対応を行うほか、問合せの内容に応じて、実施マニュアルに基づき自ら回答する。FAQ により回答できないものは、ユニットセンターの電話番号を案内する。なお、コアセンター又はユニットセンターの時間外の電話や回答できない内容に関しては、コールセンターで内容を聞き取り、翌営業日に、コアセンター又はユニットセンターに連絡する。

こうした調査に直結する問合せ以外にも、子育てに関する悩み、医療相談などの電話が想定される。これらの周辺的なニーズに対してもできるだけ対応していく方向でコールセンターの具体化を図る。また、参加者目線で利用しやすい問合せ方法について、問合せフォームの活用などを含め検討する。

2）必要な通報措置

児童虐待・家庭内暴力、いじめ等を見いだした場合の手続きについては、

実施マニュアルに定め、それに基づき対応を行う。

3）個人情報の保護

参加者による情報開示請求には、コアセンターを設置する国立環境研究所がその規程に従って対応する。情報セキュリティの確保のため、国立環境研究所情報セキュリティポリシーを遵守する。

個人情報保護の観点から、個人情報データベースへのアクセス権及び個人情報データと連結可能データを関連づける対応表へのアクセス権については厳密な管理の下、コアセンター及びユニットセンターが持つことを原則とする。進捗管理、音信不通者への追跡の実施等においてコアセンターから参加者への直接の連絡が必要な場合にも、この原則は貫かれるものとする。

4）参加者とのコミュニケーション

参加者に思春期以降まで長期にわたって参加を継続してもらうために、効果的な情報提供、コミュニケーションを実施する。調査に参加することで、参加者自身にどのようなメリットがあるか、調査の社会的、国際的意義等について、参加者の年齢に応じて適切な方法で説明し、調査に参加していることについて誇りに思われるよう努める。

コミュニケーションについては、アプリケーションの工夫等を行いながら、情報通信技術（ICT）の活用をしつつ、ユニットセンターを通して直接的に関わることができる体制を維持することも必要である。また、参加者本人とつながり、信頼関係を維持するため、参加者ポータルシステムを用いた調査や情報発信、コミュニケーションを定期的に実施する。先行研究（例：英国 ALSPAC（Avon Longitudinal Study of Parents and Children））の取組も参考にしながら、研究者、参加者が一体となって研究を推進していく仕組みを検討する。

また、生体試料の分析結果・質問票調査の結果等については、同意を取得する際に確認した参加者の意思に基づいて、積極的に情報提供を行い、参加者とのコミュニケーション向上を図る。

5）調査結果の報告

参加者にメリットがあるとされた場合には、分析結果等を個人に積極的に情報提供する。ただし、同意を得る際に「知りたいか、知りたくないか」を確認しておき、参加者の意思を尊重する。

食事調査の結果など、一般的で評価の確立している情報は、全参加者に

情報提供することとする。不必要な不安をじゃっ起することがないよう、情報提供の在り方については慎重な検討を行う。

６）遺伝子解析と遺伝カウンセリング

遺伝子解析について、原則として参加者本人には結果の報告は行わない。遺伝子解析の過程で偶発所見等が見つかったなどの本人が知るべき重要な所見等については、継続的に専門家等と検討を行う。

７）謝礼と特典

参加者の保護、参加者とのコミュニケーションを大切にしながら、参加者には、質問票の回答や、生体試料等の提供に対し、定められた謝礼をお渡しすることにより、調査協力に報いることとする。また、参加者からの健康や育児等に関する相談に応じることのできる仕組みを整え、調査参加の特典として提供できるようにする。

１４．倫理安全面への配慮とインフォームド・コンセントについて

本調査は、コアセンターを設置する国立研究開発法人国立環境研究所が主たる研究機関として、中央倫理審査方式にて倫理審査を受け、機関の長（国立研究開発法人国立環境研究所理事長）から研究実施に関わる許可を受ける。その後、共同研究機関であるユニットセンターを構成する機関において、各機関の長から研究実施に関わる許可を受けて研究を実施する。また、環境省が設置する「疫学研究に関する審査検討会」に、本調査の進捗状況等について定期的に報告し、適宜助言を受ける。

１）倫理指針、倫理委員会

本調査の実施方法、収集する個人データ、生体試料の取扱については個人情報の保護に関する法律及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）に基づき、本調査のための研究倫理審査申請書を作成し、全体調査及び詳細調査は、国立研究開発法人国立環境研究所の医学研究倫理審査委員会に諮り、国立研究開発法人国立環境研究所理事長から許可を受ける。その後、各共同研究機関であるユニットセンターが所属する機関（大学、研究機関、医療機関等）において倫理審査を受ける必要がある場合は、それぞれの機関に設置された倫理委員会において、各機関の長から研究実施に関わる許可を受ける。

共同研究機関において、別途倫理審査を受ける必要がある場合は、各機関の倫理委員会において審査を受け、研究を実施する。

ユニットセンターが独自に行う追加調査については、各ユニットセンターが所属する機関の倫理委員会の審査を受け、機関の長に研究実施に関わる許可を受けて実施する。

２）インフォームド・コンセント

母親と父親については本人から研究参加についてインフォームド・コンセントを得る。参加者（子ども）については、未成年から成年にかけて長期間追跡することから、それぞれの時期において適切な者から適切な方法で同意を得る。具体的には、参加者が 13 歳に達するまでの調査計画については母親のリクルート時に母親の代諾を得る。さらに、参加者が 13 歳に達する前に、13 歳から 18 歳に達するまでの調査計画について、参加者の代諾者からインフォームド・コンセントを得る。参加者が 16 歳に達して以降は、参加者（子ども）本人からインフォームド・コンセントを得ることとする。なお、16 歳に達するまでも、参加者である子ども本人への情報提供、賛意の確認（インフォームド・アセント）に努める。

全体調査及び詳細調査の説明文書、同意書の内容は、全てのユニットセンターで統一することを原則とする。説明に当たっては調査の概要、生体試料分析、長期保存等について平易な言葉を用い、丁寧に説明し、理解を得た上で同意を得る。

当初実施を決めている項目に関しては同意を得るが、決まってない項目に関してはその調査を行うことが決まった時点で、再度同意を取り直す。しかし、質問票調査に関しては、参加者は個別の調査項目ごとに回答を拒否することが可能であることから、再度同意を取り直すことはしない。具体的には、郵送法による質問票調査を行う場合には、質問票の冒頭に「回答したくない場合は、当該質問そのものに×印をつけることにより回答しなくともよい」旨を記す。また、Web による質問票調査を行う場合にも、回答を拒否することができる仕組みとする。

データ・生体試料の長期保存に係る同意に関しては１０．１）及び１１．１）を参照のこと。

また、音信不通など、他の方法でアクセスできなくなった場合に、地方自治体データを利用して参加者の状況を確認させていただくことについて、リクルート時に説明し、同意を得ておく。

同意書は、ユニットセンターに長期にわたり保管し、調査終了時まで追跡が可能となるよう管理を行う。

１５．調査から得られたデータ・生体試料の利用、解析、共有について

調査から得られたデータの解析に当たっては、環境要因と生まれた子どもの健康の関係を明らかにするという本調査の目的を最優先する。

本調査で得られるデータは、環境要因、遺伝要因、社会要因、生活要因に関する情報を含む貴重なものであり、成果の最大化を図れるよう、社会科学、経済学等を含む様々な分野の研究者とのデータ共有を目指す。このようなオープンデータ化によるデータ共有の推進によって、様々な分野の成果が発出され、子どもたちを取り巻くバイオ・サイコ・ソーシャル面での課題の解決も含め、更なる成果の社会還元が期待される。また、同意を得た上で、生体試料を研究者等に適切に提供する枠組みについても検討を進める。

データ共有に関しては、別途定めるデータ共有実施計画書に基づいて実施する。研究者等へのデータ共有を積極的に進めることで、データ解析、成果発信の促進を図る。なお、データの共有における個々の研究計画について、参加者へ情報提供し、参加者がデータ共有に協力することへの拒否の意思を示すことができる機会を提供する。

調査の全体的・一般的な統計解析には、①ばく露の分析、②質問票調査結果の分析、③アウトカム（疾病・症状）の分析、④これらを組み合わせた仮説の検証などが想定される。

１６．成果の社会還元・情報発信について

本調査は、子どもの健全な発達に関して、日本において前例のない規模と質で展開する先駆的なコホート研究である。化学物質対策の充実・強化等のため、エコチル調査の成果を積極的に社会還元していくことが期待されている。エコチル調査で得られた知見については、国内外の学会、雑誌に積極的に発表する。学術論文の発表に当たっては、調査結果の科学的な一貫性を確保するため、別に基本ルールで定められた手続きに沿って手続きを行うこととする。また、エコチル調査の成果として、全国の参加者のデータ解析に加えて、地域ごとの環境や健康に関する課題について解析することも期待されている。加えて、「健康影響との関連が認められなかった」という成果を論文化することもエコチル調査の重要な役割の一つである。

国民向けの情報発信を重視し、分かりやすい資料を作成し、積極的に情報を発信していく。学術論文については、一般国民向けに分かりやすくした文章も作成し、情報発信を行う。さらに、行動変容を促すターゲットとなる将

来親になる世代、妊産婦、子育て世帯等に対する影響力の強いインフルエンサー、関係省庁等の政策立案者、ターゲットの関心・購買行動に関心の高い製品製造企業等が相互に連携をして、ターゲットとなる一般国民・消費者の行動変容を促すための情報発信や成果の社会還元を行うよう努めていく。具体的には、シンポジウムや対話等を通じて、エコチル調査に対する認知度を高めるとともに、内容理解の促進に努める。また、得られた成果は必要に応じて関係省庁及び地方自治体等に周知・共有し、先行研究の結果や国内外の状況等を勘案しガイドライン・事業の策定・改定など関連する施策につなげられるよう連携を行う。特に、将来世代である子どもたちに情報を広く伝えるためには、学校保健分野や教育分野との連携が重要であり、連携の強化を図る。また、報道機関、行政機関、医療機関、学界、産業界、市民団体等に対し、本調査の広報活動を継続的に展開する。

参加者維持の方策として、参加者専用ウェブサイトの作成、メールマガジンの発行など調査参加者への積極的な情報提供を行うとともに、イベントの開催などの双方向性のコミュニケーションを推進する。長期にわたる調査の継続意義を確保するため、調査のアウトプットについては定期的かつ広く一般向けに情報発信を行う。

本調査は海外からも注目されていることから、英語による情報発信に力を入れる。

１７．ヒューマンバイオモニタリングの実施について

エコチル調査の成果から化学物質の有害性が示唆されたとしても、リスク評価に当たっては、その背景情報として対象となる当該化学物質のばく露状況の把握が必要となる。エコチル調査とともにヒューマンバイオモニタリング事業を実施し、成果の最大化に努めることが重要である。

１８．国際連携について

特に希少疾病の解析について、個人情報に十分配慮した形で、国際連携による共同研究を実施するための体制を構築する。調査を通じて醸成された知識や技術等について、途上国の技術支援にも活用できるよう、関係機関との連携を行う。化学物質管理に関する国際的な動きを把握し、本調査から得られる成果を国際的な取組に還元できるよう努める。また、WHO（世界保健

機関）等の国際機関に対する情報共有を含め、国際機関との連携強化に努める。

１９．調査費用について

全体調査と詳細調査に係る費用は、環境省が事業予算として計上する。

追加調査に必要な費用は、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンター等が環境省を含む各省庁の競争的資金、その他民間の研究費等を活用し、独自に確保する必要がある。

２０．本調査の契約について

本調査は環境省の事業費で実施する。また、本調査は、全国一斉の調査であることから、コアセンター、メディカルサポートセンター、ユニットセンター、協力医療機関、各研究者及び調査実施者は、自らの研究目的の達成の前に、国家プロジェクトとして中心仮説を検証することを優先し、この基本原則を共通の認識とした上で契約を行う。

２１．基本計画の見直しについて

参加者（子ども）の先頭集団が 17 歳に達する令和 10（2028）年度までに、基本計画を見直し、効果的、効率的、持続可能な形で調査を継続するための体制を検討する。

参考資料：検討体制

令和４（2022）年度　エコチル調査企画評価委員会　委員名簿

（敬称略、五十音順）

氏　　名	所属・職名
井口　泰泉	公立大学法人　横浜市立大学　大学院生命ナノシステム科学研究科　特任教授
板倉　敦夫	公益社団法人　日本産科婦人科学会
伊藤　隆一	公益社団法人　日本小児科医会　会長
岩澤　美帆	国立社会保障・人口問題研究所　人口動向研究部　部長
岩田　和之	松山大学　経済学部経済学科　教授
内山　巌雄	京都大学　名誉教授
衞藤　隆	東京大学　名誉教授
岡田　俊	国立研究開発法人　国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所　知的・発達障害研究部　部長
楠田　聡	東京医療保健大学大学院　臨床教授
鈴木　俊治	公益社団法人　日本産婦人科医会　常務理事
千先　園子	公益社団法人　日本小児保健協会
曽根　智史	国立保健医療科学院　院長
田口　智章	一般社団法人　日本小児期外科系関連学会協議会　会長
玉腰　暁子	北海道大学大学院　医学研究院 社会医学分野　公衆衛生学教室　教授
遠山　千春	東京大学　名誉教授
中下　裕子	コスモス法律事務所　弁護士
細川　秀一	公益社団法人　日本医師会　常任理事
麦島　秀雄	公益社団法人　日本小児科学会　名誉会員
村田　勝敬	秋田大学　名誉教授
森　　剛志	一般社団法人　日本化学工業協会　化学品管理部　部長

「健康と環境に関する疫学調査検討会」
（令和 3（2021）年 7 月～令和 4（2022）年 3 月開催）
構成員名簿

（敬称略、五十音順）

氏　名	所属・役職
浅見　真理	国立保健医療科学院　生活環境研究部　上席主任研究官
荒田　尚子	一般社団法人 日本内分泌学会
有村　俊秀	早稲田大学　政治経済学術院　教授
伊東　宏晃	公益社団法人　日本産科婦人科学会
大江　和彦	東京大学大学院　医学系研究科　教授
岡　明	公益社団法人　日本小児科学会　会長
小幡　純子	上智学院　上智大学　大学院法学研究科　教授
佐藤　洋	東北大学　名誉教授
高崎　直子	一般社団法人　日本化学工業協会　化学品管理部　部長
田嶋　敦	金沢大学　医薬保健研究域医学系　教授
玉腰　暁子	北海道大学大学院　医学研究院　社会医学分野 公衆衛生学教室　教授
なーちゃん	YouTube 専門家ママ
奈良　由美子	放送大学　教養学部　教授
平田　智子	株式会社　風讃社 たまごクラブ編集部　「たまごクラブ」副編集長 兼「初めてのたまごクラブ」編集長
松本　吉郎	公益社団法人　日本医師会　常任理事
米田　光宏	一般社団法人　日本小児血液・がん学会　副理事長

「健康と環境に関する疫学調査検討会」オブザーバー名簿

（敬称略）

氏　名	所属・役職
富坂　隆史	国立研究開発法人　国立環境研究所 企画部次長
山崎　新	国立研究開発法人　国立環境研究所 エコチル調査コアセンター長
中山　祥嗣	国立研究開発法人　国立環境研究所 エコチル調査コアセンター次長
上島　通浩	エコチル調査運営委員長、愛知ユニットセンター長 名古屋市立大学 大学院医学研究科 環境労働衛生学分野　教授
五十嵐　隆	国立研究開発法人　国立成育医療研究センター 理事長
大矢　幸弘	エコチル調査メディカルサポートセンター長 国立研究開発法人　国立成育医療研究センター アレルギーセンター　センター長
山縣　然太朗	エコチル調査甲信ユニットセンター長 エコチル調査戦略広報委員会委員長 山梨大学 大学院総合研究部医学域 社会医学講座　教授
内山　巌雄※	令和３年度エコチル調査企画評価委員会座長 京都大学　名誉教授

※第４回「健康と環境に関する疫学調査検討会」から参加

用語の定義（Glossary）

本調査計画の用語を以下のように定義する。

アウトカム（帰結） Outcome	原因因子（ばく露等）によって、結果として生じる変化、健康状態について認識される全ての変化。
インフォームド・アセント Informed assent	インフォームド・コンセントを与える能力を欠くと客観的に判断される研究対象者が、実施又は継続されようとする研究に関して、その理解力に応じた分かりやすい言葉で説明を受け、当該研究を実施又は継続されることを理解し、賛意を表することをいう。
インフォームド・コンセント Informed consent	調査対象者となることを求められた者が、研究者等から事前に疫学研究に関する十分な説明を受け、その疫学研究の意義、目的、方法、予測される結果や不利益等を理解し、自由意思に基づいて与える、調査対象者となること及び資料等の取扱いに関する同意をいう。
打ち切り Censor/censored	追跡からの脱落。結果事象がまだ生じていないと最終確認された時点以後、その事象の発生が確認できない状態（転居などによる打ち切り、死亡など）。
エンドポイント End point	仮説の検証作業において原因因子（ばく露等）の及ぼす健康影響として測定すべき病気、症状、その他の状態。
環境中の化学物質 Chemicals in the environment	我々が一般的環境において生活する上でばく露する、又はばく露する危険性のある全ての化学物質を調査の対象とする。ばく露源としては、大気、室内空気、建築物、飲料水と生活水、食事、流域水、土壌、玩具、家具など我々が接するほとんど全ての物に及ぶ。
環境要因 Environmental factor	採用した仮説において、健康に影響を及ぼすとする環境因子。主要因。
協力医療機関 Cooperating local medical institutions	ユニットセンターが協力を呼びかけて参画した地域の医療機関。
基本計画 Conceptual Plan	エコチル調査について、環境省が示す基本的な方針。
コアセンター Programme Office	本調査全体の取りまとめを行う機関。

交絡因子 Confounder/Confounding factor	健康に影響を及ぼす因子のうち、調査で採用した仮説の検証に影響を及ぼすもの。
コホート研究 Cohort study	ある共通の特性を持つ集団を疫学研究ではコホートと呼び、それを追跡して、どのような健康事象（疾病、死亡など）が起こるかを観察して、健康事象と要因との関連を明らかにしようとする研究。
コンタミネーション Contamination	生体試料の採取・輸送・分析・保存過程において、及び環境試料の輸送・分析・保存過程において、環境中や容器等の化学物質により生体試料や環境試料が汚染されること。
参加者 Participants	調査に継続的に参加している者。
自記式調査用紙（質問票調査/質問票） Self-rating questionnaire Self-administered questionnaire	調査対象者が自記式で記入する調査用紙。
実施マニュアル Standard operating procedure	本調査の実施に当たり、基本計画及び研究計画書の実行上の詳細及び手順について記述したもの。実施マニュアルには、体制構築、調査手順、地方自治体対応、協力医療機関対応、リスク管理コミュニケーション、分析方法、精度管理、データ管理、調査スタッフ教育などに関するマニュアルが含まれる。
詳細調査 Sub-Cohort study	環境省の予算で 10 万人コホートの一部（5,000 人）を対象に実施する調査。
症状 Symptom	疾病・健康に関する状態を特徴付ける身体的・精神的な現れ・徴候。
診察記録票 Checklist	調査担当者が診察や面接調査の結果を記入するための用紙。
診断 Diagnosis	疾病・健康に関する状態を決定するプロセスないしその結果。
生体試料 Biospecimen	血液、尿、爪、毛髪、唾液、頬粘膜、臍帯、臍帯血、胎盤、胎脂、胎便、母乳などで分析・保存を目的として生体から採取されたもの。

全体調査 Main study	環境省の予算で 10 万人を目標に実施する調査。
先天異常 Congenital abnormality Congenital anomalies Congenital malformations	先天的な外形及び内臓の異常。
相談窓口 Consultation center	調査対象者からの連絡窓口は一義的にはユニットセンターとする。相談内容に応じてコアセンターの相談担当/緊急対応担当（全国共通部分）及びユニットセンターの相談担当/緊急対応担当（ユニットセンター独自部分又は特定の協力医療機関等に関連した案件）にとりつぐ。
胎児期 Fetal period	妊娠 10 週から出生までの期間。
長期保存 Long-term storage	生体試料、環境試料等を長期間保存すること。
調査終了時 End of the study	調査を終了する時点のこと。具体的には全ての調査対象者（子ども）の追跡が終了し、そのデータ（質問票調査結果、診察結果、分析結果など）がコアセンターにて集約された時点をいう。ただし、全体調査から細分化された調査項目においては、その当該項目のデータがコアセンター又はユニットセンターに集約された時点をいう。例：〇〇に関する調査終了時
調査参加者（母）／調査参加者（妊産婦） Participants (Mother)/ (Parturient) 調査参加者（子ども） Participants (Child) 調査参加者（父） Participants (Father)	本調査に登録され、データ収集又は試料採取に継続的に参加している妊産婦、夫及びその子ども（リクルート時は胎児）。
調査地区 Study Area	本調査において、調査参加者（妊産婦）の募集を行う地区を言う。町村、地方の市、区、保健センター管轄区域などの行政単位からなる。ユニットセンターは、出生数・地域代表性・化学物質ばく露などを考慮して調査地区を 1 から複数選定する。

追加調査 Adjunct study	ユニットセンターの独自予算で調査参加者を限定して実施する調査。
追跡（フォローアップ） Follow-up	調査対象に対し、診察･面接･質問票･生体試料採取など、時間を追って実施しデータ及び試料を収集する。
追跡不能 Lost to follow-up	対象集団のばく露及び結果に関わる情報を継続的に入手すること。必ずしも、対象者と直接的にコンタクトできる状態に限らない。（公的情報のみの追跡も含む） いかなる理由であれ対象者が研究終了まで参加できなかった例。
追跡率（参加者率） Retention (participation rate)	時間を追って追跡情報を入手できる（できた）調査参加者数を調査開始時の調査参加者数で割ったもの。
登録 Registration	登録とは、疾病登録などでは一定の基準に沿って疾患に罹患している人を集約する作業をいうが、本調査では、調査に応諾した参加者が記入した最初の調査票（同意書を含む登録用紙）を、コアセンター又はユニットセンターが受領したことをもって研究への参加の登録とする。 なお、エンロールメントは「登録作業」そのものを指す。
バイオマーカー Biomarker	生体試料中の化学物質及びその代謝物並びに早期生体影響を示す指標。環境中化学物質のばく露及び健康影響の評価に用いる。
バイオモニタリング Biomonitoring	生体試料中の化学物質及びその代謝物並びに早期生体影響を示す指標を測定して化学物質へのばく露を評価すること。
パイロット調査 Pilot study	本体調査に先立って小規模で実施する先行調査。
ばく露 Exposure	個体が主要因にさらされること、及びその程度。
保護者 Guardian	未成年の子に対して身分上・財産上の監督・保護をしている者。実父母、養父母、親族、養護施設の長など。
メディカルサポートセンター Medical Support Centre	健康影響の指標（アウトカム）の測定等に関して指導的役割を担う機関。また、ゲノム・遺伝子解析に関するデータの分析、保管、管理等を行う。
面接調査 Face-to- face interview	医師又は訓練を受けた専門家が、対面により実施する調査。

ユニットセンター Regional Centre	地域において本調査の取りまとめを行う機関で、全国 15 か所に設置。
リクルート Recruitment	リクルートとは、研究参加者を探すこと、声かけ、同意取得、登録するまでの一連の作業をいう。

参考資料６－１

第３次エコチル調査基本計画
骨子

2025 年３月

環境省大臣官房環境保健部化学物質安全課

環境リスク評価室

目次

1. 序文（背景） 3
① 海外の動向 3
② 日本の動向 3
③ エコチル調査の開始 3
2. 目的・意義・必要性 3
① エコチル調査の目的 3
② エコチル調査の意義 4
③ エコチル調査の必要性 4
3. これまでの取組 5
① エコチル調査データを用いた研究成果 5
② 環境管理政策に係る成果 5
③ 保健衛生政策に係る成果 5
④ 人材育成に係る成果 5
4. エコチル調査の今後の方向性 6
① エコチル調査の名称 6
② 実施手順 6
③ 調査で解決すべき課題 7
④ 課題解決ツリー 8
5. エコチル調査事業の運営方針と内容 8
① 運営方針・戦略 8
② 持続可能な調査体制の構築 9
③ 効果的/効率的な調査の実施 9
④ 調査結果の利活用推進 10
6. 倫理的・法的・社会的な課題と市民参画 12
① 倫理的・法的・社会的な課題 12
② 参加者市民参画 12
7. おわりに 12
8. 参考文献 12
9. 用語集 12

1. 序文（背景）

① 海外の動向

1997 年に米国のマイアミで開催された先進 8 カ国の環境大臣会合において、世界中の子どもたちが環境中の有害物質の脅威に直面していることが認識され、小児の環境保健をめぐる問題に対して優先的に取り組む必要があることが宣言された。

国家レベルでの大規模な小児環境保健領域の先行研究として 1996 年に開始されたデンマーク全国出生コホート（Danish National Birth Cohort（DNBC））では妊娠期間中の母親から 2 回採取した血液試料約 16 万検体および出産時の臍帯血約 6 万検体がデンマーク国立バイオバンクにて保管され、18 歳までの追跡調査が実施された。

また、1998 年に開始されたノルウェー母子コホート調査（Norwegian Mother and Child Cohort Study（MoBa））では妊娠期間中の母親から血液と尿(約 10 万検体)を、妊娠期間中の父親から血液(約 7 万 3 千検体)を、出産後の母親(約 8 万 7 千検体)及び子ども（臍帯血、約 9 万 3 千検体）から血液試料を採取。19 歳以上の参加者に対しても追跡調査が実施されている。

② 日本の動向

国内においては、2006 年に「小児の環境保健に関する懇談会報告書」において、小児の脆弱性、環境保健に関する課題に対する今後推進すべき施策の方向性が提言され、2008 年には「小児環境保健疫学調査に関する検討会報告書」において、調査の実施概要がとりまとめられたことを受けて、同年から現在も先行調査として続いているパイロット調査が開始された。

③ エコチル調査の開始

2010 年度から、化学物質をはじめとする環境要因が子どもの健康に与える影響を解明することを目的とした大規模疫学調査であるエコチル調査が開始された。

2. 目的・意義・必要性

① エコチル調査の目的

- 化学物質のばく露や生活環境が、胎児期から小児期及び生涯にわたる子どもの健康に与える影響について明らかにするための科学的エビデンスを得ること。
- リスク管理当局や事業者への情報提供を通じて、自主的取組への反映、化学物質規制の審査基準への反映、環境基準への反映等、適切なリスク管理体制の構築につなげること。

- 保健衛生に関わるエビデンスを創出し環境保健政策にも貢献すること。
- 環境保健研究に関わる次世代の人材を育成すること。

② エコチル調査の意義

- 国民の健康増進と福祉に貢献できる。
  エコチル調査は、化学物質等の環境因子が子どもの成長発達、健康に与える影響を調査する、世界に類をみない国家プロジェクトであり、エコチル調査から得られる科学的エビデンスを、国民の科学リテラシーの向上や環境保健政策に活かすことにより、国民の健康増進や福祉に貢献することができる。
- 化学物質と人類の共存に貢献できる。
  エコチル調査の成果を、化学物質管理政策に反映させることにより化学物質の適切な管理と利用を進めることができる。
- 地球環境保全に貢献できる。
  エコチル調査により得られた試料や情報の利活用を進め、健康及び環境に配慮した製品等の開発が推進され、人類の経済活動として地球環境保全を進めることができる。

③ エコチル調査の必要性

- 環境が及ぼす集団への健康変化を検知
  環境リスクがヒトの健康に与える影響を明らかにするためには、環境中の化学物質の影響を検出することができる大規模な出生コホート調査が必要である[1]。エコチル調査ではその調査規模の大きさから、臨床的には捉えられないレベルの集団の健康変化を検知することが可能。
- 成果を迅速に化学物質管理政策へ反映
  新たなコホートを構築し、科学的なエビデンスを提供するには、膨大な時間がかかる。科学的エビデンスを化学物質管理政策へ反映することが求められ、その科学的エビデンスを得るためには、過去から蓄積された生体試料やデータベースが必要である。エコチル調査の10年以上蓄積されたデータを速やかに解析することで、成果を迅速に化学物質管理政策に提供・反映させることが可能。
- 想定外の化学物質の追加分析

[1] 従来、多くの場合、動物実験等によるメカニズムの解明が図られてきたが、実際のヒトの集団でどのような影響があるのかを観察する疫学的なアプローチが重要とされる。

新たな環境問題の発生により想定外の化学物質の健康影響の解明が必要となった場合には、過去から蓄積された生体試料やデータベースが必要である。エコチル調査の試料は、長期保存施設で保管するため、当初想定されなかった化学物質の分析等の必要が生じた場合に追加分析可能。過去に遡って検体を収集することはできないため、エコチル調査において蓄積された膨大な生体試料には世界に類を見ない貴重性がある。

- 次世代の環境保健研究者の養成

  次世代に向けて化学物質と人類の共存の最適解を得ていくためには、環境保健に関わる人材育成の育成が必要である。エコチル調査を継続していくことにより、大規模疫学調査の貴重な経験の場を提供することが可能。

3. これまでの取組

① エコチル調査データを用いた研究成果

令和7年〇月末時点までの全国データを用いた論文数は〇編

- 中心仮説に係る成果
- 中心仮説以外の成果

② 環境管理政策に係る成果

- 食品安全委員会の「評価書 鉛」へのエコチル調査に関する記載・引用
- 食品安全委員会の「評価書 PFAS」へのエコチル調査に関する記載・引用

③ 保健衛生政策に係る成果

- 第 2 回産科医療補償制度の見直しに関する検討会
- エコチル調査 10 万人の妊婦健診情報から「妊娠中の体重増加曲線」の作成
- エコチル調査パイロット調査のデータをもとに日本語版 ASQ-3 の出版
- 「食物アレルギーの診療の手引き 2020」
- 「食物アレルギー診療ガイドライン 2021」
- 「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2021」
- 「評価書 アレルギーを含む食品 卵」の策定等にエコチル調査参加者約 9 万人のプロファイルデータが引用

④ 人材育成に係る成果

- 2021 年 3 月末までに、環境科学、保健医療分野等を担う 211 人の人材を輩出

- 222 人の大学院生等がエコチル調査に関わっており、エコチル調査の成果を用いた学位論文は 34 編
- 2021 年 9 月末までにポスドクとして雇用された者の数は 108 人、講師やファシリテーターとして調査に関わった者は 199 人
- 論文作成の過程で所属機関の枠組みを越えて相互に指導や助言をする中で得られる学びがあり、エコチル調査は環境保健に理解の深い医師や疫学研究者等の専門家の育成に寄与

4. エコチル調査の今後の方向性

① エコチル調査の名称

【検討の視点】

生まれた時から追跡してきた子どもが 18 歳、成人となったことを考慮すべき。

【対応案】

子どもの健康のみならず、成人後の健康影響も調査するという趣旨がわかる名称への修正を検討してはどうか。

② 実施手順

- 調査手法の効率化

  【検討の視点】

  他の公的データベース等との連携により、追跡調査を効率化すべき。

  【対応案】

  将来的に、他の公的データベースと連携できるよう、関係省庁と密に連携しつつ、必要な情報を丁寧な説明同意にて取得した上で、効率的な追跡調査システムを構築してはどうか。

- 調査対象者とそのリクルート（調査への参加についての説明と同意）

  【検討の視点】

  近年の子どもを取り巻く生活環境の変化を考慮して検討すべき。

  【対応案】

  現在のコホートと比較可能な、生活環境の変化に対応した新しいコホート設計を検討してはどうか。

- 調査項目（質問票項目、化学分析項目）及びスケジュール

  【検討の視点】

  質問票項目、生体試料を用いた化学分析項目については、基本的な項目に加えて、

科学的、社会的に必要な項目を適宜追加できるようにすべき。

【対応案】

環境リスク初期評価、人ばく露モニタリング調査事業などの他事業と連携し、専門家の意見を踏まえ、科学的、社会的に妥当な、発達や社会環境の変化に応じた調査項目を臨機応変に追加できる仕組みを構築してはどうか。

■ データマネジメント（調査データの保管・管理）

【検討の視点】

調査データには個人情報や、機微情報が含まれるため、各種法令に則った対応を行った上で、安全な環境でデータ利活用をすべき。

【対応案】

- 調査データの保管・管理については、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第 6.0 版（令和5年5月）」、経済産業省・総務省の「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン 第 1.1 版（令和5年7月）」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省）等を遵守し、データセンターが一括管理してはどうか。
- 各研究実施機関等へは、クラウド上に構築した安全なデータ利活用環境を経由して、データ共有を行ってはどうか。

■ 調査の質の保証・全国規格

【検討の視点】

品質保証（QA）と、品質管理（QC）の向上と、データ固定・公開までの所要期間を短縮すべきではないか。

【対応案】

データ収集の ICT 化、標準化及び中央化を進め、システム化による質向上と、データ固定・公開までの所要期間の短縮を目指してはどうか。併せて、人材確保のための方策を検討してはどうか。

③ 調査で解決すべき課題

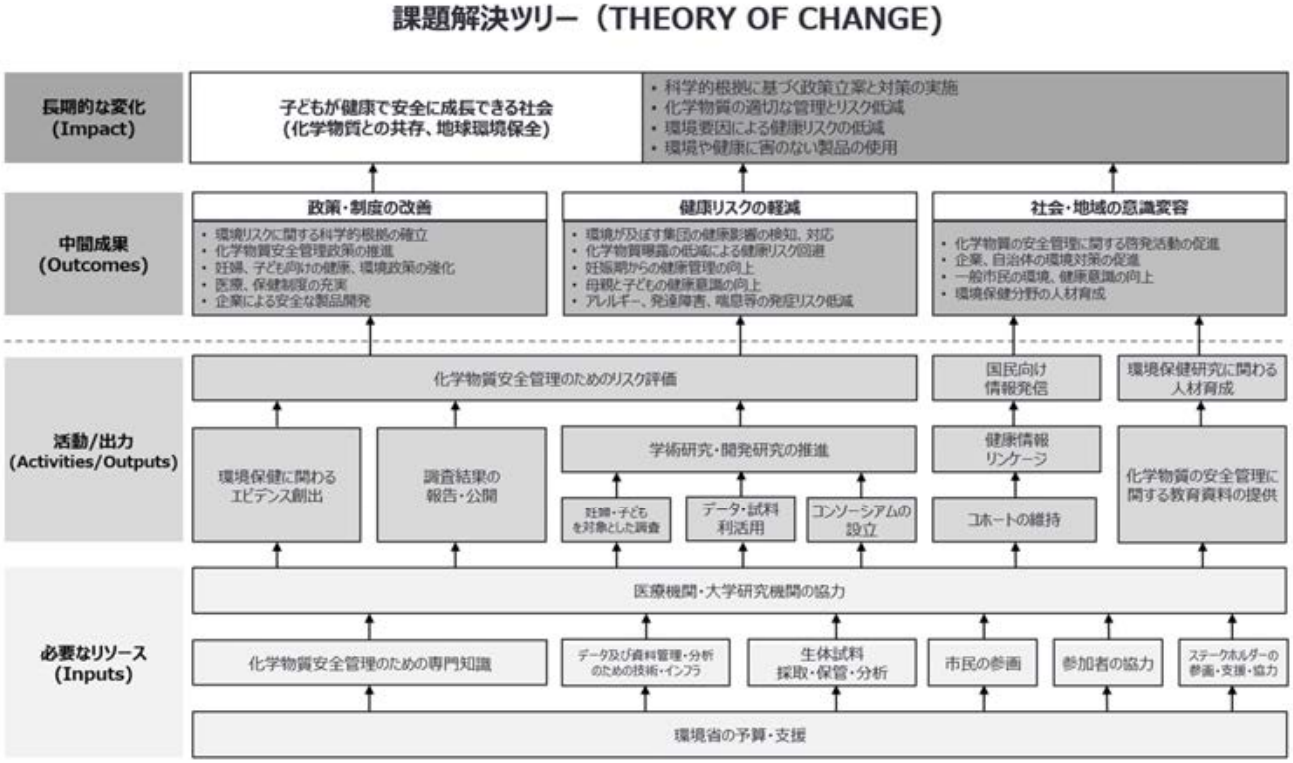
【検討の視点】

中心仮説に基づく種々の仮説を明らかにするため、化学物質のばく露以外の要因である交絡因子として、遺伝要因、社会要因、生活習慣要因等の調査に加え、出生コホートでは解決できない妊孕性、世代間の違いなどの課題についても解決すべきではないか。

【対応案】
内科領域の専門家に加えて、非医療系の研究者として社会人文系等の研究者に研究参加していただくなど、研究者の幅を広げるとともに、様々な課題が解決可能なコホートの構築を検討してはどうか。

※中心仮説：胎児期から小児期にかけての化学物質ばく露をはじめとする環境因子が、妊娠・生殖、先天異常、精神神経発達、免疫・アレルギー、代謝・内分泌系等に影響を与えているのではないか。

④ 課題解決ツリー



5. エコチル調査事業の運営方針と内容

① 運営方針・戦略

■ 方針、計画の見直し

【検討の視点】
長期間にわたる調査事業であり、科学的進歩、社会的要望に適宜対応できるようにすべき。

【対応案】
5年毎の中間評価に加えて、必要に応じて、基本計画の微修正を臨機応変に行って

はどうか。

■ 戦略

【検討の視点】

化学物質政策に資する成果の還元が期待されており、効果的・効率的に研究成果を国民へ還元できる戦略を構築すべき。

【対応案】

戦略軸（持続可能な調査体制の構築、効果的/効率的な調査の実施、調査結果の利活用推進）を設定し、効果的な研究成果の国民還元を目的とした管理/実施体制の効率化を行ってはどうか。

■ リスク管理

【検討の視点】

リスク管理は、参加者の観点と調査の観点とに分けて検討すべき。

【対応案】

参加者安全上のリスク管理と、調査を長期継続する上でのリスク管理に分けてリスク管理を行い、インシデントアクシデントレポート（IA レポート）の基準を明確化してはどうか。

② 持続可能な調査体制の構築

■ 実施体制の整備

【検討の視点】

より効果的・効率的に調査研究を実施すべき。

【対応案】

事業部門と研究部門を分離してはどうか。

■ 人材育成

【検討の視点】

エコチル調査事業を通して人材育成や人材交流をすべき。

【対応案】

エコチル調査自体をプラットフォームとして人材育成や人材交流に利用し、日本の様々な研究開発および国民への情報発信に寄与できる人材を育成し、安定的に人材を確保できる体制を構築してはどうか。

③ 効果的/効率的な調査の実施

■ 収集：参加者維持、エンゲージメント

【検討の視点】

参加者自身が、積極的に参加したいと思えるようにすべき。

【対応案】

参加者主体となる取組を加速し、参加者視点を反映することができるような仕組みを構築してはどうか。

■ 保管：効率的な生体試料、データの保管

【検討の視点】

膨大な数の生体試料の保管管理利活用に係るコストダウンを図り、より効率的・効果的な管理運用とすべき。併せて、災害等に備えて、分割保管についても検討すべき。

【対応案】

- 重要なサンプルである生体試料そのものの品質管理の保証は、調査の根幹である。生体試料の効率的な品質管理のためには、既存の試料を含めて少量ずつ分注して保管する必要があり、入出管理を自動化した保管システム整備を検討してはどうか。
- 災害等に備え、一部生体試料の分割保管の実証試験を行ってはどうか。その際、全自動保管システムを用いて全自動保管システムの実証試験を併せて行ってはどうか。

■ 分析：化学分析の推進

【検討の視点】

エコチル調査事業の本分である化学分析を更に推進すべき。

【対応案】

- 化学分析の内製化/外製化、及びそれらの最適化に必要なインハウス研究体制の構築、人的体制の確保や自動化の実施検討を行うことで、分析結果が得られるまでの作業を最適化してはどうか。
- 併せて、利益相反を配慮した形での外部資金による化学分析の推進を検討してはどうか。

④ 調査結果の利活用推進

■ データ・試料の利活用

【検討の視点】

国内外の研究者によるデータ・試料の利活用を推進すべき。

【対応案】

- 第三者利用の推進のために、データ利活用ポリシーを見直すとともに、クラウド方式、オンプレミス方針の比較を含めたデータ管理体制の再構築を検討してはどうか。
- 個人情報保護に留意した上で、公的な健診で得られた情報との連携や、公的なデータベースとの連携を行い、データ収集を多様化するとともに、更なるデータ利活用を推進してはどうか。

■ 成果の外部評価

【検討の視点】

成果を速やかに評価し、化学物質管理政策等に反映すべき。

【対応案】

化学物質対策に資する成果を速やかに社会還元するために、客観的に評価可能な仕組みを構築してはどうか。

■ 国民への還元

【検討の視点】

国民にエコチル調査の成果を速やかに分かりやすく情報提供するとともに、データそのものに触れることができる仕組みを構築すべき。

【対応案】

- 成果を速やかに分かりやすく情報提供するための広報部門を設置してはどうか。
- 研究成果について、国民の様々な理解度を考慮した上で、情報発信すること（サイエンスコミュニケーション）の促進、及びそれらを伝える専門的人材（サイエンスコミュニケーター）の育成を推進してはどうか。
- 市民参画の一環として、国民がエコチル調査のデータに直接触れることができるような簡易ツールを構築してはどうか。
- 教育現場でのエコチル調査の利活用を推進する方策を関係省庁と連携して行ってはどうか。

■ 国際連携の推進

【検討の視点】

エコチル調査の国際的プレゼンスを向上させるため積極的に国際連携をすべき。

【対応案】

既存の枠組みである ECHIG（環境と子どもの健康に関する国際作業グループ）に積極的に関与し、調査手法、データ連携を日本が主導するとともに、エコチル調査の対外発信力の強化、海外機関との共同研究を実施するための体制構築、発展途上国への技術支援、化学物質管理に関する国際的な動向を把握し WHO（世界保健機構）

等の国際機関との連携強化をさらに推進してはどうか。

6. 倫理的・法的・社会的な課題と市民参画

① 倫理的・法的・社会的な課題

【検討の視点】

本事業を推進するに当たっては常に倫理的・法的・社会的な課題に配慮すべき。

【対応案】

調査実施に際しては、「個人情報の保護に関する法律」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等必要な法令等を引き続き準拠し、新たな問題に迅速に対応できる体制を構築してはどうか。

② 参加者市民参画

【検討の視点】

本事業を推進するに当たっては常に参加者の視点、国民の視点を考慮し、調査研究の透明性を担保すべき。

【対応案】

- 参加者市民パネルを構築し、参加者市民の声を反映できる仕組みを構築してはどうか。
- 併せて、エコチル調査全国大会などのイベントを通じてエコチル調査の参加者のみならず、多くの国民へ本事業の周知を行い、国民の理解と協力を仰いではどうか。

7. おわりに
8. 参考文献
9. 用語集

エコチル調査基本計画改定の方向性

エコチル調査基本計画改定の経緯

● エコチル調査基本計画（令和５年３月30日改定）において、「参加者（子ども）の先頭集団が 17 歳に達する令和 10（2028）年度までに、基本計画を見直し、効果的、効率的、持続可能な形で調査を継続するための体制を検討する。」とされていることを受けて、令和６年度末にエコチル調査基本計画改定案骨子を作成し、令和７年度から検討を開始。18歳以降の調査に向けて令和９年度に基本計画を策定すべく、検討をすすめているところ。

課題及び対応の方向性

課題

① 持続可能な調査体制の構築、② 効果的/効率的な調査の実施、③ 調査結果の利活用推進

効果的な研究成果の国民還元を目的とした管理/実施体制の効率化が必要

対応の方向性

① 持続可能な調査体制の構築

- ■ 実施体制の整備
  - ✓ 事業部門と研究部門の役割最適化
- ■ 人材育成
  - ✓ エコチル調査自体をプラットフォームとして人材育成に利用し、日本の様々な研究開発に寄与できる人材を育成

② 効果的/効率的な調査の実施

- ■ 参加者維持、エンゲージメント
  - ✓ 参加者主体となる取組みを加速
- ■ 効率的な生体試料、データの保管
  - ✓ 入出管理を自動化した保管システムを整備
  - ✓ 災害等に備えた一部資料の分割保管/全自動保管システムの実証試験の実施
- ■ 化学分析の推進
  - ✓ 分析結果が得られるまでの作業を最適化するための化学分析の内製化/外製化、人的体制の確保や自動化の実施
  - ✓ 外部資金による化学分析の推進

③ 調査結果の利活用推進

- ■ データ試料の利活用
  - ✓ データ利活用ポリシーの見直し
  - ✓ データ管理体制の再構築
  - ✓ データ収集の多様化
- ■ 成果の外部評価
  - ✓ 客観的に評価可能な仕組みの構築
- ■ 国民への還元
  - ✓ 広報部門の設置
  - ✓ 情報発信の促進と専門的人材の育成
  - ✓ 簡易ツールの構築
  - ✓ 教育現場でのエコチル調査の利活用促進
- ■ 国際連携の推進
  - ✓ 海外機関との共同研究体制構築、発展途上国への技術支援、国際機関との連携強化